NipCA プロジェクト主催

オンライン留学に関するラウンド・テーブル

～コロナ禍の困難から見出す新しい教育の可能性～

報告書

筑波大学

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

2020

NipCA プロジェクト主催

オンライン留学に関するラウンド・テーブル

～コロナ禍の困難から見出す新しい教育の可能性～

報 告 書

コロナ禍のオンライン教育から新たな教育形態の可能性を探る

臼山　利信

（グローバルコミュニケーション教育センター長、NipCA プロジェクト実務責任者）

令和２年は、新型コロナウイルスに始まり、新型コロナウイルスに終わるという全人類にとっての未曾有の年になると思います。中国武漢市に端を発したと言われる未知のウイルス感染がまさかこれほどまでの脅威となり、私たちの暮らしそのものを一変させるとはわたしも含め、誰も夢にも思わなかったのではないでしょうか。2019 年 1 月に、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業（ロシア）」の、本学の採択事業「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム」（2014-2019）の成果とノウハウを引き継ぎ、新たなミッションを担ってスタートした筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」（NipCA プロジェクト）の初年度を成功裏に締めくくるべく、計画したすべての事業を推進していた只中に、新型コロナウイルスの感染拡大という事態が静かに進行していきました。

NipCA プロジェクトの個々の活動中止の判断は一刻の猶予もありませんでしたが、新型コロナウイルスの治療薬やワクチン開発の見込みが立っていないこと、パンデミックになった場合の現地での医療体制が十分ではなく、万が一感染した場合にその学生の治療・入院等の支援が現実的にはできないこと、以上の３点から、２月下旬の時点で、予定していたすべての活動を中止しました。中止した活動は、以下のとおりです。

- 海外インターンシップ（キルギス、派遣予定者３名、派遣先：キルギス日本人材開発センター）
- 交換留学生（カザフスタン、派遣予定者２名、アルファラビ・カザフ国立大学）
- 海外研修（カザフスタン、派遣予定者 46 名、派遣先：アルファラビ・カザフ国立大学）
- 医学医療視察研修（カザフスタン、派遣予定者 8 名、派遣先：ナザルバエフ大学）
- 本学での CiC 研修（受入予定者 32 名：アルファラビ・カザフ国立大学）
- 日本財団 中央ユーラシア SDGs 国際学術会議（参加予定者 70 ～ 100 名、会場：日本財団）

その後、ロシアに留学中の筑波大生に帰国を勧告し、３月中、どんなに遅くとも４月中に留学を切り上げてもらうことになりました。特に２月、３ 月に留学したばかりという学生への帰国勧告は、担当教員として非常に胸が痛みました。「新型コロナウイルスに感染しても死ぬことはまれで、致死率は数パーセントである」、「若者が重症化することはない」、「持病を持っていなければ大丈夫だ」、「高齢者が重症化しやすい」など、様々な報道がなされていましたが、若者が重症化しないという 100%の保証はありませんし、感染した場合、留学先の医療施設で安全に治療を受けられる保証もまったくありませんでした。パンデミックによる医療崩壊が現地で発生した場合の対処法もまったくないという状況でした。その意味で、すべての事業を一旦中止し、ロシアに留学中の筑波大生を一刻もはやく帰国させる判断は、正解だったと思います。

本年４月に日本政府による非常事態宣言が出された、新型コロナウイルス感染拡大の第一波の時期、首都圏の大学では、対面授業の実施が困難と判断され、ほぼすべての授業がオンラインで行われるという高等教育史上、初めての事態を経験しました。本学でも新学期の開始を少し遅らせ、４ 月 27 日からすべての授業がオンラインでスタートしました。わたし自身、４ 月 1 日に「すべての授業を春学期最後までオンライン化する」という清水諭教育担当副学長からの通知を受け、授業開始まで３週間もないという状況の中で、グローバルコミュニケーション教育センターや人文学類の、事実上、有志の先生方によるオンライン授業研修を必死で受講し、また、ロシア語担当教員間で独自にオンライン授業研修を行いなが

ら、オンライン授業化に対応しました。特に、人文社会系の土井裕人先生の Teams 用授業マニュアルに救われました。記して深く感謝申し上げます。

4月、5月のオンライン授業を何とかこなしていく過程で、様々な課題が見えてきました。例えば、オンライン授業ツールの活用に対する（教員側の）習熟度が不足している、孤立環境の条件下で、学生同士による学習内容の確認がその場でできない、通信上のトラブルが発生する可能性が常にある、文献や参考書に図書館を通じてアクセスできない、肉体的な疲労を感じている、精神的な疲労を感じている、などの課題です。そうしたオンライン授業に教員も学生も対応していこうという状況の中で、3月から4月にかけてロシア留学を止むを得ず中途で切り上げた筑波大生たち全員が、留学先のロシアの大学（モスクワ国立大学、サンクトペテルブルク国立大学、ノヴォシビルスク国立大学、極東連邦大学）のご配慮とご厚意で、外国語としてのロシア語や英語による専門科目をオンライン授業の形態で受講していることを知りました。自国の学生に対するオンライン授業の対応も大変であるはずなのに、日本を含むそれぞれの母国に帰国した交換留学生たちの教育活動を継続して支援している事実に心を打たれました。ロシアの一流大学の、留学生をどこまでも大切にするという温かさと懐の深さを感じました。

帰国後もロシアの留学先の授業を嬉々として受けている教え子たちの姿と見ながら、「途中帰国をしたけれども、学生たちのロシア留学はまだ終わっていない、オンライン留学中なのだ」という率直な思いが湧き上がりました。ある意味で、この筑波大生たちが時代を先取りする形で、オンライン留学を体験していると感じました。先ほどいくつか列挙した課題に見られるように、オンライン教育は、確かに対面教育には遠く及ばないかもしれません。しかしながら、オンライン教育には、プラス面とマイナス面があり、プラスの側面には、大きな可能性を秘めていると感じます。ポストコロナ、アフターコロナの時代や社会に備えて、そうしたプラス面の価値の活用という視点から大学におけるオンライン教育・学習の意義と可能性を整理しておく必要があります。

そこで、コロナ禍のオンライン教育から新しい教育形態の可能性を探り、その具体像を形づくっていくために、日本で「オンライン留学中」の４名の筑波大生と、留学先のモスクワとワルシャワで「オンライン留学中」の２名の筑波大生がそれぞれ履修する授業と自身の学習の状況に焦点を当てた、「オンライン留学に関するラウンドテーブル」を企画・組織・開催しました。全5回のうち4回については、まず学生たちに報告してもらい、その内容について、学生、教員、参加者が議論するという形式を取りました。残りの1回は、逆に教員が報告し、教員、学生、参加者が議論するという形になっています。テーマは、以下のとおりです。

①オンライン授業形態別の課題と改善策・解決策
②レポート・小テストのやり方、課題と改善策・解決策
③オンライン教育・学習上の精神的・肉体的負担と改善策・解決策
④教員側の精神的・肉体的負担と改善策・解決策
⑤アフターコロナ時代・社会のオンライン教育の可能性

本報告書では、学生たちや関係教員に原稿の執筆を依頼するという形式は取らず、当該ラウンドテーブルの発表で使用されたパワーポイント資料と、実際の発表や討議の音声を文字起こしし、刊行できる文章のレベルに修正をするという方法を取りました。そのため、一部冗長な表現などがあるかもしれませんが、ラウンドテーブルの臨場感と、ライブらしい口語表現で生き生きと語られていると思います。

第1回では、教員のテレコミュニケーションツール（Zoom、Skype、Google Meet など）の不統一による受講上の負担感、デスクトップ PC と iPad の併用が新しい時代の学習スキルになる可能性、オンライン授業におけるパラリングイス

テックな情報（身振り手振り、表情、教員と学生の間など）の重要性などが示されました。

第2回では、テストも教員側の負担が大きいこと、テストでは個別の時間指定と内容の組み合わせが重要であること、不正を完全に防ぐことはできないものの、検索不能な問題を短時間で解答させることの有効性などが指摘されました。

第3回では、通信環境の不安定さ、家族への配慮の必要性、授業を受けている実感の薄さによるモチベーションの低下などの問題がある場合に、一定のストレスを感じること、長時間の画面注視が目・肩・腰への肉体的な負担となること等について言及されました。

第4回の教員側の意見では、体験したことのないオンライン授業の形態を受け入れ、授業実施のやり方を短期間に身つけなければならないという精神的な負荷、とりわけ、授業準備、授業運営、PC・通信機器の取り扱いなどの技術習得に係る精神的な負荷が多くの教員に生じたこと、肉体的には教室移動がないことでの負担感が減った一方、長時間に及ぶ画面視聴で目・肩・腰への負担がかかったこと、土曜授業の実施が心と体のリカバリーをする機会を奪い、大きな疲労感を生じさせたことなどの問題が指摘されました。

第5回では、オンライン授業の教育活動上、精神衛生上、肉低的負担上、それぞれのメリットとデミリットについて、学生と教員の立場から整理がなされました。さらに、今回のラウンドテーブルの総括として、コロナ禍のオンライン教育を契機とする新たな教育形態の創出という観点から、⑴オンライン学内連携教育、⑵オンライン国内大学連携教育、⑶オンライン国際大学連携教育、⑷オンライン（国内・国外）留学、⑸オンラインインクルーシブ教育、⑹オンラインリカレント教育、⑺オンライン教職員研修、という7つの可能性が提示されました。

また最終回の議論の後半で、「オンライン教育」と「オンライン留学」の違いはどこにあるのかという問題が提起されました。オンラインで授業を提供するだけでは、本質的に遠隔教育との差異はありません。その意味では、今回の筑波大生たちのオンライン体験は、現地と直接結びついたリアルな体験が欠如しているので、厳密には「オンライン留学」とは言えないかもしれません。それでも、オンラインという形態ながら、モスクワ国立大学、サンクトペテルブルク国立大学、ノヴォシビルスク国立大学、極東連邦大学の現役の先生方がロシアで行った授業に参加できたことは間違いありません。日本国内で日本人教員が行う遠隔授業とはやはり異なる非日常体験としての「ロシア」、「ロシア的なるもの」を感じたのではないでしょうか。たとえオンライン教育であっても、リアルな留学体験をオンラインで代替できる何かを工夫して用意することができれば、「オンライン留学」と言えるものに近づけるかもしれません。留学先ならではの異文化体験や異文化交流の要素を「オンライン教育」の中に入れてブレンドする必要があると考えます。それが、おそらく単なる「オンライン教育」を「オンライン留学」たらしめるファクターとしての「オンライン文化学習」「オンライン文化体験」だと思います。日本の大学に「オンライン留学」を導入する場合、正規科目としてのオンライン授業のほかに、「オンラインサークル」「オンライン大学祭」「オンラインゼミ」「オンライン卒論指導」「オンラインコンパ」などの仕掛けや工夫が不可欠となるのかもしれません。いずれにしても、「オンライン留学とは何か?」という定義の部分から検討が必要なようです。「オンライン留学」の内実化を図っていくというのが、「オンライン留学」という新しい学びのあり方を具現化するための今後の大きな課題だと思います。

最後に、学期期間中にもかかわらず、4回にわたって、自身のオンライン留学体験についてスライド資料を作成し、見事な報告を行ってくれた本学の西川将太郎さん、石川織羽さん、西美乃里さん、小山正伍さん、安井梨乃さん、米山貴文さんに、心から敬意と感謝の意を表します。

そして、日頃から筑波大学 NipCA プロジェクトを陰に陽に支えて下さっている公益財団法人日本財団の森祐次常務理事、有川孝国際事業部長、ジェイムズ・ハフマン国際事業部課長、および日本・中央アジア友好協会（JACAFA）のヴルボスキ京子会長に対して、衷心より厚く御礼を申し上げます。

NipCA プロジェクト主催

オンライン留学に関するラウンド・テーブル

～コロナ禍の困難から見出す新しい教育の可能性～

報告書

目 次

序文（人文社会系教授 臼山利信）

第 1 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル

参加者リスト …… 5
開催告知ポスター …… 6
第 1 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル（本文） …… 7
発表資料集 …… 18

第 2 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル

参加者リスト …… 38
開催告知ポスター …… 39
第 2 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル（本文） …… 40
発表資料集 …… 52

第 3 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル

参加者リスト …… 78
開催告知ポスター …… 79
第 3 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル（本文） …… 80
発表資料集 …… 92

第 4 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル

参加者リスト …… 114
開催告知ポスター …… 115
第 4 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル（本文） …… 116
発表資料集 …… 132

第 5 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル

参加者リスト …… 144
開催告知ポスター …… 145
第 5 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル（本文） …… 146
発表資料集 …… 161

NipCA 主催 筑波大学
「第 1 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル」

第 1 回オンライン留学に関するラウンドテーブル出席者　合計 20 名

発表者：6 名

ワルシャワ大学 社会・国際学群 国際総合学類	西　川　将太郎
モスクワ国立大学 人文・文化学群 人文学類	石　川　織　羽
サンクト・ペテルブルグ国立大学 社会・国際学群 国際総合学類	西　　美乃里
極東連邦大学 人文・文化学群 人文学類	小　山　正　伍
ノヴォシビルスク国立大学 社会・国際学群 国際総合学類	安　井　梨　乃
モスクワ市立教育大学 文芸・言語専攻 博士課程	米　山　貴　文

司会者：1 名

NipCA プロジェクト コーディネーター	梶　山　祐　治

討論者：3 名

人文社会系 教授	加　藤　百　合
人文社会系 准教授	山　本　祐規子
人文社会系 非常勤研究員	笹　山　　啓

総括：1 名

人文社会系 教授	臼　山　利　信

学外聴講者：1 名

日本・中央アジア友好協会（JACAFA）	ヴルボスキ京子 会長

ほか学内聴講者：8 名

NipCA プロジェクト主催
筑波大学

オンライン留学に関するラウンドテーブル

on-line 座談会

～コロナ禍の困難から見出す新しい教育の可能性～

2020年6月19日（金）16:00～17:00

第一回テーマ
オンライン授業形態別（Teams や Skype など）の改善・解決策

第二回　レポート・小テスト・宿題のやり方
　　- 方法と課題
第三回　オンライン授業を受けることの精神的・肉体的・物理的な負担
　　- 何が起きたか・どう解決したか
第四回　教員から見たオンライン教育
第五回　コロナ収束後のオンライン授業について
　　- オンライン授業の可能性

■ 発表者：ロシア・ポーランドの大学に留学中およびオンライン留学中の筑波大学 学類生・院生

西川 将太郎（社会・国際学群 国際総合学類）：ワルシャワ大学（2019年9月-2020年6月）
石川 織羽　（人文・文化学群 人文学類）　：モスクワ国立大学（2019年9月-2020年6月）
西 美乃里　（社会・国際学群 国際総合学類）：サンクト・ペテルブルグ国立大学（2019年9月-2020年6月）
小山 正伍　（人文・文化学群 人文学類）　：極東連邦大学（2020年2月-2021年1月）
安井 梨乃　（社会・国際学群 国際総合学類）：ノヴォシビルスク国立大学（2020年2月-2021年1月）
米山 貴文　（文芸・言語専攻 博士課程）　：モスクワ市立教育大学（2020年2月-2021年1月）

■ 総括・討論者：人文社会系 教授 臼山利信，人文社会系 教授 加藤百合，
人文社会系 准教授 山本祐規子，人文社会系 非常勤研究員 笹山啓
■ 司　会：NipCA プロジェクトコーディネーター 梶山祐治

聴講参加希望の問合せ：NipCA プロジェクト担当事務室（当日 15:00 まで）
TEL：029-853-4251 / Email：info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web：https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/

主　催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」
協　力：日本・中央アジア友好協会 (JACAFA)，
筑波大学 グローバルコミュニケーション教育センター社会貢献委員会，グローバル・コモンズ機構，
国際室，学生部学生交流課，スーパーグローバル大学事業推進室，日本留学海外拠点連携推進事業，
人文・文化学群，社会・国際学群

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

梶山　本日は、NipCA プロジェクト主催、「オンライン留学に関するラウンドテーブル～コロナ禍の困難から見出す新しい教育の可能性～」の第 1 回目となります。これから毎週 1 回、全 5 回の予定で開催していきます。初回の今回は、「オンライン授業形態別（Teams や Skype など）の改善・解決策」と題して、全 6 名の筑波大学の学生に報告を行なっていただきます。学生の報告に入る前に、まず、本プロジェクト実務責任者の臼山先生より、主旨説明をしていただきたいと思います。臼山先生、お願いします。

臼山　皆さん、こんにちは。NipCA プロジェクトの実務責任者の臼山です。オンライン留学に関するラウンドテーブルにつきまして、趣旨説明をさせていただきます。

2020 年 4 月 17 日から、筑波大学では学群・大学院の全面的なオンライン授業が開始され、様々な課題が浮き彫りになりつつあります。こうした中で、オンライン教育にはプラス面とマイナス面があり、ポストコロナの時代に備えて、プラス面の価値の活用という観点からオンライン教育の意義と可能性を整理しておく必要があります。

2020 年 2 月から新型コロナウイルスの感染が国内外で急速に拡大する兆候が観察され、3 月にはその危険性が明らかになり、学内の国際交流イベントのほぼすべてが中止となりました。また、この時期、外務省の海外渡航危険レベルが 1（本学の派遣留学承認の上限基準）だった時点で、すぐにでも 2（本学の基準で帰国勧告）になる危険性があると判断し、ロシアに留学中の筑波大生の帰国を強く促しました。

2020 年 3 月中には、モスクワから石川さん、サンクトペテルブルクから西さん、ウラジオストクから小山君、ノヴォシビルスクから安井さんが中途帰国し、その学生たち全員が、留学先大学のご厚意でオンライン授業の形態で、授業の履修を継続できることになり、現在、オンライン留学中です。本人の意思や街の閉鎖によって帰国せずに現地に残っている、留学中の学生 2 名、米山君と西川君もそれぞれ寮と友人宅で、留学先大学のオンライン授業を受講し続けています。

こういう学生たちが中心に参加します。驚きなのは、ロシアの留学先の大学が、やむを得ずコロナのために帰国してしまった学生にオンライン授業を提供して、オンラインの留学をこれまで続けてくれているということです。予期せぬ幸運に巡り合ったといいますか、そういう機会を得まして、日本にいながらモスクワ大学やサンクトペテルブルク大学、極東連邦大学といった大学にオンラインで留学している学生さんたちの実情を聴いて、私としては、今後、筑波大学だけじゃなくて国内外のオンライン教育というのが非常に多様な広がりを見せる可能性がありますので、大学のオンラインの教育・学習の可能性を議論し、深く考えるきっかけにしたい。オンラインの教育・学習の可能性の地平を少しでも拓きたい、そういう思いを持って、今回このラウンドテーブルを企画しました。

では梶山さん、バトンタッチします。

梶山　はい。臼山先生、ありがとうございます。では、早速、学生の報告に入りたいと思います。1 人、大体 5 分ぐらいで報告をお願いします。

最初から珍しいケースですが、ポーランドに留学されている西川さん。西川さんは最初、対面授業で授業を受けていましたが、そのままオンライン授業に突入して、現在もポーランドの友人宅で授業を受けられているということで、その珍しい留学状況をお聴きしたいと思います。では、西川さん、お願いします。

西川　はい、お願いします。ただ今、ご紹介にあずかりました、ポーランドワルシャワ大学に留学中の西川将太郎です。去年の 9 月から来ているのですが、この状況下でも帰国はしないで、来月 7 月までこちらに滞在する予定です。

ワルシャワはこんな感じの所です。

そして、こちらがワルシャワ大学になります。

臼山　今、西川君はワルシャワから参加してくれているんですね。

西川　はい。こちらの大学の中にショパンの家があったりして、そのショパンの住んでいた家が日本学科の教室になっていたりするんですが、その日本学科に友人がいまして、その友人の家に居候させてもらっていて、授業を受けたりしています。というのも、寮などよりもコロナに関して安全ですし、また、同居人が日本学科の学生なので、日本語を教えて、こちらもポーランド語を教えてもらったりと、非常に有意義な時間を過ごせていると思います。ただ、その同居人が 2 人いるので、少し、オンライン授業を受けるための静かな環境を得ることが大変なこともあります。

あと、ワルシャワ大学は、エラスムスといって、ヨーロッパからの留学生が多い大学だと思います。特に隣国のチェコ

や、フランスや、ドイツだったり、北欧だったりという所から来ている学生が多いと思います。2月から夏学期の授業が始まって普通に授業を受けていたんですが、しばらくして大学が中止になり、1週間ほど連絡待ち状態になり、その後、各教授から連絡があって、オンライン授業に切り替わるということになりました。ただし、オンライン授業で使用するツールは教授によってさまざまでした。そこで、自分が使ったZoomとYouTube LiveとGoogle Meetについてお話しさせていただきたいと思います。

まず、私が受けていたInternational security and armed conflictsという授業は、積極的な参加が求められる、教授が生徒にたくさん質問をする授業でした。また、こちらのポーランド語の授業も問題を解かされるので、どちらもカメラをつけて、発言も必要という授業でした。基本的に教授が画面共有をして、そのスライドを生徒たちが見て授業を進めていました。まれに教授の声が小さくなったりしたこともあったんですが、ほとんど問題はなかったと思います。スマホから出席している生徒もいたり、あまりよくないですが、移動中に電車などから出席しているという生徒もいました。40分の時間制限があると聞いたことがあるんですが、それは特になく、教授がどのようにやったか分からないんですが、滞りなく、授業はきちんと進んだと思います。

また別の、Football in Europeという授業なんですが、こちらは普通の講義形式なので、生徒は一方的に聴いているという感じでした。最初はYouTubeのライブ配信を使って授業をしていたんですが、頻繁に動画が途切れるということなどが起こりましたので、3回ほどしてから、教授側からGoogle Meetに移行すると伺い、途中からGoogle Meetに変わりました。

その後は特に問題なかったんですが、こちらの授業は130人ほど受けている生徒がいるので、生徒側はカメラも音声も常に切った状態で授業を受けていました。そのため、質問をするときは、コメント欄に文字を打ち込むというかたちでした。そのため、少し見る側の先生も大変なのかなというように感じました。また、教授が動画を共有したとき、画質が悪かったり音割れしていたりというのは少し気になったんですが、それ以外にシステムに問題はなかったと思います。

大勢の人数での授業というのはこれだけだったんですが、生徒が発言しにくいという状況なので、オンラインでやる大勢の人数の授業というのは、ただの動画視聴をしているような気分になりました。

まとめですが、自分がこの3種類を使った感想としまして、Zoomは特に問題がなく、YouTube Liveは少しよくないのかなと。また、Google Meetも特に問題はないですが、動画共有は少し見にくかったという印象を受けました。ただ、ワルシャワ大学も、教授間で統一したものを使ってほしいなというようには思いました。最初、コロナが始まったときに、スマホでアプリを入れてみたり、パソコンでも少し試行錯誤というのがあったので、大学で同じものを一つ使ってほしかったかなと思いました。

以上です。ありがとうございます。

梶山　西川さん、現地からの非常に貴重な報告、ありがとうございました。次の報告は石川さんになりますが、石川さん、準備はよろしいですか。石川さんは留学先大学がモスクワ大学で、ロシアでもコロナウイルスの感染者が爆発的に増えたため帰国し、現在はつくば市の自宅から授業を受けられているということですね。では、報告をお願いします。

石川　では、始めさせていただきます。ただ今ご紹介にあずかりました、人文学類4年次でモスクワ国立大学にオンライン留学しています、石川織羽と申します。よろしくお願いします。今、モスクワ国立大学の文学部に2019年9月から交換留学をしています。予定では、今年の6月末まで留学先にいる予定でしたが、コロナウイルスの感染拡大による要請を受けまして、3月27日に日本に帰国して、今、オンライン授業を受けています。

モスクワ大学はこういう感じの所です。モスクワにあるスターリン建築の中で一番大きい建物で、この大きい建物の中に寮も入っていまして、私は大体この辺に住んでいました。

授業形式ですが、授業は基本的に外国人向けの語学の授業しか取っていなくて、このようにSkypeで顔を合わせて

授業をやっていました。先生によってはスライドを使う授業もありましたので、パワーポイントを今みたいに共有して、授業を受けていたりもしました。これがSkypeでの授業の様子でして、上段の真ん中が先生で、左が私で、あとは全員中国人の皆さんです。

オンライン授業のメリット。これは完全にSkypeに限ったことなんですが、メリットとして二つぐらい挙げられまして、一つは、スライドや動画の共有がより簡単であることかなと思います。このように自分のパソコンの画面にスライドを共有して見せてもらえるので、Wordなどで先生が作ってきた教材を共有するんですが、その時に、黒板感覚で先生も手元で文章を修正したり書き込みをしたりするので、すごくそれはよかったのかなと思います。

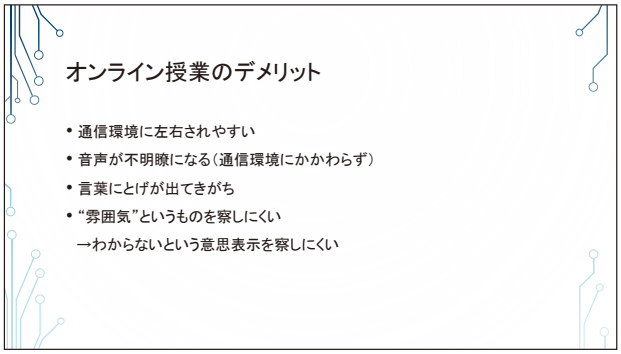
また、物理的な問題もないですね。特に教室などでスライドなどを共有していると、反射が起こったりして見づらくなることもあったりですとか、あと、先生のパソコンと機器の相性が悪いみたいなこともたまにあるので、そういったことがないのは、すごくスムーズだったかなと思いました。

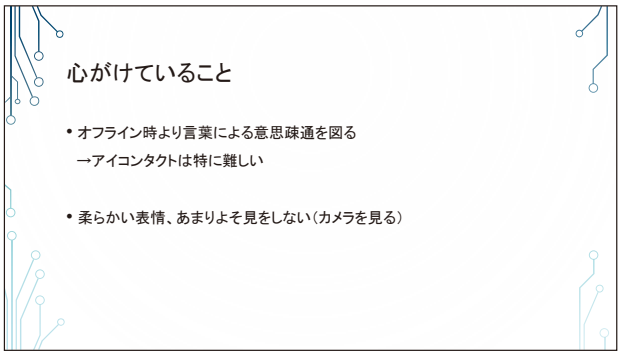
また、これはオンライン授業というよりは、オンライン授業に移行して先生が家から配信というか授業をするようになったことのメリットですけど、授業中に小説などが出てきたときに、先生の蔵書ですとか、そういったものを気軽に見せてもらえたりするので、そういうところはすごくよかったのかなと思います。

デメリットですが、やはり通信環境に左右されやすいことですね。よく固まってしまったり、音が聞こえなくなってしまったりということもありました。

音声が不明瞭になるということは、語学学習にはとてもデメリットなことでして、先生がこのような単語を発音して調べてくださいと言われることがよくあるんですが、通信環境にかかわらず、デジタル変換されているので、どの音かなというのが分かりにくいということがありました。

（スライドにある）言葉にとげが出てきがち、雰囲気を察しにくいというのは、オフラインに比べてオンラインですと、自分の振る舞いなどが結構限定的にしか見えてこなくなるので、すこし言葉がきつくなってしまうように聞こえてくるということもありました。雰囲気を察しにくいというのは、分からないときに語学の学習中だと結構黙ってしまうこともあると思うんですが、オフラインだと、黙っていても「分からないのかな」とすぐに察してもらえがちですけど、オンラインのときに黙っていると、これは考えていて黙っているのか、分からなくて黙っているのかというのが分からなくなってしまうことがあって、こういうのは、やっぱりオンラインでは補完できない部分なのかなと思いました。





これについて心掛けていることは、オフラインのときより言葉による意思疎通を図っているということがあります。アイコンタクトが難しくて、特に、例えば画面に映っている人の目を見ながらだと、カメラを見ないということなので絶対に目は合いませんし、その逆もあるので、そのように表情などから読み取るということはすこし難しくなってくるので、よりしゃべるように心掛けました。また、柔らかい表情を心掛けたり、ちゃんとカメラを見るようにして、聴いているよという雰囲気を出したりしていましたね。

以上です。ありがとうございました。

梶山　石川さん、ありがとうございます。メリットとして挙げられていた、先生の蔵書を気軽に見せてもらえるというのは、文学専門の石川さんらしい素敵な感想だなと思いました。

次は、サンクトペテルブルク国立大学に留学されている西さん、準備はよろしいですか。西さんは、東京品川区のご実家からでしょうか。西さん、よろしくお願いします。

西　はい、お願いします。ただ今ご紹介にあずかりました、国際総合学類４年次３年の西美乃里と申します。私はサンクトペテルブルク国立大学に留学しておりましたので、そちらのオンライン授業に関して、プレゼンテーションをさせていただきます。

まず、大学と街並みなんですが、ペテルブルク市内はこのようになっております。だいぶヨーロッパ的な街並みでした。こちらの青い教会そのものがキャンパスではないんですが、このスモーリヌイ教会付近の建物、その周りの、教会の一部のようなところに、私が在籍していた国際関係学部がありました。そちらで勉強しておりました。

早速、授業形態なんですが、授業形態はFacebook、Skype、Zoomと三つありまして、まずFacebook配信のものからご紹介します。こちらはHistory of Russian Foreign Policyというもので、名前のとおりです。単位もこのようになっていて、週に1度、60分間の授業でした。人数も10名程度で、私のほかには韓国系のアジア人の方が1人いるだけで、それ以外は皆さん、ヨーロッパ、あと、トルコという感じでした。

先生に関してもここにある通りなんですが、Facebook配信に関しては、Facebookに先生がアップロードするライブ動画を視聴していました。パワーポイントが事前にメールで配布されていたので、そちらを参照しながら、でも授業中にそちらを画面共有してもらうというかたちでした。

成績評価は学期末に、説明が難しいんですが、時間指定で、時差も考慮して自分で時間が選べました。例えば、私は13時から受けますと先生にメールをすると、13時になったら先生がそのメールに返信するかたちで試験を送ってくれて、そちらにWordファイルで回答して、30分以内に送り返すというものでした。それに加えて、単位を二つ上げるために、10～15ページでエッセイを提出しました。

困った点としては、Facebookでライブ配信しているもののため、双方向のやりとりがしづらかったというのがあります。例えば、生徒に質問があったとしても、先生の配信中の動画にテキストファイルとしてしか送れないので、メッセージでのやりとり、言葉でのやりとりができませんでした。

メリットとしては、通学時間がなかったり、リラックスして受講できた点です。デメリットに、知識の定着がなかなか難しかったことがありました。

続いて、Skypeのものです。こちらはRussian languageのもので、言語学部の授業を取っておりました。週に3回ありまして、それぞれが2時間～2時間半行われていました。人数は5名で、フランス人が3人、フィンランド人、私という感じです。

Skypeでのディスカッションだったんですが、教科書は『Слово（言葉）』というロシア語の教材を使っておりました。成績評価は、毎週の課題だったり出欠や予習状況に加えて、授業中にディスカッションをやるので、こちらでの貢献度も見られていました。困った点としては、Skypeの環境もあるかもしれないんですが、画像が止まったり音が割れることが多かったと記憶しております。

プラス面としては、発音が聞き取りやすかったというのがあります。先生の表情、口元がはっきり見えて、音声が途切れなければ、イヤホンをしているととてもよく聞こえたので、こちら（オンライン授業）のほうが聞き取りやすいときもありました。デメリットとしては、1回が3時間弱あるので、時差は考慮してもらっていたんですが、時間の拘束が体力的にきつかったというところと、あと、制限時間です。例えば、授業中に、予習した部分とは別のところで「この練習問題を解いてください」と言われたときに、制限時間の設定が長過ぎて、オフラインで会っていたらペンを止めていたりすると分かりやすかったと思うんですが、5分でできるものに10分割かれていたりして、授業時間が延びていたりしました。

最後にZoomに関してです。これが、EU-Russia Relationsという大学院の授業だったんですが、週に1回、60～75分間の授業でした。18名が参加しており、ほとんどがEU加盟国の方たちと、あと、フィンランド人、韓国人、中国人、私でした。教授は欧州連合とロシアの国際関係学専門の方で、この先生の授業が一番手厚かったという印象を受けています。

授業としては、Telegramというチャットアプリでグループを作って、そちらで質疑応答を、授業外の時間にメッセージでやりとりをしていました。YouTubeにアップロードされた動画で予習して、その後、Zoom講義で、アップロードされた動画が3年前とかのものなので、現在の状況はどうなのかという情報の補正と、あと、ディスカッションをしていました。資料としては、パワーポイントと、あとGoogle Fileを先生が共有してくれたので、そこにある文献を通じて学習していました。成績評価は、このとおり、Google Fileの文献を用いて毎週2ページのエッセイを書きまして、プラス、学期末に4000 wordsでまたエッセイを書きました。

プラス面として、時間効率がよかったこと、マイナス面としては、Telegram のチャットグループとメールを併用していたんですが、メールだけでも十分事足りたのではないかと思ったことです。グループワークがしづらかったのも、少し残念な点です。

あまり困った点がないのでコメントを付け加えさせていただくと、授業で情報が刷新されるために、学生の参加率がとてもよかった記憶があります。また、Telegram のチャットグループに毎週の課題の提出者の一覧を先生が配信するので、そちらを見て、届いていないなとか、忘れていたなというように、毎週の課題のフォローアップになっていました。

以上です。

梶山　西さん、詳細な報告をありがとうございました。ペテルブルクは、ロシアの中にあってもっともヨーロッパ的な都市ですが、やはりクラスメートはヨーロッパからの人が多いのが特徴かと思いました。

次に報告していただく小山さんは、ウラジオストクの極東連邦大学の授業を埼玉県のご実家で受けられているということで、恐らくクラスメートもペテルブルクとは対称的でしょう。では、小山さん、よろしくお願いします。

小山　はい、分かりました。発表を始めさせていただきます。人文学類 4 年の小山正伍と申します。今、極東連邦大学のほうにオンライン留学をしています。留学先が、今言ったとおり極東連邦大学で、留学期間が、今年の 2 月 24 日に向こうに渡って、そのまま 1 カ月ほどいて、3 月 26 日に帰国してきました。

ロシアのウラジオストクに留学をしていて、極東連邦大学に 2 月 24 日に向こうに渡り、今年のコロナの影響で 3 月 26 日に帰国して、現在オンライン留学をしていています。本来であれば、来年の 1 月の末まで向こうで勉強する予定でした。すこし付け加えると、留学に行って最初の 1 週間は隔離をされ、1 週間病院のようなところから出られず、最後の 1 週間は、授業がそもそもなくなってしまったので、向こうで勉強していたのは、およそ 2 週間ほどでした。現在は、埼玉県川口市の実家に住んでおります、4 月 27 日からオンライン授業に参加して、留学継続というかたちで JASSO 奨学金も頂いております。

ウラジオストクと日本の位置関係は、このような感じです。成田からウラジオストクまでがおよそ 1000 キロということで、案外近いと思っていただけると幸いです。

こちらが、僕が勉強していたロシア言語文化センターというところで、ここに着くまで、僕が泊まっていた寮からおよそ 1 時間半くらいかけて、バスで毎日通わなければいけませんでした。

これが、途中の街並みの写真です。

次に、授業の紹介なんですけれど、僕が受けていた授業が Practical Russian Language、General Competence というもので、いわゆる 4 技能を勉強する授業でした。文法、会話、聴解、読解の四つを行っていました。オンライン授業では、使っているサービスが Skype と YouTube、授業が平日の 9 時半から 12 時まで。現地時間だと、これは 10 時半から 13 時までということになっています。途中、先生の気まぐれで 10 分ほどの休憩を挟んでいます。一昨日までは、10 時から 12 時まで 2 時間ぶっ続けで休憩を挟まずやっていたので、すこしこれは体力的につらいものがありました。

授業の参加者は、日本人 2 名、韓国人 3 名、中国人 2 名で、毎日、何の理由かはよく分からないですけど、1 人か 2 人は何かの都合で欠席していました。オンライン授業は文法中心で、事前に配られている教科書を先に宿題として解いておいて、それの答え合わせをしたり、先生が文法事項の解説をしたりしていました。たまに、映画を見て別紙の課題に答えるというのもありました。

Skype で授業を受けていて困る点ですが、まず一つ目が、ビデオ画面とチャット画面が同時に見られないということです。同時に表示させることはできるんですが、ビデオ画面の右半分にそのままチャットが重なるというかたちになってしまって、人の顔が半分に切られた状態で表示されて、何となくやりづらいなという印象があります。

次、特に学生の音声が途切れ途切れになるということが

あったのですが、これは電波の問題と、自分のパソコンで、配られたPDFファイルを開くようなことがあると、パソコンのメモリがうまく動作しなくなって、映像が途切れ途切れになってしまうことがあります。

次、配布されたファイルが開けないことがあるというのは、配られたファイルを開こうとしても、自分のパソコンにもともとインストールされているアプリでは開けない拡張子だったりするので、そういう場合、少し困ることがあります。

次、チャットで先生が出した課題に答える場合があるんですが、パソコンのキーボードがロシア語に対応していない―キーボードにキリル文字が刻印されていないので、打ち込むときにすごく不便を感じています。

ということで、オンライン授業で不便を感じている点は、以上のとおりです。ありがとうございます。

梶山　はい。小山さん、ありがとうございます。ウラジオストクだと、日本との時差が、ロシアの都市にあっては例外的にほとんどないので、そういう点では便利なのかもしれません。

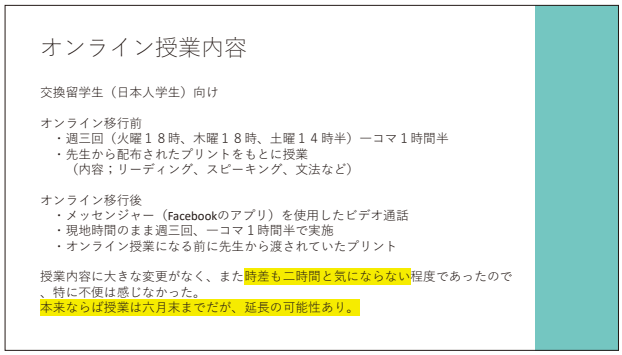
では、次は、ロシアの大体真ん中に位置する、シベリア最大の都市、ノヴォシビルスク国立大学に留学されている安井さん、準備できていますか。お願いします。

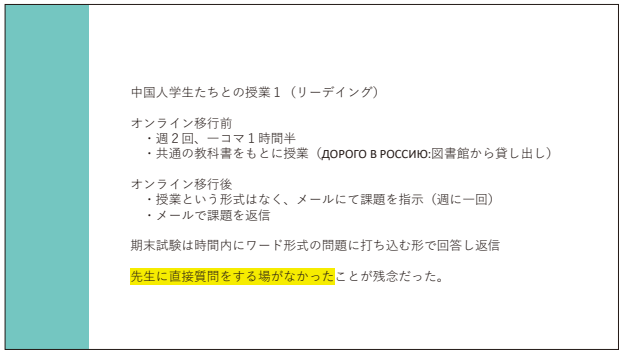
安井　ご紹介にあずかりました、国際総合学類3年次の安井梨乃と申します。現在は、大体ロシアの真ん中あたり、カザフスタンの上ぐらいに位置する所のノヴォシビルスク国立大学に留学しております。

留学期間は、当初、2020年の2月9日から2021年1月末までの予定でしたが、実際滞在したのは2020年2月9日から3月23日まででした。3月17日に、ノヴォシビルスクの中のアカデムゴロドクという所にノヴォシビルスク大学があるんでが、そこの隣町で感染者が報告されたので、ノヴォシビルスク大学もオンライン授業に移行し、その直後に帰国検討のメールを受けたため、両親とも相談した上で帰国しました。その後、現在は大阪にある実家におりますが、まだオンラインで授業を受け続けています。

私が受けた授業はそんなに多くはなくて、ほとんどロシア語、語学に関するもののみなんですが、3種類あるので、それぞれについて、もともとどういう授業で、オンラインでどのような授業に移行して、その問題点などは何かということについてお話ししたいと思います。

まず、一番最初にノヴォシビルスク大学に行ったときに、日本人の学生向けに開設されていた授業がありました。これは交換留学生だからという理由で、私のほかに富山大学からの日本人の学生さんがお一人いらっしゃって、2人で授業を受けるというぜいたくな状況でした。オンライン移行前は週に3回、火曜日18時から、木曜日18時から、土曜日





14時半からというように、1コマ1時間半で、日本語科の、日本語も通じる先生とともにロシア語を勉強していました。

主な授業内容としては、火曜日は、自分で見つけてきたテキストを読んで訳すというリーディングの授業で、木曜日と土曜日は、スピーキングや文法、また、先生から配布されたプリントに書いてあるテキストのリーディングなど、内容はさまざまでした。オンラインに移行する直前に、最後の授業で先生が多めにプリントを刷って事前に渡してくださっていたので、帰国した後もそのプリントを使っています。Messengerという Facebook のチャットのアプリを使用したビデオ通話で、現地時間のまま、週に3回、1コマ1時間半で実施しています。

授業内容に関しては、特に大きな変更はありませんでした。時差も2時間でしたので、そんなにきついということもなく、単純に夜の遅い時間になったというだけでした。本来でしたら、授業は6月末までという話だったんですが、コロナで教授の研究のための予定なども全てキャンセルになったので、教授のご厚意で、希望があればもう少し延長してもいいと言われています。

もう一つの授業は、最初あてがわれた授業が週3回のみだったので、少し語学力向上には足りないかなと思って追加で受けさせていただいた授業がありました。既に半年前から留学している中国人学生の学習グループに入れてもらうというものでしたが、そのうちの一つのリーディングの授業は、オンライン移行前は週2回、1コマ1時間半で、共通の教科書、『Дороro в Россию（ロシアへの道）』を図書館から借

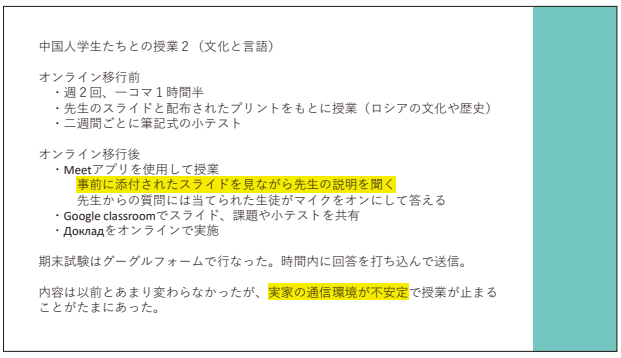
りて、それを先生と一緒に読んで学習するというかたちでした。オンライン移行後は、ТРКИ（テー・エル・カー・イー）のテキストブックがPDF化されたものが送られてきて、その中の何ページのこの課題とこの課題というように、週に1回メールで課題を指示され、その課題内容をメールまたはGoogle Formで先生に返信するというだけの形式になりました。

期末試験は、時間内に送られてきたWord形式の問題に回答を打ち込んで返信するというだけでした。授業という形式がなかったです。正直なところ、私の語学力がほかの中国人学生さんたちほどは追い付いていなかったので、毎回の授業でも課題でも先生にいろいろ質問したいことがたくさんあったんですけれど、メールでしかお聞きできなかったり、たくさん質問するのははばかられたというのが、すこし問題だったかなと思います。

三つ目の授業ですが、同じく中国人の学生さんたちと同じグループで授業を受けていました。これはЯзык и культура（言語と文化）という、ロシアの文化や歴史を学ぶ授業だったんですが、週2回、1コマ1時間半で、先生のスライドと配布されたプリントをもとに授業を行っていました。内容ごとに、例えば音楽に関する歴史のスライドでしたら、それが大体2週間ぐらいかけて1周するんですが、それが終わったら筆記式の小テストがあるというように、ちゃんと覚えているかの確認がたびたびありました。

オンライン以降後は、Meetという Google のアプリを使用して授業をしました。事前にスライドが送られてきて、それを見ながら先生の説明を聴くというかたちでした。生徒たちは、基本的にマイクとカメラをオフにして、先生から確認のために「ここではこういうことがありました。どうでしたか」みたいな質問が時々あったんですが、その時に当てられた生徒だけがマイクをオンにして答えるというようになっていました。

スライド、課題、小テストなどに関しては、Google Classroomというアプリで全て共有されていました。スライドに関しては、前の授業では写真を撮って自分で書き写したりなどでしかなかったので、その点については、スライドで共有していただけたことはありがたかったです。また、交互



発表のДоклад（報告）も、オンラインで実施することになりました。今やっているみたいに画面を共有して、各生徒が発表しました。

期末試験はGoogle Formで行われて、時間内に回答を打ち込んで送信というかたちでした。内容自体は、そんなにオンライン移行前と変わらなかったので、特に不満な点はなかったんですが、実家の通信環境が安定していなくて、私がДокладを発表するときも、会議に入れずに、次の日に延期されたということもありました。

全体的に言うと、授業自体にはそんなに大きな不満はなかったんですが、やはりオンラインの通信環境というところで、欠点が多く見られたかなと思います。以上です。

梶山　はい。ロシアへの留学でノヴォシビルスクというのは、すごく珍しいと思うんですが、貴重な報告をありがとうございました。

ここまで、最初に発表された西川さんは、ポーランド、現地からの留学で、その後、日本からロシアの大学のオンライン授業を受けている報告が4人続きました。最後の報告者・米山さんは、モスクワに残ってモスクワの大学のオンライン授業を受けています。また、ここまでの発表者は学類生でしたが、米山さんは大学院生になります。それでは米山さん、発表をお願いします。

米山　お願いします。モスクワ市立教育大におけるオンライン環境での外国語としてのロシア語学習ということで、発表させていただきます。

このような順番で発表していきます。

所属は人文社会科学研究科の一貫制博士課程5年次で、研究対象はソビエト映画になります。今年の3月ごろから、今もロシアに滞在中です。

今年は暖冬だと言われたんですけど、4月末でも結構ふぶいていたりしました。

モスクワ市立教育大学での使用ツールはMicrosoft Teamsだけで、Teamsだけで全ての課程が完了するので、個人的にはよかったと思っています。

編入したクラスは、中国人メインのクラスの最上クラスでした。人数と国籍は13人程度、中国人8人、台湾人4人程度と日本人1人でした。レベルはТРКИ2（テー・エル・カー・イー）からТРКИ3（テー・エル・カー・イー）ぐらいのレベルで、これは、教科書にレベルの基準が書いていたので、多分これぐらいだろうと思います。

授業自体は、レベルが高く、内容も充実していたので満足しています。中国人留学生は、文法と読解が非常に優秀だったんですが、会話は苦手で、アクセントの強い発音が印象的でした。

ТРКИ（テー・エル・カー・イー）というのがここに書いてあるとおりのレベルなん

ですが、ヨーロッパ基準でいうとB2かC1のレベルの授業を受けていました。

授業は週10回で、1回90分が6項目ありました。括弧で入っているのが、受講不可能だった七つ目の授業なんですが、中国語の翻訳の専門だったので、これは取れませんでした。それ以外の授業には、全部出席していました。これらについては、後々の発表で細かく説明していければと思います。

時間割としてはこのような感じで、本来、研究のために行ったのであまり授業を受けないかなと思っていたんですが、幸か不幸かコロナで一切出られなかったので、普通の大学生のように全部の授業に出ていました。

授業画面ですね。これは文法の授業で、ロシア語をやっている人は分かると思うんですが、再帰動詞の説明をしているところです。

オンライン授業のメリット、デメリットですが、よかったのが授業資料のデータ化、ペーパーレス化で管理が楽になったことです。マイナス点は皆さん発表したとおりなので、あまり説明は要らないかなと思います。

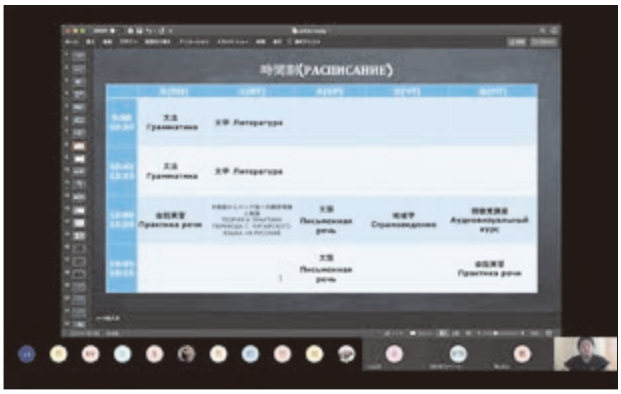
いい点と悪い点、両方あるなと思ったのが、インターネットに簡単にアクセスできるので、自分以外の知識に頼ってしまって、これはもしかしたら力にならないかもしれないと思いました。また、簡単に録音録画できるというのも、肖像権の観点からよくないかなと。ほかの人が周りにいるかどうかも見えないので、例えば、僕がロシア語のすごくできる人に相談するなどということもできるかなと思ったので、いい点であり悪い点であるかなと思いました。

<ロシア語音声>

…о произведениях Толстого. Ну а сейчас о нем самом, о его жизни. И вы знаете, вот мне начать хочется не с детства, а мне хочется начать - может быть вам интересно это будет, потом просто фигура будет другой интерес для вас иметь…*

偶然、文学の授業を、ちょっと面白かったので撮っていたんですけど、トルストイについて説明しているところで、こんな感じでした。

オンライン授業のメリットとしては、「授業資料のデータ化 & ペーパーレス化」と書きましたが、iPadとApple Pencilを持っていっていたので、完全にデータ化に移行できたのが、非常に個人的にはよかったです。PDF、Word、パワーポイントに関しては、手書きで直接書き込めたので、ほとんど紙



を使わなくなりました。唯一聞き取りだけは、実際の紙にペンで書いていました。データ化の結果、管理が楽になりました。

これは文語の授業で、パワーポイントなんですが、答えは直接パワーポイントの画面に書いています。

これは地域学で、中国の経済状況についての資料なんですが、分からない単語を書いたり、授業の答えに当たる部分を括弧で引いたりなど、本当の紙のように利用していました。

これは文法になります。

そして、データ化ということで、ここにдомашнее задание（宿題）という欄を作って、これもオンラインで全部保存しているんですが、次回の宿題をその日に書いていました。これは文学の授業の宿題ですね。6月2日で言うと、10分くらいでソルジェニーツィンについてのプレゼンを用意するというような感じで、用意していました。

* ……トルストイの作品について。今度はその作品自体、その生涯についてです。いいでしょうか。私は子供時代から話そうとうは思いません。私は皆さんが興味を持つよう、それからただ人物が皆さんに別の興味を抱かせるよう……

授業の内容に関してもオンラインでメモに取って、チャイコフスキーに関して、このようにいろいろメモを取ったりしていました。

データ化の最後なんですが、パソコンのファイル上にモスクワ市立教育大のフォルダーを作って、このフォルダーそれぞれをオーディオの授業、グラマーの授業ということで分けて、その中で日付ごとに授業を受けた日の資料を保存していましたので、非常に管理が楽になり、本当にオンライン化はよかったなと思っています。以上です。

梶山　はい。米山さん、ありがとうございます。週 11 コマというのは、大学院生の時間割では見たことがないくらい過密日程ですが、現地でかなり鍛えられているのではないでしょうか。

学生からの 6 名の報告が終わりました。今日は国際室から何名か聴講に来ていただいておりますので、もし国際室の方でご質問等があれば、ぜひ発言していただきたいと思います。どうでしょうか。

それではいらっしゃらないようですので、本日ご聴講に来ていただいております、本プロジェクトで大変お世話になっております JACAFA ヴルボスキ会長、もし何か一言でもコメントいただけますと幸いです。

ヴルボスキ　今、学生さんたちの報告を聴いていまして、オンライン授業になったということで、もちろんメリットもデメリットもあるということがよく分かりました。一つ皆さんに質問がしたいんですが、今回、コロナという非常に特殊な理由でこのような状態になってしまって、やむを得ずオンライン教育になったと思うんですね。もしこのコロナの状況が続いてずっとこういうことになるのであればしょうがないでしょうけれども、これが収束して自由に行き来できるようになった場合は、どちらを選びたいですかという質問です。

梶山　はい。ご質問ありがとうございます。では、学生で答えられる方は、まずカメラをつけてお答えください。どうでしょうか。今、やむを得ずオンライン授業を受けていますが、もしコロナが収束しても受けたいと思うかどうかという点ですね。では、まず小山さんからお願いします。

小山　人文学類の小山です。もしコロナが収まったとして、自由に行き来できるようになったとしたら、オンライン授業自体は続けてもいいとは思っているんですが、授業だけでなく、例えば現地の学生と交流したり、実際にものを買ったり、街中を歩いたりするというメリットが（オンラインには）ないので、語学の習得のためには（ロシア語を）日常的に使う機会がないことは厳しいと思っています。ですので、現地に渡りたいなとは思っています。以上です。

梶山　小山さん、ありがとうございます。米山さん、どうでしょうか。

米山　僕は、発表の中でも言ったんですけど、基本的にオンライン化ウエルカムだったので、増えていけばいいかなと思います。100% オンライン化というのも問題かなと思うので、その割合はよく分からないですけど、オンライン化するのはいいことだなと感じています。なので、今後増えていけばいいかなとは思います。

梶山　はい、ありがとうございます。あと石川さん、何かありますか。

石川　そうですね。基本的に小山君と同意見ですね。ですが、やっぱりロシア語で読みたい文章などがあると、ロシアの図書館や書店などで探すのが一番いいと思います。ネットで結構文書などもあるのでオンラインでも便利なんですが、情報のアクセスのしやすさから考えると、やっぱりオフラインで買い物などができると一番いいのかなと思いました。

梶山　はい、ありがとうございます。そうですね。やはり授業を受けるだけが留学ではないと思うので、それ以外のところがすこし物足りないというところですかね。このあたりがオンライン授業の可能性になると思います。このラウンドテーブルのポスターは皆さんご覧になっていると思いますが、第 5 回でオンライン授業の可能性についてまた議論いたしますので、ご興味のある方はぜひご聴講ください。

ヴルボスキ会長、以上でよろしいでしょうか。

ヴルボスキ　はい。どうもありがとうございました。

梶山　ありがとうございます。では、先生方にもコメントを短く頂きたいと思いますが、加藤先生、いらっしゃいますか。

加藤　はい、おります。皆さんの近況と、それから、意外にもというか、オンライン授業が非常にスムーズに、実り多く行われている様子を聴いて、とてもうれしかったです。

個人的に質問なんですけど、最初に西川さんから、切り替えのときに 1 週間ぐらい間が空いたというように聴いたんですが、ほかの方はどうだったでしょうか。通常授業からオンライン授業への切り替えの間に間隔があったのか。あったとするとどのぐらいあったのか。今日からぱっと変われるもの

なのかというのが知りたいです。

梶山　はい、ありがとうございます。米山さん。

米山　こちらでも、2 週間ぐらい、確か空いていたと思います。

梶山　安井さんはどうでしょうか。

安井　ノヴォシビルスクではそんなに間隔が空かず、先生方から割とすぐにメールが来て、どのように今後授業をしていくかということについて連絡が来ました。ノヴォシビルスクは、モスクワやサンクトに比べて感染者が出るのがだいぶ遅かったので、それで多少準備されていたということもあるかもしれないです。

梶山　はい、ありがとうございます。じゃあ、小山さん。

小山　極東連邦大学では、1 週間ほど何の授業もない期間があったので、その期間に準備していたんだと思います。

梶山　はい。では、石川さん。

石川　うちは確か 3 日ぐらいだったかと思います。いきなり学長から「明日からオンラインにします」と言われて、その言われた次の日に、多分先生たちで会議があったみたいで、さらにその次の日に、私の先生は対応するために準備して、その次の日から始まったという感じでしたね。以上です。

梶山　はい、ありがとうございます。では、西さん。

西　私のところも、3 日ほどで通知というか通達はされたんですが、金曜日に通達されて、来週の月曜日からオンラインにするつもりですということでした。ですが大学の方針よりもメディアのほうが先に伝えていたので、先生によって、その記事を読んだ先生から随時 Zoom を使ってください、Skype を使ってくださいというように言われました。

　実際には、大学の基本方針はあったんですけど、1 週間ぐらい空きました。あと、非労働週間の時も、先生によっては、授業をやりませんと言って 1 回だけ休んだ先生もいらっしゃいました。以上です。

梶山　学生の皆さん、ありがとうございます。ロシアは、書類の処理などはなかなか進まないんですが、実はデジタルでは強い面があったりして、3 日でオンラインに移行するというのは、ある意味、ロシアらしいなと思いました。加藤先生、今の答えでよろしいでしょうか。

加藤　はい、ありがとうございます。

梶山　はい。では、山本先生、いかがでしょうか。もし何かあれば、短いコメントでも構いませんのでお願いいたします。

山本　はい、山本です。初めましてという方もいらっしゃると思いますが、今週着任したばかりです。よろしくお願いします。

　今日、学生の皆さんからの報告を見させていただいて、非常に勉強になりました。一つ、コメントさせていただきます。やはり通信環境やインフラなどによって、授業の質というのがだいぶ変わってくるんだなということが分かりました。ロシアと日本ということなので、あまり大きな問題はなかったのかもしれませんが、これがほかの国や発展途上国になると、またいろいろな違いが出てくるのかなと感じました。

　これに関して、一つ皆さんに質問なんですが、オンラインに切り替わるときに、クラスメートの人で、例えば通信機器を持っていなくて授業に参加できないですとか、通信環境が私はないから授業に参加できないなど、そういったトラブルはなかったんでしょうか。

梶山　はい。山本先生、ありがとうございます。じゃあ、学生の皆さん、何かトラブルについて。安井さん、お願いします。

安井　私と一緒に授業を受けていた中国人の学生さんたちなんですけれど、皆さん、一応、寮にいらして、Wi-Fi は設置されていたので、それについてはあまり問題がなかったようです。でもパソコンを全員が持っているわけではなかったので、授業の時だけ 2 人か 3 人で集まって受けていたというのは聞きました。

梶山　ありがとうございます。中国人は中国人のネットワークが強いので、何人かで一緒に受けるというのは、とても中国人らしいですね。ほかにトラブルを何か見たとか聞いたとかいう方、いらっしゃいますか。石川さん。

石川　私の教わっていた先生がすごく高齢な方で、結構固まったり、マイクがオフに間違ってなっていたり、そういうこともよく分からない感じだったので、すごく苦労されている気がしました。幸い、先生のご主人が少しできる方だったので、あまり問題はなかったみたいです。

梶山　はい、ありがとうございます。そうですね。学生だけじゃなくて教員側のトラブルもいろいろあるかと思いますけど、教員側については今後の第 4 回で取り上げようと思います。

　それでは、終了予定の 17 時を過ぎてしまいましたので、そろそろ臼山先生にまとめの言葉を頂いてよろしいでしょうか。

臼山　はい、分かりました。今日発表してくださった学生の

皆さん、本当にお疲れさまでした。とても充実した、刺激的な報告でした。今日参加した全ての人にとって役に立つ、またいろいろなインスピレーションを与える、そういった内容だったと思います。ありがとうございます。

それで、今日のテーマは、オンライン授業形態別の改善・解決策ということでした。学生の皆さんは、Teams、Skype、Zoom などのコミュニケーションアプリを使っていたと思います。特に、複数のアプリを同時に使っていたという学生が、どのアプリがいいとか悪いとかという発言がなかったことが、私にとっては印象的でした。

つまり、Zoom にしても Skype にしても Teams にしても、通信環境、通信インフラがしっかりしていれば、あとは先生の側の準備次第だということがわかりました。つまり、先生がしっかりと教材を準備して、学生たちとのやりとりを担保できれば、課題や小テスト、あるいは口頭試験にしても、通常の対面授業にある程度近いかたちで授業が実現できる、また実際にできているということがよく分かりました。

あともう一つは、オンデマンド型の授業を取っているというケースが、今日のお話の中で非常に少なかったなと感じました。オンデマンド型の、先生の作った授業映像を時間に縛りのない形で視聴して教員と学生がやりとりをするというタイプ、それから、リアルタイムで 40 分、60 分、90 分、長い時間も含めてやる授業のタイプの教育効果というのは、検証しないとよく分からないんですが、印象として、学生たちの満足度という点では、オンデマンドの授業よりも、やはりリアルタイムの授業のほうがはるかに高いのではないかということです。

そういうことで、今後のオンラインの授業の形態というのは、恐らく、Zoom、Skype、Teams、Webex、あるいは Google Meet など、色々なタイプのアプリがそれぞれ洗練され使いやすいようになっていくんだろうと思います。最初の西川君の発言が非常に私の中で印象に残っていて、先生方がそれぞれ別のアプリを使って授業をするので、学生の側がそれに対応するのがとても大変だということです。それぞれの操作の仕方も違います。そういう意味で、使用するアプリを大学で統一してほしいという意見は、大事な指摘だと感じました。もしかすると、今後、このオンライン授業の形態に関しては、教育組織によって、うちの大学はこれを使う、うちの教育センターはこれを使うといったようなかたちで統一されていく可能性もあるかもしれません。

筑波大学の場合は、Teams が大学として契約していて、推奨されています。また、わたしが所属する研究学会などでは Zoom を頻繁に使っています。個人レベルでは、複数のアプリを使用するのが常態化しています。そういう色々なアプリに慣れていくことも大事だと感じます。個人が多様なアプリに慣れることで、もしかすると、統一されなくてもどのアプリでもすぐに対応できる、アプリごとの個性や特性を考えながら、授業の形態や目的によって臨機応変に使い分ける、そういう時代がまもなく来るのかなという印象を持ちました。

すこし長くなってしまいましたが、テクニカルな点では、オンラインコミュニケーションツールのアプリそのものが洗練されていくという方向性と、あとは、教員も学生も含むユーザーの、使う知識と技術が高まっていく方向性があると思います。先ほどの米山君から、授業コンテンツや学習記録コンテンツの管理が本当に楽で快適だという話がありました。教員や学生の側も、このオンラインの教育活動、学習活動に対する対応力という点で洗練されていく。こういうような方向を意識として持っておく必要があります。今日の皆さんの話を聴いて、また、山本先生や加藤先生のコメントを聴きながら、考え、感じたことです。

それから、梶山さん、本当に名司会、ありがとうございました。私のほうからは以上です。このオンラインラウンドテーブルですが、学生さんたちが元気で大丈夫であれば、第 2 回、第 3 回と、同じ時間帯にやっていきたいと思っています。以上です。

西川　将太郎
（社会・国際学群国際総合学類）
ワルシャワ大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）

ポーランド
ワルシャワ大学のオンライン授業

西川将太郎

使用したオンラインツール例１

- International security and armed conflicts

  Polish language course

  →Zoom　問題なし

使用したオンラインツール例２

- Football in Europe-political social aspects

  YouTube live　配信者側に問題

→ Google meet　動画の画面共有には難あり？

まとめ

- Zoom　問題なし
- YouTube Live　配信途切れる
- Google Meet　動画共有見にくい

- そもそも大学で統一したものを使ってほしい

石川　織羽

（人文・文化学群人文学類）

モスクワ国立大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）

SKYPEによるオンライン授業の改善・解決策

人文・文化学群人文学類4年次

モスクワ国立大学オンライン留学中　石川織羽

自己紹介

- 人文学類4年次　石川織羽
- モスクワ国立大学文学部に2019年9月から留学中
- コロナウイルス感染拡大による要請を受け3月27日に帰国

授業形式

- 授業は外国人向け語学の授業
- Skypeで顔を合わせて授業
- スライドを使う授業もあり

オンライン授業のメリット

- スライドや動画の共有がより簡単
  →自分の画面にスライドを共有できるため、黒板感覚で使える
  物理的問題もない（反射、機器の相性）

- 先生の蔵書などを気軽に見せてもらえる

オンライン授業のデメリット

- 通信環境に左右されやすい
- 音声が不明瞭になる（通信環境にかかわらず）
- 言葉にとげが出てきがち
- “雰囲気”というものを察しにくい
  →わからないという意思表示を察しにくい

心がけていること

- オフライン時より言葉による意思疎通を図る
  →アイコンタクトは特に難しい

- 柔らかい表情、あまりよそ見をしない（カメラを見る）

西　美乃里

（社会・国際学群国際総合学類）

サンクトペテルブルク大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）

授業形態①：Facebook配信

- History of Russian Foreign Policy (2020/2/13~5/28)
  - :原則４ECTS（レポート提出で６ECTS）、週に1回、約60分間
  - :人数10名程度（内訳：デンマーク、トルコ、仏、独、スイス、韓国など）
  - :准教授、バルカン半島周辺の政治学専門
- FB配信
  - :フェイスブックにアップロードされるライブ動画を視聴
  - :パワーポイントが事前に配布される
  - :（成績評価）学期末の試験と10～15頁のエッセイ提出
  - :（困った点）FBでの配信のため、双方向のやりとりがしづらい
  - :（＋）通学時間なし、リラックスして受講できる　（－）知識の定着

授業形態②：Skype

- Russian language (2020/2/10~6/18)
  - :原則8ECTS、週に3回、約120～150分間
  - :人数５名（内訳：仏3人、フィンランド、日本）
  - :語学教師
- Skype
  - :skypeでのディスカッション
  - :«слово»、ペテルブルク(Златоуст)
  - :（成績評価）毎週の課題、出欠、予習状況、ディスカッションの貢献度
  - :（困った点）動画が止まったり、音が割れることが多かった
  - :（＋）発音が聞き取りやすい　（－）時間の拘束、制限時間の設定

授業形態③：Zoom

- EU-Russia Relations (2020/2/14~評価待ち)
  - :6ECTS、週に1回、約60～75分間
  - :18人（EU加盟国・12人程度、フィンランド・3人、韓国・1人、中国・1人、日本・1人）
  - :教授、欧州連合とロシアの国際関係学専門
- Zoom
  - :Telegramのチャットを用いた質疑応答
  - :YouTubeにアップロードされた動画で予習し、Zoom講義で情報の補正とディスカッション
  - :パワーポイントと共有されたGoogle File内の資料
  - :（成績評価）毎週、Google File内の文献を用いて2ページのエッセイ＋学期末の4000wordsのエッセイ
  - :（＋）時間効率　（－）チャットグループの有用性、グループワークができない
  - :（コメント）授業で情報が刷新されるため講義への意欲が湧きやすく、全体的な出席率も高かった。課題に関しては提出した人の名前の一覧がTelegramのチャットグループに表示されたため、自分の提出状況が分かりやすかった。

小山　正伍

（人文・文化学群人文学類）

極東連邦大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）

2020年6月19日
オンライン留学に関するラウンドテーブル第一回

極東連邦大学のオンライン授業形態

人文学類 4 年　小山正伍

1

自己紹介

- 留学先　　ロシア,ウラジオストク 極東連邦大学
- 留学期間　2020年2月24日～2020年3月26日
  （本来は2021年1月まで）
- 現在地　　埼玉県川口市
- 4月27日からオンライン授業に参加、留学継続という形で
  JASSO奨学金をいただいています。

2

・成田からウラジオストクまで直線距離がおよそ1000km

・2020年3月からJAL、ANAが直行便を毎日就航し、アクセスが格段に楽になるはずだった。

3

4

5

授業紹介

- 〈Practical Russian Language. General Competence〉
- 使用サービスはSkype、Youtube
- 授業時間は平日9:30~12:00まで（現地時間で10:30〜）
- 途中10分ほどの休憩あり。
- 一昨日（17日）までは10:00〜12:00までぶっ通しだった。
- 参加者は日本人2人、韓国人3人、中国人2人。（毎日1, 2 人は何かの都合で欠席している）
- 文法中心。時おり映画を観て課題に答えるタイプも。

6

授業を受ける上で不便な点

- ビデオ画面とチャット画面を同時に見られない。
- （特に学生の）音声が途切れ途切れになって聞こえにくいことがある。

→PC上で別の作業をするときよく起こる。PDFを開くときとか

- 配布されたファイルが開けないことがある
- PCのキーボードがロシア語に非対応

7

安井　梨乃

（社会・国際学群国際総合学類）

ノヴォシビルスク国立大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）

第一回　６月１９日

オンライン留学に対する ラウンドテーブル

安井 梨乃

所属　　：国際総合学類三年次

留学先　：ロシア・ノヴォシビルスク（ノヴォシビルスク国立大学）

留学期間：２０２０年２月９日～２０２１年１月３１日（予定）

滞在期間：２０２０年２月９日～３月２３日

３月１７日に隣町で感染者が報告され、ノヴォ大もオンライン授業に移行

その直後に帰国検討のメールを受け帰国
現在は大阪にある実家でオンライン留学中

オンライン授業内容

交換留学生（日本人学生）向け

オンライン移行前
- 週三回（火曜１８時、木曜１８時、土曜１４時半）一コマ１時間半
- 先生から配布されたプリントをもとに授業
  （内容；リーディング、スピーキング、文法など）

オンライン移行後
- メッセンジャー（Facebookのアプリ）を使用したビデオ通話
- 現地時間のまま週三回、一コマ１時間半で実施
- オンライン授業になる前に先生から渡されていたプリント

授業内容に大きな変更がなく、また時差も二時間と気にならない程度であったので、特に不便は感じなかった。
本来ならば授業は六月末までだが、延長の可能性あり。

中国人学生たちとの授業１（リーデイング）

オンライン移行前
・週２回、一コマ１時間半
・共通の教科書をもとに授業（ДОРОГО В РОССИЮ:図書館から貸し出し）

オンライン移行後
・授業という形式はなく、メールにて課題を指示（週に一回）
・メールで課題を返信

期末試験は時間内にワード形式の問題に打ち込む形で回答し返信

先生に直接質問をする場がなかったことが残念だった。

中国人学生たちとの授業２（文化と言語）

オンライン移行前
・週２回、一コマ１時間半
・先生のスライドと配布されたプリントをもとに授業（ロシアの文化や歴史）
・二週間ごとに筆記式の小テスト

オンライン移行後
・Meetアプリを使用して授業
事前に添付されたスライドを見ながら先生の説明を聞く
先生からの質問には当てられた生徒がマイクをオンにして答える
・Google classroomでスライド、課題や小テストを共有
・Докладをオンラインで実施

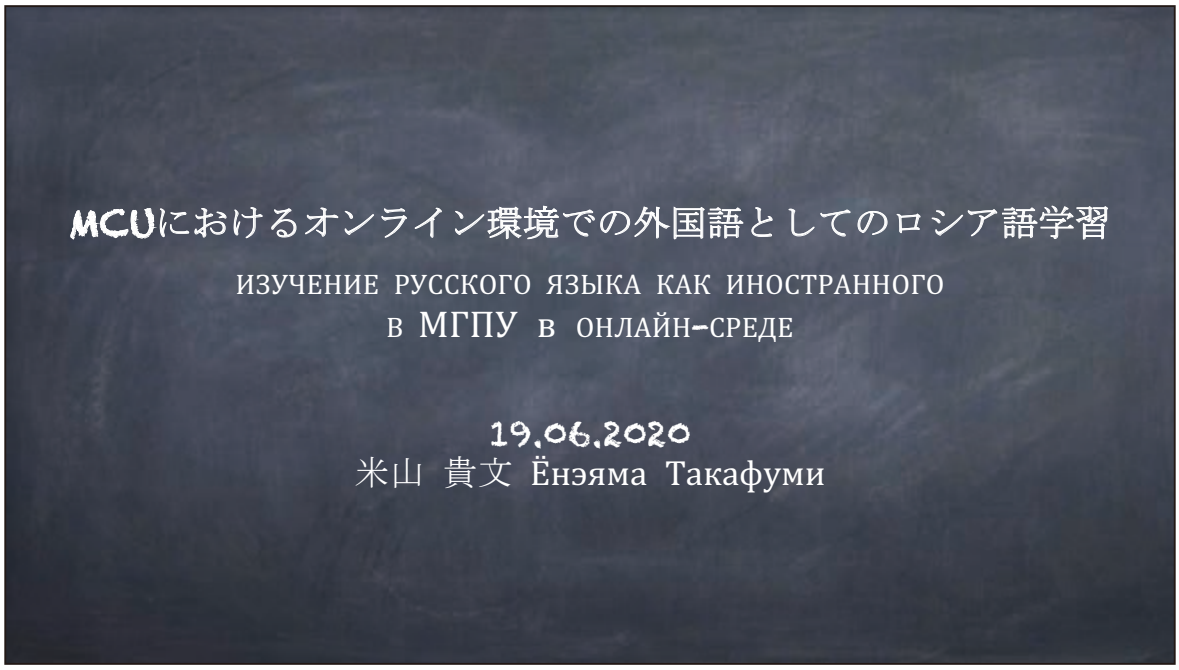
期末試験はグーグルフォームで行なった。時間内に回答を打ち込んで送信。

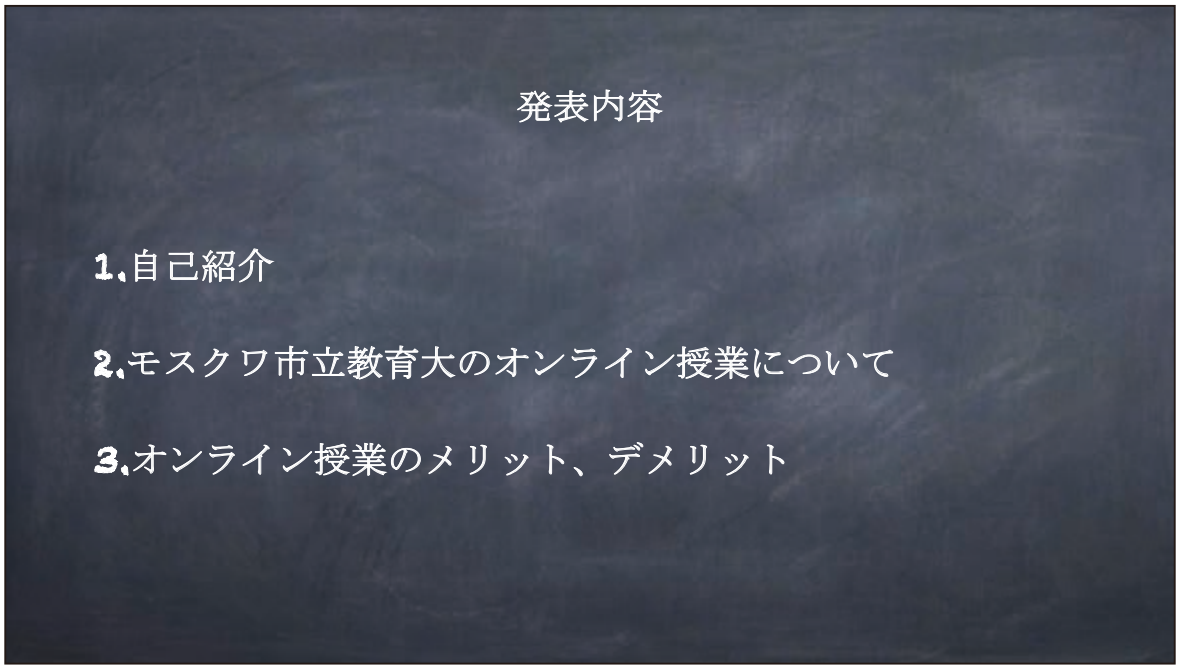
内容は以前とあまり変わらなかったが、実家の通信環境が不安定で授業が止まることがたまにあった。

米山　貴文

（文芸・言語専攻博士課程）

モスクワ市立教育大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）





自己紹介

- 所属：人文社会科学研究科
  - 学士：神戸市外国語大学ロシア学科
  - 修士：筑波大学体育学
- 研究対象：ソビエト映画
- ロシア留学歴：2020年3月～（4ヶ月目）
- 留学先大学：モスクワ市立教育大学

- 3月15日
- 寮の窓から撮影

- 4月22日
- 寮の窓から撮影

モスクワ市立教育大のオンライン授業について-1

- 使用ツール：Microsoft Teams
- クラス
  - 概要：中国人メインでレベル毎に４クラス（最上クラスに所属）
  - 人数と国籍：13人程度（中国-8、台湾-4、日本-1）
  - レベル： ТРКИ2-ТРКИ3（使用教科書より判断）
- 所感
  - 授業：満足、レベルが高く、内容も充実している。
  - 中国系留学生：文法、読解-優秀、会話-不得手、発音-アクセント強め

ТРКИ ＝ ロシア語検定試験(テ・エル・カ・イ)
(ТЕСТ ПО РУССКОМУ ЯЗЫКУ КАК ИНОСТРАННОМУ)

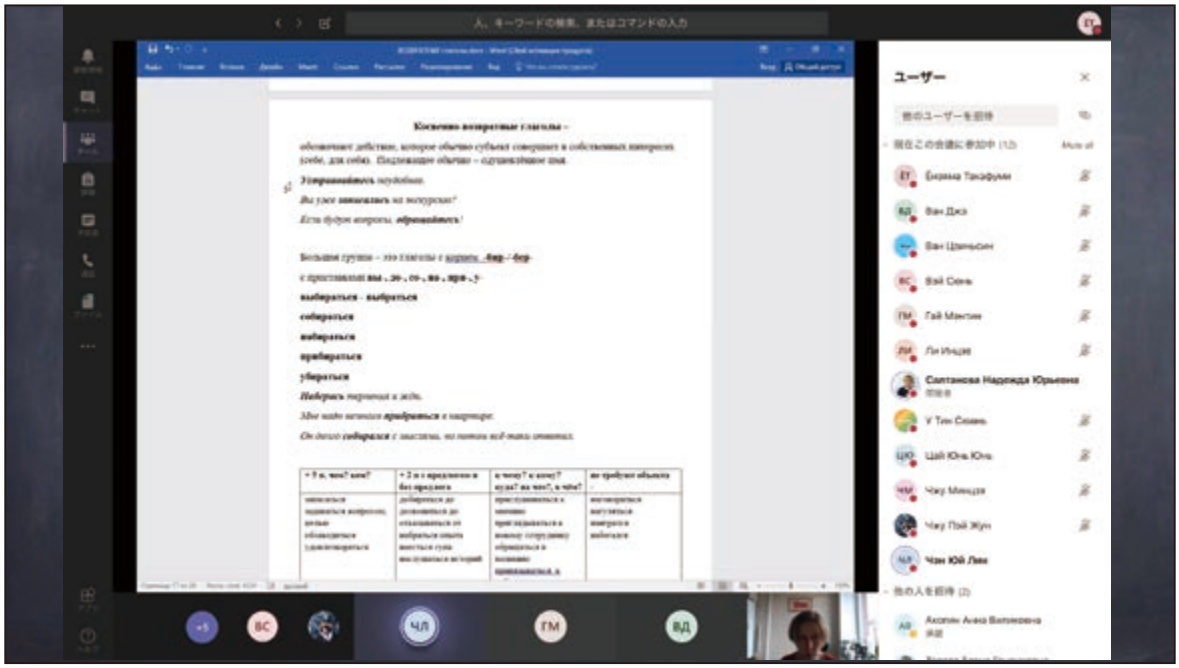
- 入門レベル TEU/ТЭУ（A1）
- 基礎レベル TBU/ТБУ（A2）
- 第１レベルTRKI-1/ТРКИ-1（B1） – ロシアの大学に入学できる
- 第２レベルTRKI-2/ТРКИ-2（B2）– ロシアの大学院に入学できる
- 第３レベルTRKI-3/ТРКИ-3（C1）– ロシアの大学院に入学できる
- 第４レベルTRKI-4/ТРКИ-4（C2）– ネイティブと同等のレベル

モスクワ市立教育大のオンライン授業について-2

- 授業
  - 週10回（11回）
  - 1回90分
  - 6項目（7項目）
- 受講不可能だった７つ目の授業
  - 中国語からロシア語への翻訳理論と実践 (ТЕОРИЯ И ПРАКТИКА ПЕРЕВОДА С КИТАЙСКОГО ЯЗЫКА НА РУССКИЙ)
- 授業項目
  - 視聴覚講座（аудиовизуальный курс）×1
  - 文法（грамматика）×2
  - 地域学（страноведение）×1
  - 文語（письменная речь)×2
  - 文学（литература)×2
  - 会話実習（практика речи）×2

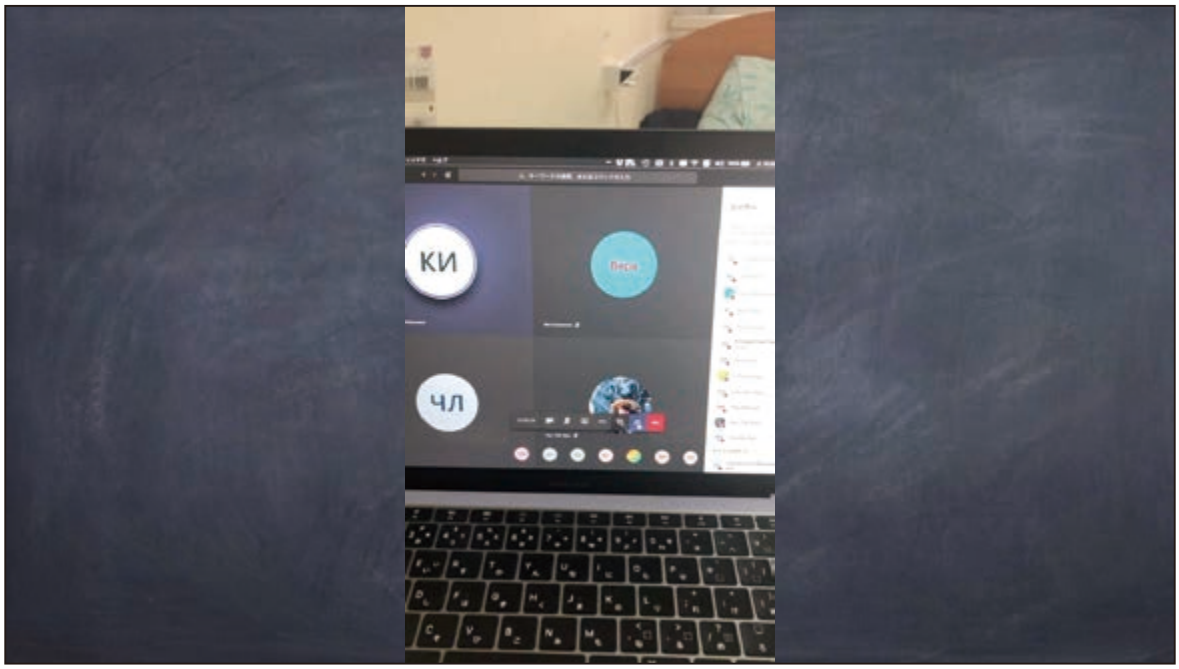
時間割(РАСПИСАНИЕ)

	月(ПН)	火(ВТ)	水(СР)	木(ЧТ)	金(ПТ)
9:00 10:30	文法 Грамматика	文学 Литература			
10:45 12:15	文法 Грамматика	文学 Литература			
13:00 14:30	会話実習 Практика речи	中国語からロシア語への翻訳理論と実践 ТЕОРИЯ И ПРАКТИКА ПЕРЕВОДА С КИТАЙСКОГО ЯЗЫКА НА РУССКИЙ	文語 Письменная речь	地域学 Страноведение	視聴覚講座 Аудиовизуальный курс
14:45 16:15			文語 Письменная речь		会話実習 Практика речи



オンライン授業のメリット、デメリット

- ＋
  - 授業資料のデータ化
  - ペーパーレス化
  - 管理が楽
- －
  - 受け取る授業の質がネットワークの接続状況にある程度依存する。
  - 授業を受ける場所の確保が難しい場合がある。
- ＋－
  - リラックスして受講できる。
  - ネットワークの知識に簡単にアクセスできる。
  - 容易に録音録画できる。
  - 他人と授業を共有できる、その場で他人に相談できる。
  - 通学時間がない。



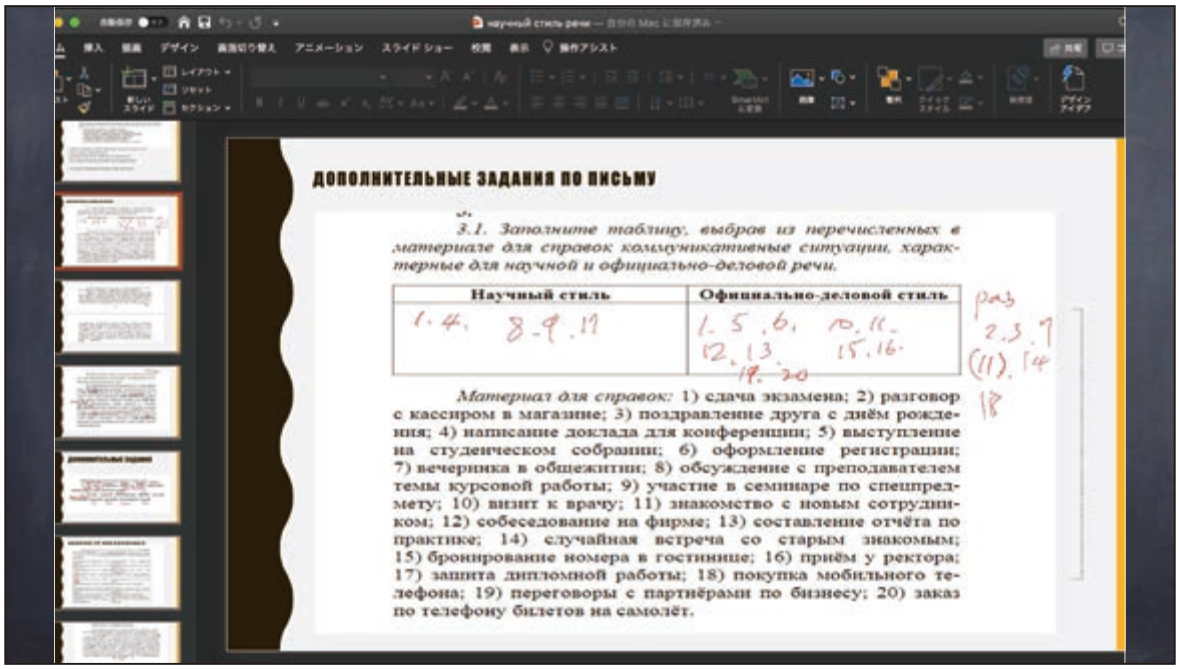
オンライン授業のメリット

- 授業資料のデータ化 ＆ ペーパーレス化

Ipad + apple pencilを使用

データで受け取る資料（**PDF, Word, PPTX**）に直接書き込み、紙をほとんど使わなくなった。（唯一、聞き取り時のみ紙を使用）

- データ化の結果、管理が楽になった。

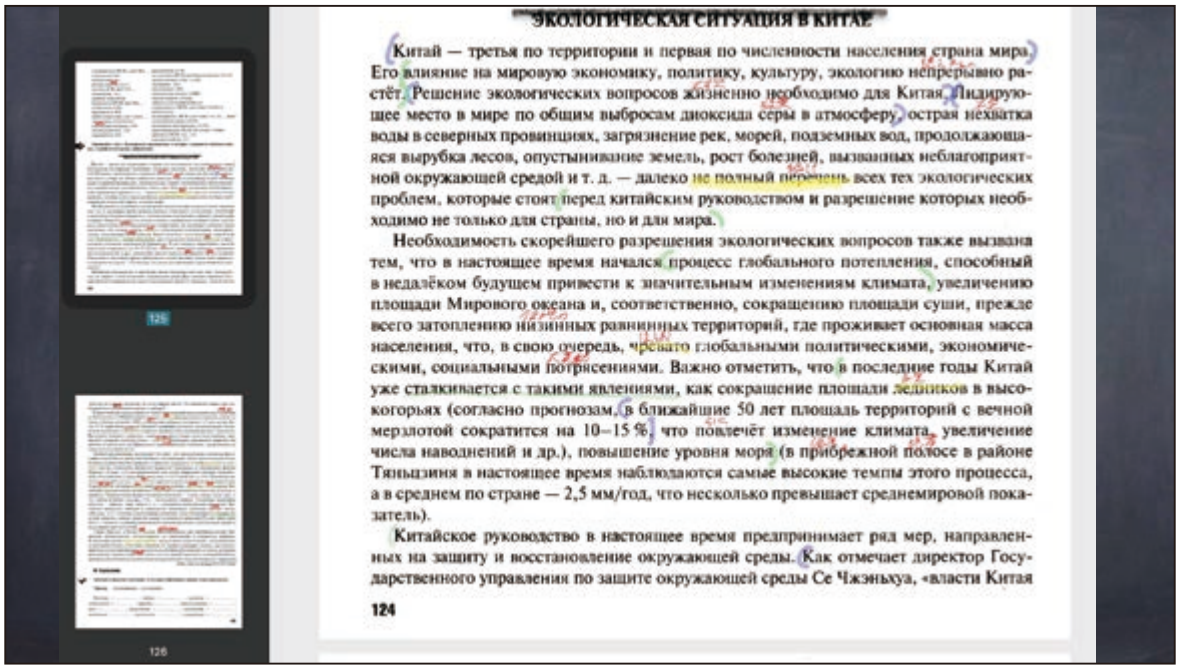


ДОПОЛНИТЕЛЬНЫЕ ЗАДАНИЯ ПО ПИСЬМУ

3.1. Заполните таблицу, выбрав из перечисленных в материале для справок коммуникативные ситуации, характерные для научной и официально-деловой речи.

Научный стиль	Официально-деловой стиль
1. 4. 8. 9. 17	1. 5, 6, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 19, 20

Материал для справок: 1) сдача экзамена; 2) разговор с кассиром в магазине; 3) поздравление друга с днём рождения; 4) написание доклада для конференции; 5) выступление на студенческом собрании; 6) оформление регистрации; 7) вечеринка в общежитии; 8) обсуждение с преподавателем темы курсовой работы; 9) участие в семинаре по спецпредмету; 10) визит к врачу; 11) знакомство с новым сотрудником; 12) собеседование на фирме; 13) составление отчёта по практике; 14) случайная встреча со старым знакомым; 15) бронирование номера в гостинице; 16) приём у ректора; 17) защита дипломной работы; 18) покупка мобильного телефона; 19) переговоры с партнёрами по бизнесу; 20) заказ по телефону билетов на самолёт.



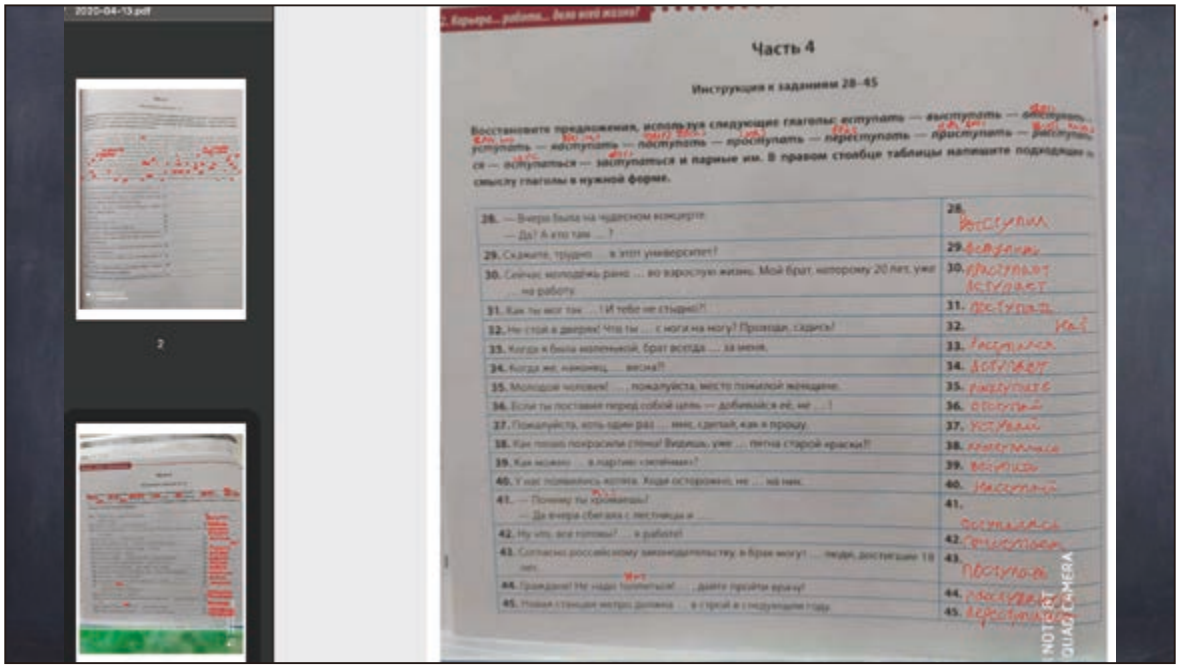
ЭКОЛОГИЧЕСКАЯ СИТУАЦИЯ В КИТАЕ

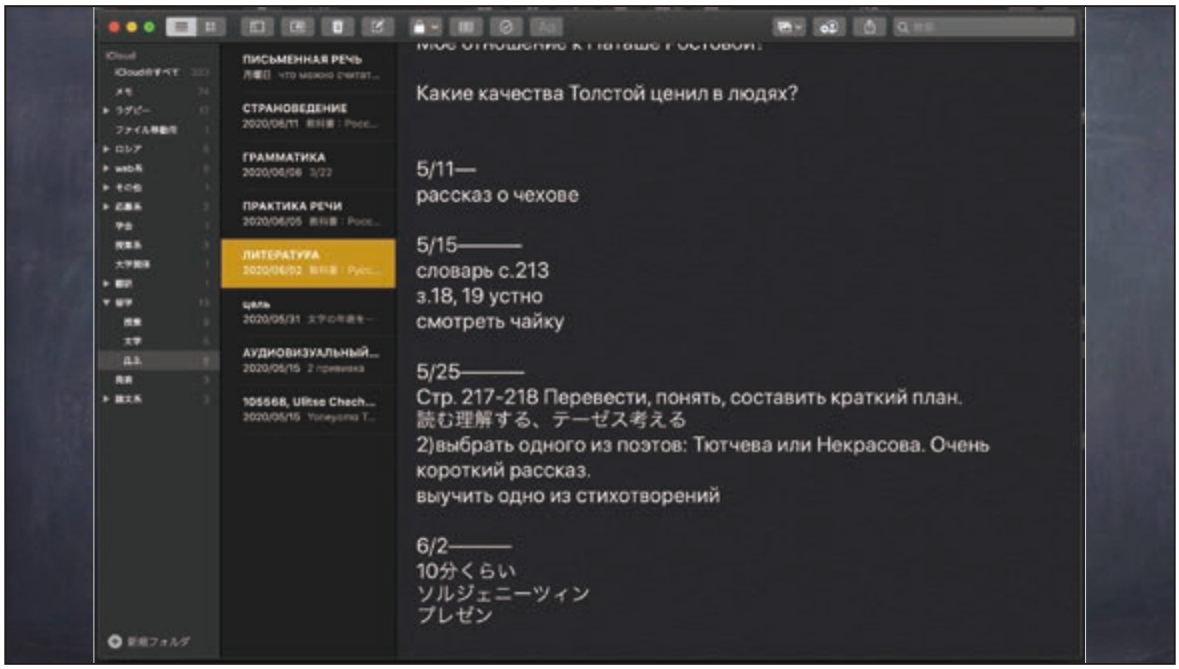
Китай — третья по территории и первая по численности населения страна мира. Его влияние на мировую экономику, политику, культуру, экологию непрерывно растёт. Решение экологических вопросов жизненно необходимо для Китая. Лидирующее место в мире по общим выбросам диоксида серы в атмосферу, острая нехватка воды в северных провинциях, загрязнение рек, морей, подземных вод, продолжающаяся вырубка лесов, опустынивание земель, рост болезней, вызванных неблагоприятной окружающей средой и т. д. — далеко не полный перечень всех тех экологических проблем, которые стоят перед китайским руководством и разрешение которых необходимо не только для страны, но и для мира.

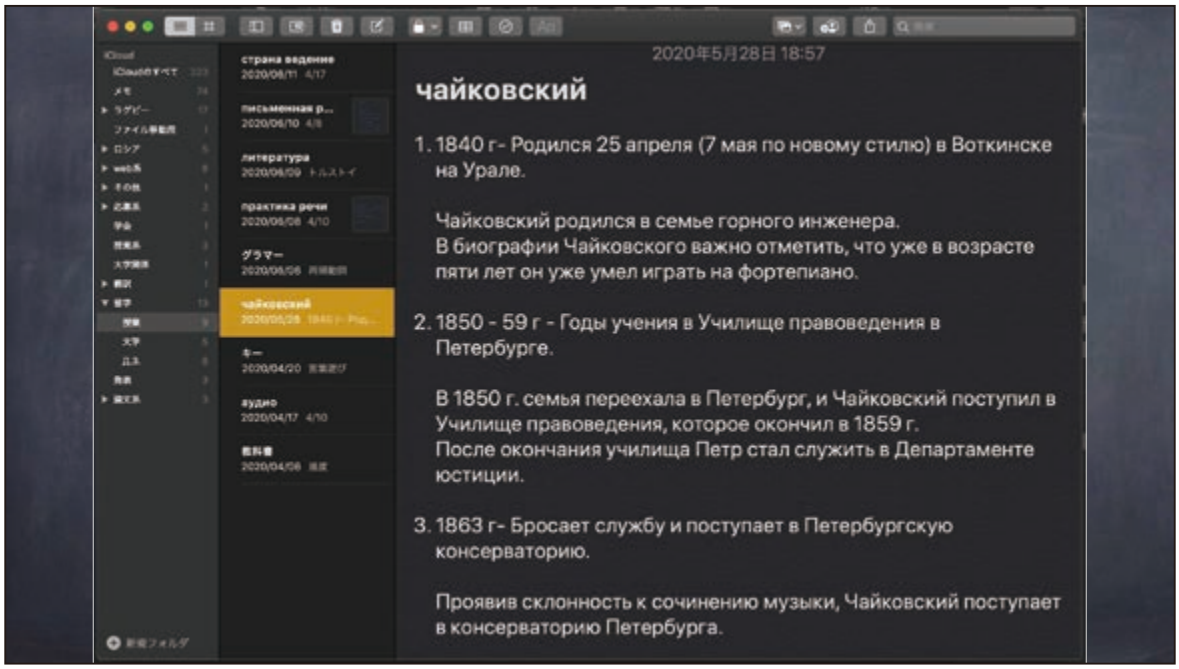
Необходимость скорейшего разрешения экологических вопросов также вызвана тем, что в настоящее время начался процесс глобального потепления, способный в недалёком будущем привести к значительным изменениям климата, увеличению площади Мирового океана и, соответственно, сокращению площади суши, прежде всего затоплению низинных равнинных территорий, где проживает основная масса населения, что, в свою очередь, чревато глобальными политическими, экономическими, социальными потрясениями. Важно отметить, что в последние годы Китай уже сталкивается с такими явлениями, как сокращение площади ледников в высокогорьях (согласно прогнозам, в ближайшие 50 лет площадь территорий с вечной мерзлотой сократится на 10–15 %, что повлечёт изменение климата, увеличение числа наводнений и др.), повышение уровня моря (в прибрежной полосе в районе Тяньцзиня в настоящее время наблюдаются самые высокие темпы этого процесса, а в среднем по стране — 2,5 мм/год, что несколько превышает среднемировой показатель).

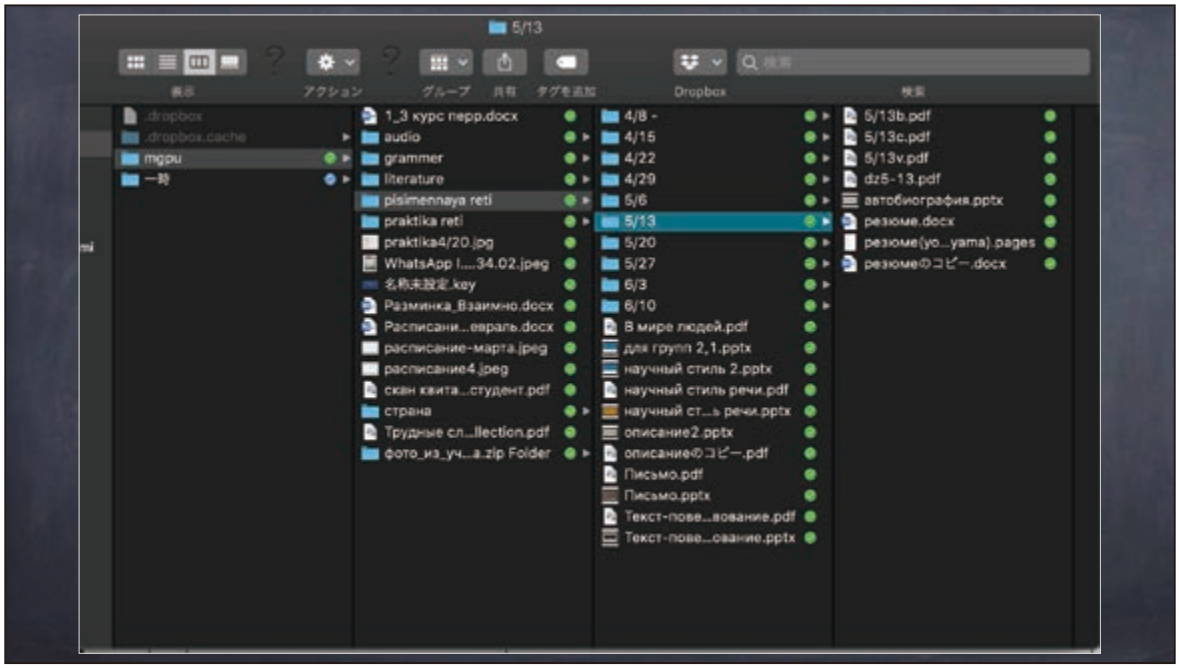
Китайское руководство в настоящее время предпринимает ряд мер, направленных на защиту и восстановление окружающей среды. Как отмечает директор Государственного управления по защите окружающей среды Се Чжэньхуа, «власти Китая

124


Часть 4
Инструкция к заданиям 28–45


ПИСЬМЕННАЯ РЕЧЬ
СТРАНОВЕДЕНИЕ
ГРАММАТИКА
ПРАКТИКА РЕЧИ
ЛИТЕРАТУРА
АУДИОВИЗУАЛЬНЫЙ...
Какие качества Толстой ценил в людях?
5/11—
рассказ о чехове
5/15———
словарь с.213
з.18, 19 устно
смотреть чайку
5/25———
Стр. 217-218 Перевести, понять, составить краткий план.
読む理解する、テーゼス考える
2)выбрать одного из поэтов: Тютчева или Некрасова. Очень короткий рассказ.
выучить одно из стихотворений
6/2———
10分くらい
ソルジェニーツィン
プレゼン


2020年5月28日 18:57
чайковский
1. 1840 г- Родился 25 апреля (7 мая по новому стилю) в Воткинске на Урале.
Чайковский родился в семье горного инженера.
В биографии Чайковского важно отметить, что уже в возрасте пяти лет он уже умел играть на фортепиано.
2. 1850 - 59 г - Годы учения в Училище правоведения в Петербурге.
В 1850 г. семья переехала в Петербург, и Чайковский поступил в Училище правоведения, которое окончил в 1859 г.
После окончания училища Петр стал служить в Департаменте юстиции.
3. 1863 г- Бросает службу и поступает в Петербургскую консерваторию.
Проявив склонность к сочинению музыки, Чайковский поступает в консерваторию Петербурга.


5/13
表示
アクション
グループ
共有
タグを追加
Dropbox
検索
.dropbox
.dropbox.cache
mgpu
一時
1_3 курс пepp.docx
audio
grammer
literature
pisimennaya reti
praktika reti
praktika4/20.jpg
WhatsApp I....34.02.jpeg
名称未設定.key
Разминка_Взаимно.docx
Расписани...евраль.docx
расписание-марта.jpeg
расписание4.jpeg
скан квита...студент.pdf
страна
Трудные сл...llection.pdf
фото_из_уч...a.zip Folder
4/8 -
4/15
4/22
4/29
5/6
5/13
5/20
5/27
6/3
6/10
В мире людей.pdf
для групп 2_1.pptx
научный стиль 2.pptx
научный стиль речи.pdf
научный ст...ь речи.pptx
описание2.pptx
описание のコピー.pdf
Письмо.pdf
Письмо.pptx
Текст-пове...вование.pdf
Текст-пове...ование.pptx
5/13b.pdf
5/13c.pdf
5/13v.pdf
dz5-13.pdf
автобиография.pptx
резюме.docx
резюме(yo...yama).pages
резюме のコピー.docx

終わり
КОНЕЦ

NipCA 主催 筑波大学
「第 2 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル」

第 2 回オンライン留学に関するラウンドテーブル出席者　合計 23 名

発表者：6 名

ワルシャワ大学 社会・国際学群　国際総合学類	西　川　将太郎
モスクワ国立大学 人文・文化学群　人文学類	石　川　織　羽
サンクト・ペテルブルグ国立大学 社会・国際学群　国際総合学類	西　　美乃里
極東連邦大学 人文・文化学群　人文学類	小　山　正　伍
ノヴォシビルスク国立大学 社会・国際学群　国際総合学類	安　井　梨　乃
モスクワ市立教育大学 文芸・言語専攻　博士課程	米　山　貴　文

司会者：1 名

NipCA プロジェクト コーディネーター	梶　山　祐　治

討論者：3 名

人文社会系　教授	加　藤　百　合
人文社会系　准教授	山　本　祐規子
人文社会系　非常勤研究員	笹　山　　啓

総括：1 名

人文社会系　教授	臼　山　利　信

学外聴講者：1 名

日本財団	森　祐次　常務理事

ほか学内聴講者：11 名

NipCA プロジェクト主催

筑波大学

オンライン留学に関するラウンドテーブル

on-line 座談会

～コロナ禍の困難から見出す新しい教育の可能性～

2020年6月26日（金）16:00～17:00

第一回　オンライン授業形態別（Teams や Skype など）の
　　改善・解決策（6月19日）

第二回テーマ
レポート・小テスト・宿題のやり方
- 方法と課題

第三回　オンライン授業を受けることの精神的・肉体的・物理的な負担
　　- 何が起きたか・どう解決したか
第四回　教員から見たオンライン教育
第五回　コロナ収束後のオンライン授業について
　　- オンライン授業の可能性

■ 発表者：ロシア・ポーランドの大学に留学中およびオンライン留学中の筑波大学 学類生・院生

西川 将太郎（社会・国際学群 国際総合学類）：ワルシャワ大学（2019年9月-2020年6月）
石川 織羽　（人文・文化学群 人文学類）　：モスクワ国立大学（2019年9月-2020年6月）
西 美乃里　（社会・国際学群 国際総合学類）：サンクト・ペテルブルグ国立大学（2019年9月-2020年6月）
小山 正伍　（人文・文化学群 人文学類）　：極東連邦大学（2020年2月-2021年1月）
安井 梨乃　（社会・国際学群 国際総合学類）：ノヴォシビルスク国立大学（2020年2月-2021年1月）
米山 貴文　（文芸・言語専攻 博士課程）　：モスクワ市立教育大学（2020年2月-2021年1月）

■ 総括・討論者：人文社会系 教授 臼山利信，人文社会系 教授 加藤百合，
　　人文社会系 准教授 山本祐規子，人文社会系 非常勤研究員 笹山啓

■ 司　会：NipCA プロジェクトコーディネーター 梶山祐治

聴講参加希望の問合せ：NipCA プロジェクト担当事務室（当日 15:00 まで）
TEL：029-853-4251 / Email：info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web：https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/

主　催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」
協　力：日本・中央アジア友好協会（JACAFA），
　　筑波大学 グローバルコミュニケーション教育センター社会貢献委員会，グローバル・コモンズ機構，
　　国際室，学生部学生交流課，スーパーグローバル大学事業推進室，日本留学海外拠点連携推進事業，
　　人文・文化学群，社会・国際学群

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

梶山　それでは、時間になりましたので、第２回オンライン留学に関するラウンドテーブルを始めたいと思います。本日のテーマは、「レポート・小テスト・宿題のやり方 方法と課題」です。本日は、当プロジェクトを支えてくださっております日本財団より森常務理事が、お忙しい中、ご参加下さっていますので、まず森常務理事よりはじめに一言頂戴したいと思います。

森　皆さん、こんにちは。ただ今、ご紹介にあずかりました、日本財団で常務理事を務めております森祐次と申します。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

私たちは、すでに 10 年以上前から、中央アジアの若者たちが勉強できるように、そして、いずれ日本とよい関係が持てるような、橋渡しができる架け橋のような役割が果たせるようにということで、中央アジアの若者たちが文化的に近いトルコに留学するための奨学金事業をやっておりました。もうその数は 300 名以上になっておりますが、その事業を、今度は中央アジアの若者たちの育成だけでなく、日本において中央アジア・ロシアに通暁する若者たちも育てたいという目標を持ちまして、昨年より、筑波大学の臼山先生とともに、この NipCA プロジェクトを発足させていただきました。

臼山先生には、その前年の１年間にわたりまして、本プロジェクトをどのようにデザインしたらよいかといったことについて、本当にお時間をかけて練り上げていただきました。そして、やっと昨年より、このプロジェクトを始めることができるようになったということで、私ども、大変うれしく、そして心強く思っております。いずれは、この中央アジア、ロシア、それから日本との間に、しっかりした、政治、経済、文化、様々な面における交流の架け橋となる人たちが生まれてくるだろうと期待しております。

本日は、このようなオンライン留学に関するラウンドテーブルという、非常にユニークな会合を開かれておりまして、私も大変興味深く思っております。特に、今年の初めから全世界でまん延しているコロナの影響によって、人々がなかなか一緒に集まることができないという中、これからの新しい留学、また、遠くに離れていても講義を受けることができるオンラインというかたちを、どのようにして充実したものにできるかといったことについて、皆さんのご経験をもとにした色々なご意見を交わせるものだというふうに期待しております。

ウィズコロナ、アフターコロナという言葉がありますように、恐らく当分の間は、こういう状況の中で、何とかできる最善の方法を目指しながら、研究、勉学の道を探らなければならない状況かと思います。皆さんが、これから、どのようなかたちでオンライン留学について意見を交わされるのか、大変期待しております。今日は充実した議論がなされることと思います。皆さんが、とにかく健康に気を付けられて、さらに研究・勉学に励まれることを祈りまして、私のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

臼山　大変にありがとうございました。

梶山　森常務、大変力強いお言葉、ありがとうございます。それでは、次に臼山先生より、本ラウンドテーブルの趣旨説明をしていただきたいと思います。臼山先生、よろしくお願いします。

臼山　森常務理事、本当に身にあまる温かいお言葉、大変にありがとうございました。おかげさまで NipCA プロジェクトも２年目を迎えましたが、森常務理事をはじめ、有川部長、ハフマン課長、JACAFA のヴルボフスキ会長のご助言とご支援を頂戴しながら、順調に進んでおります。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本日は、いろいろな意味でお楽しみいただければと思っております。

それでは、今日のシンポジウム、第２回目に入りたいと思いますけれども、背景としましては、繰り返しになるかもしれませんが、本年４月 17 日から学群・大学院の全面的なオンライン授業が開催されまして、さまざまな課題が今浮き彫りになりつつあるということがございます。それから、オンライン教育にはプラス面とマイナス面がありまして、ポストコロナの時代に備えて、プラスの面の価値の活用という観点から、オンライン教育の意義と可能性を整理しておく必要があるという問題意識を持っています。

今年の２月頃から新型コロナウイルスの感染が国内外で急速に拡大していく中で、３月にはその拡大が本格化して、海外語学研修や海外インターンシップなど、学内の国際交流イベントのほぼ全てが中止になりました。外務省の海外渡航危険レベルが１であれば、筑波大学の学生を海外に派遣することもできるわけですが、それがレベル２になりますと派遣はできないというレベル、さらに留学中、海外活動中の学生に対して帰国勧告をするというレベルになります。そうしたレベル１から２へ移行しようかというタイミングの中で、２月、３月にロシアに留学中だった筑波大生のほとんどが帰国するという事態になりました。

帰国した後、モスクワ、それからサンクトペテルブルク、ウラジオストク、ノヴォシビルスクの各大学でオンライン授業が、留学生のために、日本人だけではなくてロシアに留学していた世界の学生のために、帰国後も学習の機会を与え続けたいということで、現在、日本において期せずしてオンライン留学中の学生たちに、今体験しているさまざまなこと、良かったことも悪かったことも含めて自由に語っていただく機会を設けたというのが、今回の経緯でございます。

そのほか、ポーランドがコロナ禍で閉鎖になった関係で、本来帰国するはずであった筑波大生がポーランドに残っています。それから、モスクワにも 1 人残っています。残って身動きの取れないままの留学生である、日本人の筑波大生に対して、ワルシャワ大学、モスクワ市立教育大学がオンライン授業を提供してくれているということで、モスクワとワルシャワ、そして日本に帰国しながらオンライン留学を続けている学生たちを結んで、この会議をしているということでございます。

前回は、オンライン授業の形態別に、Teams であるとか、Skype であるとか、あるいは Zoom であるとか、Google Meet であるとか、色々な形態のコミュニケーションツールとしてのアプリがありまして、それらを使ったオンライン授業形態の改善策、解決策について発表と討議が行われました。今日のテーマは、このオンラインの授業の中で、課題だとか、小テストだとか、宿題だとか、あるいは口頭試験や筆記試験を行っている中で、そうした成績評価に関する活動の現状と課題、それからやり方について、学生たちに報告していただき、その内容について意見交換をする、というのが今日のテーマです。

それでは司会のほうに戻しますが、学生の皆さん、よろしくお願いいたします。どこの大学に留学中で、今どこにいるのかということを、まず最初に、今日の参加者の方に分かるように説明して、発表をお願いしたいと思います。では、よろしくお願いします。

梶山　臼山先生、ありがとうございました。それでは、早速、学生の報告に移りたいと思います。

1 人目の発表者は西川さん。ポーランドの友人宅から、ワルシャワ大学の授業をオンラインで受講されている西川さんに、現地からのご報告をお願いしたいと思います。

西川　私は、ポーランドのワルシャワ大学に留学している西川将太郎と申します。私はまだポーランドにいて、こちらで仲良くなったワルシャワ大学日本学科のポーランド人の友人宅に居候させてもらって、そこでオンライン授業を受けているという状態です。ポーランド人と住んでいるので、日本語を教えたりポーランド語を教えてもらったりと、有意義な時

間を過ごせております。本日は、ワルシャワ大学での宿題や試験のやり方、在り方について、ご紹介させていただきたいと思います。

授業別にご紹介させていただきたいんですけれども、まず私が受けていたポーランド語の授業になります。ポーランド語の授業の宿題は、オンラインに切り替わってから、毎週、オンライン授業後に、筑波大学でいう manaba に相当する Kampus というサイトを通じて資料配布が行われました。そして、その配られた PDF に書き込んで、Kampus にもう一度アップロードして提出というかたちでした。ただし、PDF に書き込むのはとても難しく、友人は MacBook でうまいことやっていたんですが、自分は iPad でダウンロードして、iPad とにらめっこして、指で画面をなぞってというふうに大変な作業でした。

このような宿題でした。今回は、コロナで初のオンラインということで、先生もやり方の確立が難しかったんだと思うんですけれども、こちらの宿題に関しては、オンラインで少し難儀でした。

期末試験に関しては、これも Kampus というサイトにて、皆で、生徒・先生全員 Zoom のカメラをつけて替え玉防止をしながら、試験を受けました。ただし、パソコンでやっていますので、パソコン上で分からないことをちょっと調べたりというふうなことはできてしまいますので、試験に関しては△くらい。宿題は、ちょっと不便だったので×といった感じでした。

二つ目の授業は、討論形式の政治の授業なんですけれども、宿題のほうは、毎週、予習のために論文がメールで配られて、次の授業までに読んでおくというかたちでした。提出するものはなかったので、特に問題はありませんでした。

期末試験は、同じ Kampus を使用して、しかしカメラなどは全くなくて、本人が受けているかどうかというのは先生は分からないんですけれども、しかし、試験内容は授業内容を大きく踏まえていて、ネットで調べても答えを見つけることはほぼ不可能で、時間制限もものすごくきつかったので、実質、不正は不可能でした。なので、この授業に関しては、

宿題や試験、どちらもうまくオンラインでできたと思います。

三つ目の授業は、欧州のサッカーと政治社会に関する授業で、宿題はありませんでした。試験に関しては、先生からGoogle Formが送られてきて、何か試験中に質問があれば、先生がGoogle Classroomにいるので、そこに入って質問をするという感じでした。持ち時間が90分もあり、しかもカメラも何もないGoogle Formだったので、何でもやり放題という感じでした。生徒が130人もいたので、先生も少しお手上げだったのかなというふうに思います。完全に生徒信頼型です。生徒信頼というのはいいことかもしれませんが、少しシステムとしては問題があると感じたため、Google Formの試験は×にしました。

まとめになりますが、宿題はオンラインでも大体問題ないと思います。ただし、技術的な、PDFに書き込むなどの問題が生じるようなものは、難しいと感じます。

試験のほうは、言語の授業の試験は、教授の負担が大変だと思うんですけれども、口頭試験などであればうまくいくと思いました。ただし、パソコンを使った筆記試験は、少し、何か調べたりということはどうしても避けられないのかなというふうに思います。

普通の講義などの授業では、時間制限をきつめにしたり、授業内容をきちんと踏まえている、ネットで検索できないような試験内容であれば、筆記試験はオンラインでもうまくいくのかなというふうな気がしました。不正が起こるか、起こらないかについて少し重めに話させていただいたんですけれども、ぜひ不正の起こらないやり方を確立したほうが、教授のためにも生徒のためにもなるかなというふうな、そこがオンラインの問題点ではないかなというふうに思いました。

以上です。ありがとうございました。

梶山　はい。西川さん、ポーランドからの貴重な報告、ありがとうございます。ワルシャワ大学というと、多数のノーベル賞受賞者を輩出している、ポーランド最大の総合大学ですけれども、ちゃんとKampusという自前のシステムがあって、それがオンライン授業に対応しているということが分かる報告でした。

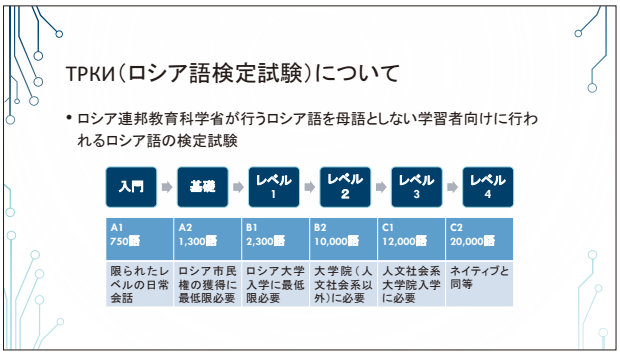
では、次の報告者は、モスクワ大学にオンライン留学中の石川さん、準備は大丈夫でしょうか。石川さんはもう帰国されて、筑波大学の近くのご自宅からモスクワ大学の授業を受けられています。では、報告をお願いします。

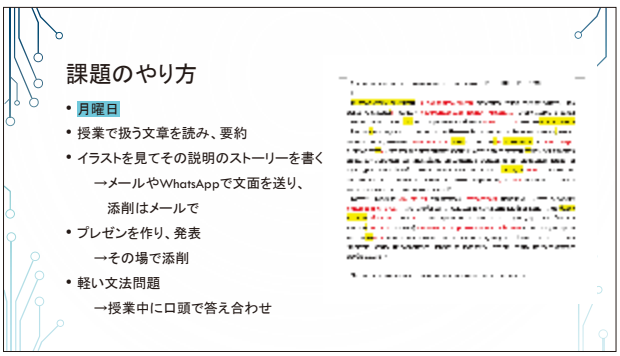
石川　では、始めさせていただきます。人文学類4年次の、モスクワ国立大学にオンライン留学中の石川織羽です。6月まで交換留学をしている予定でしたが、3月下旬に帰国し、つくばの自宅で3カ月、オンライン授業を受講しています。こちらがモスクワ大学です。

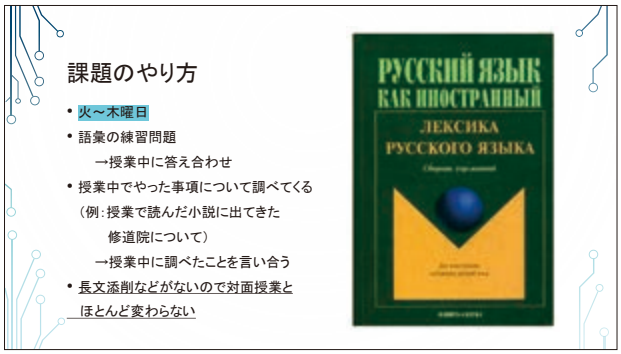
授業構成としては、毎週月曜日に先生が1人、毎週火曜日から木曜日は同じ先生で、2人の先生から語学の授業を受けていました。月曜日はディスカッションやプレゼン、ニュース読みなどがあって、コミュニカティブな授業でした。火曜日から木曜日は語彙やロシア文化、文学等で、どちらかというと先生の話を聴く機会が多かったです。どちらもCEFR*の基準でB2の学生向けです。こちらはＴＰＫＩ（テー・エル・カー・イー）の2級の準備として入りました。こちらについては後述いたします。どちらも期末に試験などはなかったので、どちらとも課題についての報告をいたします。

ＴＰＫＩ（テー・エル・カー・イー）は、ロシア連邦教育科学省が行っている、ロシア語を母語としない学習者向けに行われているロシア語の検定試験です。私が入っていたクラスは、B2の、レベル2を受験する人のためのコースで、これは、人文社会系以外の大学院に入る際に必要なレベルです。このように、レベル4が一番高く、英検とは逆になっています。

* Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）.

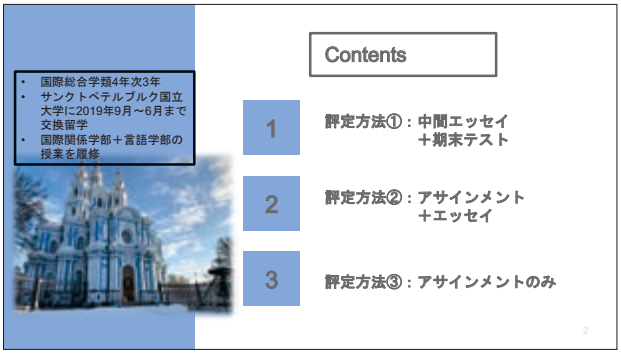


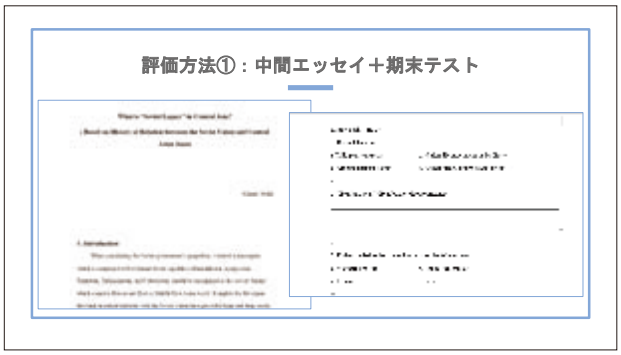




課題のやり方です。月曜日は、基本的に授業で扱う文章を読んで要約したり、ストーリーを書いたりするなどがありました。その時は右側の画像のように……、これは、私がWhatsApp やメールなどで送った文面を先生が添削して、メールで返してくださったときの文章になっています。あとは、プレゼンを作って発表して、その場で文法間違いを直してもらったりですとか、例えば軽い文法問題も、授業で口頭で答え合わせをしていました。左の『Выражение Обстоятельственных Отношений в Русском Языке（ロシア語における状況関係の表現）』という教科書を使っておりまして、この右側にあるように、Несмотря на, вопреки という前置詞を、при всём своём に書き換えるという課題をやっていました。こちらは、テキストに書き込んだりノートに書き込んだりして、それを人に見せることもなく、ただ口頭で答え合わせをするという方法でやっていました。

続いて、火曜日から木曜日の先生の授業の課題のやり方についてです。こちらの教科書を使っていました。こちらは語彙の練習問題で、ただテキストに書き込み口頭で答え合





わせをしていました。また、授業中にやった事について調べて議論するというような、課題を確かめるということをやっておりました。

月曜日と、火曜日から木曜日の授業に共通しているんですけれども、長文添削でしたら、メールなどで添削するということはあるんですが、文法は、対面授業の時も口頭でやっていたので、こういったことはオンライン授業になってもほとんど変わらないのではないかなと思いました。私からは以上です。

梶山　石川さん、ありがとうございます。石川さんからは、文法問題は対面授業とほとんど変わることなくできているという大事な報告がありました。では、次に西さん。西さんは、東京のご実家からペテルブルク大学のオンライン授業を受講されています。では、西さん、お願いします。

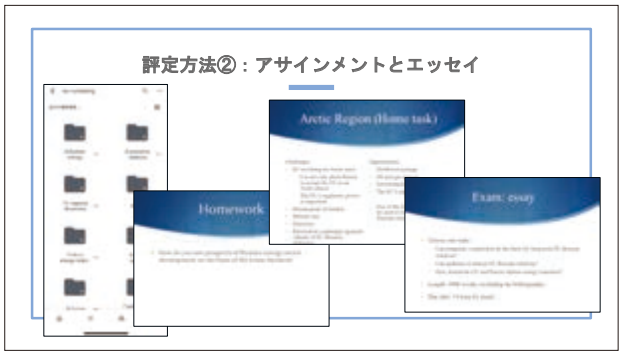
西　筑波大学国際総合学類、西美乃里と申します。私は、去年の 9 月から今年の 6 月末の予定でサンクトペテルブルク国立大学に留学しておりましたので、そちらのオンライン授業における成績評価のやり方をご紹介させていただきたいと思います。

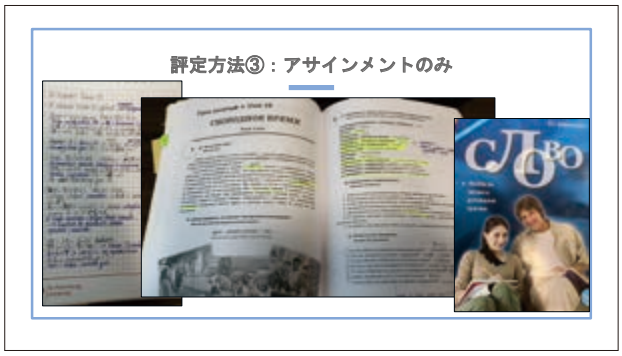
左側に小さく、私の簡単な自己紹介と、学んでいた校舎を載せてあります。内容といたしましては、こちらのように、成績評価の方法ごとにメリット、デメリットなどを紹介させていただきたいと思います。

まず、中間エッセイと期末テストで成績評価を行った授業に関してです。こちら、左が中間エッセイになっておりまして、タイトルを自分で選んで、ロシアの外交史に関して 10 ～ 15 枚程度のレポートを書きます。その際、参考文献の数は最低五つ以上と決められていました。

右側は期末テストで、この一番上に私の名前と 11 時というのがあります。これはモスクワ時間でどの時間帯から試験を始めるかということで、事前に先生と相談して決めました。11 時になると、こちらのファイルが送られてきまして、このテストに回答し、30 分以内に返送するという方式になっておりました。

こちらの成績評価に関して、メリット、デメリットがあるん





ですけれども、メリットは、まず、中間エッセイがあることで学びを確認でき、また、テーマを自分で選べましたので、学びの応用につながっておりました。期末テストに関しては、時間制限のため緊張感もあり、なおかつ時間がタイトだったため不正は行いづらかったんじゃないかと思っております。

デメリットといたしましては、先生が一日時間を空けて、生徒が自分で試験開始時間を決めるというシステムだったので、教員側の拘束時間が長いのではないかと思いました。また、メールでテストの回答を送り返すので、メールがうまくできなかった際、インターネット接続が悪かった際に、少し不利になってしまうのではないかと感じました。

続きまして、毎週のアサインメントとエッセイによって評価がなされた授業をご紹介します。こちら、一番左側がGoogle Fileなんですけれども、事前にGoogle Fileが各授業ごとに共有されており、この中の文献から、この隣のHomeworkを書きます。授業の回ごとに文献がフォルダ分けされており、該当回のフォルダ内の7～9個の文献を読み、1～2ページで自分の意見を述べるというアサインメントがほとんどでした。

左から3枚目なんですが、授業開始時に前回のHomeworkで評価のポイントとなったところを簡単に先生が紹介してくれます。一番右側にessayとありますが、最後の期末はこの三つの中からトピックを一つ自分で選んで、指定の字数、期日までにエッセイを送るというシステムになっていました。

この方式のメリット、デメリットとしては、まずアサインメントが毎週ありますので、復習になっていて、学びが定着しやすいということがありました。また、先生が評価点を次の授業の時に紹介してくださるので、自分の理解度が分かりやすかったです。参考文献も、先ほどのGoogle Fileのように示されていたので、授業が終わっても、この分野だったらこの文献を参考にしようというふうに、授業後の学びにもつながっていたかなと思います。

デメリットとしては、やはり毎週の課題と期末の大きなエッセイがあったので、教員側の負担がなかなか重いのではないかなと感じました。

こちらが、週に3回取っておりましたロシア語の授業です。私はB1レベルの授業を取っていたんですけれども、この教科書、Слово（言葉）なんですけれども、こちらはA2からB1に向けたレベルのものを使っていました。レベルとしては復習も兼ねた授業でした。このように、教科書から、次の授業ではこの問題を解いてきてください、予習してきてくださいというふうに言われるので、そこを解いて予習をしまして、一番左側にノートがあるんですけれども、これは東京の気候についてですね。このノートのような形で、たまにプレゼンテーションを行いました。この授業は毎回のアサインメントで評価がなされていました。

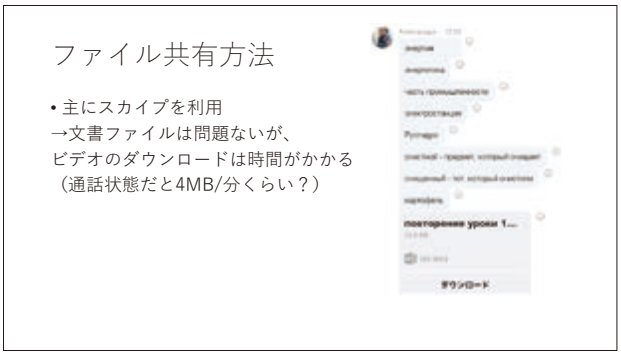
こちらのメリット、デメリットとしては、毎回のアサインメントと授業中の議論への参加度が出ますので、復習意欲だったり授業への参加度が高まっているなと感じました。また、期末期間に試験が集中しがちだったんですけれども、日々のアサインメントを大きく上回るような量が追加で出されるということがなかったので、ほかの期末試験の対策もしながらこの授業を継続的に取るということが簡単にできたのかなと思っております。

デメリットとしては、毎回、やはり学生の出席具合によっても授業の進度が変わり、次回に向けた課題となる予習・復習の範囲だったり深さというのが変わってくるので、評定基準が毎回の授業によって変わっているのかなと。絶対的な評定基準がなくて、学習する側としては少し分かりにくかったかなというふうに振り返っております。

私からは以上です。ありがとうございました。

梶山　西さん、ありがとうございました。西さんが受講していたクラスのA2からB1というのは、ロシアの大学入学に必要なレベルということですね。教員側の負担の大きさを気遣う、報告者の人柄がわかる優しい指摘がありました。では、次は小山さん。小山さんは、埼玉県のご実家から極東連邦大学のオンライン授業を受けておられます。小山さん、準備は大丈夫でしょうか。

小山　人文学類4年の小山正伍です。極東連邦大学のオンライン授業の宿題と課題について、発表させていただきた



いと思います。

まず、軽く自己紹介させていただきます。留学先はロシアのウラジオストク極東連邦大学で、留学期間が今年の２月から、本来は来年の１月まで留学する予定だったんですけれども、３月の末に帰国しました。今のオンライン授業の授業時間は、平日の午前中、大体９時半から 12 時ぐらいまでやっております。それを、埼玉県川口市の実家から受講しております。

右の写真は、ウラジオストクにある極東連邦大学のロシア言語文化センターというところでロシア語の授業を受けていた場所です。

今日の発表の目次です。まず、ファイルの共有方法と提出方法の話、それと、極東連邦大学のオンライン授業の宿題の形式①と②、最後にまとめをさせていただきます。

まず、ファイルの共有方法なんですけれども、主に Skype を利用して、宿題のテキストファイルやビデオのファイルを共有しています。プリントの共有は問題ないのですが、ビデオの共有が、授業中のビデオ通話中だと少し時間がかかってしまうので、リアルタイムでビデオを共有してそれを見るというかたちは難しいんじゃないかなと思っています。

宿題の提出方法ですが、宿題を先生に直接提出することはまれです。やった宿題は、授業中に答え合わせや解説を行っています。提出する場合はメールで送信しています。以前はノートに手書きしたものを写真に撮って提出していたんですけれども、最近はメール本文に直接打ち込んで提出しています。

最初、なぜ手書きをしていたかというと、キリル文字のキーボード配置を覚えていなかったため、直接パソコンに打ち込むことが難しかったためです。今はキーボードにキリル文字を書いたシールを貼って、対応しています。

宿題の提出は、現地時間で 21 時を過ぎると怒られます。ほかのところは分かりませんが、ウラジオストクでの授業では、参加者が日本人、中国人、韓国人なので、時差がほとんどなくて、あまり問題には感じていません。授業中の課題は、Skype のチャット欄に直接打ち込んで提出しています。

宿題の形式です。一つ目が、教科書・文法書の問題を解くというものです。今使っている教科書が向かって一番左のもので、真ん中と右のものはすでに終わっています。教科書の中身はこんな感じで、文章が載っていて、その後に、文章に関連する問題だったり、文法問題が載っているというものです。

これが、一番右に載っていた文法書の問題で、色々な文法テーマに沿った大問がいくつかあり、それを解いて授業中に答え合わせをするなりメールで提出するなりしていました。

宿題の形式の二つ目が、映画鑑賞です。YouTube にアッ

プされている動画だったり共有された動画ファイル、ロシアの映画を見て、別に配られたプリントの問題に答えるというかたちです。プリントはこういったもので、せりふの並べ替え問題だったり、内容に関する一問一答などを事前に解いて、授業に備えます

最後、まとめです。ファイルの共有自体は簡単なので、文法の練習問題などの課題にはとても取り組みやすいと思います。ただし、ダウンロードの時間などがあるので、教材は極力事前に共有しておかないと、授業の進行の妨げになると思います。

一方、提出や授業外での復習をするときに、ちょっと難しい部分があって、まず、パソコンではキリル文字を打ち込みづらいので、特別な対応をしない限り、どうしても手書きで課題を解くことになります。課題を提出して解説がメールで送られたとしたら、自分で手書きをしたものと送られてきたメールを画面で見比べなければいけないので、とても見づらいと思います。あと、ロシア語の課題で言うと、筆記体で書いたものとブロック体で書いたものを見比べなくてはいけないので、ちょっとそれの解読に手間が掛かるんじゃないかなと思います。

教材へのメモが難しいというのは、プリントの印刷とか、高性能なタブレットを持っていたり、プリンターを用意してあって印刷ができるという人は大丈夫なんですが、全ての学生がそうとは限らないので、教材にメモをするということ自体が少し難しいと思っています。なので、語学の授業では、難しい単語について、例えば英語で教材そのものにメモを付けておくなど工夫がされていると、生徒はとても助かるんじゃないかなと思います。以上です。

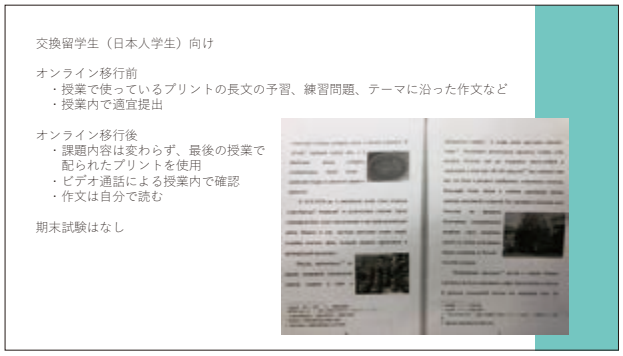
梶山　小山さん、ありがとうございました。キリル文字を打ちづらいというのは重要な指摘だったんじゃないでしょうか。ロシア語で使用するキリル文字は映画のアルファベットと配置が全く違うので、覚える必要があります。しかし留学の前半では、まだロシア語でそれほど書く機会もなく、まだ覚えていないんですね。突然オンラインに移行したことの大変さが、小山さんの報告からわかりました。

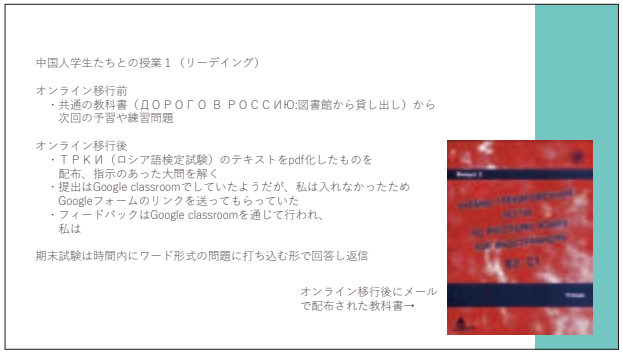
では、次に安井さん。安井さんは大阪のご実家から、シベリア最大の都市にあるノヴォシビルスク国立大学のオンライン授業を受けておられます。安井さん、準備できているでしょうか。

安井　国際総合学類３年次所属の安井梨乃と申します。今年の２月からロシアのノヴォシビルスクというところに留学していたのですが、実際に行っていたのは１カ月半ほどで、今は実家のある大阪に戻ってオンライン授業を受けております。簡単にこちらに自己紹介を載せました。

私は主に言語の授業だけを取っていたため、授業数はそれほど多くなく、大きく分けて３種類の授業がありましたので、それぞれについて、課題や試験のやり方などがどうだったかということを紹介していきたいと思います。

まず、交換留学生の日本人学生向けに設置されていた授業で、これは週３回あったのですが、私と富山大学からの学生さんの２人で受けていました。オンライン移行前は、授業では、先生から配られたプリントをもとに宿題が出されて、長文の予習ですとか練習問題、テーマに沿った作文な





どが課題で出されていました。授業内で、やってきた宿題を、確認をしながら提出するというかたちでした。

オンライン移行後は、課題内容は変わらなかったんですが、最後の対面授業の際に、しばらく授業が続く分ぐらいのプリントを先生が配ってくださったので、それをそのまま使用して授業を続けております。ビデオ通話による授業内で確認し、作文は、それまでは書いたものを提出していましたが、今では口頭での提出ということになっています。この授業に関しては、期末試験はありませんでした。

次に、中国人留学生と一緒に勉強していたリーディングの授業に関してです。15 人ほど中国人留学生のグループがあり、そこに途中から参加したんですが、評点に関しては、私のビザの発行が遅れてしまった影響で授業の最初には間に合わず、途中参加のためあまり詳しいことは分からなかったです。

ただ、課題の形態といたしましては、オンライン移行前は『Дорога в Россию（ロシアへの道）』という共通の教科書が図書館から貸し出しされていて、その中から次回の予習や練習問題などを宿題として出されていました。

オンライン移行後は、授業のそういう形式がなくなってしまい、ただ単に課題を毎週こなすだけになってしまいました。まず先生からＴＰＫИ（テー・エル・カー・イー）（ロシア語検定試験）のテキストをPDF 化したもの（写真にあるもの）がメールで配布されて、毎週 1 回、メールで指示のあった大問を解くというような課題に変更されました。提出は Google Classroom で行い、またフィードバックも Google Classroom で行われていたのですが、私はなぜかそのクラスのグループに入れなかったので、個別に Google Form のリンクを送っていただいたり、また、私が語学レベルで少しほかの学生より遅れていたため、たくさん質問する必要があったのですが、その場合は、メールで先生と個別にやりとりをしていました。

期末試験は、授業の時間に Word 形式の問題が送られてきて、1 時間ほどの間に回答を打ち込んで先生にメールで返信するというかたちでした。先ほどの教科書の中身が、このような感じです。長文があり、問題がいくつかあってこの大問が、一度に 2 問ほど出されていました。

次にまた中国人留学生と一緒の授業の二つ目で、これは文化と言語に関する授業でした。オンライン移行前は課題は特になく、ただ、2 週間ごとに授業の進捗によって筆記式の小テストがありました。内容は、習ったことに関する質問に 3 ～ 5 行のロシア語で回答するというもので、これは確認テストみたいな感じでした。

そして、オンライン移行後も課題は特にないままでしたが、Google Classroom で時間内に回答を打ち込んで送信するという小テストを実施していました。また、評点の中の成績に入る課題の一つに Доклад（報告）という口語での発表があったのですが、これは、今やっているように画面を共有しながらしゃべるということを、オンラインで行いました。

期末試験は、Google Meet というチャットアプリを普段授業に使用していたのですが、まずこれでオンライン状態にして、質問があればその場で先生に質問が可能である状態にしておきながら、送られてきた問題に回答を打ち込んで送信する試験を行いました。

大きく分けてこの 3 種類の授業を私は受けていて、今、二つの授業はもう終わったところなんですが、個人的に、課題に関しては、私がこれまで受けていた課題の内容とはそんなに変わりがなかったりですとか、あまりオンラインでも問題がなかったような内容のものばかりだったので、デメリットは感じませんでした。ただ、期末試験に関して少し感じたのは、不正対策は甘いです。例えば、カンニング、替え玉をしようと思えばできてしまう状態ではないかなと感じたのと、二つ目の授業でしたら、時間内に回答を送るだけでしたので、監視体制が全くなかったことや、先ほどのチャットアプリでオンライン状態を維持するというやり方でも、カメラはオフにしていたので誰がいるかは確認しようがなかったという点に、少し問題があるのかもしれないと思いました。

また、通信環境で、どうしてもアップロードや問題のダウンロードが間に合わないこともあり、そういう場合は遅れて提出を許可するのかどうかということも考えなければいけないのではないかなと思いました。それが個人的な意見です。

以上です。ありがとうございます。

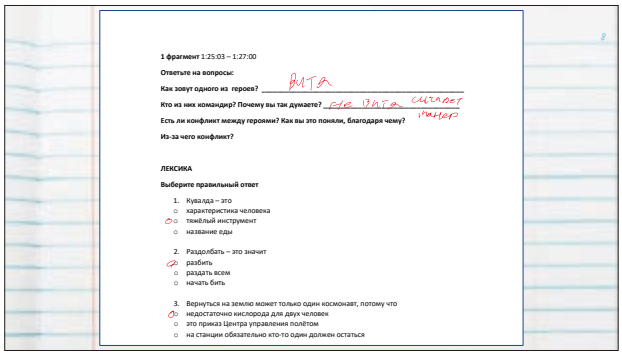
梶山　安井さん、ありがとうございました。ノヴォシビルスクというと中国から比較的近いので、中国人留学生がたくさんいると思うんですが、日本人で行く学生は珍しいので、ノヴォシビルスク大学のオンライン授業に関する大変貴重な報告だったと思います。ほかの報告者にもありましたが、やはり不正対策は課題があるんじゃないかなということでした。

では、ここまでの 5 名は学類生でしたが、最後の米山さんは大学院生で、現地のモスクワに残って、モスクワ市立教育大学のオンライン授業を受けています。米山さん、準備できていますでしょうか。

米山　はい。モスクワ市立教育大の授業と課題の方法というタイトルで、説明させていただきます。

まず基本情報を話して、その後、6 科目ある授業それぞれについてお話します。

留学先大学はモスクワ市立教育大で、使用ツールは Microsoft Teams だけでした。中国人が 13 人程いるクラスで、レベルは上級、教授方法が直接教授法で、ロシア語



でロシア語を教える方法でした。授業自体は、いい授業だったと思います。宿題はありましたが、試験はないクラスでした。

まず視聴覚講座についてですけれども、最初に文章を読んで、オーディオ教材を見て、その後、オーディオ教材に関する質問に答えるかたちで授業が進みました。宿題に関しては、教材の再聞き取りが時折出されていました。提出方法はメッセンジャーアプリ、WeChat ないし WhatsApp で教師に直接提出で、方法としては、ファイルを貼り付けて送るか、直接書き込む方法で提出していました。

まず Word ファイルを読んで、その後、YouTube などで動画をみんなで一緒に見ます。その後、それぞれに対する問題を解くというかたちでした。

次が文法になります。まず、口頭で文法問題を出されるので、それを解いて、その後は教科書もしくは宿題に基づいて授業が進められました。課題は一般的な教科書の中の文法問題を解くもので、これは毎回出されていました。提出方法は同じくメッセンジャーアプリで、これに関しては授業内で確

認、もしくは個別に返答が返ってきました。

WhatsApp による宿題提出の返答例なんですが、これはちょっと関係のない文章なんですけれども、＜ロシア語音声＞ Такафуми, добрый день, как ваши дела? Я по поводу домашнего задания по грамматике.* このように、ロシアではメッセンジャーアプリでボイスメッセージを送ることが一般的で、今、先生が話していたんですが、宿題についてのことでメッセージを送りましたというふうに言っていました。このように、送った宿題に対しては、口頭で返答が返ってくることが多かったと思います。

次が地域学で、これに関しては宿題の確認をまずして、その後、教科書に基づいて進められていきました。課題と宿題は、当日読んだ教材の問題を解く、その予習をする、もしくは文章の要約を作成するということで、これも毎回宿題が出されました。提出方法は、授業内で発表でした。

教科書は、『ロシアと中国の交差点』という名前で、中国クラスだったのでこういう教科書を使っていました。授業内の課題が、文章に適合する主題を考えるというもので、それぞれの段落ごとにどのようなテーマであったかを要約して書いていました。

次が文語の授業で、宿題の確認をし、教材に基づいて進行するという同じかたちでした。当日読んだ教材の問題が課題になり、毎回出ていました。ボリュームのある文章を読んで、それぞれ同じように要約して質問を考え、タイトルを考え、主題を考えます。文章読解力を鍛えるような課題でもありました。宿題は、その要約でもあれば、また別の文章を作ってきてくださいという宿題もありました。パワーポイントで宿題が提示されていたので分かりやすかったです。

文学の授業も、同じように宿題の確認に始まり、教科書に基づいての進行。こちらも、問題を解くか、要約の作成が課題でした。教科書は辞書が付いているんですが、中国語の辞書で、つまり中国語話者向けの教科書でした。

最後に会話学習です。宿題のテーマについてまずクラス

* 貴文、こんにちは。元気ですか？　文法の宿題のことで話があります

全体で議論をして、その後、教材に基づいて進行するというかたちでした。宿題は、当日のテーマに関連する議論の準備、次の授業でのテーマに関する議論の準備をするというかたちが多かったです。

まとめですが、基本的に、宿題と課題は授業内容に関するものが多かったです。また、授業内で確認することが多かったです。中国人クラスへの編入では不便が多いなと感じました。基本的にクラスの全員が WeChat でコミュニケーションを取っていて、先生もそれに合わせて WeChat でやりとりをしていたんですが、日本人の私だけは WhatsApp で個別に先生が対応してくれていました。英語ネイティヴのクラスへの編入では、こういうことはなかったかもしれないと思いました。

全体的なメリットとしては、事前学習が授業内で復習されるので、定着しやすいと思います。デメリットとしては、宿題をやっていないと授業の質が著しく低下する。宿題に依存した授業でもあるので、宿題をやっていないと授業に付いていけなくなります。また、授業で発表する宿題である場合、発表しなければ宿題が生かされないので、これに関しては、当てられた人は特に身に付くと思いました。以上です。

梶山　米山さん、ありがとうございました。こちらがテキストで送って、先生からボイスメッセージで返答があるという報告がありましたけど、これは結構ロシアあるあるというか、中央アジアでもそうなんですけれども、こちらがテキストで送っても返事がボイスメッセージで返ってくるというのは、私もよく経験があります。

それでは、学生の報告はこれで以上となりますが、後半は聴講者からの質問を受け付けたいと思います。何か会場のほうで、ご質問等ありますでしょうか。今日は先生方も多数参加されておりますが、どうでしょう。もし誰もいらっしゃらないようであれば、プロジェクト教員の先生方、どうでしょうか。

臼山　では、臼山が発言します。今日の、発表してくれた学生の皆さん、本当に具体的な内容で、授業を受けている様子が非常によく分かる発表でした。大変ありがとうございました。

それでは、私のほうから一つ質問です。オンライン授業で試験を受けるとか、課題を提出するとかいろいろあると思います。その中で気になったのが、ある程度の不正予防というのはできるかもしれませんが、やはりテストとなると、オンラインの場合、不正ですね、要するにカンニングだとか、替え玉だとか、あるいは検索し放題だとか、完全に防ぐことは不可能だと思うんですよね。学生たちがそういう方向に走らないためには、こういう工夫をしたらオンラインの授業であっても公正な試験ができるんじゃないか、あるいはある程度の正確さで習熟度を確認できるんじゃないかという点について、もしもアイデアがあったら教えてもらえないでしょうか。

では、学生たちがそういう方向に走らないためには、こういう工夫をしたらオンラインの授業であっても可能な限りちゃんとした試験ができるんじゃないか、あるいは習熟度を確認できるんじゃないのかということについて、もしアイデアがあったら教えてもらえないでしょうか。

梶山　それでは、学生の皆さん、どうでしょうか。

西　はい。回答させていただいてよろしいでしょうか。私が先ほど紹介させていただいた、アサインメントと期末試験の併用型があったんですけれども、試験という単発の課題、成績確認方法を採るのではなく、毎週の授業ごとに課題を出して、復習にもつながるようなエッセイだったり小テストを実施するのが、一番、学力の定着にもなりますし、不正もしづらいのかなと思いました。以上です。

梶山　はい、ありがとうございます。ほかの方はどうでしょうか。

西川　西川です。今回のスライドでは紹介していなかったんですが、ほかの授業で一つ、期末試験を予定していたのに全部レポートに切り替わったということがあり、それは確か 10 枚ほど書かないといけないものなんですが、このように、試験ではなく、期末試験大きなのを一つではなくて、小テストにしたりとかレポートにしたりすることで、かたちを変えることで少し不正を防げる場合もあるかなと思います。

梶山　ありがとうございます。それぞれ授業の形式は違いますが、ほかに学生でいますか。石川さん。

石川　本当に、物理的に不正を防ぐことであれば、言語の授業だけとかになるかもしれないんですが、ペーパーテストでは手元を写して、携帯を見ていないとか、そういうふうに見られるようにするですとか、あとは、Word に打ち込んだりして答える授業なら、その打ち込んでいる過程も 30 分の縛りがあるとか、画面を共有するとか、そういうふうにもできるのかなとは思いました。以上です。

梶山　はい、ありがとうございます。では、学生も以上でよろしいでしょうか。第 1 回の前回で、ロシアの大学はオンライン授業に早く移行して、大学によっては 3 日で移行したという例もありましたけれども、不正対策はまだまだこれからなのかなという印象の、今日の報告でした。

では、プロジェクト専従教員の山本先生、どうでしょう。

山本　本日も興味深い発表をありがとうございました。我々教員にとっても、学生の皆さんにとってもこの変化というのは非常に大きいもので、今までこういったかたちで課題を提出したり評価されたりということがなかったと思うんですが、こ

の新しいやり方に皆さんが非常によく対応していっていると感じました。

皆さんの発表を聞いて２点質問とコメントをさせていただきたいともいます。まず一つ目ですが、みなさんの受けているオンライン授業では、学習活動として主にテキストが存在する課題を出されて、それを各自で回答し、提出、または授業中内での解説という形が多かったと思うんですよね。一部、映画を見るというような学習活動もあったようですが。これは学習活動としてのバリエーションというのが、オンラインで行うと少なくなってくるのかなというような気がいたしました。これに関して、もしこういう学習活動があったらいいなというものがあれば、ぜひ教えてもらいたいというのが１点目です。

あともう１点は、今、臼山先生がおっしゃっていたことなので、軽くコメントだけさせていただきますが、もちろん教員の私たちのほうにも、不正行為の防止、正当な評価に関してはとても大きな課題をあると思っていますが、この点については学生の皆さんのほうでも非常に大きな懸念となっているということが、よく分かりました。先ほども言いましたような、日々の学習活動というところからいろいろ評価していくというのが大事なんだなということが、よく分かりました。私のほうからは以上です。

梶山　はい、ありがとうございます。課題等のバリエーションについてのご質問ですね。どうでしょうか、学生の皆さん。結構似通った課題が多かったという印象でしたけれども、ほかにどのような授業のやり方の可能性があるのか。

山本　特に不満がなかったということかもしれませんね。

梶山　はい。では、もしなければ、そういうことでよろしいですかね。

加藤先生はいかがでしょうか。

加藤　加藤です。本日も、２回目も大変興味深い、それぞれの大学で工夫がなされていることがよく分かって、それなりにオンライン授業からも皆さんが、遠隔でありながら、満足感と、ちゃんと評価を受けているという実感を得ていることが伝わって、非常に感心した次第です。

課題がたくさん出て、課題を提出するだけだと負担感だけになりそうですが、授業中すぐに評価の説明を行ったりとか、個別に添削が行われたり、授業の中で課題を発表して評価してもらったりとか、そのように何らかのかたちで、課題に対するフィードバックが返ってくるようになっていて、これは素晴らしいと。ただ、そういうふうにすると、教員側の負担が対面授業よりもはるかに大きくなるので、そのあたりをどのように負担分散したらいいのかというようなことを考えなければいけないと思うんですが、一つの、受益者というか、履修者の側からは、どういうものが手応えがあるかというお話を聞けて、とても参考になりました。ありがとうございました。

梶山　加藤先生、教員視点でどういった点が気になっているのかというコメント、ありがとうございました。

では、予定の 17 時をすでに過ぎておりますので、臼山先生に総括していただいてよろしいでしょうか。

臼山　分かりました。今日は学生さんから、いろんな形態の授業を受けていて、その中でどういうかたちで学生自身の学習度、理解度をきちんと評価してもらえるのかという点に焦点を当てて、報告していただきました。

課題の提出であったり、試験であったり、あるいは口頭の授業での確認であったり、いろんな成績評価の仕方を、実体験から具体的な例を提示して説明していただきました。非常に分かりやすい内容だったと思います。ありがとうございました。

その中で、いくつか気づいたことがあります。例えば、筑波大学でも、講義形式の授業なのか、あるいはゼミ形式の授業なのか、語学なのか、講義プラスゼミ形式なのかという、授業の形態に適した試験のやり方というのが、オンラインでも恐らくあるのだろうと感じています。例えば、人数が 10 人とか 15 人ぐらいの語学の授業であれば、口頭試験での評価方法と非常に相性がいいということがよく分かりましたし、また、練習問題を実際に授業の中で解かせる、そこで理解度を確認するというやり方、そういう口頭ベースの評価方法というのが有効だと思いました。それから、ゼミ形式に関しても、出した課題の内容について、さらにディスカッションさせるとか、少人数のゼミならではの評価方法があるということが分かりました。

それから、例えば、100 人を超えるような大人数の講義型の授業に関して言うと、これは先生の負担も大きく、一人一人に対して時間をかけてレスポンスをするということが非常に難しいので、毎回の授業の中で課題を出して評価するというのはかなり無理があります。実際、オンラインで、その筆記試験をするにしても、一人一人時間の指定をし、内容を個々に指定して実施しないと、公平性を担保する、不正を

完全に回避することができないということが、今日の発表を聞いてよく分かりました。また、これは教員の時間的な拘束などの負担がかなり大きいということも分かりました。講義形式のオンライン授業では筆記試験を行うことが事実上困難だということを率直に感じた次第です。ですから、レポート中心の成績評価にならざるを得ないのだろうと思います。

あともう一つは、ポーランドの西川君の話で、PDF の書き込みでレポートを返すのが難しいということですが、やはり学生たちの持っているパソコンなどの性能の問題とか、技術面での知識の問題とか、そういったものも平準化していないと、公平な成績評価もなかなかできないということです。成績に関して、機器の性能が悪い人、それから技術的な知識が少ない人が非常に不利益をこうむるわけです。本当は分かっているのに、本当は時間内に答えられるのに、正当な評価が与えられなくなってしまうという可能性があることを知りました。いずれにしても、今日は、授業のタイプによって成績の付け方といいますか、学習度の測り方という点で、工夫の仕方がいろいろあるということがよく分かりました。

西さんからは、試験を一発勝負でやらせると、不正のリスクが上がるので、課題を定期的に出してもらう方が良いという意見が出ました。学生たちにこまめに課題を出して、常に勉強させ課題をこなさせることで、習得度を測っていくということが、実は結果的に全体として学習の定着にもつながるし、正当な成績評価につながるんじゃないかという西さんの指摘は非常に的を射ているという気がします。

いずれにしても、今日発表してくれた西川君、石川さん、西さん、小山君、安井さん、そして米山君、前回以上にプレゼンの内容がパワーアップしていたいと思います。工夫を凝らしたわかりやすい発表をしてくれて、本当にありがとうございました。今日皆さんから教えていただいた内容を少し考えて、また改めて整理したいと思います。以上、総括になったかどうか分かりませんけれども、私のほうのコメントといたします。ありがとうございました。

あと、すみません、今日は確か人文・文化学群長の大倉浩先生がいらっしゃったと思いますが、もしもご感想などがありましたら、学生たちへの励ましの言葉でも結構ですが、一言いただければと思います。大倉先生、突然振ってしまってすみません。

大倉　大倉です。興味はあったんですが、前回、ちょっと別のことがあって出られず、すみませんでした。今回、こちらで、実際には現地に行けなくて、それでも一生懸命頑張っている皆さんの実態がよく分かりました。こういう状況でなかなかすぐに戻るということはできないかもしれませんが、今の体制の中でやれることを精一杯頑張ってください。時差とか色々なところで大変だと思いますが、できるだけわれわれとしても応援するつもりでおります。今日は本当にありがとうございました。以上です。

梶山　はい。大倉先生、学生への温かいメッセージをありがとうございました。

それでは、そろそろ第２回ラウンドテーブルを閉じたいと思います。次回は、オンライン授業を受けることの精神的・肉体的な負担というテーマで、来週の曜日が変わりまして木曜日、16 時からを予定しております。本日ご参加していただいた方には、またご案内を差し上げようと思いますので、ご興味がある方は是非ご参加ください。

皆さん、ありがとうございました。

臼山　ありがとうございました。

大倉　どうもありがとうございました。

西川　将太郎

（社会・国際学群国際総合学類）

ワルシャワ大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）

レポート・小テスト・宿題のやり方 - 方法と課題

国際総合学類　西川将太郎

ワルシャワ大学での例 1

- Polish language course

×宿題：毎週授業後Kampus (manabaに相当)でPDF配布、それに書き込み提出。

→PDFへの書き込み難儀。

△試験：Kampusにて一斉に開始。Zoomもつないで替え玉防止。

→ネットで検索はできる。

ワルシャワ大学での例２

- International Security and Armed Conflicts

〇宿題：毎週予習用の論文をPDFで受け取る。

〇試験：Kampusを使用、カメラ無し、時間きつめ、授業内容を知らなければ解けない試験（ネット検索できない）。

→実質不正不可能。

ワルシャワ大学での例３

- Football in Europe – political and social aspects

〇宿題：なし

×試験：Google Form。先生Google classroomで待機、質問あれば参加。

→替え玉し放題、ネットで調べ放題。生徒信頼型。

まとめ

- 宿題は書き込み型ならpdfやめてほしい。

- 試験
  言語の授業：口頭試験ならよい。筆記試験は不正可能。
  普通の授業：ネットでの検索が効かなければ、時間制限の元、筆記試験が成立する。

石川　織羽

（人文・文化学群人文学類）

モスクワ国立大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）

オンライン授業における課題のやり方

人文・文化学群人文学類4年次

モスクワ国立大学オンライン留学中　石川織羽

自己紹介

- 人文学類言語学主専攻4年次　石川織羽
- モスクワ国立大学に
  2019年9月～2020年6月交換留学
- 3月下旬に帰国し、つくばの自宅で
  3か月間オンライン授業受講

授業構成

- 毎週月曜日　　ディスカッション・プレゼン・ニュース読み等
- 毎週火～木曜日　　語彙・ロシア文化・文学等

- どちらもB2の学生向け（ТРКИ-2の準備）
- どちらも期末に試験等はなし

ТРКИ（ロシア語検定試験）について

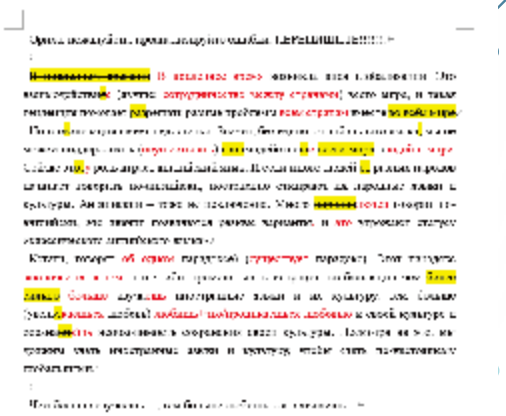
- ロシア連邦教育科学省が行うロシア語を母語としない学習者向けに行われるロシア語の検定試験

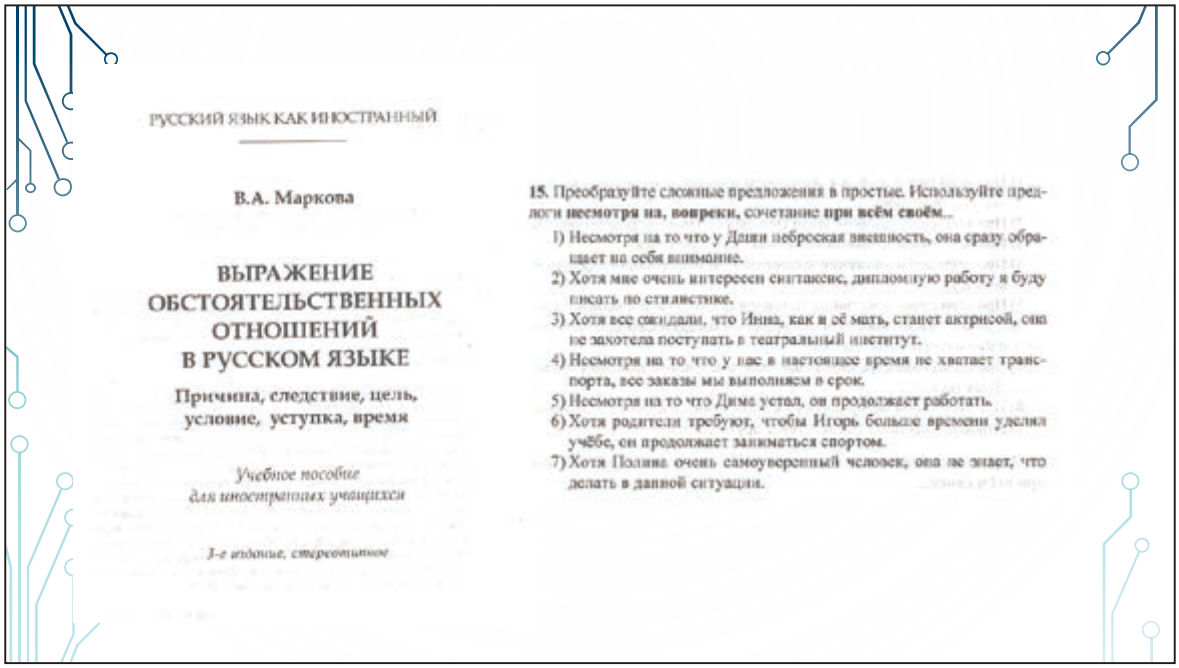
入門 → 基礎 → レベル1 → レベル2 → レベル3 → レベル4

A1 750語	A2 1,300語	B1 2,300語	B2 10,000語	C1 12,000語	C2 20,000語
限られたレベルの日常会話	ロシア市民権の獲得に最低限必要	ロシア大学入学に最低限必要	大学院（人文社会系以外）に必要	人文社会系大学院入学に必要	ネイティブと同等

課題のやり方

- 月曜日
- 授業で扱う文章を読み、要約
- イラストを見てその説明のストーリーを書く
  →メールやWhatsAppで文面を送り、
  添削はメールで
- プレゼンを作り、発表
  →その場で添削
- 軽い文法問題
  →授業中に口頭で答え合わせ




РУССКИЙ ЯЗЫК КАК ИНОСТРАННЫЙ

В.А. Маркова

ВЫРАЖЕНИЕ ОБСТОЯТЕЛЬСТВЕННЫХ ОТНОШЕНИЙ В РУССКОМ ЯЗЫКЕ

Причина, следствие, цель, условие, уступка, время

Учебное пособие для иностранных учащихся

3-е издание, стереотипное

15. Преобразуйте сложные предложения в простые. Используйте предлоги **несмотря на, вопреки,** сочетание **при всём своём**...

1) Несмотря на то что у Дины неброская внешность, она сразу обращает на себя внимание.
2) Хотя мне очень интересен синтаксис, дипломную работу я буду писать по стилистике.
3) Хотя все сказали, что Инна, как и её мать, станет актрисой, она не захотела поступать в театральный институт.
4) Несмотря на то что у нас в настоящее время не хватает транспорта, все заказы мы выполняем в срок.
5) Несмотря на то что Дима устал, он продолжает работать.
6) Хотя родители требуют, чтобы Игорь больше времени уделял учёбе, он продолжает заниматься спортом.
7) Хотя Полина очень самоуверенный человек, она не знает, что делать в данной ситуации.

課題のやり方

- 火～木曜日
- 語彙の練習問題
  →授業中に答え合わせ
- 授業中でやった事項について調べてくる
  （例：授業で読んだ小説に出てきた
  修道院について）
  →授業中に調べたことを言い合う
- 長文添削などがないので対面授業と
  ほとんど変わらない

西　美乃里

（社会・国際学群国際総合学類）

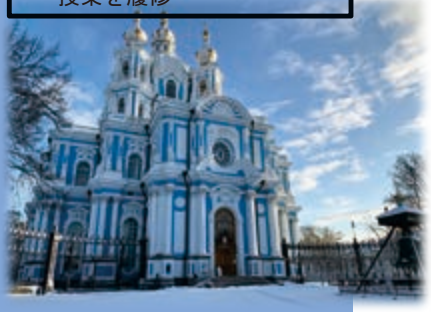
サンクトペテルブルク大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）

オンライン留学 ラウンド・テーブル②

サンクトペテルブルグ国立大学における評定に関して

筑波大学　国際総合学類
西　美乃里

- 国際総合学類4年次3年
- サンクトペテルブルク国立大学に2019年9月～6月まで交換留学
- 国際関係学部＋言語学部の授業を履修



Contents

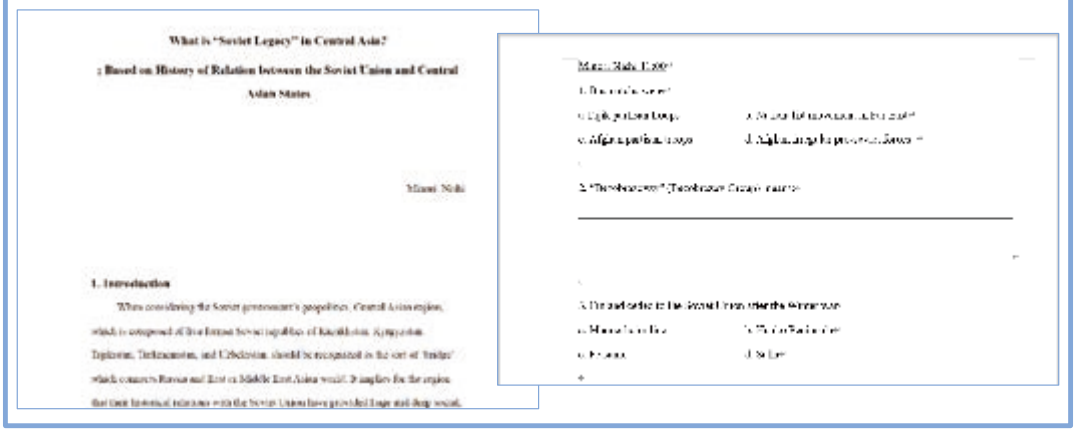
1　評定方法①：中間エッセイ＋期末テスト

2　評定方法②：アサインメント＋エッセイ

3　評定方法③：アサインメントのみ

2

評価方法①：中間エッセイ＋期末テスト


What is "Soviet Legacy" in Central Asia?
: Based on History of Relation between the Soviet Union and Central Asian States

1. Introduction

評定方法①：中間エッセイ＋期末テスト

メリット

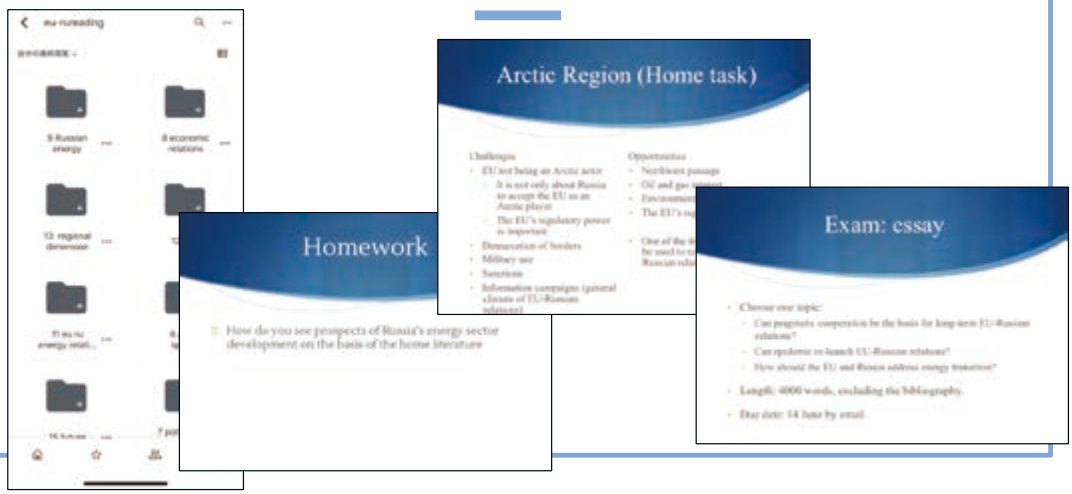
- 学びを確認できる
- 学びの応用につながる
- 時間制限があるため緊張感がある
  （不正は行いづらく、授業資料を手元に用意する持ち込み式）

デメリット

- 当日に教員側の拘束時間が長い
- 通信状態が突然悪くなった際に不利？

4

評定方法②：アサインメントとエッセイ



評定方法②：アサインメントとエッセイ

メリット

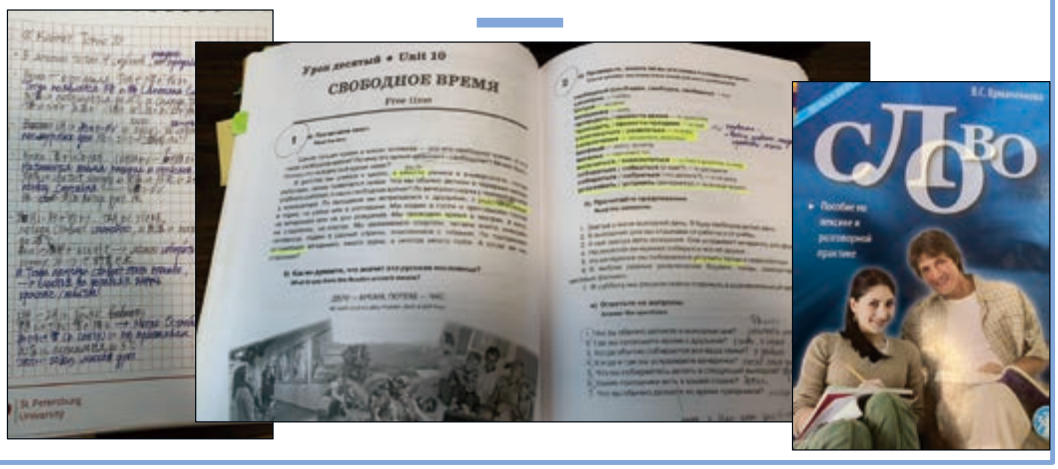
- 復習→学びが定着しやすい
- 自分の理解度が分かりやすい
- （アサインメント）参考文献が指定されていたため、今後の学習の目安にしやすい

デメリット

- 教員側の負担重

6

評定方法③：アサインメントのみ



評定方法③：アサインメントのみ

メリット

- 日々の復習意欲、授業への参加度が高まる
- 期末期間に試験が集中しがちであるため、負担が分散される

デメリット

- 毎回の評定基準が分かりにくい（絶対的な評定基準がない）

8

ありがとうございました！

小山　正伍

（人文・文化学群人文学類）

極東連邦大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）

2020年6月25日
オンライン留学に関するラウンドテーブル第２回

FEFUオンライン授業の宿題、課題について

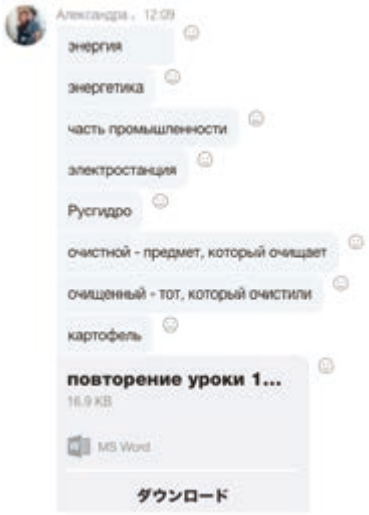
人文学類４年　小山正伍

目次

- ファイル共有方法と提出方法
- 宿題の形式①、②
- まとめ

ファイル共有方法

• 主にスカイプを利用
→文書ファイルは問題ないが、
ビデオのダウンロードは時間がかかる
（通話状態だと4MB/分くらい？）



提出方法

• 宿題を先生に直接提出することは稀。
• 授業中に答え合わせや解説を行う。
• 提出する場合はメールで送信。
→手書きしたものを写真に撮って提出していたが、最近はメール本文に直接打ち込んで提出している。
• 現地時間で21時を過ぎると怒られる

• 授業中の課題はスカイプのチャット欄に打ち込む。

宿題の形式①　教科書・文法書

• 事前に電子ファイルで共有された教科書の設問を解く。
• 内容は文法中心。

Всё большее влияние на развитие и образ жизни человечества оказывает концентрация людей в больших городах. Крупные города быстро растут, превращаясь в мегаполисы. По мнению учёных, к 2025 году в городах-гигантах будут жить каждые шесть из десяти горожан нашей планеты.

Термином *мегаполис* (от греч. *мегас* — большой и *полис* — город), первоначально в XVIII веке употреблявшимся для обозначения столиц, называют особо крупные (с числом жителей более 10 млн) города-гиганты, образующиеся в результате слияния многочисленных населённых пунктов. В последнее время многие из них приобретают черты «мировых» городов, становятся центрами управления мировой экономикой, финансовыми столицами мира. Основные мегаполисы мира — это Нью-Йорк, Токио, Лондон, Франкфурт, Шанхай, Париж, Дели, Москва, Сеул и другие.

Увеличение количества мегаполисов связано с научно-техническим прогрессом. Переход к новым высоким технологиям приводит к перемещению населения к промышленным предприятиям. Миграция из деревень в города, а из городов в мегаполисы характерна для богатых регионов планеты.

Вопросы к тексту.

1. Что значит «расти» мегаполисы?
2. Какие мегаполисы вы знаете?
3. Каковы причины роста числа мегаполисов в XXI веке?
4. Почему люди стремятся переехать жить в города-гиганты?
5. Какова жизнь в мегаполисе?
6. Где живёт большинство населения России: в больших городах или в сельской местности?
7. Какова миссия города в мегаполисе?
8. Какие, по мнению учёных, являются главные проблемы XXI века?

2. Выделите общую часть в словах.

городской	расчёска	экономика	производственный
городище	развязать	экономист	производительный
городовой	развитие	экономить	производить
многогородний	развлекать	экономный	производная
город	развязный	экономность	перепроизводство

3. Проанализируйте сложные слова из текста. Скажите, от каких слов они образованы.

Пери-ны (что?), много-численные (ну-ка), экономгород- (экономить), международные (экспорт-ы), многоэтажных, многоэтажек и вниз (прибыл.)

Запомните!

ИДТИ — НЕСТИ (кого? что?) (к чём?)
ЕХАТЬ — ВЕЗТИ (кого? что?) (к чём?) (на чём?)
ИДТИ — ВЕЗТИ (кого? что?)

Задание 14. Вставьте необходимые формы глаголов.

А. (идти, везти, нести)

1. Она ... книги в сумке. 2. Мы ... вещи в машине. 3. Мария ... в школу Лизу. 4. Автобус ... людей на работу. 5. Мама ... сына за руку. 6. Я еду в гости к Свете и ... ей цветы. 7. Лена идет из магазина и ... продукты. 8. Папа ... сына в детский сад. 9. Иван был в гостях у Сабины, сейчас мама ... его домой. 10. Что ... в сумке? 11. Сестра ... Иру в парк.

Б. (ехать, возить, водить)

1. Под часто ... экскурсии по Пятому озеру. 2. Они каждое лето ... в море. 3. Я всегда ... сестёр сама первая. 4. По электрическим телам ... ток из вагонами. 5. Учитель ... своих учеников в музей. 6. Зачем ты ... с собой паспорт, ты его не потеряешь? 7. Машина ... из Петербурга в Москву мягкие книги. 8. Маленькие дорожки ... обязательно. 9. Ты любишь ... машину?

Задание 15. На основе фраз с неправильными глаголами постройте фразы с глаголами *нести — носить, везти — возить, вести — водить.*

1. Девочка идёт в школу с цветами. 2. Отец идёт и держит сына за руку. 3. Мальчик идёт, держит за руку маленького брата. 4. Машина сейчас стоит на улице. 5. Девочка каждый день ходит в школу с цветами. 6. Три раза в день Петя ходит на улицу с собакой. 7. Каждое воскресенье ребята ходят с бабушкой в планетарий. 8. Зимой зверь в гости с горами. 9. Корабль с пассажирами плывёт в Неаполь. 10. Самолёт каждый день летает с грузами в Москву. 11. Брат много пер- одежды на этой машине (как водитель).

Словарик к заданию: носить — ежедневно; везти — ходить за руку, под руку; возить — ездить в машине).

形式②　映画鑑賞

- Служебный роман (https://www.youtube.com/watch?v=hR-1QGMK75c)など
- Youtubeで事前に動画を見て、配布されたプリントの課題をとく。

- 最近は授業中にビデオファイルを共有してそれを授業中に観るという形も。事前にA4用紙１枚くらいの予習課題がある。

Урок 1. Посмотрите начало фильма и выполните задания.

1. **В какой последовательности прозвучали фразы? (00:00 – 12:00)**
   Оля – мой самый верный друг.
   И зачем вы Машу заперли в шкаф?
   Но всё равно я люблю этот город. Это мой город.
   Больше всего я люблю в ней то, что она оптимистка.
   Она знает дело, которым руководит. Такое тоже бывает.
   Мы называем её «наша мымра». Конечно, за глаза.
   А это Шура. Симпатичная, но, к сожалению, активная.
   Я живу только на зарплату, то есть от получки до получки.
   А это Юрий Григорьевич Самохвалов. Очень хороший человек, я его давно знаю.
   Это уже обычай, традиция, я бы сказал, ритуал.
   Она любопытна, как все женщины, и женственна, как все секретарши.
   Я бы тебя назначила. А что? Ты прекрасный работник, у тебя большой опыт.
2. **Выберите правильный вариант ответа (00:00 – 16:30).**
   1. Директор Людмила Прокофьевна Калугина А) замужем Б) не замужем В) разведена.
   2. Подчинённые А) любят и уважают её Б) побаиваются и недолюбливают её В) плохо её знают.
   3. Главного героя зовут А) Анатолий Б) Алексей В) Андрей Ефремович Новосельцев.

まとめ

- ファイルの共有は簡単なので、課題に取り組みやすい。ただし、教材は事前に共有しておく必要がある。
- 一方、提出や復習は難しい場合がある。

→PC上ではキリル文字を打ち込みづらいので、どうしても手書きになってしまう。また答えがメールで返ってくると、手書きのメモと画面を見比べなければならないので見づらい。

- 教材へのメモは難しい。

安井　梨乃

（社会・国際学群国際総合学類）

ノヴォシビルスク国立大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）

第二回　６月２６日

オンライン留学に対する ラウンドテーブル

安井 梨乃

所属　　：国際総合学類三年次

留学先　：ロシア・ノヴォシビルスク（ノヴォシビルスク国立大学）

留学期間：２０２０年２月９日～２０２１年１月３１日（予定）

滞在期間：２０２０年２月９日～３月２３日

３月１７日に隣町で感染者が報告され、ノヴォ大もオンライン授業に移行

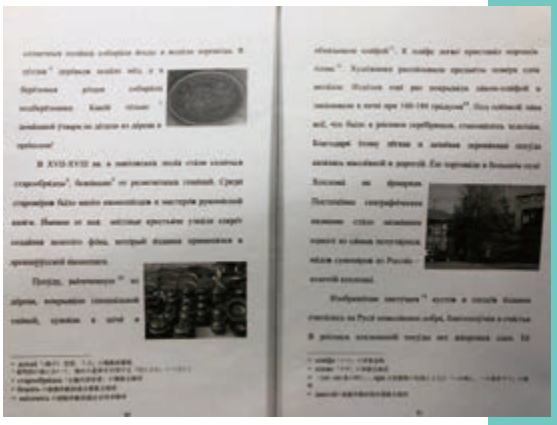
その直後に帰国検討のメールを受け帰国
現在は大阪にある実家でオンライン留学中

交換留学生（日本人学生）向け

オンライン移行前
- 授業で使っているプリントの長文の予習、練習問題、テーマに沿った作文など
- 授業内で適宜提出

オンライン移行後
- 課題内容は変わらず、最後の授業で配られたプリントを使用
- ビデオ通話による授業内で確認
- 作文は自分で読む

期末試験はなし



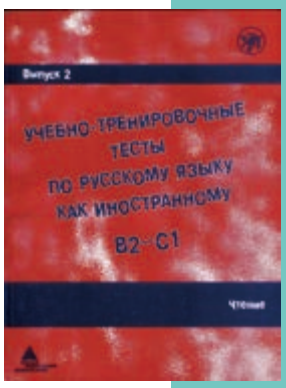
中国人学生たちとの授業１（リーディング）

オンライン移行前
・共通の教科書（ДОРОГО В РОССИЮ:図書館から貸し出し）から
次回の予習や練習問題

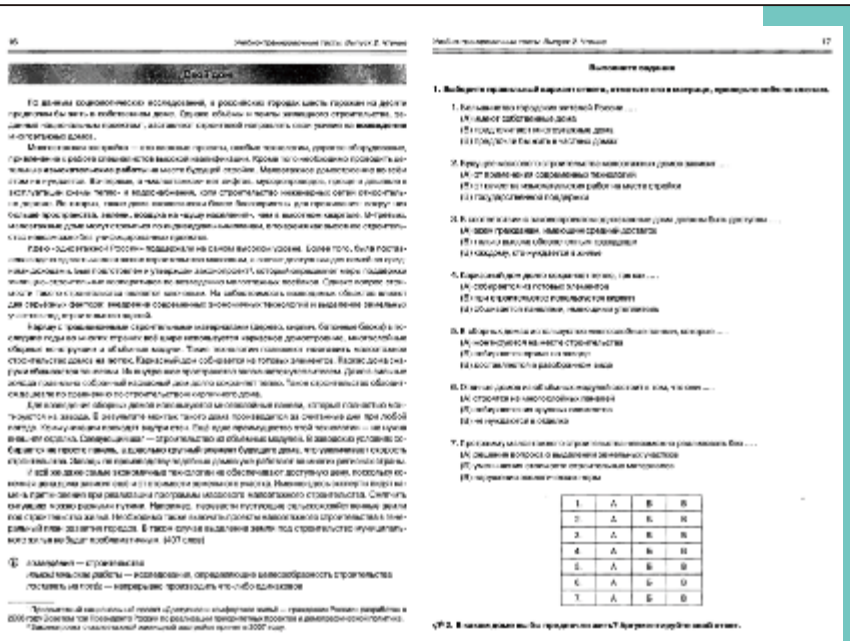
オンライン移行後
・ＴＲＫИ（ロシア語検定試験）のテキストをpdf化したものを
配布、指示のあった大問を解く
・提出はGoogle classroomでしていたようだが、私は入れなかったため
Googleフォームのリンクを送ってもらっていた
・フィードバックはGoogle classroomを通じて行われ、
私は

期末試験は時間内にワード形式の問題に打ち込む形で回答し返信

オンライン移行後にメール
で配布された教科書→



このような長文を
二問ほど



中国人学生たちとの授業２（文化と言語）

オンライン移行前
・課題は特になし
・二週間ごとに筆記式の小テスト（習った内容に関する質問に３～５行の
ロシア語で回答）

オンライン移行後
・課題は特になし
・Google classroomで小テストを実施（時間内に回答を打ち込んで送信）
・Ｄｏｋｌａｄをオンラインで実施
・期末試験はGoogleフォーム

期末試験はグーグルフォームで行った。
Meetというチャットアプリでオンライン状態にしておき、質問があればその場で
先生に質問可能。
時間内に回答を打ち込んで送信。

課題

・不正対策が甘かった
→カンニング・替え玉をしようと思えばできてしまう
→時間内に回答を送るだけなので監視体制がない
→チャットアプリでオンライン状態にしていてもカメラオフ

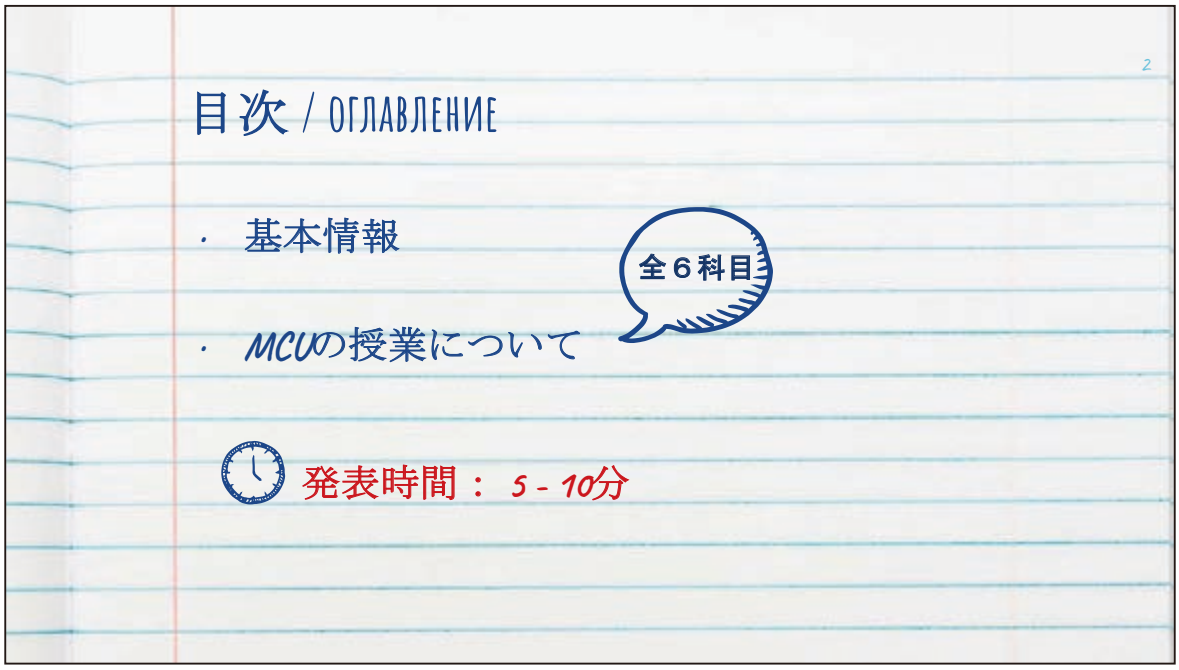
・通信環境でアップロードが間に合わないことがある
→遅れて提出を許可するかどうか

.

米山　貴文

(文芸・言語専攻博士課程)

モスクワ市立教育大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）



3

基本情報 / ОСНОВНАЯ ИНФОРМАЦИЯ

留学先大学：モスクワ市立教育大学（MOSCOW CITY UNIVERSITY）

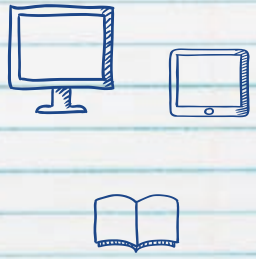
- 使用ツール：Microsoft Teams
- クラス
  - 人数と国籍：13人程度（中国-8、台湾-4、日本-1）
  - レベル：上級
  - 方法：直接教授法（ロシア語でロシア語を教える）
  - 所感：しっかりした授業
- 宿題：あり
- 試験：なし

4

MCUの授業について

６科目

- 視聴覚講座（аудиовизуальный курс）
- 文法（грамматика）
- 地域学（страноведение）
- 文語（письменная речь）
- 文学（литература）
- 会話実習（практика речи）



You don't need to keep this slide in your presentation. It's only here to serve you as a design guide if you need to create new slides or download the fonts to edit the presentation in PowerPoint®

5

視聴覚講座（АУДИОВИЗУАЛЬНЫЙ КУРС）

進め方

1. 文書教材の読解（オーディオの内容）
2. オーディオ教材の聞き取り
3. 文書教材をベースに質問（オーディオの内容）

教材

教師自作教材

課題・宿題

課題：教材の再聞き取り（復習）

頻度：時折

提出方法：メッセンジャーアプリ（wechat, whatsapp）

評価：個別に回答、評価

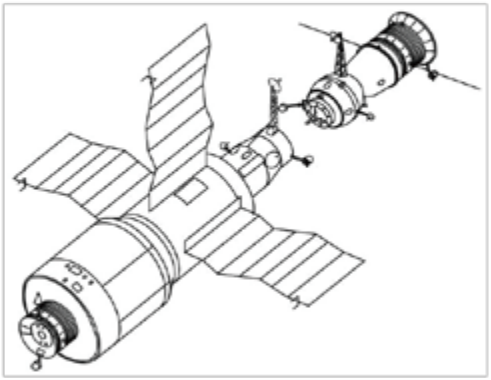
主観的評価

1　2　3　4　5

6

САЛЮТ-7 2017 реж. Клим Шипенко

Космическая станция «Салют - 7» и космический корабль.



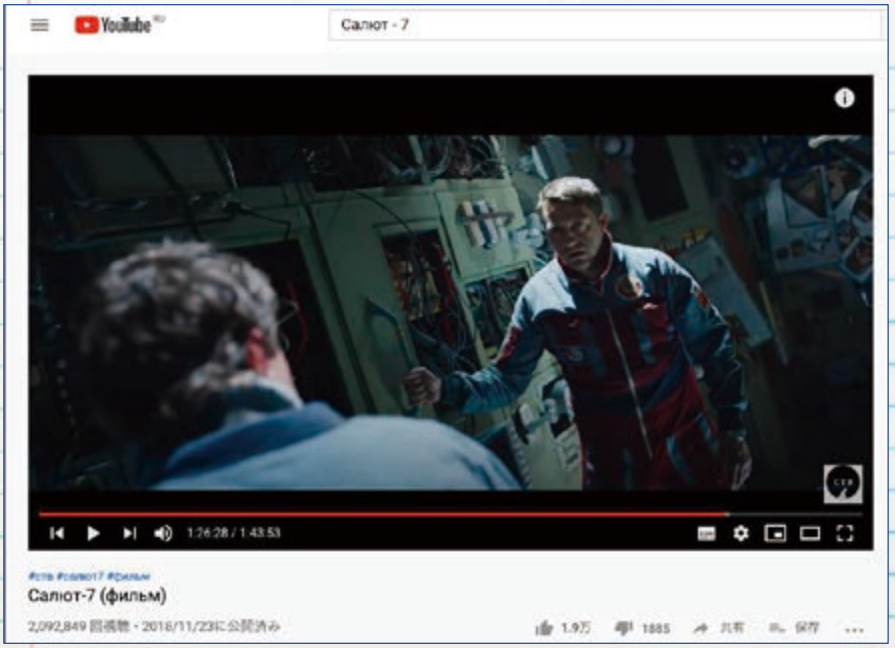
космическая станция

космический корабль

пристыкОвываться/пристыковАться к чему = соединяться с чем

пристыковываться #

7



8

1 фрагмент 1:25:03 – 1:27:00

Ответьте на вопросы:

Как зовут одного из героев? Витя

Кто из них командир? Почему вы так думаете? не Витя слушает маме

Есть ли конфликт между героями? Как вы это поняли, благодаря чему?

Из-за чего конфликт?

ЛЕКСИКА

Выберите правильный ответ

1. Кувалда – это
   - характеристика человека
   - тяжёлый инструмент
   - название еды

2. Раздолбать – это значит
   - разбить
   - раздать всем
   - начать бить

3. Вернуться на землю может только один космонавт, потому что
   - недостаточно кислорода для двух человек
   - это приказ Центра управления полётом
   - на станции обязательно кто-то один должен остаться

文法（грамматика）

9

進め方

1. 口頭による文法問題
2. 宿題、教科書に基づいて進行

教材

市販の教科書
教師自作教材

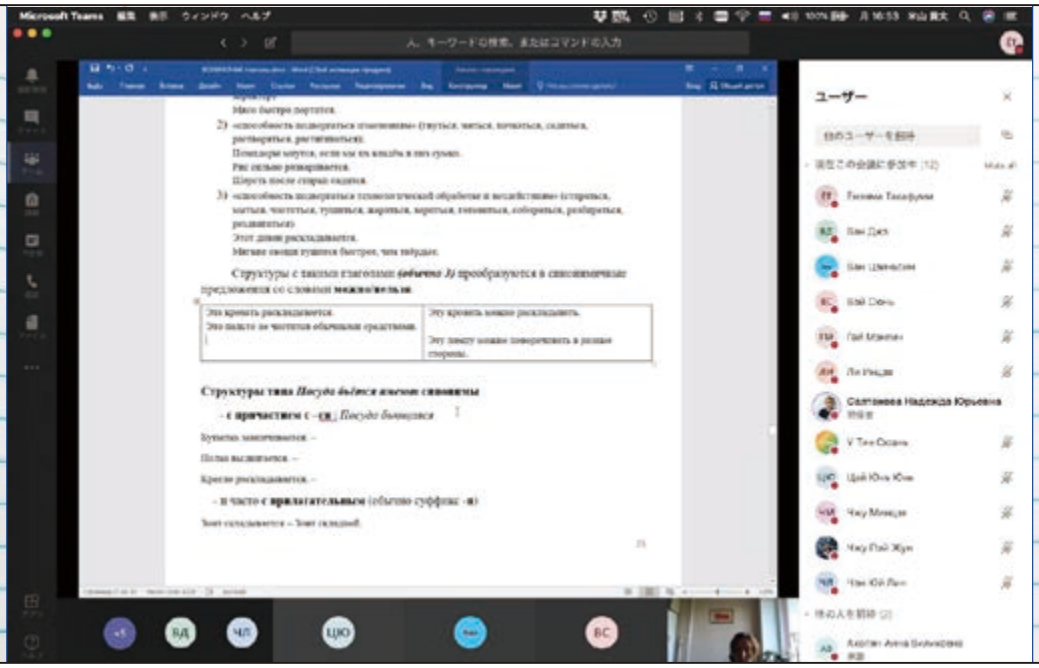
課題・宿題

課題：文法問題
頻度： 毎回
提出方法：メッセンジャーアプリ（wechat, whatsapp）
評価：授業内で確認、個別に回答、評価

主観的評価

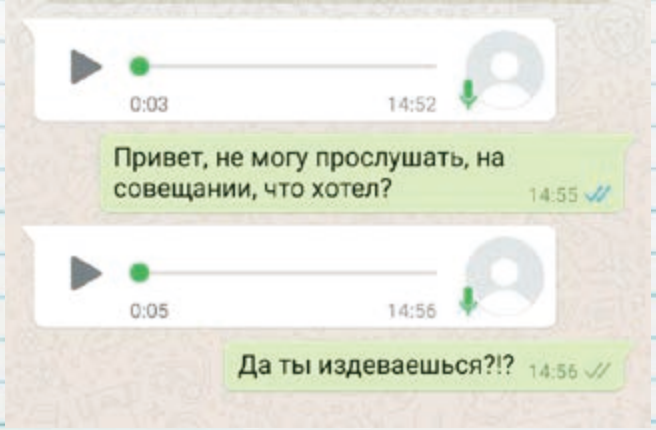
1	2	3	4	5

10



11

Whatsappによる宿題提出の返答例



地域学 (СТРАНОВЕДЕНИЕ)

12

進め方

1. 宿題の確認
2. 教科書に基づいて進行

教材

市販の教科書

課題・宿題

課題：当日読んだ教材の問題、予習、要約の作成

頻度：毎回

提出方法：授業内で発表

評価：授業内で確認

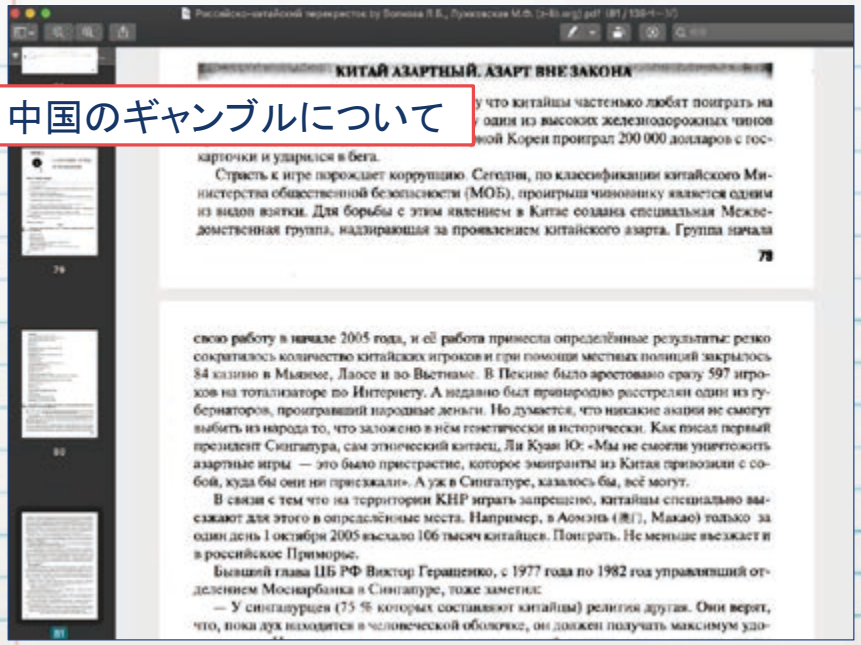
主観的評価

1　2　3　4　5

13

教科書：ロシアと中国の交差点

14


КИТАЙ АЗАРТНЫЙ. АЗАРТ ВНЕ ЗАКОНА

...у что китайцы частенько любят поиграть на ... один из высоких железнодорожных чинов ...ной Кореи проиграл 200 000 долларов с гос- карточки и ударился в бега.

Страсть к игре порождает коррупцию. Сегодня, по классификации китайского Министерства общественной безопасности (МОБ), проигрыш чиновнику является одним из видов взятки. Для борьбы с этим явлением в Китае создана специальная Межведомственная группа, надзирающая за проявлением китайского азарта. Группа начала

78

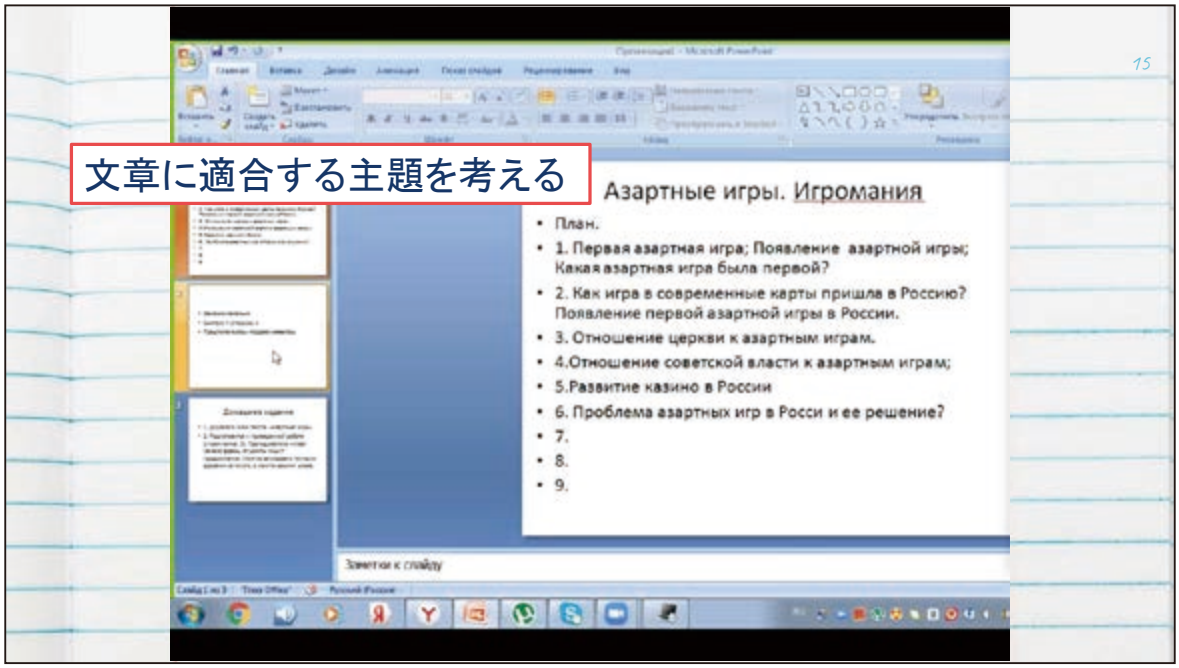
свою работу в начале 2005 года, и её работа принесла определённые результаты: резко сократилось количество китайских игроков и при помощи местных полицией закрылось 84 казино в Мьянме, Лаосе и во Вьетнаме. В Пекине было арестовано сразу 597 игроков на тотализаторе по Интернету. А недавно был принародно расстрелян один из губернаторов, проигравший народные деньги. Но думается, что никакие акции не смогут выбить из народа то, что заложено в нём генетически и исторически. Как писал первый президент Сингапура, сам этнический китаец, Ли Куан Ю: «Мы не смогли уничтожить азартные игры — это было пристрастие, которое эмигранты из Китая привозили с собой, куда бы они ни приезжали». А уж в Сингапуре, казалось бы, всё могут.

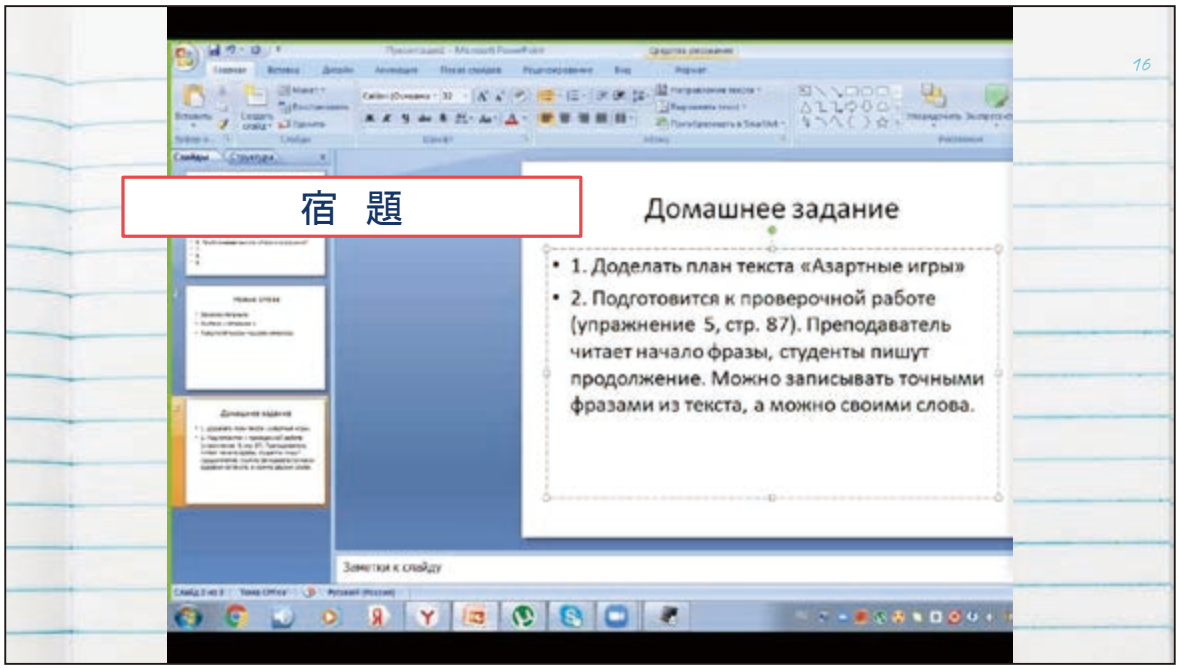
В связи с тем что на территории КНР играть запрещено, китайцы специально выезжают для этого в определённые места. Например, в Аомэнь (澳门), Макао) только за один день 1 октября 2005 выехало 106 тысяч китайцев. Поиграть. Не меньше выезжает и в российское Приморье.

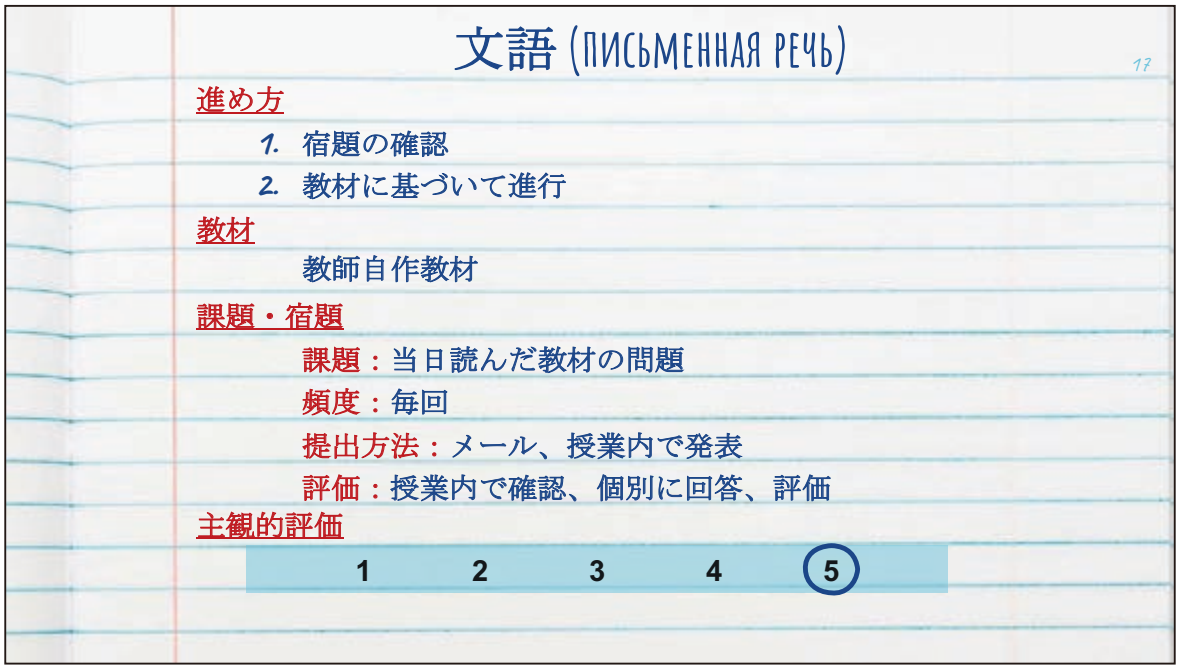
Бывший глава ЦБ РФ Виктор Геращенко, с 1977 года по 1982 года управляющий отделением Москомбанка в Сингапуре, тоже заметил:

— У сингапурцев (75 % которых составляют китайцы) религия другая. Они верят, что, пока дух находится в человеческой оболочке, он должен получать максимум удо-

文章：中国のギャンブルについて


15
文章に適合する主題を考える
Азартные игры. Игромания
• План.
• 1. Первая азартная игра; Появление азартной игры; Какая азартная игра была первой?
• 2. Как игра в современные карты пришла в Россию? Появление первой азартной игры в России.
• 3. Отношение церкви к азартным играм.
• 4.Отношение советской власти к азартным играм;
• 5.Развитие казино в России
• 6. Проблема азартных игр в Росси и ее решение?
• 7.
• 8.
• 9.


16
宿　題
Домашнее задание
• 1. Доделать план текста «Азартные игры»
• 2. Подготовится к проверочной работе (упражнение 5, стр. 87). Преподаватель читает начало фразы, студенты пишут продолжение. Можно записывать точными фразами из текста, а можно своими слова.


文語 (ПИСЬМЕННАЯ РЕЧЬ)
17
進め方
1. 宿題の確認
2. 教材に基づいて進行
教材
教師自作教材
課題・宿題
課題：当日読んだ教材の問題
頻度：毎回
提出方法：メール、授業内で発表
評価：授業内で確認、個別に回答、評価
主観的評価
1 2 3 4 5

Ломоносов и мировая наука
(часть 1)

В жизни Ломоносова было одно противоречие, которое актуально для нас и сейчас.

Не раз Ломоносов говорил, что его деятельность как поэта и писателя, реформатора русского языка, историка, геолога, администратора мало его удовлетворяет и основное свое призвание он видит в научной работе, в физике и химии. Он занимал место адъюнкта по физике, а потом был назначен профессором химии. Естественно предположить, что при этих условиях гений Ломоносова должен был оставить крупнейший след как в отечественной, так и в мировой науке. Но мы знаем, что этого не произошло.

Не только на Западе почти не знали научных работ Ломоносова как физика и химика, но и у нас они оставались неизвестными или забытыми до самого недавнего времени. Характерно, что никто из современников не мог описать, что же сделал в науке Ломоносов, за что его надо считать великим ученым.

Только благодаря публикациям работ ученого в начале нашего века мы узнали, над чем и как работал Ломоносов. Теперь, зная, по какому пути развивалась наука после Ломоносова, мы можем безошибочно сказать, что для своего времени его научная работа, несомненно, должна была оставить глубокий след в развитии мировой науки.

Как же могло случиться, что вся эта научная деятельность Ломоносова прошла так бесследно не только за границей, но и у нас? Конечно, такая изоляция научной деятельности Ломоносова от мировой науки не могла произойти случайно, она имела свои исторические причины.

(По П.Л. Капице)

ЗАДАНИЕ. СОСТАВИТЬ ВОПРОСНЫЙ ПЛАН ТЕКСТА О ЛОМОНОСОВЕ (15 МИНУТ ДО 10.15)

- Вопросный план:

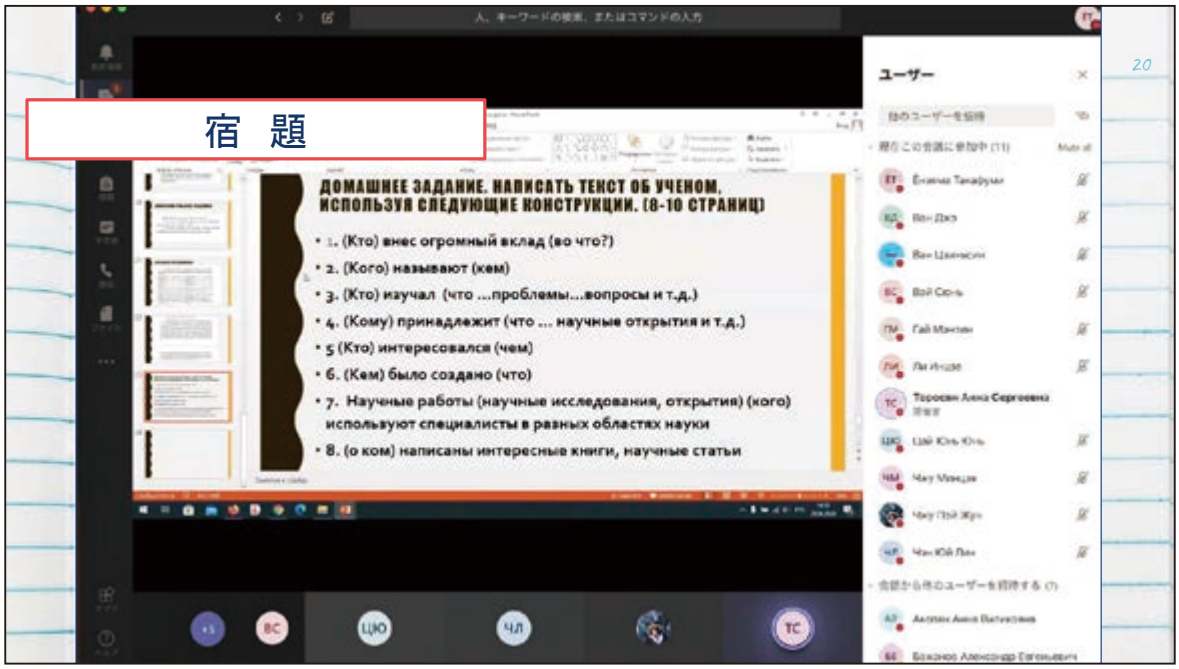
文章に適合する質問を考える

- Назывной (номинативный) план:

文章に適合するタイトルを考える

- Тезисный план:

文章に適合する主題を考える



文学（ЛИТЕРАТУРА）

21

進め方

1. 宿題の確認
2. 教材に基づいて進行

教材

市販の教科書

課題・宿題

課題：当日読んだ教材の問題、要約の作成
頻度：毎回
提出方法：授業内で発表
評価：授業内で確認、個別に回答、評価

主観的評価

1　2　3　4　(5)

ФЁДОР МИХАЙЛОВИЧ ДОСТОЕВСКИЙ (1821–1881)

内容：ドストエフスキーについて

Задание 1. *Прочитайте, запишите, выучите новые слова и словосочетания.*

Частный пансион 私人的寄宿中学
военно-инженерный (-ая; -ое; -ые) 军事工 程的
училище 学校
служба 兵役，军役
инженерный корпус 工程团体
отставка 退伍
передовой (-ая; -ое; -ые) 先进的
суть дела 事情的本质
собрание кружка 小组集会
арестован (-а; -о; -ы) 被拘捕
смертная казнь 死刑
заменён (-а; -о; -ы) 代替

中国語辞書付きの教科書

зачислен солдатом 参军
батальон 营
разрешение 允许/解决
срок наказания 处罚的期限
оскорблённый (-ая; -ое; -ые) 被侮辱的
преступление 罪行

клевета 诬蔑/诽谤
поколение 代/辈
восторг 兴高采烈
страдающий (-ая; -ее; -ие) 受苦的
революционный (-ая; -ое; -ые) 革命的
насилие 暴力
метод борьбы 斗争的方法
нравственное улучшение 精神上的好转
дух христианства 基督教的精神世界
свобода 自由
…现象的世界
положительный (-ая; -ое; -ые) 正面的
итог 总结
вражда 仇恨/仇视
соперничество 竞争/比赛
поиски истины 真理的探索
вершина славы 荣誉的顶峰

наизусть А.С. Пушкина. После окончания частного пансиона вместе со старшим братом учился в военно-инженерном училище. …ив училище, поступил на службу в инженерный …ышел в отставку и занялся литературным трудом. …писал повесть «Бедные люди» и сразу вошёл в …вых писателей. В.Г. Белинский после прочтения его повести говорил: «Вы до самой сути дела дотронулись, самое главное указали».

С весны 1847 года Ф.М. Достоевский стал ходить на собрания кружка М.В. Петрашевского и через два года вместе с другими петрашевцами был арестован. Ему грозила смертная казнь. Но в самую последнюю минуту её заменили каторгой. Она наложила тяжёлый отпечаток на духовную жизнь писателя. Позднее в «Записках из Мёртвого дома» Ф.М. Достоевский показал жизнь каторжан. Написал о том, о чём в литературе до него не писали.

В 1854 году он был зачислен солдатом в Сибирский седьмой батальон. Получил разрешение читать и писать. В 1859 году кончился срок наказания. Но в Петербург Ф.М. Достоевскому разрешили вернуться через год. Начался новый период в его творчестве. Вместе с братом он издаёт журналы, пишет романы «Униженные и оскорблённые», «Преступление и наказание», «Бесы» и другие. После выхода романов одни обвиняли автора в клевете на молодое поколение, у других они вызывали восторг. Но в любом случае романы имели успех.

Ф.М. Достоевский горячо сочувствует всем страдающим, всем униженным и оскорблённым, но не верит в революционное изменение общества, отрицает насилие как метод борьбы. Автор надеется на нравственное улучшение людей в духе христианства. Он пишет о добре и зле, свободе и необходимости, бунте и смирении. Ф.М. Достоевский становится крупнейшим писателем не только России, но и Европы.

Писатель ищет выхода из царства зла в светлый мир добра и

会話実習（ПРАКТИКА РЕЧИ）

23

進め方

1. 宿題のテーマについて議論
2. 教材に基づいて進行

教材

市販の教科書

課題・宿題

課題：当日のテーマに関連する議論の準備、文章作成
頻度：頻繁
提出方法：授業内で発表
評価：授業内で確認

主観的評価

1　2　(3)　4　5

24

ТЕКСТ 12 • TEXT 12

1 **Прочитайте текст и найдите ответы на следующие вопросы.**
Read the text and find answers to the following questions.

1. С какой проблемой обращаются к психологам петербуржцы?
2. Какое биологическое воздействие оказывают на людей покупки?
3. Кто чаще других страдает от шопоголизма?
4. Какую роль играет самооценка человека в возникновении зависимости от покупок?
5. Почему человеку трудно самостоятельно преодолеть такую зависимость?
6. Как психологи используют групповые занятия для лечения шопоголизма?
7. От чего зависит успех таких занятий?
8. Сколько времени занимает процесс избавления от этой зависимости?

ТРАНЖИ́РЫ ПОНЕВО́ЛЕ[1]

В последнее время всё больше петербуржцев стали **обращаться за помощью**[2] *к психологам с такой проблемой, как* **зависимость**[3] *от магазинов и покупок. Почему серьёзные люди тратят деньги не потому, что они им нужны? О причинах такой зависимости рассказывает психолог центра психологического консультирования «Ориён-С» Юлия Смирнова.*

Когда мы **приобретаем**[4] какую-нибудь приятную вещь, в **кровь**[5] **увеличивается**[6] уровень серотонина — гормона хорошего **настроения**[7]. Поэтому покупки **оказывают** на людей, зависимых от магазинов, почти **такое же действие**[8], как наркотики на наркоманов.

Имеют эту зависимость в основном женщины старше 25 лет с определённым уровнем **достатка**[9] и целым «букетом» нерешённых проблем, например, женщины, не **реализовавшие себя**[10] в профессии, **творчестве**[11], семейной жизни. Мужчины пока менее зависимы от цивилизации, хотя бывают и **исключения**[12].

Человек может стать зависимым от магазинов не только при **занижённой самооценке**[13], но и при завышенной. Если у **неуверенных**[14] женщин срабатывает «синдром Золушки»[15]: оделась красиво — принц заметил, то при завышенной самооценке часы или **шуба**[16] из последней коллекции **подтверждают**[17] **самоощущение**[18] уникальности.

Зависимость от покупок — проблема серьёзная и **в одиночку**[19] с ней трудно **справиться**[20]. Даже если шопоголик и запретит себе ходить по магазинам, организм **отреагирует**[21] болезненно: **упадком сил**[22], депрес-

[1] compulsive spender
[2] seek help
[3] addiction
[4] purchase
[5] blood
[6] increase
[7] mood
[8] have the same effect
[9] income
[10] fulfil oneself
[11] creative work
[12] exception
[13] low self-esteem
[14] insecure
[15] Cinderella
[16] fur coat
[17] maintain
[18] self-perception
[19] on your own
[20] overcome
[21] react
[22] debility

25

まとめ

- 基本的に宿題、課題は授業内容に関する内容である。
- 宿題、課題は授業内で確認することが多い。
- （中華系）既存クラスへの編入では不便が多い。

メリット

事前学習が授業内で使用されるので定着しやすい。

デメリット

宿題をやっていないと授業の質が著しく低下する。

授業内で発表する宿題の場合、発表しないと宿題があまり活かされない。

26

Any questions?

NipCA 主催 筑波大学
「第 3 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル」

第 3 回オンライン留学に関するラウンドテーブル出席者　合計 24 名

発表者：6 名

ワルシャワ大学 社会・国際学群　国際総合学類	西　川　将太郎
モスクワ国立大学 人文・文化学群　人文学類	石　川　織　羽
サンクト・ペテルブルグ国立大学 社会・国際学群　国際総合学類	西　　美乃里
極東連邦大学 人文・文化学群　人文学類	小　山　正　伍
ノヴォシビルスク国立大学 社会・国際学群　国際総合学類	安　井　梨　乃
モスクワ市立教育大学 文芸・言語専攻　博士課程	米　山　貴　文

司会者：1 名

NipCA プロジェクト コーディネーター	梶　山　祐　治

討論者：3 名

人文社会系　教授	加　藤　百　合
人文社会系　准教授	山　本　祐規子
人文社会系　非常勤研究員	笹　山　　啓

総括：1 名

人文社会系　教授	臼　山　利　信

学外聴講者：1 名

日本財団	森　祐次　常務理事

ほか学内聴講者：12 名

NipCA プロジェクト主催

筑波大学

オンライン留学に関するラウンドテーブル

on-line 座談会

～コロナ禍の困難から見出す新しい教育の可能性～

2020年７月２日（木）16:45～17:45

第一回　オンライン授業形態別（Teams や Skype など）の
　　改善・解決策（6月19日）
第二回　レポート・小テスト・宿題のやり方
　　- 方法と課題（６月２６日）

第三回テーマ
オンライン授業を受けることの精神的・肉体的・物理的な負担
- 何が起きたか・どう解決したか

第四回　教員から見たオンライン教育
第五回　コロナ収束後のオンライン授業について
　　- オンライン授業の可能性

■ 発表者：ロシア・ポーランドの大学に留学中およびオンライン留学中の筑波大学 学類生・院生

西川 将太郎（社会・国際学群 国際総合学類）：ワルシャワ大学（2019年９月 -2020年６月）
石川　織羽　（人文・文化学群 人文学類）　：モスクワ国立大学（2019年９月 -2020年６月）
西　美乃里　（社会・国際学群 国際総合学類）：サンクト・ペテルブルグ国立大学（2019年９月 -2020年６月）
小山　正伍　（人文・文化学群 人文学類）　：極東連邦大学（2020年２月 -2021年１月）
安井　梨乃　（社会・国際学群 国際総合学類）：ノヴォシビルスク国立大学（2020年２月 -2021年１月）
米山　貴文　（文芸・言語専攻 博士課程）　：モスクワ市立教育大学（2020年２月 -2021年１月）

■ 総括・討論者：人文社会系 教授 臼山利信，人文社会系 教授 加藤百合，
　　人文社会系 准教授 山本祐規子，国際室 助教 笹山啓

■ 司　会：NipCA プロジェクト コーディネーター 梶山祐治

聴講参加希望の問合せ：NipCA プロジェクト担当事務室（当日 16:00 まで）
TEL：029-853-4251 / Email：info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web：https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/

主　催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」
協　力：日本・中央アジア友好協会 (JACAFA)，
　　筑波大学 グローバルコミュニケーション教育センター社会貢献委員会，グローバル・コモンズ機構，
　　国際室，学生部学生交流課，スーパーグローバル大学事業推進室，日本留学海外拠点連携推進事業，
　　人文・文化学群，社会・国際学群

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

梶山　本日は、NipCA プロジェクト主催、オンライン留学に関するラウンドテーブル、3 回目となります。本日のテーマは、「オンライン授業を受けることの精神的・肉体的・物理的な負担　何が起きたか・どう解決したか」です。今日は 16 時 45 分と開始時間が遅いので、ちょっと職員の方の参加が少ないんですが、先生方が何名か参加されております。

それでは、本プロジェクトの実務責任者である臼山先生より、簡単に趣旨の説明をしていただきたいと思います。臼山先生、よろしいでしょうか。

臼山　はい。皆さん、こんにちは。初めて参加される方もいらっしゃいますので、毎回、このオンライン留学に関するラウンドテーブルにつきまして、趣旨説明ということを繰り返しやっております。ご容赦ください。4 月 17 日に本学の学群・大学院の全面的なオンライン授業の開始を受けまして、教育現場においてさまざまな課題が浮き彫りになってきました。現在進行中のオンライン教育にはプラス面とマイナス面がありまして、ウィズコロナ、アフターコロナの時代を見据えて、マイナス面というよりはむしろプラス面の価値の活用という観点から、一連のオンライン留学に関するラウンドテーブルを通じて、オンライン教育の意義とその可能性などについて整理しておきたいというのが趣旨です。

現在、ロシアからやむを得ず新型コロナウイルスの感染拡大によって日本に帰国し、先方のロシアの留学先のご厚意で、日本にいながらオンライン授業を受けている、いわば国内でロシア留学を続けている、モスクワ大学から帰ってきた石川さん、サンクトペテルブルク大学から帰ってきた西さん、ウラジオストクから帰ってきた小山君、ノヴォシビルスク国立大学から帰ってきた安井さんですね。

それから、モスクワ、ワルシャワで首都の閉鎖に遭って帰国できずにそのまま残っている、大学院生の米山君と学部生の西川君ですね。こちらはまだ引き続き現地で、キャンパスに通っているわけじゃないけれどもオンライン留学を続けているという学生さんですね。以上の計 6 名の学生たちの体験そのものがまさに未来を先取りしたオンライン留学であり、彼らの体験を見える化し、それを参加者全員で共有して議論するということになっております。今回は、実際のオンライン教育を受けた中で感じたストレスについて、そしてそれをどう乗り越えたのかということについて、報告していただきます。学生たちの記録は非常に貴重ですので、できる限り内容を整理して、最終的には報告書のかたちで刊行したいと考えています。

それでは、趣旨説明が長くなりましたが、新しい高等教育の地平を開く契機となる、そういう思いを乗せたラウンドテーブルにしていきたいと思いますので、今日も学生の皆さん、よろしくお願いいたします。また、ご多忙の中、今回参加いただきました教職員の先生方、そして日本財団の森常務理事、それから学生の皆さん、本当にありがとうございます。では、よろしくお願いいたします。

梶山　はい。臼山先生、ありがとうございます。それでは、早速、学生の発表に入りたいと思います。最初の 1 人目は、ポーランドの現地でオンライン留学を受講している西川さんです。西川さんは、6 月で留学終了ということで、授業を終えたばかりで、現在はワルシャワの友人宅に滞在されています。西川さん、よろしいですか。

西川　はい。ただ今ワルシャワ大学に留学中の西川将太郎です。今回、自分の経験しました、オンライン授業を受けることによる負担についてお話しさせていただきたいと思います。

まず一番最初、2 月当初は通常授業を行っていましたので、コロナに入った時にオンライン授業に移行する期間が存在しました。1 週間、指示待ちという空白の時間がございました。その時に、授業がもしかしたらなくなるんじゃないかということをみんな思ったり、また、その間、少し勉強していなかったので、授業内容がおぼろになってしまったりしました。

そして、先生によって、Zoom や Google Meet といった、複数の違うシステムを使うことになりましたので、新しい使い方を複数学ばなければいけないというのは、少し負担でした。しかし、オンライン授業が始まるということで、機械を扱うのは嫌いではなかったので、少し興味もありました。

その次に、オンライン授業の序盤になりますと、オンラインに移行してから授業の履修をやめる人、そして、留学生は帰国をする人が続出しましたので、履修人数が激減した授業もありました。そうすると、先生の出席の取り方もちょっと曖昧になって、オンラインに変わってから出席を取らないようになった先生もいらっしゃいました。こうなると、少し手を抜いてしまおうかなという誘惑が出たりして、少しやる気低下につながりました。自分も数回、授業に出席しなかったことがありました。

オンライン授業中盤になってきますと、このころは自粛疲れが出てきました。基本的に物事に対するやる気が少し薄くなったので、堕落していました。家でもウーバーイーツの回数が増えた時期です。

また、これはオンライン授業でなくても問題になっている、授業中のスマホのことですが、オンラインでもしカメラがついていたとしても、スマホを使っていても先生には見えないので、楽な方に逃げてしまうときがありました。ただ、授業が日本語ではなく英語やポーランド語で集中しないといけなかったので、そんなには使いませんでしたが、オンライン授業が日

本語だったとしたら、もしかしたら楽な方に逃げることが多くなってしまうのではないかなと思いました。

そして、オンライン授業は他人との意思疎通が難しいので、少し授業中の発言がしにくいと思います。言いたいことがあっても消極的な受講態度になってしまうという問題がありました。

最後は試験ですが、試験中にパソコンに異常が出るかも、ネットが止まるかもといったような心配がございました。自分のパソコンもたまに固まったりしますので、これで試験の結果に不利が出たら不公平なのではないかというふうに、少し無駄な心配もしていましたので、こちらも負担でした。

まとめになります。通学がなかったので、オンライン授業というのは、肉体的負担は全くございませんでした。自分はコロナが始まった時期に、ポーランドの大学寮から友人宅に引っ越して、そこから授業を受けていましたが、コロナ禍でもポーランドでは留学生を寮から追い出さないという決まりがあって、留学生も皆安心してポーランドに残っていました。

精神的負担の面では、少し堕落、不安、消極性など、そういった問題がございました。コロナの状況でなくても、オンラインであればこういった問題は出てくると思います。自分自身のやる気の問題ではありますが、オンライン授業に移行することは、自分の学びにはあまりならないなと、私は思いました。

解決策はまだ分からないんですが、オンライン授業でも対面授業に匹敵するような効果のある方法が、将来、できたらいいなと思っております。

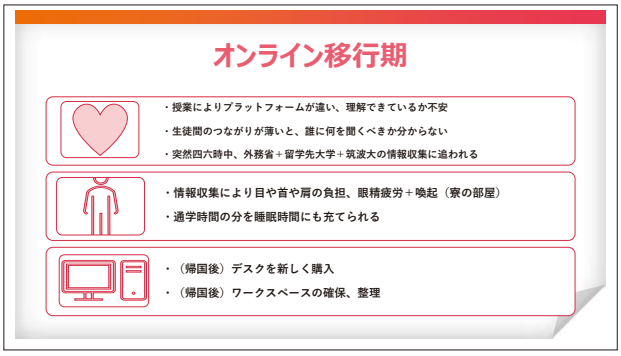
発表は以上です。ありがとうございました。

梶山　はい、ありがとうございます。問題点が分かりやすく指摘されている報告でした。西川さんは 6 月でもう留学終了されたので、あとは帰国を待つ段階なんですが、まだフライトがなく、帰国のめどが立っていないということで、早く帰れるようになればいいなと思っています。

それでは、続けて、ペテルブルク大学のオンライン授業を受けていた西さん。西さんは、最初、ペテルブルクに留学されていましたが、途中帰国して、3 月以降は東京のご自宅からペテルブルク大学のオンライン授業を受けていました。西さん、準備できていればお願いします。

西　では、この題でオンライン留学における学生の負担ということをお話ししたいと思います。筑波大学国際総合学類 3 年の西です。

内容としては、このようになっています。オンライン移行期、オンライン講義履修中、期末試験の三つの期間に分けて、それぞれの間での精神的負担、肉体的負担、物理的負担をお話ししたいと思います。下にざっくりと記しましたが、私



は 2019 年 9 月から今年の 6 月まで、交換留学を、サンクトペテルブルク国立大学の国際関係学部と言語センターで行っておりました。

まず、オンライン移行期の精神的負担、肉体的負担、物理的負担です。まず、授業によってプラットフォームが違っていました。例えば、Facebook の動画配信だったり、WhatsApp や Skype を登録しなければいけなかったり、はたまた Telegram や Zoom を登録しなければいけなかったりと、授業によって使うアプリが違っていたので、アプリの使い方がちゃんと理解できているかというのが不安になりました。

また、私は秋学期から留学していたので、2 学期目である春学期は既に横のつながりがある状態でスムーズに授業を始められたんですけれども、例えば、春学期から留学を始めたという学生さんは、横のつながりがなかなかなくて、誰に何を聞けばいいのか分からないと話していました。

また、コロナでちょうど混乱している時期だったので、突然、四六時中、外務省の情報、留学先の大学の情報、筑波大学の情報収集に追われて、かなり精神的負担が強かった時期です。

肉体的負担としては、情報収集に時間がかかるので、目や首や肩にすごく負担が掛かったり、寮の部屋を使っていたので、ほかの寮生もいるということで、換気を徹底しなければならず、自分で何分置きに換気するというふうに決めて行っていたので、そこがまた大変でした。ただ、通学時間がういた分を休憩時間や睡眠時間にも当てられるという利点はありました。

物理的負担は、帰国後なんですが、デスクを新しくオンライン授業用に購入しました。また、ワークスペースを確保するために部屋の片付けなどの整理を行っていたので、少しそれも負担になったかなと思っています。

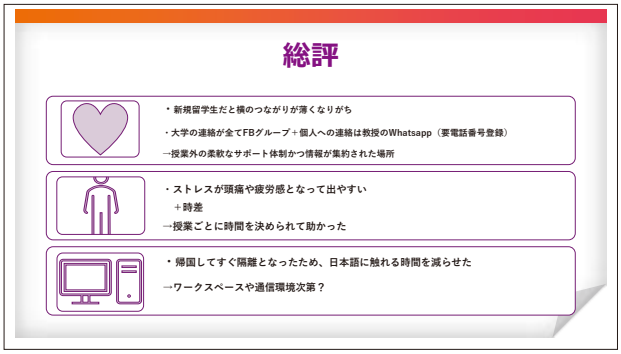
続きまして、オンライン講義履修中の精神的負担、身体的負担、物理的負担です。まず精神的負担としては、出席が成績に加味されないという旨を、大学からもともと連絡を受けていたので、例えば語学の授業だと、学生の出席率が極端に低かった回だと先生と 1 対 1 になったり、はたまたちょっと自分よりレベルが上の学生と先生と 3 人でというふうになったりして、出席人数や出席者により、自分の発言に求められる質や発現回数などの評価基準が変わるというのが負担になっていました。

また、試験のスケジュールが 7 月にずれこむのか、それともともとの予定だった 6 月末で据え置かれるのかということが発表されていなかったので、そちらも不安でした。

肉体的負担は、同じように、長時間同じ姿勢を保つつらさだったりがあったんですが、通学時間はなかったので、そちらはよかったかなと。ただ、時差があったので、夜の 9 時から授業が始まったりしていました。

物理的負担としては、iPad とパソコンを併用したほうが履修しやすい授業もあったりして、これは、例えば 2 台持っていない方とかは、ちょっとやりにくい授業になっているんじゃないかなというふうに感じました。

期末期間の精神的負担としては、やってみるまで形式が定かではないという点があります。期末テストで評価するとある授業では、Word で試験を送るので 30 分で回答を書き込



んで送り返してくださいと言われていました。そのテストに関しては、選択式の問題に対して、選択肢に〇をつけたいけど図形の追加は手間じゃないかとか、どういう感じで試験に取り組めばいいんだと、当日まではらはらしていました。

身体的負担としては、レポート課題を自分で進めることができたので、そちらはあまり負担は感じなかったです。ただ、物理的負担として、試験時にその時間帯だけ通信環境が悪くなってしまったら、期限内に試験を解き切れるかというふうな問題が、少し不安としてありました。

総評しますと、まず精神的負担に関しては、新規留学生だと横のつながりが薄くなりがちなため、負担が重くなると思います。また、大学の連絡が全て Facebook グループを通じて行われていたので、例えば Facebook をインストールしたことがなくて使い慣れていない人は、とても大変そうでした。

また、教授への連絡は、WhatsApp だったり、メールアドレスをあらかじめ覚えておかなければ、それ以外の連絡手段はありませんでした。そちらが、先生との連絡手段が事前に確保できているか否かによる情報格差みたいなことにもつながっていたので、授業外の柔軟なサポート体制だったり、情報が集約された留学生用のウェブサイトが必要だなと感じました。

肉体的負担に関しては、ストレスが、頭痛や疲労感となって出やすいのと、時差でかなり体力的にきつかったです。ただ、日本から時差 6 時間の中出席しているということを先生が加味してくれた授業も多かったので、そちらは交渉次第かなと思います。

物理的負担としては、帰国してすぐ隔離となって、逆にロシア語だったり英語での学習に時間を割けて、日本語に触れる時間を減らせたように思っています。ただ、これもワークスペースがきちんと確保されている、通信環境が整っているかということにもだいぶ左右されるのかなと思います。

ペテルブルク大学のオンライン授業に関して、私からは以上です。

梶山　はい。西さん、ありがとうございます。学期途中から

の参加者は友人をつくりづらいという指摘がありました。本学でも、1年生は友人がつくれないという点で不満が出ていたりしますが、重要な指摘だったと思います。あとは、ペテルブルクだと日本から時差が6時間あるので、9時から授業が始まり、それがつらいという報告もありました。時差というのもオンライン留学の一つのデメリットですね。

それでは、今度はウラジオストクにある極東連邦大学にオンライン留学されている小山さんですね。小山さん、準備できていますか。

小山　それでは、発表させていただきます。人文学類4年の小山正伍です。今、ロシア・ウラジオストクの極東連邦大学にオンラインで留学しております。そこのオンライン授業の負担について、お話しさせていただきます。

まず、お話しする内容が、帰国してから授業が始まるまでの過程と、大まかに時期ごとに分けた授業の負担について、それと、それ以外の不満点についてです。ネガティブな内容が少し多くなってしまうと思いますが、どうかご容赦お願いします。

授業が始まるまでの過程です。3月26日に帰国してから、実家近くの、今誰も住んでいない祖父母の家のほうで、いわゆる隔離生活を行っていました。空港が一番感染リスクが高いと聞いていて、その空港を通ってきたので、他人にうつさないように自主的に隔離をしていました。負担というわけではないんですが、この時期は、向こう1年間の留学の予定が丸々消えてしまったので、将来どうするのかという不安はかなり大きかったです。

4月の10日に梶山さんからオンライン授業を受けられるという話を伺ったので、受けられるように手続きを進めてもらって、4月の17日から授業が始まりました。ウラジオストクに渡航している間に授業がオンラインになっても、日本に帰国したら受けることができないとは聞いていたので、受けられると分かってとてもうれしかったです。

次、授業の負担についてです。まず、授業が始まってからゴールデンウィークぐらいまでの時期の負担についてです。初めのころは、授業の途中からの参加だったので、内容についていくのが少し大変でした。何か質問があったときも、質問を考えているときの間などがすごく長く感じられるので、これにも慣れるのがすごく大変でした。物理的な負担、ものを用意したり、体の負担は、特になかったです。

次、ゴールデンウイークが明けてから6月初頭ぐらいまでです。そのころは、授業には慣れてきたんですが、コロナの状況がすごく大変なことになっていて、外出をするのがはばかられる状況だったので、外出できない中でずっと毎日授業を受けていて、少しストレスがたまっていました。また、同じ部屋を共有しているうちの家族がテレワークになったので、授業を受けるための個人的なスペースを確保するのが大変でした。この期間は、授業の間に祖父母の家に移るということで対応していました。

肉体的な負担ですが、授業は大体2～3時間ずっと画面を見続けることになってしまうので、このころから、目や肩の疲れというか、重さというものを感じるようになってきました。

最近の話です。授業自体には慣れてきたんですが、授業が長くなったということもあって、毎日午前中3時間というのが、単純に疲れるなと思っています。また、ウラジオストクに渡航していれば、食事や買い物などを通して授業以外の間も現地の人ともっとコミュニケーションしてロシア語を使うのに慣れていたんだろうなという思いがあって、それと比べてしまうと、何となく授業が物足りなく感じて、モチベーションが下がってしまう部分があります。

物理的な負担は、兄のテレワークも終わったので場所の問題もなくなって、特に問題はありません。むしろ、奨学金を利用して新しいタブレットを買うなどして、ペーパーレスを試みていて、それが少し楽しくも感じられています。ただ、肉体的な負担は、依然、授業形態は変わっていないので、目や肩への負担は大きいです。

その他の負担というか、不満についてです。授業では毎回、ビデオオンを要求されるのですが、ビデオオンだと姿勢や身だしなみなどについて毎回ちゃんと気を使わなければならないので、少し疲れます。また、ビデオをオンにしているとはいえ、チャット欄を開いているなどして顔が見えないことが多いので、顔が見えないと発言のタイミングがすごくつかみづらいということもあります。また、授業がいつも昼時と重なっていて、少し集中力が切れてしまうというところもあります。

最後、まとめです。基本的にずっと画面を注視しているので、体力的な負担、特に目への負担は大きいと思います。また、顔が見えない中での授業が多分多くなってしまうので、オンライン独特の間の取り方というものに慣れるのが少し大変なのではないかと思います。また、授業を受ける快適さは、設備、例えばパソコンなりインターネットを用意できるかというところにかなり依存していると思います。充実していれば快適に授業が受けられるんですけれども、そろえなければならないものに、パソコンなど金銭的な負担の大きいものが多いので、全ての学生が満足にそういうものを用意できるかは難しいんじゃないかなと思いました。以上です。

梶山　はい。小山さん、ありがとうございます。小山さんの報告でも重要な指摘があったと思うんですが、一つは、お兄さんと同じ部屋なので、お兄さんもテレワーク中で場所が

なかったという問題ですね。もう一つは、授業はオンラインで受けられるんですが、留学は授業だけではないので、例えばロシアだったら劇場へ行ったりとかいうことも一つの大きな楽しみですが、授業以外の体験を得られないという問題点が指摘されていました。

それでは、次は、シベリアにあるノヴォシビルスク大学にオンライン留学されている安井さん、お願いします。

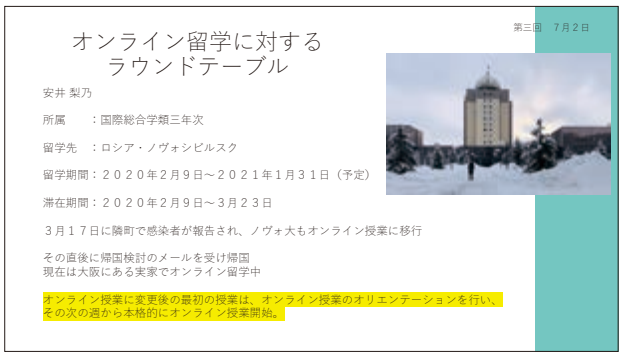
安井　国際総合学類３年次所属でロシア・ノヴォシビルスク国立大学に留学中の安井梨乃です。私は、2020 年２月９日から留学を始めまして、３月 17 日にノヴォシビルスクでも感染者が報告されたことでオンライン授業に移行し、その直後に日本に帰国して、今は大阪の実家から授業を継続して受けております。

オンライン授業に変更した後、ほかの皆さんは少しばかり時間がかかったりということもあったかもしれないのですが、ノヴォシビルスクでは、感染者が出たのが遅かったこともあり、ある程度準備されていたのか、オンライン授業への移行は割とスムーズでした。

まずオンライン授業に関して先生からメールで軽く説明があった後、変更後の最初の授業はオリエンテーションを行い、その次の週からは普段の授業どおりに進められました。今回は、そのオンライン授業を通してどういった負担があったかということをお話ししたいと思います。

まず、オンライン授業による精神的な負担ですが、授業の移行自体はスムーズだったのですが、私が受けていた授業三つのうちそれぞれで使うサイトやチャットのアプリなどが全て別々だったため、どの授業でどのアプリを使うのかなどの整理に手間取ったり、使い方に慣れるまで時間がかかったりしました。それが少しストレスだったかなと思います。

また、中国人学生と一緒に受けていた授業があったんですが、彼らより私のロシア語のレベルがかなり低かったので、先生にいろいろ質問をする必要がありました。対面授業の際は、よく授業の後に先生に直接質問しに行っていたのですが、オンライン授業では、先生が先にチャットを閉じて退出してしまうので、あまり多く質問ができませんでした。授業



内で質問することもできたかと思うんですが、自分一人でいろいろと質問することには少し抵抗があり、なかなかできず、諦めたりということもあったので、授業に関してそういう部分が不安になることもありました。

次に、オンライン授業による肉体的な負担についてです。これはちょっと極端な言い方をしていますが、課題やリーディングの資料が全てデジタルになったので、よくパソコンに張り付くことになってしまい、目の疲れを感じるようになりました。また、私個人の理由ですが、帰国してからはしばらく自粛期間が続き、また、私が海外から帰ってきたということもあって、あまり外に出ないようにしていたため、運動不足になり、また授業の関係でずっと椅子に座っていたので、腰痛が少し続きました。こういう負担が少しあったかなというふうに思います。

次に、オンライン授業による物理的負担ですが、現在、実家の Wi-Fi を使って授業を受けていますが、Wi-Fi の調子に波があったりして、授業に参加できないときがありました。例えば、発表の時になぜかチャットに参加できず、私の発表だけ次の日に延期されたこともありました。先生の理解があったので、出欠や成績に関わるということはなかったので大丈夫だったのですが、こういった通信環境の負担というのは、いろんな学生さんにも起こり得るんじゃないかなと思います。

また、授業を受ける環境の確保が難しいと感じるときがありました。私の受けていた授業では、マイクオンの状態で受ける授業がいくつかありましたが、その場合、私の周りの音が全て授業で伝わってしまうので、できれば１人になれる部屋が欲しかったのですが、妹と同じ部屋を共有していたため、授業の時だけ妹を部屋から追い出したり、また、住んでいる家族にできるだけ静かにしてもらったりといった手配が必要で、それが少し難しかったかなと思います。

下に小さくまとめました。いろいろ並べてはみたんですが、実際考えてみると、精神的・肉体的な負担というのは、書いてはみましたが、私にとってはそれほど大きいものではなく、こうした Wi-Fi の通信環境であったり、授業のできる環境の確保といったことが一番負担だったかなと感じました。

なぜかというのを少し考えたんですが、私の場合はロシアに行ってから１カ月半でこちらに戻ってきてしまったので、向こうの環境にもあまりまだ適応していなかった時期でしたので、あまり比較ができなかったということが考えられると思います。

また、現在、実家に戻ってきていますので、ある種安心感のようなものを感じて、それほど負担を感じなかったのかなということも思いました。逆に、これまで１人暮らしの状

態で授業を受けていたりしましたので、同じ家にいる家族との予定でしたり生活リズムともある程度合わせなくてはいけないという、オンライン授業とは関わりないところでの負担というのが、ある程度あったりしました。

また、私の場合は時差が２時間しかありませんでしたので、モスクワのように６時間の時差がある地域とのオンライン留学よりは、だいぶ負担が少なかったのではないかなと思います。ただ、やはりこうした物理的負担は、通信環境の問題なので、授業に参加できないといったことが不安でしたり精神的負担につながる場合もあるかなと思いました。

また、負担というよりは、授業を受けている実感が薄れ、先ほどほかの方もおっしゃっていましたが、授業中に、例えばスマホに逃げたり、私自身が授業に積極的に参加しているという実感が薄れて、勉強のモチベーションを維持することが非常に難しくなっていった印象を受けました。以上です。

梶山　はい。安井さん、ありがとうございます。安井さんも、お兄さんとルームシェアしていた小山さん同様、妹さんと同じ部屋ということで、1 人で授業を受けられる環境の整備という課題が挙げられていました。あとは運動不足ですね。安井さんは来年 1 月まで留学が続きますので、安井さんも早く戻ってノヴォシビルスクで留学生活が再開できるといいなと思います。ありがとうございました。

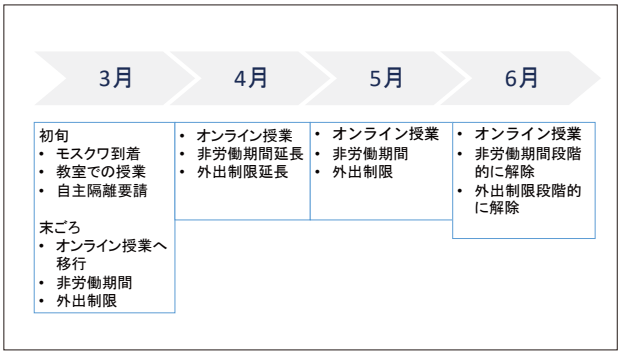
では、続けて、今度は大学院生の報告ですが、モスクワ市立教育大学の寮で現地からオンライン授業を受けている米山さんの発表です。米山さん、よろしくお願いします。

米山　よろしくお願いします。では、発表させていただきます。モスクワ市立教育大学に留学していて、使用ツールは Microsoft Teams で、紹介いただいたように、現在もロシア、モスクワに住んでいます。「オンライン授業による影響」というタイトルにしました。基本的なタイトルは「負担」だったと思うんですが、オンライン授業に関して、そこまでネガティブな要素ばかりでもなかったので、「影響」という言葉を、負担に置き換えて使っています。

時系列で見ると、モスクワに到着してしばらくは教室での授業を受けていました。そして、末ごろにオンライン授業に移行し始めて、外出できなくなって、4 月から 6 月終わりまでは、基本的に家に引きこもる生活でオンライン授業を受けていました。

精神的影響に移ります。

オンライン授業への移行時に考えたことで、ポジティブな面で言えば、移動の負担がなくなる。あと、データ管理が楽になるかもしれないというふうに考えました。ネガティブな面で言うと、作業スペースの問題で、居住スペースと作業スペースをどちらかというと分けたいんですが、部屋に閉じこもると、寝る部屋と仕事をする部屋が一緒になるので、それは嫌だなというふうに考えていました。留学時間が無駄になる。また、帰国勧告への不安もありました。



精神面で言うと、特に問題はなかったなと思います。理由としては、オンライン化を比較的好意的に受け止めていたから。あと、作業スペースとして、休憩ルームが寮にはあったので、そこでいつも作業しています。そのおかげで、居住区と仕事をする場所を分けられました。

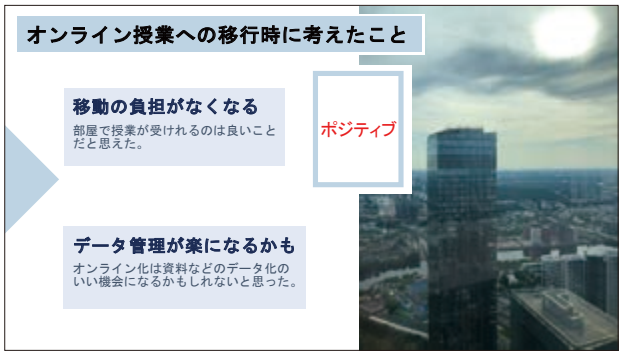
また、コロナで言えば、単位取得、語学学習が留学の主目的ではなかったので、留学で授業がどうなるかとかいうところも、あまり問題にならなかったです。外出制限下でも、寮ではほかの人と交流があるので、この面でも精神的に助かりました。最後に非常事態で安心した面があったと書いていますが、よくない状況なんですけど、逆に、「コロナだったので何々ができなかった」という言い訳に使えるなと思ってしまったので、その面ではちょっと安心してしまいました。

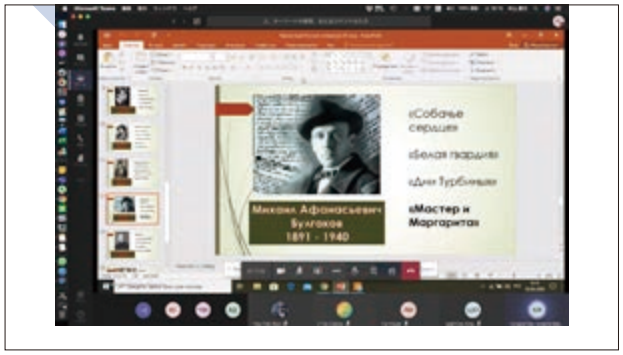
右の写真が、外出制限下であまりにも暇だったので、初めてネット注文でボールとかを買って、ちょっと遊んでいました。こういうのも気晴らしになりました。

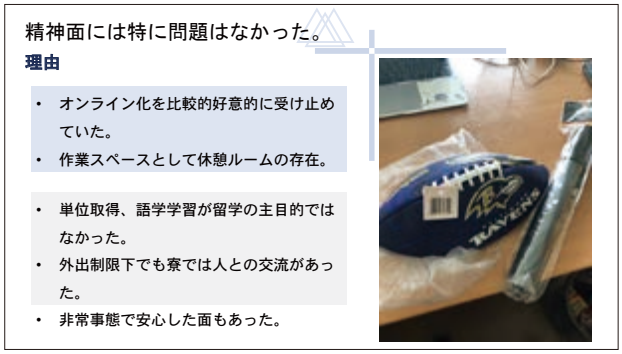
次に、肉体的影響です。

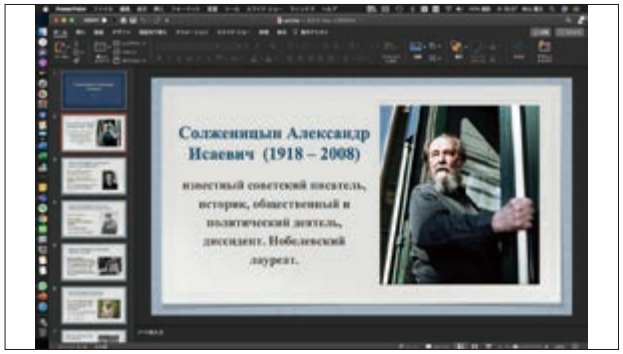
ポジティブな面で言うと、身体的負担の低下。移動が減ることで、身体的負担は減るなと思いました。そして、授業中の休憩が容易になった。オンライン授業だと、簡単にカメラを切れるので、いつでも休憩できるようになりました。ほかの学生の発表時間などには、よく楽な姿勢を取っていました。

ネガティブな面でいくと、集中が続かないということがあり









ました。２コマ連続の授業が多くて、そのような３時間授業では集中力の低下が感じられました。また、身体的活動の低下。メリットもあるんですけど、やっぱり動かなくなることで運動不足になるなというふうに思いました。コロナ禍で外出制限がある中では、スポーツそのものもできなくなったので、これも困ったことでした。大学には、結構いい筋トレできる施設があったのですが、それも使えなくなりました。

３時間授業というのは、この文法の授業、文学の授業、文語の授業がそうでしたが、非常に長くつらかったです。

まとめとして、全体的に運動量は低下した。授業集中が続かないと書いたんですが、授業の強度が高ければ集中は続くなというふうにも考えました。でも、その場合は、反面、非常に疲れます。最後に、簡単な料理をするようになりました。寮で過ごす時間が増えたので、料理に費やす時間が増えました。

疲れた授業の例なんですが、６月２日の文学のフォルダーのスクリーンショットが、４時半に初めて撮り始めていて、終わったのが 18 時 24 分。ここからここまでの間に、先生はプレゼンテーションの解説をずっとしていました。講義形式でずっと一方的に受け取る授業だったので、授業内容はすごくよかったんですが、非常につらかったです。少しだけ授業の様子を聞いていただきます。

＜ロシア語音声＞

… самым главным романом 20 века в русской литературе. Если говорить о любви, это бесспорно главный роман, и он называется “Мастер и Маргарита.” *

このようにずっと先生がモノローグでしゃべり続けるので、非常につらかったです。なぜ写真を撮ったかというと、課題として、授業の初めに、このプレゼンテーションを全て聴いて、好きな作家を１人選んでプレゼンテーションを作りなさいというふうに言われたので、全部覚えるのもきついと思って写真を撮りました。プレゼンテーションは、ソルジェニーツィンでこのように作りました。

最後に物理的影響ですが、私は、MacBook と iPad を併

* ……ロシア文学において 20 世紀のもっとも重要な小説です。もし愛について語るなら、これは異論の余地なく重要な小説です。その名を、『巨匠とマルガリータ』と言います。

用してオンライン授業に対応しました。iPad をノートのように使えたので、ストレスなく授業を受けることができました。なので、オンライン化に際して機材面での苦労はなかったと思います。以上です。

梶山　はい、ありがとうございます。コロナ禍で寮の中に残っている人たちの、寮の中に残っているからこそ結ばれた交流というのも、大変興味深い報告でした。

ここまで 5 人の発表が終わりましたが、実は、いつも 2 人目に発表してもらっている石川さんが、本日、つくば市から熊本のご実家に帰省されているということで、順番を後にしてもらったんですが、石川さん、ご実家に到着されたでしょうか。アイコンは映っていますが、石川さん、大丈夫ですか。

石川　はい、大丈夫です。

梶山　石川さんは、モスクワに留学し、途中から帰国されて、ずっとつくば市で友達とルームシェアをしてオンライン授業を受けていたんですね。実家にはずっと戻っていなくて、6 月で授業も終わったということで、本日、帰国後初めて帰省されていたんですが、早速参加してくださっています。石川さん、お願いします。

石川　それでは、発表させていただきます。私は、人文学類言語学主専攻 4 年次の石川です。モスクワ国立大学に 2019 年 9 月から行っておりまして、3 月下旬に帰国して、3 カ月間オンライン授業をつくばの自宅で受けておりました。

こちらがオンライン授業に移行するまでの流れです。私はかなりスムーズなほうでして、3 月 16 日に、次の日からオンライン授業に移行するという通達が出されました。この時、正式な通達はプレスリリースと教員連絡のみで、私は、留学生グループの SNS を通して知りました。その次の日は、教員が会議をするということで休講。その次の日に、オンラインで、Skype で授業が開始されました。

こちらの休講や開始の連絡は、全て先生からの電話をクラスメートが取って、それを伝えてもらう形式でした。こちらはすごくスピーディーな流れだったので、特に負担や不安に思うことはありませんでした。

次に精神的な負担ですが、私は特になかったので、楽しく授業を受けられました。

肉体的負担ですが、やはり時差による負担が非常に大きくて、モスクワは日本時間マイナス 6 時間という時差があります。こちらに書いてあるのは全て日本時間の表記になりますが、月火水木、週に 4 日間授業があり、特に火曜日と木曜日が 20 時 40 分から 24 時まで授業を続けるという、かなり苦行のような感じでした。こういう授業があった時期は、モスクワ時間と日本時間の中間で生活していて、朝 11 時ぐらいに起きて夜中の 3 時頃に寝るという、生活習慣が崩れていて、ちょっと負担だったかなと思います。

次に物理的負担です。私は、紹介にあったとおり、つくばで友人とルームシェアをしておりましたが、自分の個室はありました。ですが、最初、3 月の時点では自分の机や椅子などはなかったので、5 月ぐらいまでずっと共用スペースのダイニングテーブルのところで勉強していました。これは、机と椅子を買ったことで解決しました。

また、パソコンや周辺機器の問題等もほぼありませんでした。もともと使っているパソコンがオンライン授業に使用するのに足りたスペックだったのと、あと、ヘッドセットは持っておりましたので、問題はありませんでした。ただ、Wi-Fi の調子ですね。やはり、1 個の Wi-Fi で同時に 2 台 Skype などを使うと、少し回線が重くなるかなと思いましたが、その程度でした。

まとめです。私は特に、すごく負担が少なかったと思っているので、それはなぜかという点をまとめさせていただきます。まず、授業の雰囲気ですね。こちら、会話の授業が主でしたので、会話の授業はほとんど雑談のようなものも多かったので、すごく和やかな雰囲気だったというのがあります。

そして、二つ目にルームメイトの理解ですね。ちょっと遅くまで授業があって気を使うところもあったんですが、すごく理解を示してくれたので、こちらもすごく助かりました。

あとは、私の性格的なところなんですけれども、少しぐらい止まったり聞こえなかったりしても、まあいいかという感じで、あまり気にしないことですね。鈍感力とでも言うのかもしれません。そして、慣れです。ずっと画面を見なくても、声さえ聞こえていれば授業は成り立っていくので、特に気にしないことが大事だったのかなと思います。以上です。

梶山　はい。石川さん、本当に久しぶりのご実家だと思いますけれども、到着早々報告してくださり、ありがとうございました。

それでは、6 名の学生の報告が終わりましたので、質疑応答、ディスカッションの時間に移りたいと思いますが、何かご質問等ある方はいらっしゃいますでしょうか。大庭先生。

大庭　医学医療系の大庭です。3 回目からの参加なので、既にこれまでに話をされていたら恐縮ですが、まずは留学した学生の皆さん、お疲れさまです。途中で返ってくることになってしまった方、まだスタックされている方、大変だと思いますけれども、引き続き頑張ってください。

質問は、特に帰ってきた人がそうだと思うんですが、このオンライン留学をされている間に、筑波大の授業は受講とかされていましたか。

梶山　安井さん、どうぞ。

安井　はい。私は、もともとロシアで受けていた授業数が少なかったので、筑波大学もオンライン授業になったということで、あわよくばどちらもと思ったんですが、支援室に問い合わせたところ、留学中である限りは、筑波大学の授業は取ることはできないということで、筑波大学の授業は諦めて、オンラインの、ロシアの大学の授業だけに専念しました。

大庭　ありがとうございます。そうすると、皆さんそういうことですよね。

安井　はい。

大庭　なるほど。でも、もし３月に帰ってきていて、４月27日からのオンライン講義が受けられていれば。恐らくこれは、オンライン留学というかたちでも、1年プラスで学生生活を送らなきゃいけない皆さんがいるんじゃないかというふうに思っていまして。

安井　そうですね。４年で卒業しようとは考えているんですが、1年留学してしまうと、単位数的に結構厳しいものがあるので、できればこういう時に取れたらなとは思っていたんですが、ちょっと制度上、無理がありました。

大庭　ほかの皆さんは、もしこういった機会に筑波大学の授業も取れるということになったら、うれしいですか。

小山　もちろん、そうなったらうれしく思います。

西　はい。私も、取れるようであったら取りたかったなというふうに思っています。

大庭　ありがとうございます。大体、学生さんは皆さんそういう意見だということですね。私のほうから、ちょっとずれたかもしれないですが、精神的な負担というか、それも、もし取れたら軽減できるんじゃないかというところもありますし、ありがとうございます。

梶山　大庭先生、ありがとうございました。こちらの中央アジアオフィスのほうにも、筑波大学の授業は受けられないんですかという留学生からの問い合わせは何件かあったんですが、残念ながら受けられませんというお返事をいたしました。

それでは、ほかの先生方、どうでしょうか。プロジェクト実務副責任者の加藤先生、いかがでしょうか。

加藤　参加して聴かせていただきました。大体、学生さんのほうが感じている問題点と、それから、授業をオンライン化したことを通じて、提供側というのでしょうか、教員側が不安に思っている点というのは、かなり一致していると感じました。

例えば、横のつながりがまだできていないときにオンライン化すると、誰に何を聞いていいか分からないとか、横のつながりがないために孤独感を感じるとか負担感が多いという点もそうですし、それから、さまざまなアプリとか、いろんなものを使わなくてはいけないのが大変だということと、それから、提供側も、クラスのサイズであるとか講義形式であるとかいうことで、発信のほうもかなり色々な形式を一斉に始めなくてはならなくて、私のようにオンラインに不慣れな、全て研修を受けながら、教わりながら開発しなければいけなかった人間にとっては、非常に負担だったかなと思います。そういう意味では、ある程度ネット環境に慣れているとか、そういう人は楽だったんだろうなというふうにも感じました。

それから、ロシア側、ロシア語圏は、オンライン化に非常に積極的で、非常に優れていたと思うんですね。私はクラス担任なので、ほかの国に留学していた学生は、特にオンライン授業を受講させてくれるというようなメリットがなく、打ち切りとなって帰国してきた人が出ましたので。その学生のほうは、逆に、今お話のありましたように、もう諦めて筑波のほうで受講するということになったんですが、ロシア側は非常にスピーディーに対応したなというのがとても驚きで、学ぶところが多いなと思いました。

以上、感想でした。

梶山　加藤先生、ありがとうございます。ロシアは、本当に早かったですね。ロシアの大学は、結構、構内でもWi-Fiが自由に使えるところが多いんですが、ITに強い側面が今回も出ていたと思います。

まだ少しお時間がありますので、大倉先生。

大倉　すみません、大倉ですけれども、ほかに質問がないようだから、学群長なので管理側みたいな質問になってしまうかもしれませんが。

皆さんに聞きたいんですが、それぞれ留学している大学で

あるとか、指導、あるいは面倒を見ていただいている先生のほうから、メンタル面や肉体的な面で、大丈夫かとか、こういう相談の窓口がありますよみたいな、メンテナンスや相談についての情報みたいなもの、特に留学生用ということだけじゃなくて、このオンラインになったことでの体調の変化とか気持ちの変化みたいなことに対するサービスみたいなものは、皆さんのほうにはあったのでしょうか。そのあたり、ちょっと聞きたいところです。

西川　ポーランドのワルシャワ大学は、メールでアンケートが届いて、そこに、あなたの精神状態みたいなアンケートに記入して送信するというのがあったのと、あと、メールで体調管理とかはどうなっているかという確認が来て、それに対して返信しなきゃいけないというのがありました。

大倉　それは、留学生枠だから？　でなくて、全体に。

西川　ワルシャワ大学全員です。

大倉　で、ちゃんとレスポンスみたいなのはあった？　まだ調査中？

西川　アンケートには何もないですけど、メールを送ったら、そのメールには「ありがとう」というふうに、個々に連絡してもらえました。

大倉　はい、分かりました。

梶山　ウラジオストクに留学している小山さんも、手が挙がっていましたね。何かありますか。

小山　極東連邦大学では、アンナさんという留学コーディネーターの方から、相談事というか、個人的な連絡が届いたりはしました。留学中から今に至るまでは、NipCA のオフィスの方々とメールをやりとりしたり、指導教官の臼山先生が時々連絡をしていただいたりと、そういったメンタル的なサポートはありました。

大倉　大学からのそういうアンケートみたいなものとか。

小山　極東連邦大学自体からは、ありませんでした。

大倉　はい、ありがとうございます。

梶山　アンナさんは、こちらのオフィスともやりとりをしていますが、非常に面倒見のよい方という印象です。ほかに西さん、石川さんもありそうですね。では、西さん、よろしいでしょうか。

西　はい。サンクトペテルブルク国立大学に留学しておりました、西です。私の留学先大学では、エラスムスプログラムですかね、ヨーロッパの大学間でそのような生徒交換プログラムがとても充実しているようだったので、そのプログラムの Facebook グループがすごく活発に情報発信していたり、エラスムス生に向けてアンケートだったりというのが取られていて、エラスムスネットワークは、多分、エラスムス支部が、学生で構成しているものが大学にあったと思うので、その学生とコンタクトが取りやすいようになっていたり、留学生もその支部に行ってちょっとインターンみたいなこともできたりしていたみたいなので、そこが手厚かったかなと思いました。以上です。

梶山　はい。西さん、ありがとうございます。もう 1 人、モスクワに留学されていた石川さんが手を挙げられていますので。

石川　うちの大学は、特に何もありませんでした。先生から、オンライン授業に変わって何か印象みたいなものがあったら、ちょっと短い文章を送ってと言われていたんですが、それが何か改良とかケアとかに使われたような印象はないです。以上です。

大倉　ありがとう。日本みたいに、いきなりオンラインで大騒ぎとかいうのとは、ちょっとレベルが違う。これまでも、オンラインをかなり使っているところもあるかもしれないので、そこでのいろいろ対応の仕方が違うんだなと思いました。ただ、留学生に対して特に、みたいなことは、あってもいいような気がします。はい、すみません。

梶山　はい。大倉先生、ありがとうございます。あと、土井先生が手を挙げられていますので、土井先生に。

土井　はい、すみません。学群長の前でこれを学生の皆さんに聞くのはあれかもしれませんが、つまり、日本に戻ってきて、現地の大学のオンライン授業を受けながらというときに、筑波大学のものも受けたいと。ただ、そのときに当然、筑波大学の科目を、正規のものを単位が出る履修として取ることはできないというのは、当然、事務的には言われるということは予想されるわけですね。

それで、ちょっと学生の皆さんにお聞きしたいのは、例えばそういうときに、実際、筑波だと分かることだと思いますが、Teams や Stream は、アカウントをコードなどで登録とかができれば、聴講するということは一応、システム上は可能であると。ただ、単位は出せないと。そういう状況であるわけですが、それでも、海外の大学に留学して、そこのオンライン授業を受けながら筑波大学のオンライン授業も聴講でちょっとのぞいてみたいとか、単位が出なくてもちょっと聴いてみたいみたいという需要や要望というのはありそうですかというのを、学生、院生の皆さんにお聞きしたいと思います。よろしいですか、そういうことを聞かせてもらって。

梶山　はい、石川さんでしょうか。石川さん。

石川　はい。私も聴きたい授業があって、聴講したかったので、NipCA オフィスの梶山さんに「聴講してもいいですか」とお聞したんですが、「聴講も駄目です」と言われたので、しませんでした。以上です。

土井　そうですか。そうすると、多分、公式ルートでいくと

当然駄目ということですね。何でこんなことを聞いているかというと、学び方の問題として、履修登録をして単位が出るというかたちでがっつり学びたいというだけでなく、ほかのところでオンライン授業の感想とかを学生に聞いてみると、ちょっとハードルが低い感じで、ただちょっと聴いてみるとか、そういう聴講に近いかたちができたほうがいいんじゃないかという、つくばにいる筑波の学生からそういう声が出ているというのは把握しています。なので、これを留学関係のほうに持っていった場合、どういう感想になるのかなというのを、ちょっと聞きたかったということなんですね。

すみません、ちょっと分かりにくい質問で申し訳なかったんですが、私としてはそういう趣旨でお聞きした次第です。

梶山　はい。土井先生、ありがとうございます。私から一言補足すると、石川さんをはじめ何名かの学生から問い合わせがあったんですが、学内で問い合わせたところ、皆さん、JASSO の奨学金を受給しているので、筑波大学の授業を受けることが、JASSO の奨学金を受けている際に不利に働く可能性があるということで、念のため、筑波大学の授業は受けないほうがいいですというのが公式な通達でした。残念ではありますが、それを学生にお知らせした次第です。

土井　それはつまり、例えば聴講みたいなものであっても、オンライン上に何か記録が残ってしまうようなことがあると、後で探られた場合に面倒くさくなるから、念のため、なしでお願いしますということですよね。

梶山　そうですね。

土井　確かに、扱い上、そうなりますよね。

梶山　はい。JASSO のほうも、今回、初めての事態だったので、例外的に日本にいながら奨学金を受給するという、そういう特例にしていただいたんですが、その際に、念のため、筑波大学の授業は受けないでくださいということでした。

土井　そうなりますよね。ストリクトに言うと、聴講であっても、例えば、オンラインになっちゃった体育がかなりいろいろ賛否両論なところがありますけど、何かあれでトレーニングの仕方みたいなものをプロに習うみたいなのも、ちょっとまずいということだったんですね。海外留学の方に関しては。そういうことですよね。

梶山　はい。

土井　はい、すみません。ありがとうございます。

梶山　ありがとうございました。それでは、お時間になりましたので、もしほかの方からご質問等なければ、最後にまた臼山先生に一言いただいて終わりにしようと思いますが、いかがでしょうか。

臼山　はい、わかりました。もう 5 分ほど延長しておりますが、最後に少しコメントさせていただいて、今日のラウンドテーブルを閉めさせていただきたいと思います。

今日の学生たちのプレゼンですが、発表の内容も話の進め方もますます磨きがかかって見事でした。視聴する側の立場に立って準備した、非常に見やすい資料でしたし、また説明もわかりやすいものでした。本当にありがとうございました。

それで、当初オンラインによる学習というのは、精神的にも肉体的にもかなり負担があるのではないか、またあったのではないかという予想をしていたんですけれども、ロシア、それからポーランドに事実上のオンライン留学をしている学生さんの今日の報告を聞きますと、ネガティブな面ももちろんあったわけですが、精神的な負担がそれほど大きいものではなかったという想定外の話を伺い、正直なところ、驚きました。

ただ精神的な負担の理由になっているものが、ネット環境の不安定さといいますか、授業を聴いていてそれが突然切断されたり、特に試験の時にそういうようなことがあると成績が不利になるとか、あるいは、今後どういうやり方で授業が続いていくのか、またどのように試験が行われるのか、といった先行きの不透明さというか、未経験の事態に対する不安感というのが、生死的に大きかったのかなという印象を持ちました。

授業の数に関しても、それなりに負担があり、精神的な負荷がかかっていたと思いますが、それでも、精神的に参ってしまうという感じではなかったので、その点は意外でした。

それから、長時間の画面注視というのがやはり肉体的に影響を及ぼしているということは、全員ではないものの、かなりはっきりと見て取れました。目と肩の疲れということですね。これは想像していたことではありますが、若い学生さんたちであっても、眼精疲労であるとか、肩凝りであるとか、長時間同じ姿勢でじっと画面を見詰めて集中すると、次第にそういった肉体的な疲労につながっているということも分かりました。

また、安井さんが言っていたように、自粛生活が長引くと、本人のいろいろな、日頃の体の動かし方の習慣にもよりますが、やはり運動不足になりやすくなる、油断すると、運動不足で腰痛になってしまう。中高年では腰痛が普通にあるわけですが、若い学生たちでも、運動不足に陥り、腰痛になるという可能性も出てくるわけです。

このオンライン教育、オンライン学習がうまくいくための一番の肝は、やはり通信環境だろうと思います。それから、パソコンのスペックといいますか、性能ですね、その辺の環境条件をどれだけちゃんと整えられているのかという点が、学びやすさにつながっていることが分かりました。ですから、

通信環境がおぼつかない、あるいはPCの型も古いとか、いろいろな問題があると、オンライン授業が普通に受けられないわけです。情報格差という言葉が出てきましたが、まさにそれが実際にあるということが理解できました。

オンライン授業というのは、オンサイトの授業とは違って、学生たちが本当の生の異文化空間にいるわけではないので、授業の間だけ異文化空間に触れるという特殊な状態ということもあって、対面授業で得られるような実感、リアリティー、臨場感が感じられない。そのために、学習意欲といいますか、授業をきちんと受けているという実感が、対面授業と比べてかなり薄くなってしまい、学習のモチベーションが低下してしまったとか、モチベーションを維持するのが大変だったという指摘がありました。オンライン授業の特性である、授業中の空気感のなさをどうしたら代替できるのか、その点を考えることが必要だと思います。

それから、日本でオンライン留学をする場合には、一人だけの学習環境をしっかりと確保できるかどうか、という点も大事であることが分かりました。実家、あるいは友達と一緒に住んでいる場合、同居している人たちを気遣いながらも自分のリズムで授業が受けられる環境を整えることができれば、学習が捗るけれども、それができないと精神的なストレスを受けることになるという指摘は、体験した人でないと知り得ないことで、オンライン学習が成立するための基本的な条件です。非常に示唆に富んでいると思います。

今後、オンライン留学が当たり前の時代が到来するということを予想した場合、今日の発表で分かったのですが、やはり時差の問題というのが非常に大きなポイントになることです。東京とモスクワとの時差は6時間あるわけですけれども、ロシア時間で午後3時の授業は日本時間で午後9時に受けることになります。夜に授業を受けることになって、リズムが作れる学生については問題がないかもしれませんが、日本での夜の授業でリズムを乱してしまい、適応できないと、なかなか効果的なオンライン留学ができないということになります。ましてや、時差が14時間とか17時間とかあったりする、アメリカであるとか南米だとか、そういった国の大学へオンライン留学するという場合には、時差の問題に相当配慮した対応というのが必要になってくるということを感じました。

最後に、先ほども少し触れたモチベーションの維持とも関わってきますが、これはテクノロジーで解決できるのかどうか、ちょっと私には分からないんですが、やはりオンライン学習というのはオンライン独特の間合いのなさというのがあって、その間が見えないというか、画面上の対面では酌み取れない、相手の空気が感覚的に分からないところがあって、そこの部分の穴埋めがなかなか現状ではできないということがあります。その部分での心の負担とか、居心地の悪さとか、コミュニケーション上の身体感覚のなさというようなところですね。そういったところにオンライン授業の本質的な欠点として解決するべき課題があるのではないかと理解しました。

いずれにしても、想像した以上に筑波大生がこのオンライン留学に適応し、オンライン授業をむしろ楽しんでいるというか、非常に充実したものに変えているという姿に、本当に感激をしました。今日は、皆さんの実体験をそのまま、分かりやすく、きちんと整理して発表してくれて、本当に感謝をしたいと思います。

皆さんも恐らく画面の向こう側で拍手をしてくれていると思いますが、私一人ですが、音が聞こえるように拍手を送りたいと思います（拍手）。本当にありがとうございました。

ということで、司会の梶山さんに返します。

梶山　はい。臼山先生、ありがとうございます。では、そろそろ閉めたいと思いますが、本日は、本プロジェクトを支えてくださっております日本財団の森常務理事が、最後までオブザーバーとしてご参加くださいました。お忙しい中、森常務理事、ありがとうございました。

森　どうもありがとうございました。

梶山　次回は、来週木曜日を予定しております。第4回の次回は、今度はちょっと趣向が変わりまして、学生の皆さんは聞き役に回ってもらい、先生方のお話を中心に、教員の精神的影響というテーマでお話ししていただきたいと思います。また本日参加されている皆さんには、ご案内のメールを差し上げたいと思います。

では、皆さん、本日も長い間ありがとうございました。

西川　将太郎
（社会・国際学群国際総合学類）
ワルシャワ大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）

オンライン授業を受けることの精神的・肉体的・物理的な負担

国際総合学類　西川将太郎
ワルシャワ大学

1、通常授業からの移行

- 一週間指示待ち
  →授業なくなるの？　授業内容なんだっけ？
- 教授によって違うシステム使用（Zoom, Google meet, Webexなど）
  →使い方に戸惑う、しかし興味もあり

2、オンライン授業、序盤

- 授業をやめる人、帰国する人
  →履修人数減少、出席あいまい
  →さぼっちゃおうかなという誘惑＝やる気低下

3、オンライン授業、中盤

- 自粛で家にこもっていてやる気減少
  →堕落
- 授業中スマホ→楽に逃げる
- 発言しにくい→消極的に

4、試験

- 途中でネットが切れる、パソコンが落ちるなどしたら、、
  →無駄に不安、不公平？

まとめ

- 肉体的負担なし、むしろ授業資料見やすい。
- 精神的負担：堕落、消極、不安　→オンライン、楽だが自分はダメ。

西　美乃里

（社会・国際学群国際総合学類）

サンクトペテルブルク大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）

オンライン留学ラウンド･テーブル③

オンライン留学における学生の負担

筑波大学　国際総合学類3年
西　美乃里

Contents

①精神的負担 ②肉体的負担 **③物理的負担**

オンライン移行期

①精神的負担 **②肉体的負担** ③物理的負担

期末試験

オンライン講義履修中

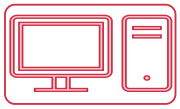
①精神的負担 **②肉体的負担** **③物理的負担**

- 国際総合学類4年次3年
- サンクトペテルブルク国立大学に2019年9月～2020年6月まで交換留学
- 国際関係学部＋言語学部の授業を

オンライン移行期

・授業によりプラットフォームが違い、理解できているか不安
・生徒間のつながりが薄いと、誰に何を聞くべきか分からない
・突然四六時中、外務省＋留学先大学＋筑波大の情報収集に追われる

・情報収集により目や首や肩の負担、眼精疲労＋喚起（寮の部屋）
・通学時間の分を睡眠時間にも充てられる

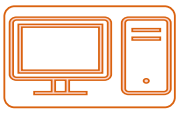


・（帰国後）デスクを新しく購入
・（帰国後）ワークスペースの確保、整理

オンライン講義履修中

・出席が成績に加味されないことから、授業のレベルが周囲に依存
・試験のスケジュールがどうなるのか

・長時間同じ姿勢を保つ辛さ
・通学時間なし＋時差



・アイパッドとPCの併用の方が履修しやすい授業も

期末試験

・やってみるまで形式が定かでない

・レポート課題等、自分のペースで進められる

・試験時の通信環境への不安

総評

・新規留学生だと横のつながりが薄くなりがち

・大学の連絡が全てFBグループ＋個人への連絡は教授のWhatsapp（要電話番号登録）

→授業外の柔軟なサポート体制かつ情報が集約された場所

・ストレスが頭痛や疲労感となって出やすい

＋時差

→授業ごとに時間を決められて助かった

・帰国してすぐ隔離となったため、日本語に触れる時間を減らせた

→ワークスペースや通信環境次第？

小山　正伍

（人文・文化学群人文学類）

極東連邦大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）

2020年7月2日
オンライン留学に関するラウンドテーブル第3回

オンライン授業の負担

人文学類 4 年　小山正伍

目次

- 授業が始まるまで
- 授業の負担(授業開始～GW、GW明け～6月半ば、最近)
- その他の負担（不満）
- まとめ

授業が始まるまで

- 3月26日　帰国。祖父母の家で自主的に隔離生活。
- 4月9日　　自主隔離終了。
- 4月10日　梶山さんからFEFUのオンライン授業を受講できると連絡を受ける。
- 4月17日　授業開始。

授業の負担（授業開始～GW）

- 精神的な負担

→単元の途中だったので内容についていけない

→ビデオでの質問が難しい

- 物理的な負担

→なし

- 肉体的な負担

→なし

授業の負担（GW明け～6月初頭）

- 精神的な負担

→外出できない中で毎日午前授業で息が詰まる

- 物理的な負担

→家族の会社がテレワークになったので、場所の確保に難儀

- 肉体的な負担

→画面を注視する作業が多いので目と肩がつらい

授業の負担（最近）

• 精神的な負担
→授業が9:30〜12:30になり、負担が増加
→今の授業と思い描いていた留学生活のギャップ

• 物理的な負担
→なし。

• 肉体的な負担
→依然目や肩などへの負担が大きい

その他の負担（不満）

• 毎回ビデオオンを要求される。

• 発言のタイミングが掴みづらい。

• 授業が昼時と重なるのでどうしても集中力が切れる。

まとめ

• 基本的にずっと画面を注視しているので、目への負担が大きい

• オンライン独特の間の取り方に慣れづらい

• 授業の快適さは設備に依存している
→充実さえしていれば時間の節約など効率は大幅に良くなる。

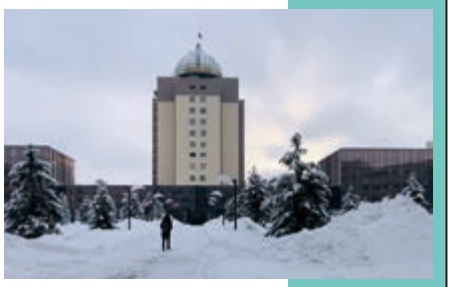
安井　梨乃

（社会・国際学群国際総合学類）

ノヴォシビルスク国立大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）

第三回　７月２日

オンライン留学に対する ラウンドテーブル



安井 梨乃

所属　　：国際総合学類三年次

留学先　：ロシア・ノヴォシビルスク

留学期間：２０２０年２月９日～２０２１年１月３１日（予定）

滞在期間：２０２０年２月９日～３月２３日

３月１７日に隣町で感染者が報告され、ノヴォ大もオンライン授業に移行

その直後に帰国検討のメールを受け帰国
現在は大阪にある実家でオンライン留学中

オンライン授業に変更後の最初の授業は、オンライン授業のオリエンテーションを行い、その次の週から本格的にオンライン授業開始。

オンライン授業による精神的な負担

・授業の移行自体はスムーズだったが、各授業で使用するアプリやサイトなどの整理に手間取った

・授業の後によく質問をしに行っていたが、オンライン授業では先生から先にチャットを退出していくので、あまり多く質問できなかった
授業内では自分一人で色々と質問することに抵抗があった

オンライン授業による肉体的な負担

・課題やリーディングの資料も全てデジタルになったためか
目の疲れを感じるようになった

・運動不足による腰痛

オンライン授業による物理的負担

・実家のWi-fiの調子に波があり、授業に参加できない時もあった
　→先生の理解はあったので出欠に関わると言うことはなかった

・授業のできる環境の確保
　→マイクオンの状態で受ける授業は一人になれる部屋が必要だったが
　　妹と一部屋を共有しているため難しかった

まとめ
　精神的・肉体的な負担はさほどなく、物理的な負担が最も感じられた。
　→実家という環境も影響か

　授業に参加できていないことが精神的負担につながる場合もある。
　負担というよりは、授業を受けている実感が薄れたことが残念だった。

米山　貴文

(文芸・言語専攻博士課程)

モスクワ市立教育大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）

オンライン授業による影響

Влияние онлайн обучения

発表内容(содержание)

01 基本情報

02 精神的影響

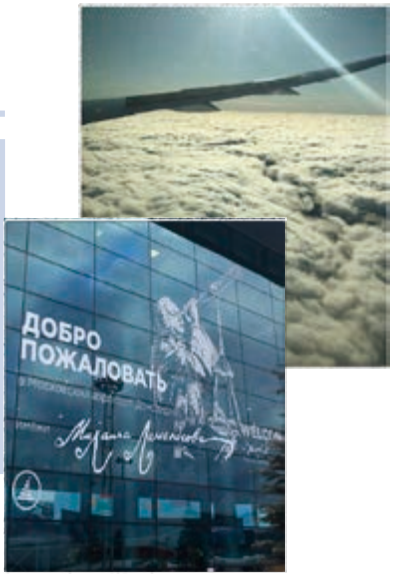
03 肉体的影響

04 物理的影響

01 基本情報

留学先大学：モスクワ市立教育大学
（MOSCOW CITY UNIVERSITY）
使用ツール：Microsoft Teams
クラス
- **人数と国籍：13人程度（中国-8、台湾-4、日本-1）**
- **レベル：上級**
- **方法：直接教授法（ロシア語によるロシア語指導）**
- **所感：しっかりした授業**

宿題：あり
試験：なし



3月	4月	5月	6月
初旬 • モスクワ到着 • 教室での授業 • 自主隔離要請 末ごろ • オンライン授業へ移行 • 非労働期間 • 外出制限	• オンライン授業 • 非労働期間延長 • 外出制限延長	• オンライン授業 • 非労働期間 • 外出制限	• オンライン授業 • 非労働期間段階的に解除 • 外出制限段階的に解除

02
精神的影響

オンライン授業による精神的影響

オンライン授業への移行時に考えたこと

ポジティブ

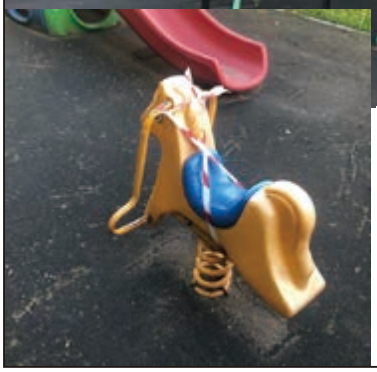
移動の負担がなくなる

部屋で授業が受けれるのは良いことだと思えた。

データ管理が楽になるかも

オンライン化は資料などのデータ化のいい機会になるかもしれないと思った。

オンライン授業への移行時に考えたこと



ネガティブ

作業スペースの問題

自分の部屋だけになると、居住スペースと作業スペースが分けられない。
相部屋の学生もいる。

留学時間が無駄になる

留学期間に部屋に引きこもると留学のメリットがなくなる。

帰国勧告への不安

コロナ禍はすぐに収まるような気配もなく、帰国＝今年は２度とロシアに入国できない。と考え不安に駆られた。

精神面には特に問題はなかった。

理由

- オンライン化を比較的好意的に受け止めていた。
- 作業スペースとして休憩ルームの存在。

- 単位取得、語学学習が留学の主目的ではなかった。
- 外出制限下でも寮では人との交流があった。

- 非常事態で安心した面もあった。

オンライン授業による肉体的影響

03

肉体的負担

オンライン授業による肉体的影響

ポジティブ

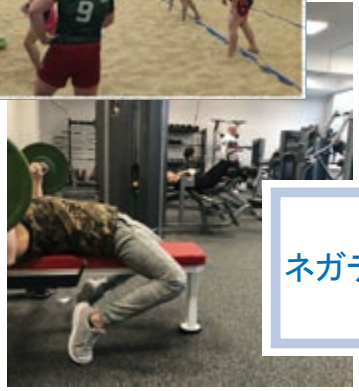
身体的負担の低下

通学や教室移動がなく、身体的負担が減った。

授業中の休憩が容易になった。

授業中でも他者の目を遮断できるので、随時休める。
他社の発表時間など。

オンライン授業による肉体的影響



ネガティブ

集中が続かない

2コマ連続の授業が多く、そのような3時間授業では集中力の低下を感じた。

身体的活動の低下

通学や教室移動がなく、身体的負担が減った。

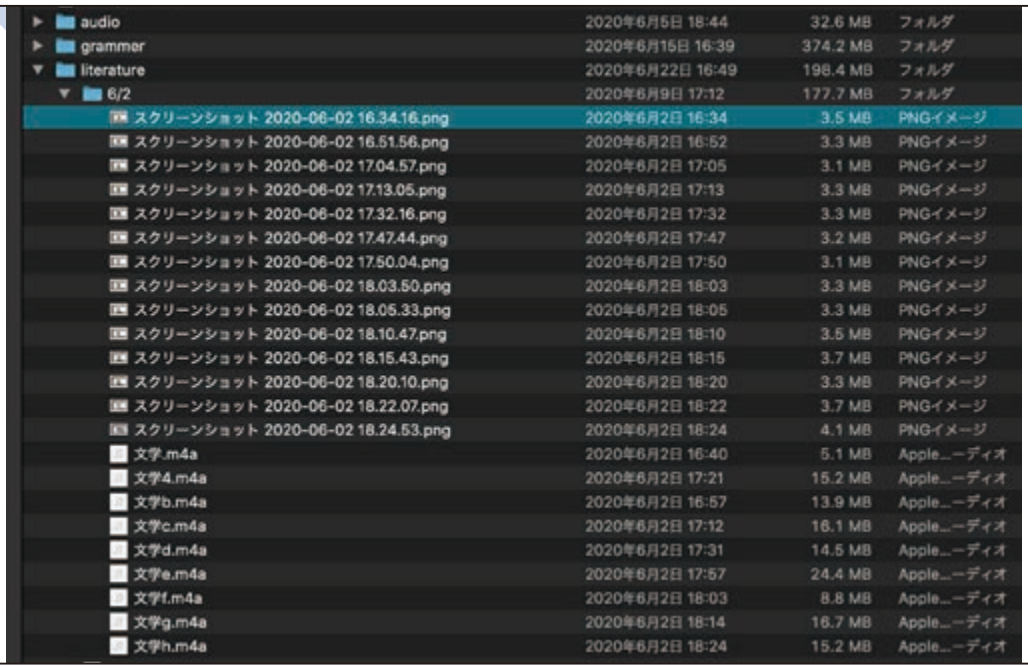
スポーツができなくなった

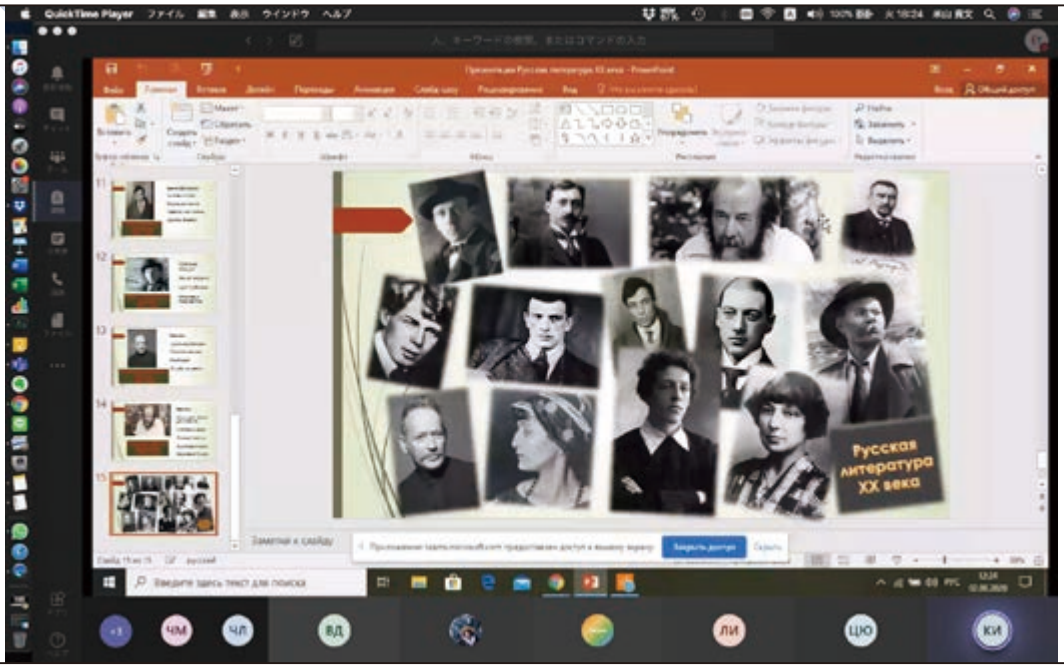
ジム、運動ができなくなった。

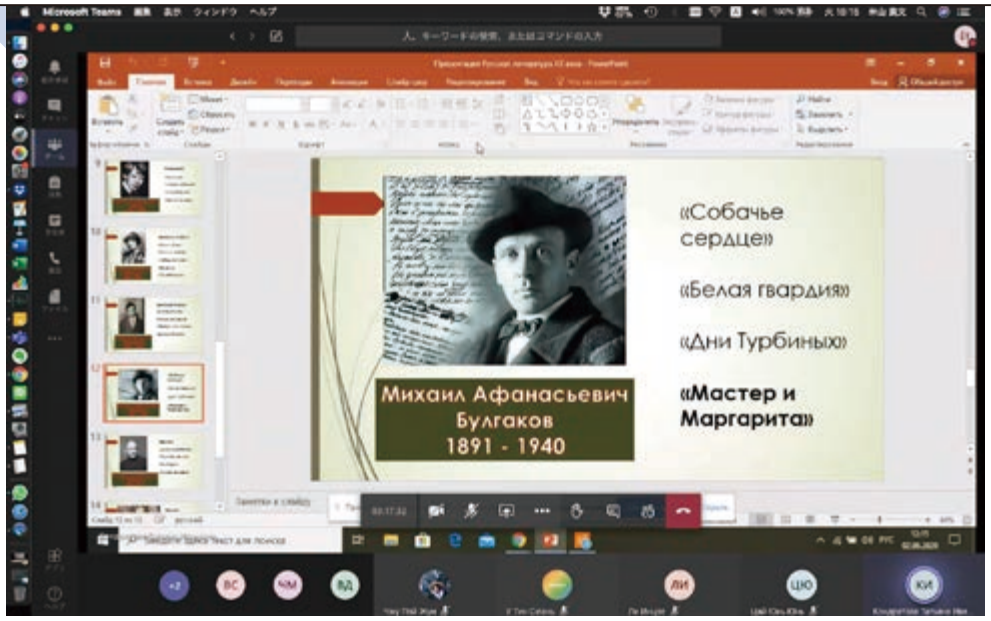
	月(ПН)	火(ВТ)	水(СР)	木(ЧТ)	金(ПТ)
09:00 10:30	文法 Грамматика	文学 Литература			
10:45 12:15	文法 Грамматика	文学 Литература			
13:00 14:30	会話実習 Практика речи	中国語からロシア語への翻訳理論と実践 Теория и практика перевода с китайского языка на ркссkий	文語 Письменная речь	地域学 Страноведение	視聴覚講座 Аудиовизуальный курс
14:45 16:15			文語 Письменная речь		会話実習 Практика речи

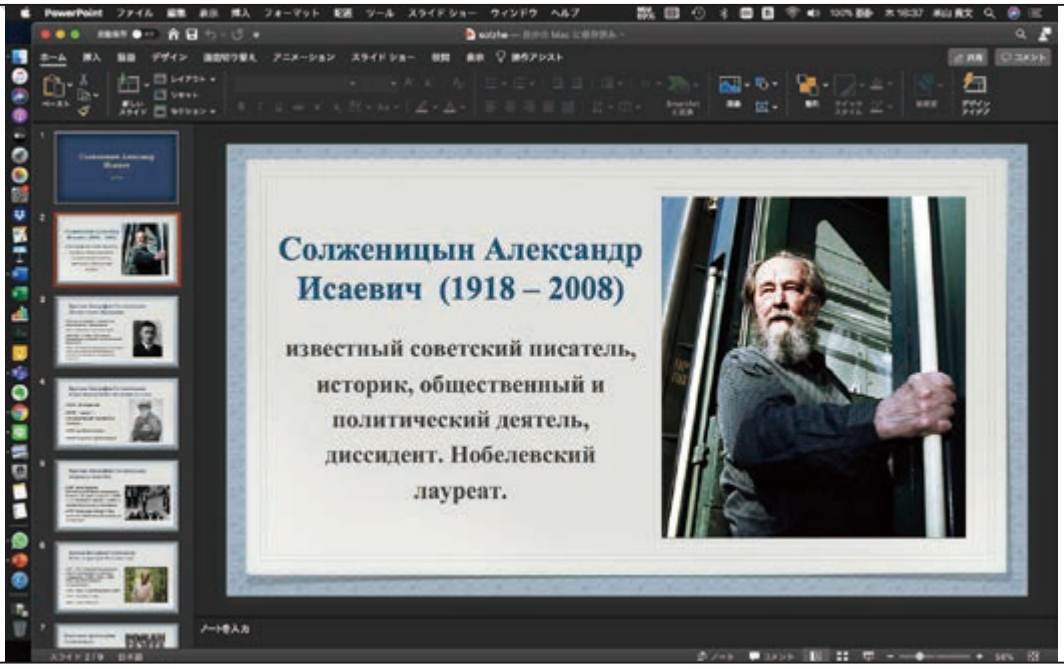
まとめ

- 全体的に運動量は低下した。
- 授業の強度が高ければ集中は続く、反面非常に疲れる。
- 簡単な料理をするようになった。




Русская литература XX века


«Собачье сердце»
«Белая гвардия»
«Дни Турбиных»
«Мастер и Маргарита»
Михаил Афанасьевич Булгаков
1891 - 1940


Солженицын Александр Исаевич (1918 – 2008)
известный советский писатель, историк, общественный и политический деятель, диссидент. Нобелевский лауреат.

04

物理的影響

オンライン授業への対応（物質的）

オンライン授業での使用ツール

mac

基本的にTeams画面を表示、
メインモニター

I pad　keyboard　Apple pencil

教材などを表示、サブモニター
（pdf教材などに直接書き込むノート代わり）

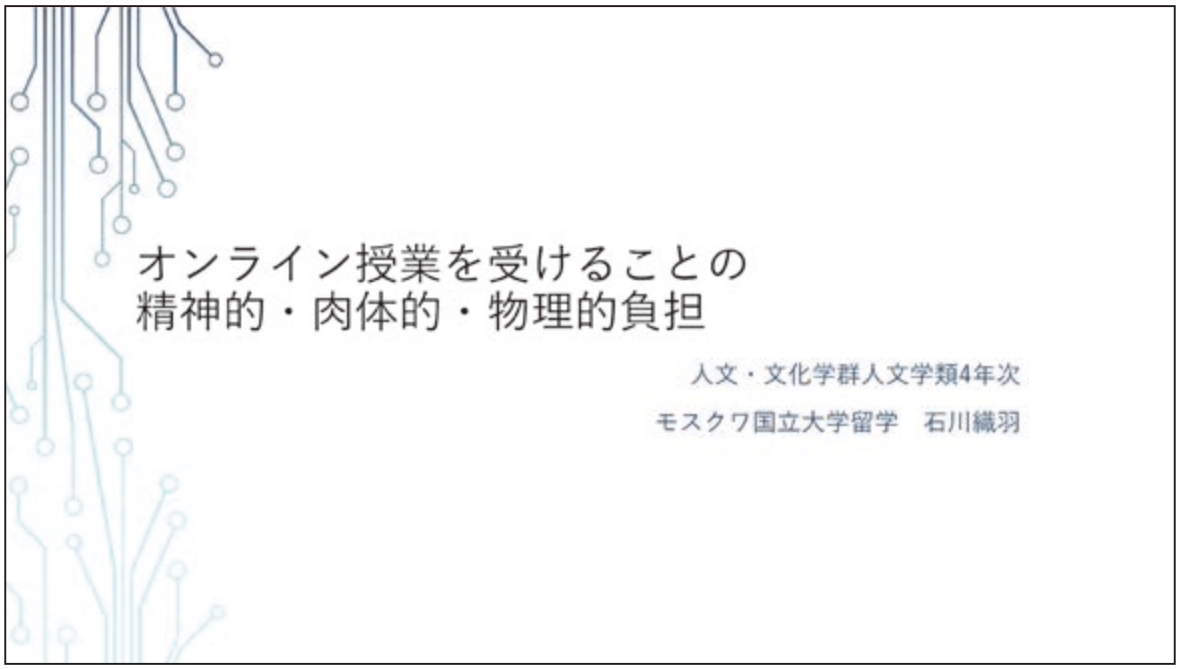
**オンライン化に際して、
機材面での苦労はなかった。**

К О Н Е Ц

石川　織羽

（人文・文化学群人文学類）

モスクワ国立大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）



オンライン授業に移行するまでの流れ

- 3/16　次の日からオンラインに移行するという通達

（正式通達はプレスリリースと教員連絡のみ、自分は留学生グループSNSで知った）

- 3/17　教員会議のため休講
- 3/18　授業開始

連絡はすべて先生からの電話（を、クラスメイトから伝えてもらう）

とてもスピーディだったので特に負担や不安に思うことはなし

精神的負担

- 特になし、楽しく授業を受けられた

肉体的負担

- 時差による負担（モスクワは日本時間－6時間）

以下はすべて日本時間での表記

月曜　15時～18時

火曜　20時40分～24時

水曜　19時～22時

木曜　20時40分～24時

モスクワ時間と日本時間の中間で生活していた；
朝11時くらいに起床、夜3時くらいに就寝

物理的負担

- 住まいは友人とルームシェア、自分の個室はあり
- 勉強するところがなくずっと共用スペースで勉強していた

  →机と椅子を買ったので解決

- PCと周辺機器の問題等はほぼなし

  →同時にSkypeなどを使われると少し回線が重くなる程度

まとめ — なぜ負担が少なかったか

- 授業の雰囲気

  会話の授業、ほぼ雑談のようなものなので和やかだった

- ルームメイトの理解

  遅くまで授業があったが理解を示してくれた

- 「鈍感力」と慣れ

  少しくらい止まったり、聞こえなかったりしてもあまり気にしない

  ずっと画面を見なくても、声さえ聞こえていれば授業は成り立つ

NipCA 主催 筑波大学
「第 4 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル」

第 4 回オンライン留学に関するラウンドテーブル出席者　合計 30 名

発表者（教員）：1 名

人文社会系 助教	土　井　裕　人

発表者（学生）：5 名

ワルシャワ大学 社会・国際学群 国際総合学類	西　川　将太郎
サンクト・ペテルブルグ国立大学 社会・国際学群 国際総合学類	西　　美乃里
極東連邦大学 人文・文化学群 人文学類	小　山　正　伍
ノヴォシビルスク国立大学 社会・国際学群 国際総合学類	安　井　梨　乃
モスクワ市立教育大学 文芸・言語専攻 博士課程	米　山　貴　文

司会者：1 名

NipCA プロジェクト コーディネーター	梶　山　祐　治

討論者：5 名

人文社会系 教授	加　藤　百　合
人文社会系 教授	Boytsov Ivan
人文社会系 教授	久保田　　章
人文社会系 准教授	山　本　祐規子
国際室 助教	笹　山　　啓

総括：1 名

人文社会系 教授	臼　山　利　信

学外聴講者：2 名

日本財団	森　祐次 常務理事
日本・中央アジア友好協会（JACAFA）	ヴルボスキ京子 会長

ほか学内聴講者：15 名

NipCA プロジェクト主催

筑波大学

オンライン留学に関するラウンドテーブル

on-line 座談会

～コロナ禍の困難から見出す新しい教育の可能性～

2020年７月９日（木）16:45～17:45

第一回　オンライン授業形態別（Teams や Skype など）の
　　改善・解決策（６月１９日）
第二回　レポート・小テスト・宿題のやり方
　　－方法と課題（６月２６日）
第三回　オンライン授業を受けることの精神的・肉体的・物理的な負担
　　－何が起きたか・どう解決したか（７月２日）

第四回テーマ
教員から見たオンライン教育

第五回　コロナ収束後のオンライン授業について
　　－オンライン授業の可能性

■ 発表者：人文社会系 助教 土井裕人

■ 討論者：人文社会系 教授 臼山利信，人文社会系 教授 加藤百合，人文社会系 教授 久保田章，
人文社会系 准教授 Boitsov Ivan，人文社会系 准教授 山本祐規子，国際室 助教 笹山啓
ロシア・ポーランドの大学に留学中およびオンライン留学中の筑波大学 学類生・院生
西川 将太郎（社会・国際学群 国際総合学類）：ワルシャワ大学（2019年９月－2020年６月）
石川 織羽 （人文・文化学群 人文学類）：モスクワ国立大学（2019年９月－2020年６月）
西 美乃里 （社会・国際学群 国際総合学類）：サンクト・ペテルブルグ国立大学（2019年９月－2020年６月）
小山 正伍 （人文・文化学群 人文学類）：極東連邦大学（2020年２月－2021年１月）
安井 梨乃 （社会・国際学群 国際総合学類）：ノヴォシビルスク国立大学（2020年２月－2021年１月）
米山 貴文 （文芸・言語専攻 博士課程）：モスクワ市立教育大学（2020年２月－2021年１月）

■ 司　会：NipCA プロジェクトコーディネーター 梶山祐治

聴講参加希望の問合せ：NipCA プロジェクト担当事務室（当日 16:00 まで）
TEL：029-853-4251 / Email：info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web：https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/

主　催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」
協　力：日本・中央アジア友好協会（JACAFA），
筑波大学 グローバルコミュニケーション教育センター社会貢献委員会，グローバル・コモンズ機構，
国際室，学生部学生交流課，スーパーグローバル大学事業推進室，日本留学海外拠点連携推進事業，
人文・文化学群，社会・国際学群

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

梶山　では、本日第４回目となります「オンライン留学に関するラウンドテーブル」を始めたいと思います。本日は、過去の学生の報告を中心とした３回と違って、「教員から見たオンライン教育」をテーマに、先生方の報告が中心となっています。報告に移る前に、プロジェクト実務責任者の臼山先生より、企画の趣旨を説明していただきたいと思います。

臼山　本日は大変ご多忙の中、私どもの主催する「オンライン留学に関するラウンドテーブル」第４回にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

まず、日本財団の森祐次常務理事には、今回もお越しいただきました。ご多忙を極める中、大変にありがとうございます。それから、日本・中央アジア友好協会のヴルボスキ京子会長にもお越しいただきまして、心から御礼を申し上げます。このプロジェクトは、日本財団、日本・中央アジア友好協会、筑波大学の３組織で進めているものですので、筑波大の関係者を代表しまして、この場をお借りして御礼を申し上げました。そして、教職員の皆さま、学生の皆さん、ご参加くださり、本当にありがとうございます。

まず趣旨説明ですが、細かな説明は毎回しておりますので簡単にしたいと思います。これまでは、１回、２回、３回と、学生の側、現在オンライン留学中の筑波大生の側からの、オンライン留学、そしてオンライン授業の実態について、非常に各回のテーマごとに詳細にご報告をしていただきました。これまでは３回にわたって、学生たちの経験・体験に基づいた発表内容について意見交換や議論を行ってきました。今回は、授業を提供する側、教員の側のオンライン授業、オンライン教育についての現状、実態について情報を共有し、また議論していきたいと考えております。

本日のラウンドテーブルを通して、学生の側と教員の側の双方の視点から浮き彫りにされるオンライン教育のメリットとデメリットについて整理します。そして、アフターコロナのオンライン教育の在り方を探るラウンドテーブルにしたいと思っております。

それでは、司会にバトンタッチしたいと思います。お願いします。

梶山　はい。臼山先生、ありがとうございました。それでは本日ははじめに、本学のオンライン授業移行化に大変ご尽力された、人文社会系助教の土井先生に 30 分ほど状況を報告していただきたいと思います。土井先生、よろしくお願いいたします。

土井　ただ今ご紹介にあずかりました、筑波大学人文社会系哲学・思想の土井裕人と申します。今回お声掛けいただきまして、大変光栄に存じます。スライドの枚数が 34 枚ぐらいあって、急ぎながらでいきますが、よろしくお願いいたします。

教員から見たオンライン授業

土井　裕人
（人文社会系哲学・思想）

タイトルとしては、「教員から見たオンライン授業」ということで付けました。

１枚目のスライドは、はじめにということで、ちょっとごあいさつみたいな感じになりますが、今回初めてのオンライン授業で、先生方、学生さんはもちろん、職員の皆さん方も大変だったと思います。最初立ち上げのところから見ておりましたので、開始当初はどうなるかと思ったわけですが、春Ｂモジュールまで、一応、無事終了したのは皆さまのご尽力と犠牲によるものと考えております。

その一方で、もうそろそろ秋学期のことを考えなくてはいけなくなりました。ただ、このまま秋学期もオンライン授業でということをもしやり続けると、恐らくもたないというか、どこかで大事故になるような気がしております。ですので、現時点でのまとめと振り返りをした上で、再検討が必要ではないかと考えています。

２枚目のスライド、大前提としてまず考えておきたいと思うことが、対面授業を行う大学というのは、実は非常に機能的かつ効率的なパッケージというかシステムだったということが、今考えると痛感されるわけです。すなわち、学生から見た場合、教室に行けば自分の授業が受けられる。ある意味、非常に当たり前ですよね。普通の講義室に行けば講義がある、ゼミ室に行けば演習授業がある、実験室に行けば何か実験がある、CALL 教室に行けば語学の何かそういう授業があるというふうに、教室に行けば授業が受けられると。なおかつ、そこに行けば、自分のスイッチの切り替えみたいなのがあって、ちゃんと学修しようというふうになると。これは、ある意味、当たり前すぎて気付かなかったのですが、非常に大きなメリットだったわけですね。

あと、これはよく学生のほうから言われていることではありますが、附属図書館の存在というのがまた非常に大きいわけです。図書館があって、そこが学修や調査の拠点となっている。今、一定の範囲で再開はされていますが、それまでの間、非常に大変だったというのは、先生方も学生の皆さんもよく実感されたことだと思います。

それとともに、対面授業を行うというのは、教員が学生の状況を把握するということでも非常に効率的にできていたというところがあります。学生の側から見ると、授業のために大学に行って、それで友達とちょっと雑談するとか、休み時間に少し話し合うとか、例えば「あのレポート、どうやって材料を探せばいいんだろう」とか、「今、どれぐらい大変かな」みたいなことというのは、学生が対面で会って話せばすぐ分かったことなんですが、それがオンラインになってしまうと、なかなかうまくいきません。

対面授業のときはできていたいろいろな前提があったにもかかわらず、全て崩れた状況でオンライン授業をやっている以上、われわれが困難に直面するというのはある意味当然なことであるというのは、あらためて考えるまでもなく分かることだと思われます。

さて、3 枚目のスライドのように、私が進めてきた主な対応事項は結構たくさんあり、この機会に整理してみました。まずはオンライン授業の立ち上げ、すなわち実施方法、どうやってオンライン授業をやればいいのかという素案を考えて、さらにそれを実行するための教員向けと学生向けのマニュアルの作成を行いました。ここで、CEGLOC の皆さまには、そのマニュアルの英語版作成でいろいろお世話になりまして、私からもあらためて感謝を申し上げます。

あと、私が他に行ったことで、2 の新入生対応というのがあります。これは実は非常に重要でして、新入生は一度も大学に来たことがない、あるいは大学に登校させられない状態で、オンライン授業にいきなり突入するということが起きたわけですね。そんな一度も会っていない新入生に、TWINS や manaba などの ID を配布し、Microsoft Stream や Teams といったオンライン授業で使うシステムの利用を開始させるのを、ちゃんと 4 月 27 日のオンライン授業開始までに間に合わせる。さらにそこには、パソコンであったりとか、ネットワークであったりとか、そういう環境整備の問題も付随してありましたので、これは相当大変でした。

3 はおまけに近いことのですが、業務フローの変更というのも当然行いました。いわゆるテレワークというようなかたちです。オンライン授業とともに、教職員もテレワークということになりました。そうすると、会議とか諸手続きをオンライン化させて対応していくというのが、オンライン授業の対応教員の側の付加的な仕事として積み重なっていくということが起こりました。

さらに、こういうオンライン授業のこととかをいろいろやっていくと、4 でいろんな問い合わせが入ってきます。特にパソコンとかネットワーク、学生のところでは相当たくさん個別対応を、オンライン授業が始まるまで行いました。実際始まったらかなり減ったというのが、よかったというか、助かったところではあります。

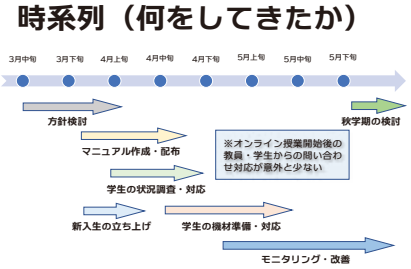
5 枚目のスライド、私自身がどういうオンライン授業をしているかというのを、若干紹介しておきたいと思います。これは補足情報なので省略しながらいきます。講義科目は、「宗教学 -a」という金曜 5 限の科目。これがかなり大変でして、登録 120 名に聴講が 60 人ぐらいいまして、初回は Teams でリアルタイム授業をしました。私はオンデマンド型で録画するというのがどうも性に合わないというか、やりにくいところがあってそうしたのですが、教員側が Teams 会議から追い出されてしまうというトラブルが起こりました。2 回目からは、Stream のリアルタイム配信という、本学では可能だけれどもほとんどどの先生も行っていないスタイルで講義を行っています。ただ、この配信はそのままだと一方的に流しっぱなしになってしまって、学生からのフィードバックができないので、Twitter で質問を受け付けるという、かなり変則的な授業を行っています。

演習科目は、実は今皆さんに見ていただいているように、レーザーポインターを入れたり、書き込みをしながら授業をしています。これは、iPad に Apple Pencil で書き込みながら、さらにそれをウェブカメラ扱いで送出しています。「西洋宗教思想史演習 -a」も「宗教学演習Ⅳ -a」も文献を読むタイプの科目ですが、ただ学生に発表してもらって、それにコメントを入れるのではなくて、読む資料を画面に出し、例えば、この文章はここで切って、ここに括弧を入れて、これは何を指しているかといったことを、実際に書き込みながらやっていきます。それを Teams でリアルタイム配信するわけです。ここに落ち着くまでには紆余曲折というか、本当に毎週、試行錯誤しながら到達しているというところであります。

6 枚目のスライドの写真のように、講義科目を実際に授業する時はこんな感じでやっています。配信用のパソコンがこちらで、手前の黒いものが放送用の機器みたいなものですが、白いボタンで、画面に映す、送り出すソースを選択していきます。ここから右奥のモニターにつながっていまして、今、どれが送出されている、それぞれのソースにどういう画像が来ているみたいなものが見えるような設備を使っています。そして、iPad のほうに自分のスライドを映し出して、これに Apple Pencil で書き込みながら授業を進めます。幸い、学生さんの満足度は結構高いと聞いています。

さて、7 枚目のスライドで、時系列で何をしてきたか、どういうふうにオンライン授業を立ち上げてきたかというのを、大まかに説明します。この後に 10 枚ぐらい、細かい時系列の中で何があったかということが資料としてございますが、そちらは皆さんでお読みいただければというふうに思います。

ある日の授業風景（講義）　6



大体どれぐらいで始まっていたかと言いますと、3 月の中旬ぐらいから、これはもうオンライン授業になるかもしれない、全面的に大学に来られないというまでの想定はしなかったのですが、来られない子も出るだろう、だからオンラインの準備も一部しましょうみたいな感じで始まりました。

3 月下旬になると、これはもう完全にオンラインでいかなくてはいけない、少なくとも、4 月に普通に授業開始はできない、となってきました。そして、10 枚目のスライドのように 4 月 27 日に授業開始となって、さらに、対面授業開始の繰り下げ・後ろ倒しではなくて、全面的なオンライン授業へとどんどん状況が変わっていきました。その中でかなり重要だったのが、一つは、11 枚目にあるよう、マニュアルの作成と配布というところです。それと併せて、学生にパソコンとかネットワーク回線とかがあるかというのを調べてました。4 月 27 日がオンライン授業の開始日だったわけですが、それと相前後して、学生の機材準備、さらに、うまくいかなかった学生の対応などをしてきました。

5 月の上旬の連休明けぐらいで、オンライン授業の立ち上げそのものはそれなりに落ち着いていきます。その後は、例えば課題が多すぎるとか、実際に始めてから分かった問題に対して、モニタリングや改善をしていくということを、その頃に行っていきました。さらに 5 月下旬から 6 月ぐらいからは、秋学期にどういうふうにやっていくかという検討を開始していて、これが今日のラウンドテーブルから今後につながっていくところになるのだと思います。

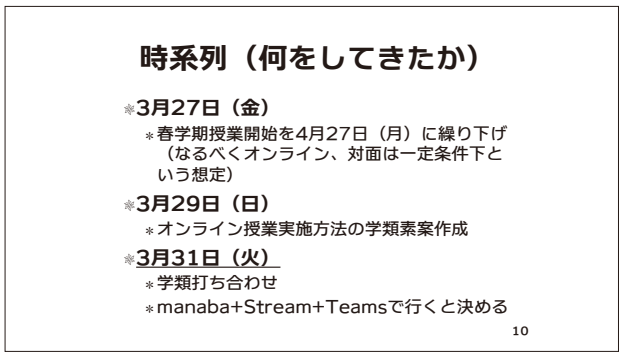
当初予想していたのは、ある種の大混乱が起きるということでした。4 月 27 日以降に、例えば何々がつながらないとか、パソコンが壊れたとか、パソコンが手に入らないとか、そういうようなことでいろいろ悲鳴や問い合わせが殺到するかと思ったのですが、オンライン授業開始後の教員や学生からの問い合わせは、意外と少なかったという感じがしました。もちろん、学生の機材準備・対応のところでは結構あったわけですが、いざ始まってからのところは、実はそこまで多くなかった、予想よりは少なかったという印象です。

ここから先は、重要な日にはスライドに下線が引いてありますので、ここがターニングポイントと私が思う日に絞って、話をしてまいります。

先ほど申し上げたとおり、3 月中旬ぐらいからオンライン授業になる可能性が出てきたわけですが、8 枚目のスライド、3 月上旬ぐらいには、もうそろそろ大学関係の人がたくさん集まるイベントは中止するとか延期するとかオンラインにするとかが出てきて、だんだん 3 月ぐらいから雲行きが怪しくなってきました。

それから徐々に、オンラインでやらなければ、人を大規模に集めるのはできない、数十人であればできるけれども 100 人規模とかだと対面はできないみたいな話が、3 月中旬ぐらいから出てきていたと思います。9 枚目のスライドにある 3 月 24 日ぐらいには、大規模科目、具体的に言うと「学問への誘い」という新入生全員が取る科目ですが、こがオンラインになるという話がありました。私はそれにも関わっていたので、この科目のオンライン化という話が出たときに、これはもう完全に全面オンライン授業になりそうなので、腹をくくってしっかり準備するしかないというふうに、腹が決まったということになります。

10 枚目のスライドにある 3 月 31 日に、私は、担当する人文学類の学類長、カリキュラム委員長の先生方と話をして、春学期どのようにオンライン授業をやるかとなったときに、従来から使っている学修支援システム（LMS：Learning Management System） の manaba と Stream と Teams でいく、これでいこう、これでいけそうだということを決めて、もうその方針でマニュアルを作るとしました。その意味でターニングポイントとなった日が 3 月 31 日でした。



それで、４月１日に大学から文書が出ました。学生に対して実家での待機と、今住んでいるところから動かないよう移動の自粛という要請が出て、だんだん風雲急を告げるという感じになってきました。それで、マニュアルを作り、オンライン授業の準備を順番に進めていったのですが、12 枚目のスライドを説明します。

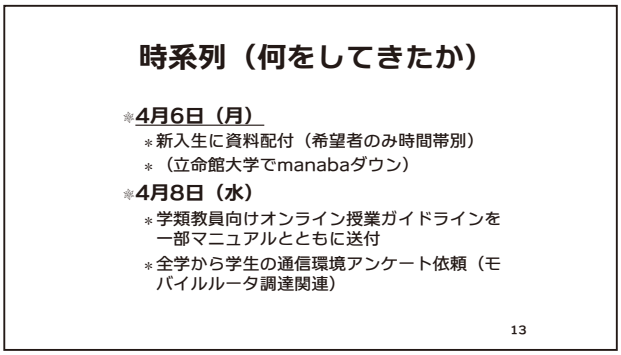
マニュアルの作成そのものは４月の始まった直後にもう開始していたのですが、私にとっては、このマニュアル作成というのがかなり力点を置いていた事項になります。よいマニュアルをなぜ最速で作らなければいけないかと言えば、よいマニュアルを早く流布することによって、全学的に手間とか損失とかいろいろなものを減らせるからです。特に問い合わせを減らせたというところは、まさにマニュアルがよくないと問い合わせが減らないわけです。その意味で、私はマニュアルを作るというのが最重要だとみて実践し、それはうまくいったと考えています。

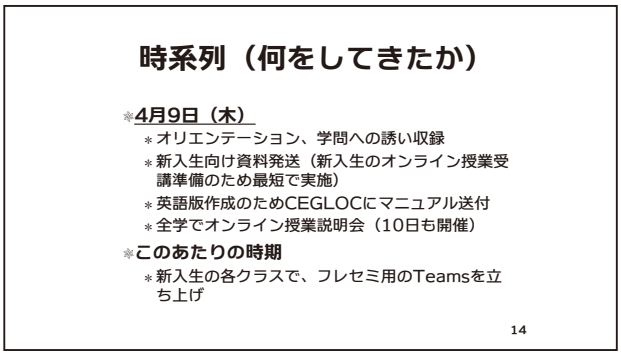
その手間や損失を減らすよいマニュアルというのをどう作るかとなったときには、これまでいろいろやっていたノウハウがあります。まず、全ての手順にスクリーンショットを付ける。すなわち、操作しなければいけないところは全て写真で載っていて、それを見て、そのとおり操作していく。これを一本道で進めていくわけです。そうすると一通りやればできてしまう、そういうマニュアルとして作りました。文字だけではどうしても分からない人はたくさんいますので、それでこういうマニュアルを作ったわけです。

さらに、学類向けに作ったマニュアルではあるのですが、Creative Commons（CC）ライセンスで自由に配布・再利用してくださいということで、学内のいろんなところに共有しました。それで、CEGLOC での英語版や各組織版とかも作成されていったということで、私が受ける問い合わせを減らすという点でもよかったですし、ほかの皆さまにもお役に立てたのかなと考えています。

時系列のほうに戻りますと、スライド 12 枚目の、４月６日、当初この日が入学式だったわけですが、当然中止になりました。段階的に縮小されていって、最後には完全に中止になって、オリエンテーションもオンラインでということになったわけですが、この日、人文学類の新入生で来られる学生には資料を配布しました。ですので、新入生にはこの日までに最低限のマニュアルを作らなければならず、ここまでの時系列で見ると、相当早く動かなければいけなかったというのがお分かりだと思います。

それとともに、この日、ニュースで覚えている方がいらっしゃるかもしれませんが、関西の大規模な私立大学がさっそく授業をオンラインで始めたのですが、manaba がダウンしてしまいました。そのため、manaba などオンライン授業に使用するシステムが筑波大学のような大規模な大学、学生や教職員の多いところで耐えられるのかとかなり心配された時期でもあります。



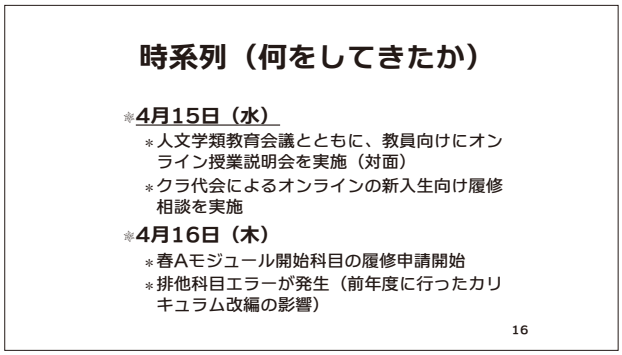


その次のターニングポイントは、スライド 14 枚目の４月９日でした。この日、人文学類の新入生オリエンテーションと、人文・文化学群の「学問への誘い」を収録したり、さらに新入生向けの資料発送をしたり、英語版作成のために CEGLOC にマニュアルをお送りしたり、オンライン授業についての全学の説明会があったりと盛りだくさんでした。しかし、その説明会ではほとんど役に立たない情報ばかりだったので、相当しっかりやらないと４月 27 日の授業開始なんてとてもできやしないというふうに相当危機感を強めました。

このころ、併せて、人文学類では新入生の各クラスでフレッシュマンセミナーの Teams のチームがクラスごとに立ち上がって、クラス担任の先生が、まだ一度も直接対面で会ったことのない新入生の指導が行われはじめたようです。

４月 13、14 日あたりの時期には、もう本格的にオンライン授業の対応準備ということでいろいろ進めていきます。

４月 14 日、ここのところをちょっと補足しますと、やっとこの時期になって、全学レベルでオンライン授業をどういうものにするかという方針が出てきました。それで見て驚いたのですが、映像なしの録音と manaba に資料を上げる、課題を出すというかたちで、基本的にそういうオンデマンド講義に全部するのだという話が出てきました。それを見て私はびっくりしまして、そんな録画も何もない形式で、特に新入生が大学の授業をきちんとと受けられるか、とても内容的な



保証ができないと心配になりました。授業の質を落としてしまうと、その後、全部崩れていってしまうので、できるだけ質を落とさないで、なおかつきちんと４月27日に始めるにはどうすればいいのか、この時期にも危機感を持ったという覚えがあります。

スライド16枚目の４月15日、この日も結構重要な日で、人文学類の教育会議とともに、人文学類の教員向けにオンライン授業の説明会をしました。この日はまだ教員が出校できたので、ぎりぎり対面で行えたわけです。

そして、４月16日に春学期の履修申請が始まります。このときにオンライン授業とは無関係の要因でエラーが出たりとかいろいろあり、４月18日には茨城県にも緊急事態措置が発表されて、それでも何とか４月27日の授業開始を迎えました。その後連休を挟んで５月中旬以降になると、一応は立ち上がったので、出てきた問題点に対してトラブルシュートをしていくというフェーズに入っていきました。６月ぐらいからは、もうその次の、秋学期以降の検討が始まってきているというのが、ここまでのところです。

22枚目のスライド、指摘すべき問題点というのを、ここで挙げたいと思います。これは、全学のほうでやっている先生からはそれだけではないというご指摘をいただきそうですが、末端から見ると、全学の方針が本学のオンライン授業の場合希薄なところがどうしてもあって、現場任せが続いたというのは、かなりまずかったかなと思っています。今回、春学期のオンライン授業が仮に成功と言えたのだとしても、それは現場の教職員や学生が犠牲を払ったからであって、今後、秋学期、そのまま、３分の１の教室定員ではとてもできないから大多数の科目はオンライン継続などとなったときにうまくいくかとなったら、多分それはうまくいかないだろうと。

２つ目に、オンライン授業の使用ツールがある意味成り行きで決まったということがあります。これは、私はかなり深刻なことだと思っていました。manabaというのはもともと筑波大学で利用していました。StreamとTeamsは、本学の場合は、もともとMicrosoft OfficeのWordやPowerPointとかを学生とか教職員が使えるようにする契約の中に、ある意味、偶然に含まれていたようです。それをオンライン授業に使えたけれども、大学によってはMicrosoftと契約はしているが、StreamやTeamsを含めていない契約の大学も、関西の大きな私大のようにったようです。そうすると、StreamやTeamsは本学で契約におそらく意図せず含まれていたから今回何とかなったものの、そうでなかったらオンライン授業は非常に危なかったと思っていました。

実は私は、並行して東大の様子をずっといろいろ見ていました。そうすると、東大はかなり早い時期に全面的に春学期はオンラインでいく、そのオンライン授業をやるため教職員・学生全員にZoomの有償版アカウントを付与するという早い施策を打って、それでうまくオンラインに移行したのではないのかなと見ています。ただ、そのような積極的な対応を、本学は取らなかったようだということです。

さらに３つ目。教員への支援がほぼなかった、あるいは届かなかったということ。これは極めて深刻なことだと思っています。例えば、オンライン授業をするにしても、マイクが足りない、パソコンが足りない、いろんな問題があります。機材の調達、技術支援、教育方法の支援とかが、基本的になかったと。これは、春学期は何とかなったとしても、秋学期以降は非常に大きな問題になるだろうというふうに予想しています。

24枚目のスライドに進みます。オンライン授業というのは、翻って考えてみると、教員にとってどういうメリットがあっただろうと。感染予防は確かに大切なメリットでした。すなわち、筑波大学では、少なくとも今のところCOVID-19の感染者を出していないようで、これは極めて重要であったわけですが、当然どこかでは感染者が出てしまうでしょう。今のところ出さなかった、それで何か大きな混乱とかも起きなかった、これは大事だったわけですが、ほかにあっただろうでしょうか。

出勤しなくても授業ができるというのは、ある意味メリットだったかもしれません。移動しない、学外からでも授業ができる。あるいは、学外の先生を遠路はるばる筑波大学まで来ていただかなくても、ゲストとして呼べる。それはよかったかもしれないですが、必ずしも出勤しなくても授業ができるというのがメリットであるかというと、多少怪しいように思えます。なぜかというと、やはり学修効果の低い授業を半年間してしまうみたいなことがあると、これは当然、後でかえって大変なことになってしまうということがあります。

あえて教員にとってのメリットというのを強がりで言えば、大学で行う教育とは何かということが再検討できたこと。これが、強いて言えばメリットなのかもしれません。少なくとも私にとっては、これだけの探究と試行をしたというのは大き

な経験になったという気がしています。

25 枚目のスライド、教員にとってのデメリット、これは恐らく多すぎたと思います。立ち上げも負担でしたし、実施の負担というのも非常に大きかったと思います。ですから、先生方は、大学に行かなくても済むのだとしても、教室でやったほうがよっぽど楽だったよと思った方は、たくさんいらっしゃると思います。やっぱり教室で対面授業をする方が、圧倒的に「低コスト」です。

あと、身体的負担ですね。学生からもこの指摘が多数出ました。すなわち、目、肩、腰にくると。20 歳前後の学生ですらそうだったら、40、50 のわれわれからしたら、一日中パソコンの前に座ってずっと小さい画面を見ているとか、それは大変に決まっています。

なおかつ、オンライン授業のための準備というのも、大きな負担としてあるわけですね。オンライン授業に対応した教材に修正しなければならないとか、課題の管理とか、いろいろなことをやると、そういう準備を真面目に長時間やればやるほど、体が持たなくなってくると。それは本当に、6 月ぐらいになってから、「ああ、きつかったな」という先生方がたくさんいらっしゃるのではないのかなと思います。

あと、精神的負担。言い方は悪いかもしれないですが、思うような授業ができないという良心の呵責みたいなところが恐らくあったと思います。対面だったらもっとちゃんと学生が満足できる授業ができるのに、オンラインだとこれだけしか伝わらないとか、そういうのは教員にとって非常につらいところがあったのではないでしょうか。

それとともに、やはり学生の提出した課題とかを見ると、これは十分学修効果が出ていないと思う先生方もいらっしゃるのではないかと思います。

26 枚目のスライドですが、それなら学生の側からはどう見えているのでしょうか。すなわち、われわれの行ってきたオンライン授業がどういうふうに学生に伝わっているのか。なおかつ、学生の目線から見て、オンライン授業をこれからどういうふうにしていけばいいのかということを、人類学類で取ったアンケートをご紹介しながら、少しお話ししたいと思います。

人文学類では、オンライン授業の立ち上げと並行して、学生に数回アンケートを実施しております。その都度いろいろ学生の状況とかを把握しましたので、だいぶほかのところよりは情報はあると思います。その一方で、学生にはいろいろなところからアンケート要請が来てしまい、アンケート疲れで「もう嫌だ」みたいなことを言われているそうです。それはともかく、学生からは、オンライン授業への評価というのは差がかなり大きいです。

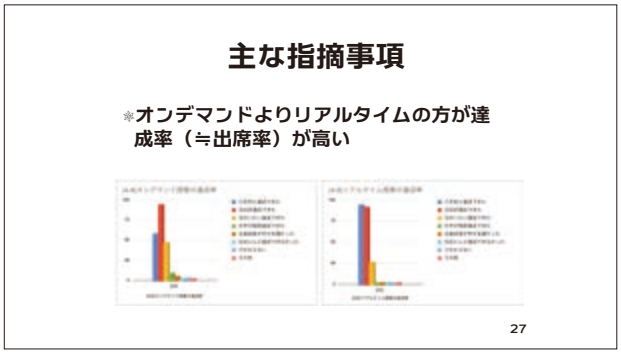
まず、一番われわれとしてありがたいなと思うところは、学生の学修意欲は、本学は全般的に高いです。逆に言えば、これは極めて学生の要求レベルが高いということでもあり、それは教える側にとってはかなり緊張すると言いますか、責任を感じるところでもあります。

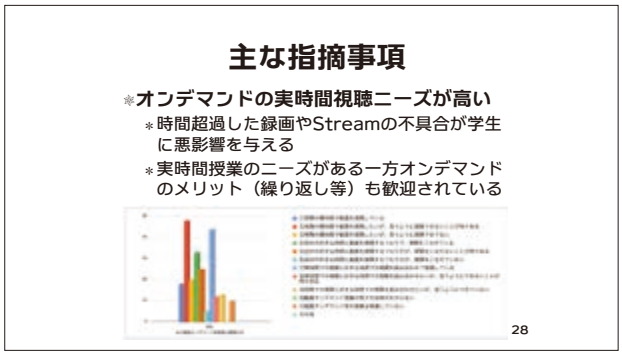
この後で「応答」というのが一つのキーワードになってくるのですが、直接対面でない分だけ、レスポンスがお互いにない、乏しい状態になります。ですので、特に教員が出した課題に対してきちんとフィードバックを返した科目について学生の満足度が高いのですが、それをしなかった科目に関しては満足度が明らかに低いということが起こってきます。つまり、課題が多い、あるいは締め切りが早い、かつ応答しないという科目は、学生からの評価も満足度も低くて、学生の疲労感、疲弊感を上げているというのも見えてきました。

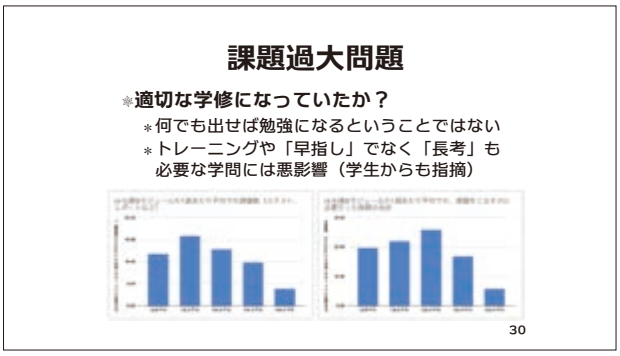
とりわけ、自習型の科目、ワークブックや教科書を自分で読んで、自分で問題を解いて、その課題・宿題だけ manaba に提出しなさいみたいなタイプの科目も一部あったのですが、そういう科目への評価というのもかなり学生からは厳しいものがありました。つまり、授業の作り込みというのを学生はかなりしっかり見ているんだなというのが、私が見てきた感想です。

ここから先、秋学期以降のことも考えるということで、アンケートからポイントになりそうなところをいくつか取り上げます。スライドは 27 枚目です。オンデマンドよりリアルタイムの方が学生の達成率が高いという傾向があります。すなわち、オンデマンドで録音とか録画とかの教材を与えて、それを好きな時間に見て、それで好きな時間に課題をやるようにというのがオンデマンド授業で、リアルタイム授業は、それに対して、月曜 2 限だったら月曜 2 限みたいな時に時間を決めて、その時間に実時間で授業をするというものですが、後者のほうが達成率（≒出席率と解釈します）が高いという傾向があります。

すなわち、どれくらい達成できたか、言ってみれば出席したかということに関しては、オンデマンドの方は左のようなグラフになります。よくできたという側の山が、どうしても低め







になります。それに対して、右のリアルタイムのほうは、やはり、達成度が高いという傾向があります。これは全体で約500名の人文学類生に対して行って、約200名が回答したものです。

28枚目のスライドです。その一方で、オンデマンド授業というと、好きな時間に見られるのだから、例えば朝寝坊の子は夜に見ればいいとか、土日とかにまとめてやればいいとか、われわれは思ってしまいます。すなわち、オンデマンドにすれば利便性が上がるから、学生は助かっているのではないのかというふうに思うわけですが、実際には、実時間視聴のニーズが非常に高いというのが分かりました。すなわち、月曜1限の授業であれば、1限の授業であってもその時間にちゃんと見るわけです。学生からすると、開始時間に取りあえずパソコンとかスマホとかタブレットの前にいればいいのだから、大学に行くよりはよっぽど楽になっていると。それで十分いいということらしいですね。

グラフを見ると分かるのですが、実際の曜時限で動画を視聴しているというニーズが、この①～③の選択肢で、かなり多いことが分かると思います。それとともに、当然、例えば就活があるとかほかの用事があるみたいな学生もいますので、実時間と録画、オンデマンドを組み合わせて見るという学生も結構多いわけです。いずれにしても、オンデマンドであっても実時間で見たいというニーズはかなり高いというのは、注目しておいてよいことだと思います。これはすなわち、75分で収まらない録画であったりとか、Streamが不具合を起こしてその時間にうまく見られないみたいなことが起こると、学生は非常にストレスを感じるということです。

もちろん、こういう実時間授業のニーズがある一方で、例えば繰り返して見ることができるとか、用事が入ったときに、例えば就活とかでどうしようもなくなる学生がいますので、そういう場合にオンデマンドのメリットがあるということも歓迎されていると言えます。

29枚目のスライドです。私はこれは結構重要な指摘だと思っているのですが、オンライン授業が対面授業の成果を上回るということはないという学生の感想が確認できています。すなわち、春学期は非常事態なので、対面並みのクオリティーにはならないけれども仕方ないよねということがある意味通ったわけですけれども、秋学期も継続してしまうと、学生からはそろそろ問題に思われるところがありそうです。すなわち、納得のいく説明と内容をどう担保するか。これは重要なところだと思います。

あとは、30枚目のスライドですが、適切な学修になっていたかという「課題の過大」問題です。課題が非常に多かったということで、平均で15とか20弱ぐらいとかだと思うのですけれども、多い学生では30～50とかいう学生もいたと思います。それに対して、特に土曜授業のことがあって、課題をこなすのに時間がたくさん必要だったわけです。そうすると、ひたすらやっつけ仕事みたいになっていくので、例えば哲学みたいにじっくり考えてほしい学問というのもあるわけですが、そういう学問にとっては、学びを深められないという問題はあったように思われます。

そろそろまとめますが、そうすると、望まれるオンライン授業は何だろうというのを考え、31番と32番のスライドを出してみました。①のようにまず、応答をきちんと行うことが望まれていると言えます。リアルタイム授業であってもオンデマンドであっても、それはどちらでもということです。リアルタイム授業であれば、参加要素として、例えば、今年度、筑波大学ではmanabaの出席機能としてresponというのが追加されました。これは、オンラインで、出席やアンケートを取ったりとかいろんなことができるようになっています。これをやると、学生が授業を聴きながら手を動かすみたいなことが出てくるので、参加意識が強まって学修意欲が上がるみ

たいなことが分かっています。

この応答という点では、特に最後のところが重要で、課題を出すというのは応答をセットにしないと、学生からするとついていけないというのがかなりあるようです。

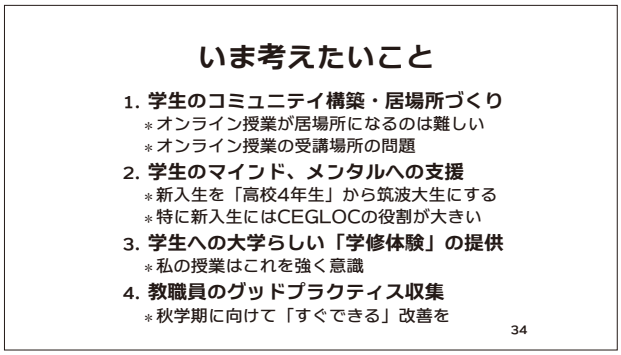
そして、②適切な課題の量と質で、やはり例年並みにするしかないのかなと思います。もちろん、課題をたくさん出せばたくさん学生を勉強させているようで、いいようには思えるわけですけれども、そういうことではありません。例えば、これは野球部で喩えてみたのですが、きちんと指導せず先生がちゃんと見ていないで、「ずっと校庭をランニングしてろ」みたいなことを言っても名選手は生まれてこないわけですよ。たくさんやらせればいいということではない。むしろ適切で合理的な練習をさせる必要があるだろうと。そうすると、授業設計の問題と絡めて、適切な課題の量と質というのは考える必要があるわけです。

③の一定の形式の確保です。例えば、オンデマンドでも授業時間を上限にする。これは、さっき申し上げた実時間視聴の問題があるからです。あと、聞きやすい音質にするために、パソコンの内蔵マイクではなくて外付けマイクを使うとか、あるいは、課題の締め切りまでに一定期間を設けすぐに締め切ってしまわない。例えば、ネットワークの不具合とかがあったときに、すぐ締め切られてしまうと課題を出せないとかになってしまうからです。あとは、動画や資料の公開に一定時間を確保し、すぐに公開停止にしない。こうしたある意味形式面の工夫だけで、学生はかなり満足するのではないかと、私はいろいろアンケートを取って感じました。言い換えると、教育内容や授業内容については教員は皆さんプロですので、形式がしっかりすれば、学生からするとオンライン授業の満足度がかなり上がるということです。

あと、付加的に④の学生の受講環境への配慮というのが必要だと思われます。特に学生は、自宅で受けると、プライベート空間への侵入によるストレスを抱えている子は結構いるようですので、語学系の授業とかだと特にどうするかというのは検討が必要なところと思われます。

今後の２つの可能性については、33 枚目のスライドに挙げましたが、省略します。

最後に、34 枚目のスライドに今考える必要がありそうなことを挙げました。1 つは、学生のコミュニティー構築とか居場所づくりです。オンライン授業が居場所になるというのは、なかなか難しいなと感じました。私の金曜５限の講義に関しては、その授業の中で盛り上がることによって授業がある意味居場所になっているみたいな感想ももらっているんですけれども、これはなかなか難しそうです。そうすると、積極的に学生のコミュニティー構築や居場所づくりというのをしないと、学生の学修意欲というのが痩せ細っていくということが、秋学期に向かって心配されることです。



２つ目に、学生のマインド、メンタルへの支援です。新入生には、高校生の続き、「高校４年生」になってしまっているような学生も見受けられ、きちんと筑波大生にするにはどうすればいいかというのがあります。メンタルへの支援ということで言うと、何か困難を抱えた学生のチェックや洗い出しが難しいところがあります。そうすると、例えば共通の語学の授業に出てこなくなってしまったような学生は、CEGLOC で把握できるところがありますので、新入生には CEGLOC の役割が大きいのではないかと思います。

３つ目、学生にどうやって大学らしい学修体験を提供するか。これは、留学の話で言うと、先週のお話とある意味パラレルなわけですね。留学体験みたいなもの、留学らしさみたいなものがオンラインでは乏しいというのが、問題としてあるわけですけれども、それと同じように、オンライン授業の大学も、ある意味、「大学体験」、大学としてのエクスペリエンスみたいなものが低いという問題があります。そこで学生への大学らしい学修体験をどう提供するか。これは、ちょっとこれから問題になってくるのではないかと思います。

４つ目、やるべきこととして提案したいのが、教職員のグッドプラクティスを収集する。すなわち、秋学期に向けてすぐできる改善というのを、今から考えていってもいいのではないかと思います。

私から、提題としては以上とさせていただければと思います。

梶山　はい。土井先生、ありがとうございました。筑波大学が 1 日ごとにどのようにオンライン授業に移行していったかが分かる、詳細な報告でした。

では、次に Boitsov Ivan 先生、お願いいたします。Boitsov 先生は、３月にロシアに帰国されて、そのまま日本に帰国できずにロシアからオンライン授業をされています。＜ロシア語＞ Иван Арсентьевич, расскажите о проблемах преподавания русского языка.（Boitsov 先生、ロシア語授業の問題について話していただけますか）。

Boitsov　＜ロシア語＞ Уважаемые коллеги, я прежде

всего хочу всех поприветствовать и поблагодарить за приглашение на эту лекцию, потому что тема очень важная и тема очень насущная для сегодняшнего обучения русского языка.

梶山　皆さん、まず最初に皆さんにご挨拶とこの講義にお招きいただいたことの感謝を述べたいと思います。非常に重要なテーマであり、今日のロシア語教育にとって非常に本質的なテーマでもあります。

Boitsov　＜ロシア語＞ Конечно, мы сегодня имеем дело с абсолютно новой моделью обучения, моделью, которая ещё очень слабо изучена в Японской, в мировой, в Российской лингвистике. Эта новая модель обучения, которая вошла в нашу жизнь, вошла очень неожиданно и многие преподаватели, большинство, оказались не совсем готовы к работе в дистанционном обучении.

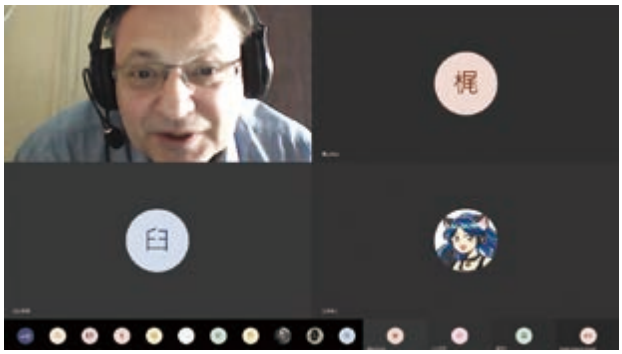
梶山　もちろん、私たちが現在問題にしているのは、完全に新しい教育のモデル、日本、世界、ロシアの言語学においても弱々しい教育モデルです。これは私たちの生活に入ってきた、それもまったく予期せず入ってきた新しい教育のモデルで、多くの、教員のほとんどは遠隔教育にまったく準備できていないことが明らかになりました。

Boitsov　＜ロシア語＞ У меня мало времени, поэтому я назову только основные проблемы преподавателей-практиков, которые работают непосредственно в дистанционном обучении сегодня с японскими студентами.

梶山　あまり準備する時間がなかったので、日本人学生に現在遠隔教育を直接行なっている経験を持つ教員の、根本的な問題に限ってお話しします。

Boitsov　＜ロシア語＞ Первое, о чем я хотел бы сказать, это очень сильная сенсорная утомляемость студентов, которая призывает преподавателей постоянно менять формы обучения на уроке по иностранному языку. Очень быстро наступает сенсорная утомляемость.

梶山　最初に申し上げたいのは、これは学生の感覚器官に非常な疲弊をもたらす、ということです。教える側が外国語の学習フォームを常に変えるため、感覚器官がとても急速に疲弊します。



Boitsov　＜ロシア語＞ Сегодня в современной методике преподавания иностранных языков уже достаточно хорошо разработаны проблемы дистанционного преподавания разговорной речи, аудирования, грамматики и чтения. Но, к сожалению, очень мало материалов по обучению дистанционно фонетики иностранных языков и письму, в частности, сочинению (composition).

梶山　今日の外国語教育の現代的な方法論は、会話、聴講、文法や講読の遠隔教育の問題はすでに十分に研究されています。しかし、残念ながら、外国語の音声学と書法、とりわけ作文 (composition) の資料は非常に少ないです。

Boitsov　＜ロシア語＞ Фонетика подразумевает прямой контакт со слушателями, глаза в глаза, рот в рот, нос в нос, студенты повторяют за преподавателем правильные звуки, преподаватель делает всё, чтобы у студентов получилось произнести тот или иной звук. Дистанционное обучение лишает этой возможности и преподавателей и студентов.

梶山　音声学は聴く人間が直接接して、口の動きが分かるよう、目と目を見て、鼻もくっつく距離で、学生たちが教師の正しい音を繰り返すことが求められます。教師は学生があれこれ発音できるよう、様々に試みます。遠隔教育はこうした可能性を教師からも学生からも奪います。

Boitsov　＜ロシア語＞ Кроме этого проблема очень большая с письмом. Письму можно обучать в классе, письму можно обучать способом домашнего задания, но обучать правильным формам официальных документов очень сложно. Также мы не всегда понимаем, достаточно ли хорошо студенты понимают те презентации, которые мы готовим для них: картинки, изображения, плакаты, учебные видеофильмы. Нет обратного контакта.

梶山　書法にも大きな問題があります。書法は教室で学ぶことができるし、宿題を用いて学ぶこともできますが、公式な文書の正しいかたちを学ぶことは非常に難しいです。われわれ教員は学生のために、絵、イメージ、ポスターや学習ビデオなどでパワーポイントを準備するわけですが、それが十分理解されているかはいつも分かりません。反対側からの接触はないのです。

Boitsov　＜ロシア語＞ Очень большая проблема, это преподавание любого иностранного языка дистанционно студентам-инвалидам. Мы не видим их лица, они не открывают свои лица, они мало разговаривают, мало

выходят на контакт, плохо делают домашние задания; методика контроля не разработана в работе с инвалидами.

梶山　どんな外国語であれ、遠隔教育の非常に大きな問題に、障がいある学生の遠隔教育があります。学生の顔は見えず、彼らは顔を見せようとしません。喋ることも少なく、コンタクトを取ろうとしない、宿題もしない。障がいある学生に対しての統制方法はまだ十分研究されていません。

Boitsov　＜ロシア語＞И ещё я хотел бы обратить внимание, что очень большой проблемой является домашнее задание, которое в дистанционной форме мы даём японским студентам. Они могут прислать его по почте, но у меня посылают домашнее задание только 15% учащихся.

梶山　さらに注目していただきたい非常に大きな問題は、日本人学生に行っている遠隔授業での宿題です。E メールで送ることができるのですが、私の元へ届くのは学習者のわずか15%です。

Boitsov　＜ロシア語＞И конечно проблема экзамена, экзаменационная сессия это очень сложная проблема, мы первый раз будем иметь дело с дистанционным экзаменом, как его проводить, устная часть, письменная часть, тест должны быть совмещены, быть проведены вместе, и должна быть поставлена общая оценка.

梶山　そしてもちろん試験の問題があります。試験期間は非常に難しい問題です。私たちは初めて遠隔で試験を行うことになり、どう実行するか、口述試験と筆記試験があり、テストは一緒にする、ともに実施され、共通の評価をつけなければなりません。

Boitsov　＜ロシア語＞Ну и последнее, что я хотел сказать, не всё в дистанционном образовании плохо и трудно, эта форма, которая активно пропагандируется сейчас при изучении иностранных языков, и большим преимуществом этой формы является возможность записи студентов на видео урока и многократного просмотра этого фильма-урока дома в выходные, когда есть свободное время - это очень помогает обучению.

梶山　最後に私が申し上げたいことは、遠隔教育の全てが悪く困難なわけではない、ということです。この形式は現在外国語学習に積極的に喧伝されていますが、この形式の大きな長所は、学生が授業をビデオに録画できる可能性があり、休みの日に家で授業の録画を何度も見返すことで、自由な時間に使えれば、学習の大きな助けとなることにあります。

Boitsov　＜ロシア語＞Спасибо большое за внимание.

梶山　ご清聴、ありがとうございました。

＜ロシア語やりとり＞

梶山　それでは、続けて、本学のロシア語授業サポートをしていただいておりました国際室助教の笹山先生から、本学のロシア語授業を別の視点から補足していただこうと思います。

笹山　はい。ご紹介にあずかりました、国際室助教の笹山と申します。大変時間も押しているかと思いますので、今の Boitsov 先生のお話を受けて、手短に私のほうからお話をしたいと思います。

Boitsov 先生の授業は、週に 10 コマ以上あったかと思います。その中で私が主に補助をしておりましたのは、基礎ロシア語といいまして、1 年生の授業です。初学者ですね。上の学年も少し混ざってはいたんですけれども、1 年生の授業が多かった。なので、ロシア語のアルファベットすら知らないという学生さんがほとんどの授業で、大変 Boitsov 先生はご苦労なさっていたということなわけです。

Boitsov 先生もおっしゃっていましたが、特に語学学習、初学者の語学学習というのは、かなり肉体的な訓練というものを伴うものだと思います。要するに、発音ですとか、あるいは書くですとか、そういった訓練というのは、かなり筋トレのようなものと言ったら言い過ぎかもしれませんが、そういった肉体的なトレーニングというものを積み重ねていくことで、体で覚えていくものだと思うんですね。そういったものをオンライン授業で、特に十数人の 1 年生がいる授業で円滑に進めていくというのは、確かに非常な困難が伴うのだろうなということは、私も横で補助をしながら大変痛感していたところでございます。

私が、授業中、チャットで、例えば学生たちに「ここはこういうことを言っているんだよ」とか「ここはロシア語のこういう文法事項なんだよ」というのを補助するんですが、やはり 1 年生ですので、全く知らない言語をやっているというところで大変苦労していて、今もかなり「理解できない」といった悲鳴が上がっている部分もなくはないです。大変よくできる学生もいらっしゃいます。なので、そこの辺の差がちょっとついているのかなと。要するに、横の学生と手伝い合って、今、何ページのどこをやっているんだろうとか、そういった雰囲気を感じ取って肉体的に訓練を積み重ねていくといったことも、現在の学習では難しい。Zoom ですとか Teams で、一見数十人で一緒に授業しているように見えるけれども、実は 1 人で部屋でやっているわけですので、そういった協働、助け合いというのが難しいというのは、Boitsov 先生もそうですし、学生さんたちの側もちょっと痛感しているところなのかな。そういった肉体的に空間を共有していないというところ

が、基礎語学学習についてはかなり大きく響いているのかなというところは、今、Boitsov 先生のお話を伺って感じたところです。こんなところでいかがでしょうか。

梶山　はい、ありがとうございます。それでは、次に、人文社会系教授の加藤先生、いかがでしょうか。

加藤　はい、人文社会系の加藤です。私は三つの形態に分けて少しずつお話ししたいんですが、自分が担当している講義形式のもの、それから、セミナーサイズの大学院のゼミとか講読系の授業、そして、初修外国語、ロシア語授業。ちょっとタイプが違うと思うので、触れてみたいと思います。

まず、講義、100 名とか大人数で教養的な講義をするというものですが、これは完全オンデマンドで行いました。ですから、1 時間以上分ぐらいの視聴覚教材を前もって完全に作る、毎週それを 2 コマ分以上作り続けてきたことで、授業準備と教材作成は時間がかかるし大変だというのは当然なのですが、それに当たって技術的な問題もございました。

というのは、パワポに音声を付けるとか、動画を自撮りしてそれを上げるとか、そういった今までやったことがないことを短期間で習得しながらやらなければいけないということと、それから、それを学生に渡すときに、ポータルなどに上げるときに、ポータルに非常に小さい容量でしか上がらないということで、それを今度は切り刻んで細かく上げていくということにも、また別個の技術的問題がありました。

それから、大規模な講義が、非常勤で行っていた大学で何コマかあったものですから、動画を上げるのに Teams が使えないという大きな問題があって、Teams じゃないかたちでいかに動画を視聴してもらうのかということで、非常に技術的試行錯誤が大変でした。こういう意味で、もう少し技術的なサポートがあったらよかったなということを思いました。ただ、学生側からの満足度は、今のところ、結構高い模様です。

それから、2 番目に、もう少し小規模な、セミナーサイズの大学院のゼミであるとか講読系の授業ですが、こちらはもう今年は考え方を変えまして、ポータル、筑波大学で言えば manaba を大きく活用するというかたちに授業形式を変えてみました。これは、それなりに効果はあります。しかし、全てのことを文章に書いてやりとりすることになりますので。それから、調べるといったようなこととか。ですから、学生の側には課題をやる、そして教員側には課題をチェックしたりフィードバックしていくということで、それぞれかなり大変なことは大変で、効果はあるけれども、1 週間に 1 コマぐらいこの授業があるのであればそれなりによいかなという感じですが、1 年生であるとか、そういう授業がたくさんあるという人には、かなり負担が大きいかなという印象です。

最後に初修語学、ロシア語の授業ですが、こちらはどうしても語学の授業という性質上、対面というか、オンタイムの授業要素を取り入れることは必須というふうに考えます。ただし、非常に疲労感が多いですし、技術的な、接続の問題もありますので、最初、パワポとか、また音声を付けたパワポとか、いろんなかたちでのオンデマンドコンテンツを上げておくということは必要であると。

ただ、少しずつ細かい工夫は重ねていますので、今のところ、次第に問題は減ってはきています。授業時間の途中から入って、最後の 30 分間をオンタイムでやるというふうにしています。こちらはつけていて、学生が一人一人ばらばらと入ってくるたびに声を掛けて、「Здравствуйте、こんにちは」とか、「元気ですか」とか、一人一人とコンタクトするようにしています。そうすると、学生は、あいさつするためにマイクをオンにしてみる。その時に、その日のマイクの調子とかをついでにチェックできるという利点もありますし、学生も、出席しているということが私に伝わっているという実感を持って授業に入っております。

それから、オンデマンドで上げているコンテンツの解説、それから、Boitsov 先生がペアで行ってくださっている授業についての補足説明などをオンタイムで行って、可能であればちょっと先へ行くということになります。なるべく顔がお互いに見えているのを利用して反復練習を行うように、それから、家でどういう反復練習を行うかということの確認を取って、約束し合って終わるというふうにしています。

ぱらぱらと接続などで落ちてしまう学生が出てきますので、オンタイムの授業なんですが、危機管理としてはオンデマンドコンテンツというのを、それだけでも何とか最低限の情報が伝わり、学習効果が上がるようなものを、保証として付けていく必要はあるなと考えています。こんなところでしょうか。

梶山　はい、ありがとうございます。それでは、続いて人文社会系教授の久保田先生、よろしいでしょうか。

久保田　はい。人文社会系の久保田です。まず、私が担当している授業について、簡単にご説明します。CEGLOC では、英語の授業ですね、「English Presentation」という授業を持っております。それから、人文学類では応用言語学関係、教職科目で英語科教育法関連の授業があります。そして、大学院では英語教育学関係ということになっております。大学院のほうは少人数ですので、Teams を使いまして、演習形式で実施しています。直接顔は合わせませんが、内容的には対面と同じようになっていると思います。

CEGLOC の授業と、それから学類の授業に関しましては、当初はちょっと意気込んで、対面授業を再現するというよりは、オンライン授業でなければできないことはないだろうか

と思い、いろいろ検討してみました。が、技術的な面、知識の面、かなり負担になりそうだということもありましたし、大学で、先ほどもご説明がありましたけれども、オンデマンド型で教材を載せておくというのが基本的な路線だということもありました。それから、載せられるファイルの容量もかなり制限されるというような話もありましたので、取りあえず、最低限できることから始めようということで、始めました。

基本的な授業の構成としては、はじめのところで疑問なり問題提起をして、まず各自で考えてもらいます。次に、現在自分が知っていること、あるいは考えていることを確認した上で、映像を見てもらうことにしました。一つ、オンライン授業について考えたのは、積極的にウェブ上の英語のリソースを活用することです。特にというか、幸いというか、私の関係している分野、英語にしても応用言語学関係にしても、授業のトピックに合うような YouTube などの動画は非常に豊富にあります。その中から、授業に見合う、もちろん内容と、それから時間ですね。5 分から、長くても 8 分くらいのものを探して、教材として URL を指定して、そこで学生さんに見てもらい、そして課題に答えてもらうという形にしました。

そして、その課題を提出してもらうのは、原則、その授業時間内にしました。もちろん、時間的に多少の余裕をみて、休み時間にまで提出可能ということにしましたが。それから、ビデオが長い場合には翌日とか、あるいは、少し重い課題の場合には 1 週間後とか、そういう配慮はしましたけれども、通常は、1 時間の中で完了できる課題であろうと想定してやってもらいました。

今日の話題でありますメリット、デメリットに参ります。印象にはなりますけれども、通常の授業ですと、教科書がある場合は、教科書がある程度中心になるかと思います。今回、むしろ教科書は副教材的で、教科書をきちんと読み込んで予習をして、そしてビデオを見る。ビデオは全て英語でしたので、ある程度日本語で内容が分かっていないと、ぱっと見てビデオの内容を即座に理解するというのは少し難しいかもしれない、その分きちんと教科書を読み込んで授業に参加してくださいと伝えておきました。

ですから、その位置付けみたいなものが、少し通常の授業と変わったということがあります。メリットとしては、やはり一つ一つのビデオの理解について、学生個人個人が何回聞くとか、どこの部分をきちんと見直すとか、タイムマネジメントも含んで、そういうことを自分で決定しなくてはいけなかったということがあります。それから、もちろん問題意識を持って見るということもありますし、必要に応じて繰り返して見るということもできたわけです。普通、授業で同じものを 3 回繰り返して見せるなどということはなかなかできませんので、そういう意味では、これは学生が主体的に課題に取り組む自己調整学習の一つのきっかけになったのではないかなと感じております。

デメリットとしましては、やはり教員個人個人、私個人のと言ったほうがいいのかもしれませんが、ICT の技術とか能力とかということが授業に直接反映されるということがあろうかと思います。先般も、所属する学会でそういう関係の授業というのを見る機会がありましたが、やはり、たけている人は次々いろんな機能を駆使して、学生を飽きさせないようにして、それはリアルタイムの授業ですけれども、やっておられましたね。

もちろん、こちらが一番いいと思ってやっても、学生さんにとってベストかどうか、本当に効果的かどうか、というのはなかなか分からないところもありますが、技術的な面が、ある意味、授業の質などに影響を与えることもあろうかと思っております。

それから、やはり精神的・肉体的な問題というのは、皆さんが指摘されているところです。私などは早々と目に支障が出てきたりしていますが、フィードバックのための解説を文字で付け加えたりしているものですから、かなりそれがハードになっています。簡単ですが、以上です。

梶山　はい。久保田先生、ありがとうございます。普段の授業ではビデオを 3 回繰り返して見せることは出来ないが、オンラインでは可能になる。それは、学生が主体的に課題に取り組む自己調整学習の一つのきっかけになったのではないか、というお話が印象的でした。それでは、臼山先生、どうでしょうか。

臼山　はい。どうもありがとうございました。メリットとデメリットについて、先生方がいろいろなご指摘をした後なので、私のほうからは特に付け加えることはありません。少し話が横に逸れてしまうかもしれませんが、特に土井先生のご発表内容には、本当に共感することが多々ありました。やはり学生にとっても、今回の初めてのコロナ禍の中でのオンライン授業の体験というのは、授業を提供する教員の側もまったく同じで、教員のほとんど全ての先生方に大きな精神的・肉体的負担があったのではないかと思います。私自身も本当に大きなストレスでした。ストレス以外の何物でもなかったと言えると思います

その理由は、やはり授業の準備に膨大な時間とエネルギーを使うということですね。音声教材を作るにしても、既存の教材を切り分けて、例えば PDF にする作業にしても、私のもとでいろいろとサポートしてくれている非常勤研究員の人とか、あるいは同僚の先生方と力を合わせながらオンライン授業を準備し行ったわけですが、そういった教員同士の

助け合いがなければ、とても乗り越えられるものではありませんでした。

土井先生のご発表にありましたが、オンライン授業をすることで、対面授業のよさがあらためて感じられたといいますか、これまでとりわけ意識することもなく普通に対面授業をしていたことがいかに恵まれていて、いかに教育効果の高い活動であったのかということを、私自身がこのオンライン授業を通して率直に感じました。

私は、情報プアといいますか、ICT とかパソコンを使った、新しい時代のコミュニケーション機器を使った教育活動というのは、あまり得意ではないし、むしろ弱いほうなので、今回は、本当に全面オンラインということで、対応できなかったらどうしようかと精神的に追い詰められました。この未曾有の変化に対応できなければ授業そのものが成立しませんので、オンラインでも良いし対面でも良い、対面中心に一部オンラインとか、そういうハイブリッドな選択がなく、二者択一ということでしたので、4 月 1 日にオンラインの全面実施という事態に至ったときには、本当にこの変化に真正面から挑む覚悟を決めました。

わたしの担当する教育組織では、土井裕人先生のような救世主がいましたので、人文学類のみならず、CEGLOC も土井先生の作成した、Teams を使ったオンライン授業マニュアルに助けられました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

それから、オンライン授業というのは、きめ細やかに取り組めば取り組むほど、授業の準備時間がどんどん膨れ上がっていきますので、体も心もかなり参っていくという指摘は、まったくそのとおりだと思います。授業以外の学内の運営業務であるとか、大学院生の博士論文の指導だとか、修士論文の指導だとか、こうした活動と同時並行で、オンライン授業の準備をするというのは、わたし自身も本当にきついと感じました。土曜日、日曜日は休みたいんですけれども、春学期は土曜日にもほぼ毎週授業がありますから、正直、根を上げそうになりました。

いずれにしても、教員にとってかなりの試練だったわけですが、何とか乗り切ることができ、わたし自身もオンライン授業にようやく慣れてきました。わたしの担当する授業の学生たち、特に 1 年生たちは、当初は疲労困憊の表情だったのですが、最近はようやく慣れて落ち着いてきた感があります。

最後に、オンライン授業という新しい教育形態が、今回の教育体験を通して自分たちのものになっていくことは間違いないと思います。来年度以降の教育形態にオンライン授業をどのように生かすのかという点について、これから考えていきたいと思っているところです。

少しまとまりのない話になってしまいましたが、私のほうは以上です。

梶山　はい、ありがとうございます。それでは、プロジェクト専任教員の山本先生、簡単にコメントをいただけますでしょうか。

山本　はい、発表者の先生方、ありがとうございました。このオンライン授業を通じて、試行錯誤されながらご尽力されていた先生方のお話、とても参考になり、また感銘を受けつつ拝聴いたしました。

Boitsov 先生が耳や目などに障がいがある学生に対する、オンラインで教育活動の難しさというお話をされていましたが、いわゆるインクルーシブ教育をオンライン教育でどのように考え、実施していくのかというのは、とても大切な課題だと思います。例えば今の例であげた身体的に不利な状況にある学生だけでなく、インフラの状況ですとか、IT リテラシーというものが低い学生が不利にならないような教育活動というのをどのように実践していくかという課題を、今後、もっと議論して考えていかなくてはいけだろうと強く思いました。

それから、もう 1 点、土井先生のすばらしい発表を聞いての質問になりますが、私自身は先月筑波大学に着任したばかりで、今学期の初め、学内の授業が全面的にオンラインに移行するというプロセスを経験しないんですね。ある意味、大学が一斉に行っていた研修やガイドラインへのアクセス、そういった支援に完全に乗り遅れているわけです。秋学期から初めてオンライン授業を準備し、実施し、評価していかなくてはならず、私自身、非常に不安が大きい状態です。

今日の土井先生のプレゼンを拝聴して、Apple Pencil で書き込みながら素晴らしいプレゼンをしてらっしゃって非常に刺激を受けたんですが、自分の持っている機材やスキル考えると、では、私はどんなプレゼンを作ることができるのだろう、と率直に考えるわけですね。そうなると、やはり土井先生が持っていらっしゃったような編集スタジオのような機材をそろえなくては、満足できる授業が作れないんじゃないかというような懸念も出てくるわけです。学生のほうも、オンラインの授業をいくつか受ける中で、教員のテクノロジーレベルをダイレクトに比較して、直感的に評価してくるという部分があると思います。

先生の発表の中でも、一定の授業形式の確保、教員への支援というのが今後の課題であるというお話がありましたが、その点に関して、具体的にどういった対応が可能であるとお考えなのかなと思いました。私からは以上です。

梶山　はい。山本先生、着任されたばかりですが、客観的な立場からのコメントありがとうございました。時間もだいぶ

押しているのですが、このラウンドテーブルは学生が主役ですので、本日は３名の学生しか参加されていないんですが、小山さん、安井さん、米山さん、もしよろしければ、教員の報告を聴いての感想などあれば、ぜひお話ししていただきたいと思います。いかがでしょうか。

安井　こんにちは。国際総合学類３年の安井と申します。先生方のお話をお聴きして、やはり学生と先生方の間では違う苦労といいますか、相互に問題が多く発生していたのだなというふうに考えていたんですが、個人的には、オンライン教育での語学学習というのは、生徒の数が少ない少人数教育でしたら……、私個人としては、ロシア留学での向こうの先生とのやりとりだけではありましたが、２人ですとか３人しか参加しない授業でありましたら、かなり行き届いた授業になっていたと思いますので、少人数での語学学習には、かなりオンライン教育というのは適しているのではないかなと思いました。ただ、大学での授業では、やはり人数が多くなってきますので、そのあたりかなり難しいと感じました。

梶山　はい。安井さん、ありがとうございます。続いて、小山さん、手を挙げておられたので、いかがでしょうか。

小山　はい。人文学類４年の小山と申します。先生方から非常に面白い話を聴けて、僕としては非常に満足しております。ありがとうございました。

一つ疑問に思ったのは、土井先生から、対面授業の大学というのが機能的なパッケージで、大学の教育活動を行う上ではすごく効率的だという話があったんですが、オンライン授業が対面授業に匹敵しづらいという状況の中で、このオンライン授業をしなければいけない現状というか……、教員の方々からしたら、オンライン授業というものを、COVID-19が収まってからも使えるような新しいものを作っていくという方向性にするのか、それとも、この授業をするのが難しい状況を取りあえずしのぐために、どうにか最低限の質を保っていくものにするのか、どちらの方向を目指しているのかなというのが少し気になりました。

臼山　それは前者だと思います。

小山　新しいものを作っていくという方向ですか。

臼山　そのとおりです。試行錯誤をしながら、新しい教育形態のモデルを模索していくのだと思います。

小山　分かりました。ありがとうございます。

梶山　そうですね。そうしたオンライン授業の今後の可能性については、次回で議論したいと思います。もう１人、現地のモスクワに残ってモスクワ市立教育大学のオンライン授業を受けている米山さん、いらっしゃいましたら一言コメントいただけますか。

米山　はい、おはようございます。先生方のプレゼンテーションを聴いていて思ったんですが、僕のクラスが少人数制で、ロシア語の上級だったので、非常に恵まれていたなということが理解できました。指導法も、ロシア語でロシア語を教える直接教授法だったんですが、確かに初学者の言語学習者相手だと、直接だと厳しいかなと思うので、そうなると、先生方に求める能力も、さらに一つ英語ないし日本語を使えないと教えるのが難しくなるというようなことが、遠隔授業では出てくるのかなというふうに、プレゼンテーションを聴きながら思っていました。

あと、土井先生のプレゼンテーションを見ながらですが、授業評価で作り込みを見ていて、結構厳しい評価をしている学生が多かったというふうにあったんですが、これに関しては肯定的で、僕も大学院で授業を受けるときに、教えない先生がちょくちょくあったんですが、その先生に関しては非常に否定的だったので、ある意味、先生方の教えるという能力のボトムアップにつながるのかなというふうに思っていました。

教えない先生というのは、学生にプレゼンテーションを作らせて、それを発表させてフィードバックをするだけというような授業をやっている先生がいましたので、個人的には、何か講義形式とかで教えたりしてほしかったなとずっと思っていたようなことがありました。

あと、リアルタイムとオンデマンド形式の違いで言いますと、個人的には完全にリアルタイムのほうが好きでして、オンタイムだと、多分、自分だと、下手したら授業に出ないかなというふうに思います。リアルタイムで受けると、やっぱりその時間に行かないといけないという緊張感もありますし、先生が目の前に、いないですけど、いるという緊張感もあるので、オンライン授業をやるにしても、リアルタイムでやるほうが絶対に効果が高いだろうというふうに思っています。以上です。

梶山　はい、ありがとうございます。それでは、もしご聴講されている方で何かありましたら、ご質問等、いかがでしょうか。ないようでしたら、時間もだいぶ押してますので、臼山先生に最後のまとめをしていただきたいと思います。

臼山　はい。どうも、長時間にわたってありがとうございました。今回のオンライン授業に対して教員がどう挑んだのかということについては、土井先生が見事なプレゼンをしてくださいました。教員の授業準備の舞台裏を、今日の参加者全員が見ることができたと思います。

それから、討議に参加してくださった先生方も、ご自身の授業の形態や、それぞれの授業で進めている中で、気づいたメリット、デメリットについて整理をしてお話ししてくださったと思います。

私のほうから一つだけ付け加えると、繰り返しになるかも

しれませんが、教員の仕事は教育活動だけではなくて、実は一人一人の教員がいろんな大学の運営に関わっているということです。現在、その運営の活動のほぼ全てがオンライン化されている実態もあります。基本的に全ての活動が、この数カ月間でオンライン化されました。また、教員は研究者でもあり、いろんな研究学会に所属しているわけですが、そういった研究学会での活動もオンライン化されているということも指摘できます。さらに社会貢献の活動もオンライン化するということで、教育研究に関わるありとあらゆる活動が、今回オンライン化したという側面があります。その意味で、このオンライン教育に関しては、もう少し広い文脈で見ていくということも必要だと感じました。

このオンラインの教育研究活動が、恐らく、今後、大学教育、あるいはもう教育全体の在り方に大きなインパクトを与えるのではないかと感じます。学ぶ者と教える者の関係、教育上のコミュニケーションの在り方も変わっていくはずです。特に大学とか、高校とか、中学校とか、小学校とか、幼稚園とか、学び舎という意味での場所ですが、その場所の概念そのものが変質しそうな気がしています。例えば、大学という場所が、独自の電子教育コンテンツを大量に蓄積したある種の知的な電脳空間、言わば、ダイナミックな、生きた電子図書館のような機能も持つようになっていく、そういう気がしています。また、物理的に大学に通う、大学構内にいて、そこで学ぶという制約から解放された学生たちの場合、恐らく、大学への帰属意識の在り方にも影響を与えると思います。

そのように考えると、今回のコロナ禍に対応したオンライン教育が、通常の高等教育の形態とは異なる新しい高等教育教育の在り方を開拓していく可能性があります。

最後になりますが、Boitsov 先生の今日のご発表には、非常に大事なご指摘が二つあって、一つは、今回、遠隔教育で外国語の授業を行うことで、外国語教授法に不足している部分というのが明らかになったということです。オンライン授業におけるロシア語の音声教育だとか、リスニング教育だとか、あるいはライティング教育だとか、そういった新しい側面に着目した研究の可能性、つまり、遠隔教育による言語科目の教授法研究の可能性が浮き彫りになりました。

二つめは、障害者に対する遠隔教育をどのように行うのかという、遠隔教育におけるインクルーシブ教育の方法という側面です。こちらの方にも目を向けて、研究していく必要があるということで、また新しい課題、新たな発見がありました。

以上、私のほうからコメントと総括ということにさせていただきます。ありがとうございました。

土井　すみません、土井です。ちょっと最後に補足させていただきたいことがございまして、画面共有を再度させていただきます。

インクルーシブをどうするかという話について、こちらをご覧いただければと思います。これは「学問への誘い」という筑波大学の 1 年生が全員必修の科目なのですが、字幕を Stream で動画に付けております。

Stream であったり、YouTube でも当然そうですが、録画授業にはトランスクリプトで字幕を付けることができます。これは 75 分の授業で、自動で字幕が作られるのですが非常に精度が悪くて、全部日本語の字幕を作り直しました。その直した日本語字幕を英語の自動翻訳にかけまして、画面共有でご覧頂いております。当然、あまり質のよい翻訳ではないわけですが、最低限、日本語の字幕がそれなりにできれば、自動で英語の字幕を作ることによって、一定のアクセシビリティを確保することなんかもできます。あと、音声認識に関してはかなりよい製品が出つつありますので、アクセシビリティの点では、むしろオンライン授業に一定の可能性があるということは言えそうです。

あとは、私の関連で申し上げますと、発達障害の学生なんかだと、環境調整がしやすいという点で、むしろオンライ

ン授業の方が好評ということもあります。なおかつ、発達障害対応に当たっている障害科学の先生からも、むしろオンライン授業になって相談が減っているとも聞きました。

臼山　土井先生、ありがとうございます。つまり、今、土井先生が実際のインクルーシブ教育に関わるコンテンツを少し見せてくださったわけですが、こういう可能性がこれからどんどん出てきて洗練化されていくということですね。

土井　はい。

臼山　これはまだまだ未開拓ですし、充実させていける可能性が大いに残っているわけですよね。

土井　そうですね。先ほど臼山先生が、一時的に乗り切るのか次を目指すのかというのに対して……。

臼山　次に決まっていますよ。

土井　次にいきましょうというのをおっしゃって、それがすごく大きいと思うんです。つまり、一時的に乗り切ろうでこのままいける感じが、今日、東京でコロナの感染者が 200 人以上みたいな話だと、とても思えないわけなので、早いところ次を筑波大学が目指しましょうと。それがいいんじゃないでしょうかと思っております。

臼山　ありがとうございます。

梶山　はい。それでは、皆さん、長い間ありがとうございました。次回はいよいよ最後となります。オンライン授業の今後の可能性について、現時点でのまとめを行う予定です。日本財団の森常務理事と JACAFA のヴルボスキ会長も、最後までありがとうございました。

森　どうもありがとうございました。大変勉強になりました。

ヴルボスキ　ありがとうございました。

土井　裕人

人文社会系助教

教員から見た オンライン授業

土井　裕人
（人文社会系哲学・思想）

はじめに

- **今回初めてのオンライン授業で、教員も学生も大変だったと思います**
  - 開始当初はどうなるかと思いましたが、春Bモジュールまで（一応）無事終了したのは、皆様のご尽力と犠牲によるものと考えます
- **このまま秋学期もオンライン授業で、となってはおそらくもちません**
  - 現時点での「まとめ」と「振り返り」をした上で、再検討が必要でしょう

2

大前提として

- **「対面授業を行う大学」が、実はとても機能的・効率的なパッケージだった**
  - 教室（一般教室、ゼミ室、実験室、CALL教室など）に行けば、自分の授業が受けられる
  - 図書館があり調査・学修の拠点となっている
  - 教員が学生の状況を把握しやすい
  - 学生が情報交換し自分の状況を把握している
- **その前提が全て崩れたのがオンライン授業である以上、困難なのは当然**

3

主な対応事項

1. **オンライン授業の立ち上げ**
   - 実施方法案作成
   - 教員向け＆学生向けマニュアル作成
2. **新入生対応**
   - IDの配布→システムの利用開始
3. **業務フローの変更**
   - 会議や手続のオンライン化対応
4. **トラブル・問い合わせ対応**
   - 個別対応も多数実施

4

私のオンライン授業

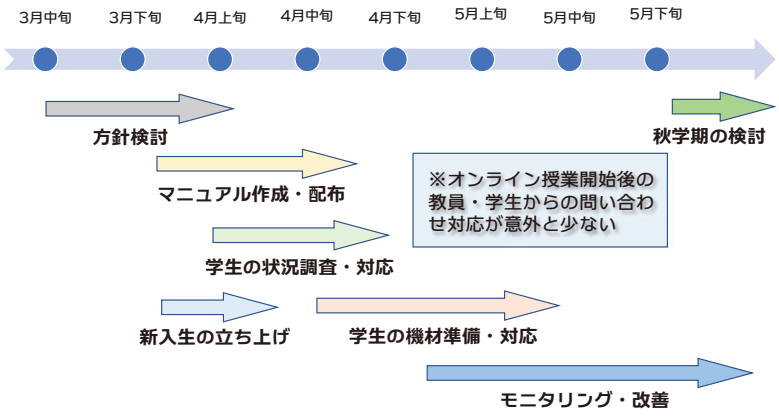
1. **講義科目**
   - 「宗教学-a」…登録120名＋モグリ60名？
   - Streamでリアルタイム配信、Twitterで質問など受付
   - 初回はTeamsで不具合が出て変更
2. **演習科目**
   - 「宗教学演習IV-a」…登録20名
   - 「西洋宗教思想史演習-a」…登録15名
   - Teamsでリアルタイム配信
   - iPadにApple Pencilで書き込み、ウェブカメラ扱いで送出

5

ある日の授業風景（講義）

6

時系列（何をしてきたか）



7

時系列（何をしてきたか）

（重要な日には下線）

- ❊2020年3月上旬
  - ＊大学関係イベントの中止やオンライン開催への移行が見られはじめる
- ❊3月中旬
  - ＊2020年春学期がオンライン授業になる可能性があるということで検討を開始
  - ＊この時点では部分的（登校できない学生のための限定的対応）という想定

8

時系列（何をしてきたか）

- **3月16日（月）**
  - 新入生オリエンテーションをオンライン受講でも対応できるよう検討開始
- **3月23日（月）**
  - 新入生オリエンテーションのオンライン化が決定（教室収容人数を減らすとともに登校を希望しない学生に対応する）
- **3月24日（火）**
  - 新入生向け大規模の録画が決定（教室に分かれて見せる想定）

9

時系列（何をしてきたか）

- **3月27日（金）**
  - 春学期授業開始を4月27日（月）に繰り下げ（なるべくオンライン、対面は一定条件下という想定）
- **3月29日（日）**
  - オンライン授業実施方法の学類素案作成
- **3月31日（火）**
  - 学類打ち合わせ
  - manaba+Stream+Teamsで行くと決める

10

時系列（何をしてきたか）

- **4月1日（水）**
  - 全学から学生へ実家待機要請
  - TeamsとStreamでのオンライン授業方針作成
  - 教員・学生が大学に出校できないことも想定
- **4月2日（木）**
  - 学生へのオンライン授業対応調査アンケート
  - 新入生に配布する各種マニュアルを作成開始

11

マニュアル作成の方針

- **よいマニュアルの最速での作成を最重視**
  - よいマニュアルで手間や損失を減らせる
- **全ての手順にスクリーンショット付き**
  - 画面と付き合わせないとわからない人は多い
- **一本道で進める**
  - 記載に従って一通りやれば「できて」しまう
- **CCライセンスで自由に配布・再利用**
  - 英語版、各組織版の作成も

12

時系列（何をしてきたか）

- **4月6日（月）**
  - 新入生に資料配付（希望者のみ時間帯別）
  - （立命館大学でmanabaダウン）
- **4月8日（水）**
  - 学類教員向けオンライン授業ガイドラインを一部マニュアルとともに送付
  - 全学から学生の通信環境アンケート依頼（モバイルルータ調達関連）

13

時系列（何をしてきたか）

- **4月9日（木）**
  - オリエンテーション、学問への誘い収録
  - 新入生向け資料発送（新入生のオンライン授業受講準備のため最短で実施）
  - 英語版作成のためCEGLOCにマニュアル送付
  - 全学でオンライン授業説明会（10日も開催）
- **このあたりの時期**
  - 新入生の各クラスで、フレセミ用のTeamsを立ち上げ

14

時系列（何をしてきたか）

- **4月13日（月）**
  - 新入生向けにオンライン授業対応準備（サインアップ等）の報告期限、および再連絡
  - オンラインオリエンテーション受講や履修申請等の前提条件として重要で、ほぼ全員完了
- **4月14日（火）**
  - 学群教育会議で映像なしのオンデマンド講義推奨
  - 学類教育会議チームを作成
  - オンライン授業実施方法について学生に周知（シラバスへの追記の確認の要請）

15

時系列（何をしてきたか）

- **4月15日（水）**
  - 人文学類教育会議とともに、教員向けにオンライン授業説明会を実施（対面）
  - クラ代会によるオンラインの新入生向け履修相談を実施
- **4月16日（木）**
  - 春Aモジュール開始科目の履修申請開始
  - 排他科目エラーが発生（前年度に行ったカリキュラム改編の影響）

16

時系列（何をしてきたか）

- **4月17日（金）**
  - 映像なしの録音授型業のマニュアルも作成（manabaの容量制限への対策）
- **4月18日（土）**
  - 茨城県にも緊急事態措置等が公表され、春学期の対面授業の可能性が全面的に消滅
  - オンライン授業のテストケースと新入生歓迎イベントの一環として、「哲つくば」（学生の自主研究発表会）をオンラインで開催

17

時系列（何をしてきたか）

- **4月19日（日）**
  - 「歴つくば」もオンライン開催され、新入生もオンライン授業に対応できることを確認
  - 人文学類生にオンライン授業の受講マニュアルを送付
  - 共通科目体育の履修申請〆切
  - CEGLOCで英語版マニュアル作成
  - 他組織からマニュアル利用の依頼（国際公共政策専攻、国際総合学類など）

18

時系列（何をしてきたか）

- **4月21日（火）**
  - 学類教員に使用していない機器の提供依頼
  - 全学でのモバイルルータ貸与の検討
- **4月22日（水）**
  - 事前登録科目（専門導入科目、学士基盤科目）の履修申請〆切
  - オンライン授業の受講機器の要望調査開始
  - ここから学生へのメール対応に追われる

19

時系列（何をしてきたか）

- **4月26日（日）**
  - 学類生からのオンライン授業の相談窓口開設
- **4月27日（月）**
  - オンラインで春学期の授業開始
- **4月29日（水）**
  - 学類から貸与するパソコン、モバイルルータの学生への貸出を開始（この後も随時対応）

20

時系列（何をしてきたか）

- **5月20日（水）**
  - 学類教育会議をオンラインで実施
  - 課題の過重問題について、教員に呼びかけ
- **5月中旬以降**
  - Streamの不具合（再生が止まる等）が学生から多く報告される

21

時系列（何をしてきたか）

- **6月5日（金）**
  - オンライン授業の改善について、教育担当副学長から教員に文書発出、学類でも呼びかけ
- **6月8日（月）**
  - 秋学期の対面授業再開を見越し、学類生への居住状況調査を実施
- **6月25日（木）**
  - 学類生に対し春学期授業についてのアンケート調査を実施

22

指摘すべき問題点

1. **全体方針が現場に見えにくかったのでは？**
   - 今回仮に成功でも、それは現場の犠牲による
   - 今後もそのままでは絶対にいけない
2. **使用ツールがなりゆきで決まったのでは？**
   - manabaは既存、Stream+Teamsは従来からのMicrosoftとの契約に含まれていた
   - 東大のような対応（Zoom一括契約）なし
3. **教員への支援が不十分だったのでは？**
   - 機材の調達、技術支援、教育方法の支援など
   - これは今後大きな問題と予想される

23

教員にとってのメリット

- **感染予防は大切ですが他にありました？**
  - あまりなかったような…
- **出勤しなくても授業ができる？**
  - 移動せず、学外からでも授業ができる
  - 学修効果の低い授業では後でかえって大変
- **強いて言えば、「大学で行うべき教育とは何か」再検討できたことかもしれません**
  - 私にとっては、これだけの探究と試行をしたのは大きな経験になったと思っています

24

教員にとってのデメリット

- **ありすぎ？**
- **立ち上げの負担、実施の負担**
  - 教室で対面で行う方が圧倒的に「低コスト」
- **身体的負担**
  - 長時間準備をまじめにやると身体がもたない
  - 眼・肩・腰に来る（学生も多数が指摘）
- **精神的負担**
  - 思うような授業ができない
  - 十分な学修効果が出せずもどかしい

25

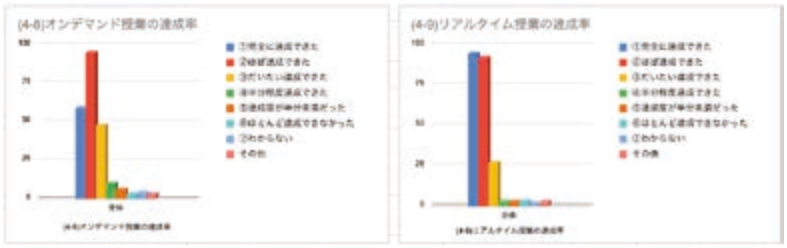
アンケートの分析

- **人文学類生を対象に数回アンケート実施**
  - 一方で「アンケート疲れ」も
- **学生からの評価には差が大きい**
  - 学生の学修意欲は全般に高い（要求は高い）
  - きちんと応答する科目は満足度が高い
  - 課題が多い／〆切が早い＆応答なしは評価も満足度も低い
  - 「自習＆宿題提出型」への評価も厳しい
  - 授業の「作り込み」を学生は吟味している

26

主な指摘事項

❊オンデマンドよりリアルタイムの方が達成率（≒出席率）が高い



27

主な指摘事項

❊オンデマンドの実時間視聴ニーズが高い

＊時間超過した録画やStreamの不具合が学生に悪影響を与える

＊実時間授業のニーズがある一方オンデマンドのメリット（繰り返し等）も歓迎されている

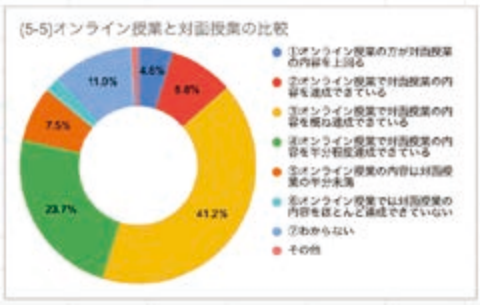
28

主な指摘事項

❊オンライン授業が対面授業を上回らない

＊春学期は非常事態なので受容できたが、秋学期も継続して納得されるか？

＊納得のいく説明と内容をどう確保するか？



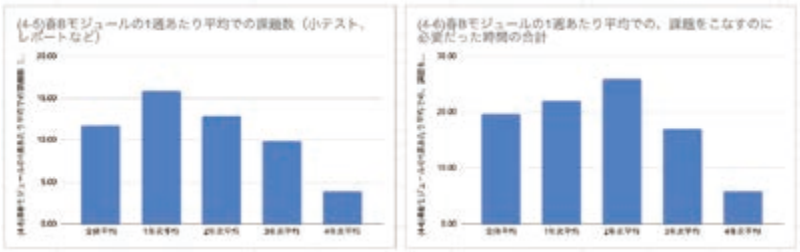
29

課題過大問題

❋適切な学修になっていたか？

＊何でも出せば勉強になるということではない

＊トレーニングや「早指し」でなく「長考」も必要な学問には悪影響（学生からも指摘）



30

望まれるオンライン授業

①応答をきちんと行う

＊リアルタイムでもオンデマンドでも

＊リアルタイムなら参加要素を（respon等）

＊課題を出すのは応答がセットであるべき

②適切な課題の量と質

＊例年並が目安では（それ以上は必要か？）

＊出席を取るだけならresponの出席機能が便利

＊きちんと指導せずランニングだけさせても、イチローは生まれない→適切で合理的な練習

＊授業設計の問題になる

31

望まれるオンライン授業

③一定の形式の確保

＊オンデマンドも授業時間を上限→実時間視聴

＊聞きやすい音質にする→外付けマイク

＊課題〆切まで一定期間を設ける

＊動画や資料の公開に一定時間を確保する

＊内容については教員は「プロ」

④学生の受講環境への配慮

＊プライベート空間への侵入によるストレス

＊適切な受講環境のない学生も少なくない

＊カメラオンの問題

32

今後の２つの可能性

①オンデマンドを主にオンライン授業継続

- 現時点での本部の方向性がこれだと思われる
- 対面と混合しても学生の評価は厳しいと予想

②「サイマル授業」化

- 対面で実施し、同時にリアルタイムでオンライン授業、さらに録画をオンデマンドで提供
- 現状の学生の要望にはほぼ全て対応できる
- 実習や実験は当然ながら埒外
- 教員の負担はスキル面でも運用面でも多大
- 学類ではこの方向での対応を提案

33

いま考えたいこと

1. 学生のコミュニテイ構築・居場所づくり

- オンライン授業が居場所になるのは難しい
- オンライン授業の受講場所の問題

2. 学生のマインド、メンタルへの支援

- 新入生を「高校4年生」から筑波大生にする
- 特に新入生にはCEGLOCの役割が大きい

3. 学生への大学らしい「学修体験」の提供

- 私の授業はこれを強く意識

4. 教職員のグッドプラクティス収集

- 秋学期に向けて「すぐできる」改善を

34

NipCA 主催 筑波大学
「第 5 回オンライン留学に関するラウンド・テーブル」

第 5 回オンライン留学に関するラウンドテーブル出席者　合計 22 名

発表者・討論者（学生）：6 名

ワルシャワ大学 社会・国際学群　国際総合学類	西　川　将太郎
モスクワ国立大学 人文・文化学群　人文学類	石　川　織　羽
サンクト・ペテルブルグ国立大学 社会・国際学群　国際総合学類	西　　美乃里
極東連邦大学 人文・文化学群　人文学類	小　山　正　伍
ノヴォシビルスク国立大学 社会・国際学群　国際総合学類	安　井　梨　乃
モスクワ市立教育大学 文芸・言語専攻　博士課程	米　山　貴　文

司会者：1 名

NipCA プロジェクト コーディネーター	梶　山　祐　治

討論者：6 名

人文社会系　教授	臼　山　利　信
人文社会系　教授	加　藤　百　合
人文社会系　准教授	山　本　祐規子
人文社会系　助教	土　井　裕　人
国際室　助教	笹　山　　啓

総括：1 名

人文社会系　教授	臼　山　利　信

学外聴講者：4 名

日本財団	森　祐次　常務理事
日本財団	有川　孝　国際事業部長
日本財団	ジェイムズ・ハフマン課長
日本・中央アジア友好協会（JACAFA）	ヴルボスキ京子　会長

ほか学内聴講者：6 名

NipCA プロジェクト主催

筑波大学

オンライン留学に関するラウンドテーブル

on-line 座談会

～コロナ禍の困難から見出す新しい教育の可能性～

2020年7月17日（金）17:45～19:00

第一回　オンライン授業形態別（Teams や Skype など）の
　　改善・解決策（6月19日）
第二回　レポート・小テスト・宿題のやり方
　　－方法と課題（6月26日）
第三回　オンライン授業を受けることの精神的・肉体的・物理的な負担
　　－何が起きたか・どう解決したか（7月2日）
第四回　教員から見たオンライン教育（7月9日）

第五回テーマ
コロナ収束後のオンライン授業について
－オンライン授業の可能性

■ 発表者・討論者：人文社会系 教授 臼山利信，人文社会系 教授 加藤百合，
人文社会系 准教授 山本祐規子，人文社会系 助教 土井裕人，国際室 助教 笹山啓
ロシア・ポーランドの大学に留学中およびオンライン留学中の筑波大学 学類生・院生

西川 将太郎（社会・国際学群 国際総合学類）：ワルシャワ大学（2019年9月－2020年6月）
石川 織羽 （人文・文化学群 人文学類）：モスクワ国立大学（2019年9月－2020年6月）
西 美乃里 （社会・国際学群 国際総合学類）：サンクト・ペテルブルグ国立大学（2019年9月－2020年6月）
小山 正伍 （人文・文化学群 人文学類）：極東連邦大学（2020年2月－2021年1月）
安井 梨乃 （社会・国際学群 国際総合学類）：ノヴォシビルスク国立大学（2020年2月－2021年1月）
米山 貴文 （文芸・言語専攻 博士課程）：モスクワ市立教育大学（2020年2月－2021年1月）

■ 司　会：NipCA プロジェクトコーディネーター 梶山祐治

聴講参加希望の問合せ：NipCA プロジェクト担当事務室（当日 17:00 まで）
TEL：029-853-4251 / Email：info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web：https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/

主　催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」
協　力：日本・中央アジア友好協会 (JACAFA)，
筑波大学 グローバルコミュニケーション教育センター社会貢献委員会，グローバル・コモンズ機構，
国際室，学生部学生交流課，スーパーグローバル大学事業推進室，日本留学海外拠点連携推進事業，
人文・文化学群，社会・国際学群

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

梶山　それでは、お時間になりましたので、そろそろ始めたいと思います。司会の梶山です。1 か月以上にわたって毎週開催してきました、NipCA プロジェクト主催「オンライン留学に関するラウンド・テーブル」も、本日の第 5 回で最後となります。本日のテーマは、「コロナ終息後のオンライン授業について―オンライン授業の可能性」と題しまして、現時点でのオンライン授業の総括をしたいと思います。

では、本日ははじめに、本学のロシア語授業を担当されていた国際室助教の笹山先生より、10 分ほど、本学のロシア語授業について報告していただきたいと思います。笹山先生、よろしいですか。

笹山　はい。ただ今ご紹介にあずかりました、筑波大学国際室助教の笹山と申します。よろしくお願いいたします。先月まで筑波大学グローバルコミュニケーション教育センターのロシア語教育セクションでロシア語の授業とロシア語の FD 研修などを担当しておりました関係で、今月から職場は変わったんですが、ロシア語授業について手短に発表させていただきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

それでは、こちらのパワーポイントのスライドをもとに、手短に、「初修外国語教育の現場から　ロシア語授業のオンライン化で見えてきた課題と展望」と題しまして発表を行います。

早速ですが、筑波大学の春学期のオンライン授業については、こういったかたちでオンライン化をするということになりました。4 月の時点で、こういった方針を決めました。まず授業進度については、学習内容をかなり軽減して、4 月、5 月は、学生はもとより教員の側も、オンライン授業に慣れるということを目的として無理には授業を進めず、安定軌道に乗せるということを目指して開始いたしました。

そして、授業の内容については、後ほども軽く触れますが、ライブの授業とオンデマンドの授業を組み合わせるというかたちを採ることを決定いたしました。各授業につき 10 ～ 15 分のビデオを作成し、Microsoft Stream にアップして、それをまず授業前に見てもらう。その後に、Zoom あるいは Teams といったライブ授業のためのツールを用いてライブ授業を行う。そして、従来は一つの教科書を日本人教員とロシア人教員がリレー方式で行っていたものを、本年度からは、三つ目の「教材について」のところをご覧いただくと分かるんですが、従来の外国語の教科書を使ってのみ行っていた授業に、2 番の補助教材というものを加えて、こちらも交えての文法の基礎固めというものを行っていったわけです。

そして、提供方法に関してはここに書いてあるとおり、PDF にパスワードを付けて、manaba 上で、再配布は厳禁ということで配布をし、著作権的な問題も非常に気を付けた上で、学生たちには視聴していただいたということになります。

それでは次なんですが、先ほども少し申し上げましたけれども、筑波大学のロシア語のオンライン授業をハイブリッドというかたちで、オンデマンド型とライブ配信型というものを組み合わせて行いました。Microsoft Stream ですとか manaba ですとか Teams といったアプリについては、大学側が提供して、学生は無料で使えるものでしたし、Zoom というものも基本的には無償で利用ができるものでしたので、学生にとっては大きな負担にはならなかったのではないかなということがいえます。

そして次に、ここは、先月、基礎ロシア語の授業を受けていた 76 名の学生から回答を得た、ロシア語授業についてのアンケートというものになります。簡単に触れていきます。居住地について、ネットワーク環境について、主な使用デバイスについてといったところで、こういった結果が出ました。

実家住まいが学生全体の 6 割。あるいは、ネットワーク環境については、容量無制限の子が 8 割と意外に多かった。そして、主なデバイスについては、Windows であるとか Mac であるとか、あるいはその他のパソコンを用いて受けている子が多くて、例えば、スマホなど小さい画面で受けざるを得ないといったような子はほぼ見受けられなかったということです。

そして、「オンライン授業は快適に受講できていますか」。非常に快適で問題はないという子が 6 割程度。問題があるという子も 4 割程度いましたけれども、じゃあどういった問題があったかと申しますと、通信の問題がほとんどであった

筑波大学のロシア語のオンライン授業はハイブリッド型

1　オンデマンド型
- Microsoft Streamに動画をアップロードし学生に視聴させ、事前に授業内容を理解させる
- manabaで学生への通達、課題の出題・提出

※上記アプリは大学の契約により無償で利用可能。

2　ライブ配信型
- Teams, Zoomを使って、リアルタイムで双方向の授業
- 発音等指導を丁寧に行う

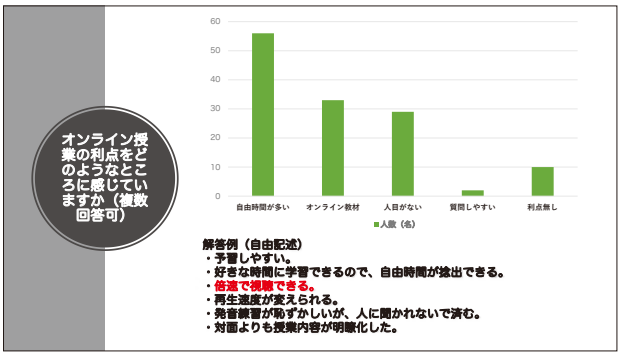
※Teamsは大学の契約により無償で利用可能。Zoomアプリは無料。

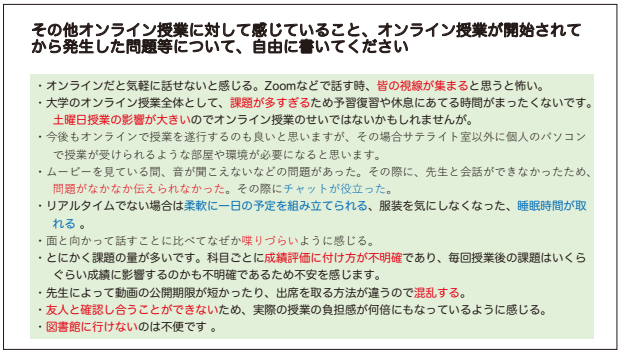
ということです。例えば、家庭の Wi-Fi 環境によって Zoom や Microsoft Stream が重くなったり途切れてしまったりということがほとんどの問題ですね。学生側の問題、教員側の問題と書きましたのは、例えば学生側の家庭環境として、自室がないために家族が出す音などが気になってうまく授業が受けられないといったことであるとか、あるいは教員側の問題として、教員が、先ほど申し上げたツール、Teams ですとか Stream ですとかの使用に熟達していないために学生に迷惑を掛けていたというようなことも、1 件報告されていました。

そして、アプリについては、特に問題なしというのが 43 件で最も多かったんですが、一番使いづらいという報告が上がっていたのが Zoom でした。ただ、これに関しては、Zoom 自体の問題というよりは、Zoom を使用して行っていた授業が多かったということも挙げられるのかと思います。

ここから本題になるわけですが、今年度から語学でオンライン授業を開始したわけで、じゃあどういったところに学生がまず利点を感じていたのかというところですね。この辺りは、先週までもロシアに留学しておられた学生の皆さんからもいただいた意見などとも共通する部分もあるかと思いますが、上のグラフが選択式の回答で、いくつか項目を作って学生さんたちに回答していただいた。その中で一番多かったのは、やはり自由時間が多く取れるというようなことが強くメリットとして感じられていたようです。さらに、オンライン教材が便利であるとか、人目を気にしなくていいといったようなことをメリットとして感じている学生が多かったと。

さらに、どう具体的にオンラインの利点を感じていたので





すかということで自由記述していただいたのが下なわけですけれども、われわれ教員としてちょっと面白いなと思われた回答としては、倍速で例えばビデオなどを視聴できるので、それが非常に便利であるということがいえたそうです。こういった視聴方法は、われわれとしてはちょっと想定をしていなかったんですが、なるほどそういうこともあるんだなということで、こちら教員側が気付かされた点でありました。

では、逆に不利な点、デメリットというのをどういうところに感じていたのですかと。ここら辺も非常に重要な問題だと思います。また上のグラフが、選択式の、こちらで項目をいくつか用意して選択していただいた回答ですね。上のオレンジのグラフです。やはり、「目や体が疲れる」といったところ、そして学生同士の交流ができないというところがトップのほうに挙がってきたわけです。「課題が多い」というのは、恐らくこれはロシア語の授業に関してではなくて他の授業との兼ね合いというところが多いかと思います。ロシア語に関してはそこまで大きな課題量というものは課していなかったはずなので、他の授業との兼ね合いでこういった不満が出てきたのかなと思われます。

そしてまた、さらに具体的にどういった不満がありますか、自由に記述してくださいといったのが下ですけれども、このように精神的なストレスとして、当てられないと出席できているのか不安になる。要するに、ほかの人と隣り合って授業を受けているわけではないので、ちゃんと出席していると認識されているのかというような不安があるですとか、もちろん物理的な距離によってクラスメートと交流できない、あるいは発音が聞き取りづらいといったものもございました。あるいは、もちろん PC の不具合が出るとか画面を見続けて疲れるといったことは、多く意見が挙げられていた模様です。

最後に、とにかくオンライン授業についてもっと意見を聞かせてほしいということで自由記述をしていただいたところで出てきた、具体的な、興味深い、面白い意見というのが、こういった並びになります。皆の視線が集まってしまって怖い。要するに、Zoom や Teams で授業を受けてカメラをつけている状態ですと、普段大きな教室で受けているときとは違って、顔を大写しにされて授業を受けているということになるわけですね。こういったものがストレスだと答えてくださった学生さんがいらっしゃいました。

課題が多過ぎるであるとか、あるいは、問題が発生したときに先生に伝えづらいとか、しゃべりづらいとか、成績の評価が不明確であるとか、図書館に行けないとか、そういった問題が多く報告されました。

また、逆にオンライン授業ならではの利点として、チャットが役に立ったであるとか、リアルタイムでない、要するにオ

ンデマンド型の教材を使う場合は、自分の好きな時に見られるので、1 日の予定を柔軟に組み立てられるといったような利点を挙げる学生さんもいらっしゃいました。

そこで見えてきた課題として最後に 10 点挙げられるかなと、われわれロシア語教員側では考えたわけです。1 番が、オンライン授業のツールの活用に対する教員側の習熟度がまず不足しているのではないか。これに対しては、教員がアプリ等の使用方法の理解を深めるということで、教員側で解決ができる問題であるということが考えられます。

また、2 の孤立環境の条件下で学生同士が学習内容の確認がその場でできない、要するに一人一人ちょっと孤立してしまうというような状況がございましたので、こういったものは Zoom の機能などを使ってグループ学習を実現することはできるであろうと。

3 番の通信上のトラブルなどについては、教員側が即座に解決できるというわけではないんだけれども、今後も最も強く注視していかなくてはいけない問題であろうと考えられます。

また、4 番、文献や参考書に図書館を通じてアクセスできない。これも非常に大きな問題です。学生の側が課題をできないということもありますし、こちらが課題を課しづらいといったことも考えられるかと思います。こういった場合は、条件付きで図書館を開放する、新しいタイプの電子図書館の創造・創設などといった解決法が考えられます。

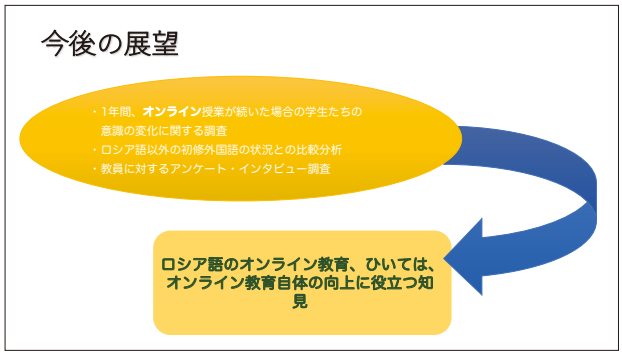
また、5 番、肉体的な疲労、目が疲れる、腰が疲れるといった問題については、小まめな休憩を挟むということで、一定解決できるのではないかと考えます。

またさらに 6 番、精神的な疲労、レポートが多過ぎるとか、1 人でつらいとか、そういったことに関しては、教員側に履修科目全体のバランスを考えた課題の配慮を促す、要するに教員側の連携によって何とか解決できるだろうと。

あるいは 7 番、授業中に気軽に質問ができない、発話がしづらいといったことに対しては、オンラインならではの、授業時間の最後に 5 分の質問タイムを設けるなどといったことが考えられます。

さらに 8 番、オンライン教育による個人情報流出。これはオンライン特有の問題かと思いますけれども、そういった流出の懸念があるということに関しては、これも学生のプライバシーに特に配慮した教員・学生間のやりとりと授業運営を行わねばならない、教員側が意識を徹底させねばならないということが考えられると思います。

9 番、危機管理として、オンライン授業用コンテンツを蓄積する。これは要するに、今後、今作っているものをうまく使い回すことによって不測の事態に対応することができる。



そしてさらに、授業の質を高めていくことができるということもあるかと思います。

そして最後、10 番ですが、平時でも利用できるオンライン授業用の多様な教材開発を進める。先週、Boitsov 先生からもご意見いただいたかと思いますが、やはりオンラインに適した、オンライン用に作られた教材というのはまだまだ不足している部分がありますので、今後、オンライン授業での課題を踏まえた、汎用性の高い教材開発を行っていくということで解決が図れるのではないかというふうに考えております。

最後になりましたが、今後の展望ですね。1 年間オンライン授業が続いた場合、学生たちの意識は、恐らくもっと変化していくと思います。まだ半年だから大丈夫だったけれども、1 年続いたらつらいというようなこともあるかもしれませんので、今後の調査というのは必須です。あと、ロシア語以外の初修外国語との比較分析も必要ですし、そして、もちろん教員側の困難についても、インタビューやアンケートというものが必要かと思います。こういったものを今後まめに行っていくことで、ロシア語のオンライン教育、ひいてはオンライン教育自体の向上に役立つ知見が得られるのではないかというふうな結論に、現時点で、ロシア語教育の指導現場では至っております。

以上になります。ありがとうございました。

梶山　はい。笹山先生、豊富なデータとアンケート調査に基づいた報告、ありがとうございました。それでは、いろいろ共通点が見つかると思うのですが、これから学生の報告に移りたいと思います。

まずはじめに、ポーランドのワルシャワ大学に昨年秋から今年の 6 月まで留学されていた西川さん。西川さんは現在もワルシャワに滞在されていて、現地で現地の大学のオンライン授業を受けていました。西川さん、では、お願いします。

西川　ただ今ご紹介にあずかりました、ワルシャワ大学に留学していた西川将太郎と申します。私は、去年の 9 月に留学を始めて最初の冬学期は普通の対面の授業だったんですが、次の 2 月からの夏学期では、始まってすぐオンライン授業に移行するということになりました。ということで、オンライ

ン授業のこれからについて発表させていただきます。

過去の発表でも申し上げたことなんですが、まず、ワルシャワ大学では教授ごとにZoomやYouTubeやGoogle Meetなど違ったシステムを使用していたので、それはまず大学で統一してほしいと思いました。そして、何か問題が起こったときも大学単位で不具合に対処してもらえれば、そのほうがいいなというふうに感じました。

しかし、それでも自分にとってオンライン授業というのはあまり良くないというふうに感じました。家でパソコンを開くだけの授業というのは、あまり授業を受けに行くという感じではなく、普段パソコンでYouTubeを見ているような感覚になって、少しやる気がそがれてしまいます。そして、オンラインですと発言がしにくいので、発言が消極的になります。試験もオンラインだと、機材不調で予期せぬトラブルで不利益を被るんじゃないかという不安がとても多くなります。授業資料が見やすいというのはとてもうれしいんですが、それ以外でオンラインは、私は全く好きではないという結論になりました。

しかし、このコロナの現状が長引くことが想定されますし、どこにいても授業を受けられるという点で、オンライン授業というのは今後できるだけ活用していかなければならないというふうにも思っております。ですので、例えば学生の発言が少ない大人数講義の授業は、オンライン化してもうまくいくのではないかと思います。また、試験も、カメラを使った口頭試験であれば不正の心配もなく、うまくいくような気がします。

しかし、それ以上範囲を広げるというのは、より時代が進んで、もっと安定した機械・システムや、また、対面授業により近づいたオンライン技術が確立されてからオンライン授業をもっと拡大していくというふうにしたほうがいいような気がします。現在は、オンライン化できる授業、できない授業というので線引きをして、それを組み合わせてやっていくことが一番いいのかなというふうに感じました。

以上になります。ありがとうございます。

梶山　はい。西川さん、ありがとうございます。オンライン授業はまだ技術面では対面授業には及ばないという意見が学生から出たことは、今後の課題として受け取りたいと思います。次は石川さん、よろしいでしょうか。

石川　はい。

梶山　石川さんは、昨年秋から今年の６月までモスクワ大学に留学されていました。

石川　では、発表させていただきます。ご紹介にあずかりました、モスクワ国立大学に留学していた石川織羽です。

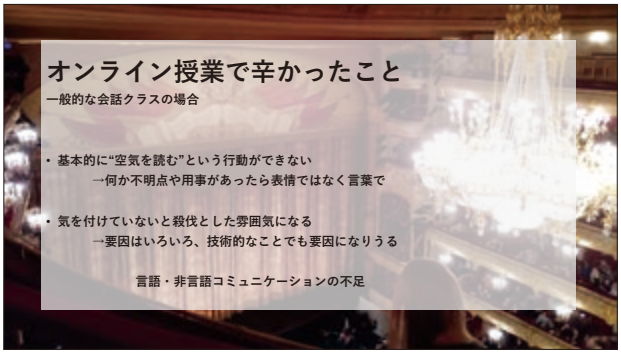
私の場合は、大学で一般的な会話の授業を受けていたんですね。普通に４人、５人くらいで集まって、いろんなことを話し合う授業です。こういった授業でつらかったことをちょっと説明いたしますと、基本的に空気を読むという行動ができなくなってしまうんですね。何か不明点や用事があったら、表情ではなく言葉でということですね。これは、言語を勉強する面ではいいのかもしれないですし、口に出して言えばいいことなんですが、なぜか言いづらくなってしまったり黙り込んでしまうことが増えてしまいました。

この黙り込むという行動は、オフラインの場合ですと、表情とかを察して分からないとかを意味していると捉えられがちなんですが、オンラインの場合、ただただ無気力な感じに見えてしまいます。画面を見てしまうので、目がみんなと合わないので、本当に下を向いて無気力な感じで見えてしまうので、そのような雰囲気の中で発言するのはすごくはばかられるということがありました。

また、気を付けていないと殺伐とした雰囲気になってしまうんですね。要因はいろいろあって、例えば私のクラスにいた例で申し上げますと、聞き間違えられたりすることは音声の問題とかであると思うんですが、聞き間違えられたりして露骨に機嫌が悪くなってしまう学生もいて、非言語とか言語的なコミュニケーション、どちらともコミュニケーション不足に陥ってしまうということがすごくつらかったです。これは、留学生に限らず、ほかの大学生からも聞かれることなんですが、ほかの学生と雑談がないのは寂しいといった意見もあります。

逆に良かったこととして、共有できる情報量は圧倒的に多くなりました。つまり、例えば動画サイトの画面を共有したりですとか、自分で書いた文章を画面で共有するとか、画面共有という武器はすごく大きいので、これはすごく良かったことだと思います。

ですから、表情や雰囲気といったものもある意味情報ですので、先ほど申し上げたような嫌だったことなどを解決するためには、表情を作ったり空気を読むのが難しいときにも、スタンプなどで作るのも一つの手なのかなとか思いました。例えば、私はSkypeで授業を行っていて、それでハートと



か笑顔のスタンプを出せる機能があるんですが、これを出すと結構和やかになれたような気がしましたので、雑談はできないと思いますが、オンラインでの新しい非言語コミュニケーションをつくっていくと、コミュニカティブな授業にだけですが、少しつらいことというのは軽減されるのではないかなと思いました。以上です。

梶山　はい。石川さん、ありがとうございます。画面共有のメリットというのは初めて出てきた重要な指摘だったと思います。また、感情を表現するスタンプを使うという、斬新な提言もありました。ボリショイ劇場をスライド背景に使った報告、ありがとうございました。

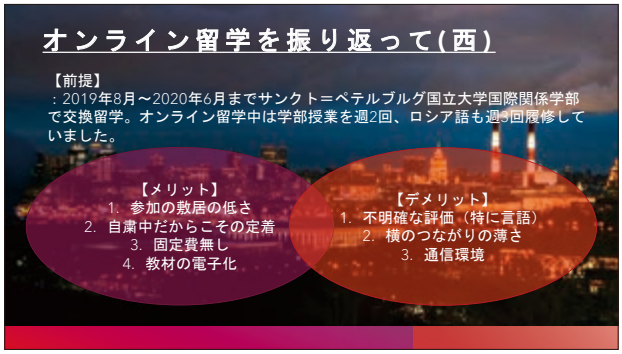
では、次に西さん、準備できていますか。西さんは、ペテルブルク大学に昨年の９月から今年の６月まで留学されていました。

西　ただ今ご紹介にあずかりました、筑波大学国際総合学類３年生の西と申します。簡単に自己紹介させていただきますと、昨年８月から今年の６月末まで、サンクトペテルブルク国立大学国際関係学部に交換留学をしておりました。こちら背景はモスクワの夜景になっていますが、サンクトペテルブルクに留学しておりました。

オンライン留学中の３月から６月は、日本に帰国した後のことだったんですが、学部授業は週２回、ロシア語を言語センターで週３回履修しておりました。私からは、オンライン留学を振り返ってみてのメリット、デメリットを挙げさせていただきたいと思います。

まずメリットについて、こちらの４点挙げさせていただきます。一つ目が参加の敷居の低さです。出席が成績に入らないということだったので、オンライン移行前に受講していた授業を改めて見直し、内容を踏まえたうえで今後も受講し続けたいものを選んで、簡単にワンクリックで授業に参加することができたというのが、オンライン授業の参加の敷居が低いというメリットだったのかなと思います。

そして、二つ目に「自粛中だからこその定着」としていますが、こちらは帰国後のお話です。帰国後に、普段でしたら、すぐ日本語の生活にまたなじんでしまって留学で学んだ



ことが薄れていくということがあると思うんですが、外出自粛をしていたからこそ、日本語ばかり使うことなく、ロシア人の友人と電話したりだとか、ロシア語の授業を取ったり英語の授業を取ったりして、語学力の維持もある程度図れたかと思っています。

そして、三つ目が固定費がないというところです。交通費だったり学生寮の居住費だったりが掛からないので、金銭的負担がだいぶ軽減されていたかなと考えております。

最後に、教材の電子化です。電子書籍などのオンライン教材を特に国際関係学部の授業で使っておりました。自分が学びたい分野において今後の参考にもなる資料を確認できたので、かなりメリットになったかなと考えております。

続いてデメリット、こちらの三つです。まず一つ目が、不明確な評価ですね。先ほど笹山先生のところでもあったと思うんですが、特に言語のところで、どの点を見て評価されているのかということが分かりづらく、授業の各回の達成目標想定を自分で想像するしかなかった点が少し辛いところでした。

続いて、二つ目が横のつながりの薄さです。私は大学の１学期目にあたる秋学期から留学をしていたので、後期からオンラインに移行ということだったんですが、これが例えば春学期から留学を始めた方で、初めての学期がオンラインになってしまったとなっていたら、生徒同士のつながりがかなり薄くなっていたんじゃないかなと思います。私自身、新しい生徒がヨーロッパから入ってくる中で、新しいメンバーと授業をしていたわけですが、誰に授業に関して相談したらいいのかというところが少し分かりづらかったので、授業外でのコミュニケーションのところはかなり改善点があるのではないかと感じております。

最後に通信環境です。こちらは、また言語の授業での話になりますが、出席は成績に加味されていないものの、授業中のディスカッションへの貢献度が成績に加味されていたので、例えば通信環境が悪く授業に出られず、当然ですがディスカッションにも参加できないということになった学生にとっては、かなり不利になっていたんじゃないかなと思います。また、継続的に参加できている身としても、授業の出席者が授業によってころころ変わっていって、それでディスカッションの質も変わっていくので、そちらが少々やりにくかったなというように、今振り返ってみて考えております。

以上です。ありがとうございました。

梶山　はい。西さん、ありがとうございます。メリットの教材の電子化は西川さんも挙げられていましたが、学生視点で、この点のメリットが大きいものであることが伝わりました。

では、続けて小山さん。小山さんは、今年の２月から留

学が始まってまだ現在留学中なんですが、２月に渡航後、３月に帰国することとなり、日本で極東連邦大学のオンライン授業を受けています。

小山　ご紹介にあずかりました小山正伍です。発表を始めさせていただきたいと思います。

僕はロシアの極東連邦大学に２月から留学していまして、１カ月ほどで帰国して、今はオンラインで語学の授業を受けています。そこで、オンライン授業と留学について感じたことを少しお話ししたいと思います。

まず、オンライン授業についてですけれども、僕が受けている語学の中級レベルのものをやるには、オンラインは向いているものだと思いました。資料配布ももちろん簡単ですし、先生とのやりとりもできます。ネット上の教材も使えるということで、体力的な負担というのはもちろんあるんですが、それを補うだけのメリットがあるんじゃないかと感じました。

対して、オンライン留学というものに関しては大きな不満を感じています。やはり現地の人と過ごして、日本語がほとんど使えないという状況でもみくちゃにされて過ごすというのが留学に対して求めていたことなので、そういった実際に体験するという部分が欠けてしまうオンライン形態の留学には、大きく不満を感じました。

それを受けてオンラインについて感じたことは、オンラインでできることにも当然ながら向き不向きがあるだろうということです。僕が受けているような語学の授業、問題演習中心のものは十分やっていけそうなんですが、留学のように体験が中心になるものは、かなり成果が低くなってしまうんじゃないかなと思います。４月から、コロナのためにオンライン化に移行するというのが余儀なくされたと思うんですけれども、コロナ後を考えると、変えるということに躍起になるのではなくて、向かないものもあるということは頭に留めるべきことなのかなと思いました。以上です。

梶山　はい、ありがとうございます。小山さんはオンライン授業とオンライン留学を厳密に区別して評価していて、対照的な評価が印象的でした。オンライン留学における学校以外での体験が得られない、という欠点は決定的なもののようです。小山さんは１月まで留学が続きますので、それまでに戻れるようになればいいなと思っております。

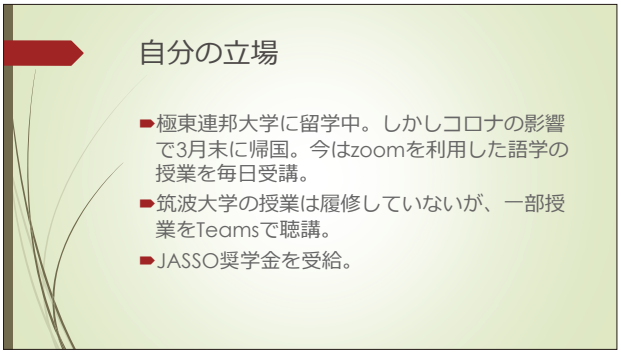
続けて、安井さん。安井さんも小山さんと留学期間は同じなのですが、２月にノヴォシビルスクに渡航して、３月に帰国して、現在、日本でオンライン授業を受けています。安井さん。

安井　では、発表を始めさせていただきます。国際総合学類３年次所属で、ロシア・ノヴォシビルスク大学に留学中の安井梨乃と申します。

私がロシアに発ったのは2020年２月９日からだったのですが、それからすぐにロシアのほうでも感染者が増え、大学からの帰国要請などもありましたので、1カ月半ほどで帰国しました。現在は、大阪にある実家でオンライン留学を継続しています。学期は一応、試験は終わったんですが、先生のご厚意で週に３コマ、ロシア語の授業を受けさせていただいています。１カ月半のみ留学してこっちに帰ってきてという感じでしたので、ほとんどがオンライン授業だったんですが、それを受けてどう感じたかというのを発表していきたいと思います。

オンライン授業で留学をしてみてということなんですが、私が受けていた授業はほとんどが少人数で、最小で２人、最大でも13人、14人といった規模で授業を受けていました。いずれもロシア語の言語の授業です。少人数の授業に関しては、授業内容としては対面からテレビ電話に変わったというだけで、大きな変化はなかったように感じました。変化が少なかったことで、私たち生徒にとってのストレスというのはあまりなく、先生もそんなに、特別に何か用意するとかはなかったのではないかなと思います。ただ、新しいチャットアプリですとか、そういったものを使用するというだけで、多少最初は混乱があったんですが、慣れてしまえばあまり苦労はなかったように感じました。

逆に、資料の共有などがオンラインで行われるようになったことで、むしろ、スライドですとか、今までプリントやスマホで撮影したりといっていろいろ資料がばらばらになっていたところが、一括して受け取れるようになっていたので、その



あたりはかなり楽になったかなと思い、大きなメリットだと感じました。

ですが、これらはいずれもかなり少人数、小規模な授業での話ですので、もし大人数の授業、40 人、50 人ですとかそれ以上であれば、かなり難しかったのではないかなと思います。多分、普通の授業でも難しいと思うんですが、特に語学の授業に関しては不安が大きくなるかなというふうに感じます。

とはいえ、私がオンライン授業を受けている間というのは、多少の不便さを感じないわけではなかったんですが、多少の負担は、そういうものだという気の持ちようでかなり納得できた部分も多かったと思います。もともと留学というのは、どれだけ自分の環境が変わったかというところに自分を順応させるというのも醍醐味であると私は思っておりますので、その一部だと考えれば、あまり大きなストレスになることはないのではないかなというふうに感じました。

最後にちょっとオンライン留学という選択肢について考えてみたんですが、先ほど小山さんの発表でもありましたように、留学に求めるものは授業だけではないというところが、今後、オンライン留学ということを考えるに当たって重要なことだと思います。やはり、授業以外にも現地での生活ですとかを体験するということに重きを置いている、それを求めて行っているというところもありますので、オンライン留学が実際の留学に匹敵するということはないと思いますし、むしろオンライン留学というのは、一般にある、例えば Skype によるフィリピン人講師による英語の授業、オンラインレッスンですとか、そういうのにお金を払うのとあまり差がなくなってしまう。大学から交換留学として行くというメリットが少し薄れてしまうのではないかなというふうに感じました。

そういうふうに感じて、やはりオンライン留学が実際の留学に匹敵することはないと感じたんですけれども、逆に、経済的、時間的に制約がある方にとっては、こういうオンライン留学というのも選択肢の一つとして、今後、展開することも可能ではないかなというふうに感じました。以上です。

梶山　はい、ありがとうございます。安井さんからもまた、小山さん同様、オンライン授業と違い、オンライン留学の勉強以外の面をどう充実させるか、という課題が指摘されていました。安井さんの最初のスライドに映っていたのは、プロフですね。中央アジア、特にウズベキスタンで食べられていますが、ロシアでも普通に食べることができて、安井さんが大好きだったと聞いております。

安井　はい。日本料理に少し通ずるものがありました。炊き込みご飯のような感じがします。

梶山　まさにプロフを食べるというのは、オンラインでは出来ないことなんですね。安井さんは 1 月まで続きますので、また戻って食べられるようになるといいと思います。ありがとうございました。

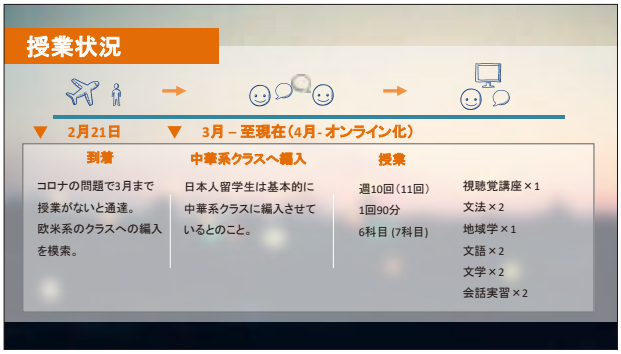
ここまでは学群生の発表でしたが、続いて、大学院生の米山さん。米山さんは 2 月にモスクワに渡航されて、その後、現地に残って、現在も現地で現地の大学のオンライン授業を受けています。米山さん、よろしいですか。

米山　はい、よろしくお願いします。「ロシア留学と今後への提案」というタイトルで進めさせていただきます。

まず、オンライン授業について話していきます。オンライン化には基本的に賛成で、基本を対面式に置いたハイブリッド型がいいと思います。つまり、オンライン授業という選択肢を先生方が当たり前に選択できるようになればいいんじゃないかなと。別にオンラインをしたくない先生はそのまま基本的な授業でやっていただければなと。そうであれば、学生も選択肢が増えていいと思います。

授業状況について、少しだけ説明します。コロナの問題で 3 月まで授業がないと通達されたのが、2 月 21 の到着からすぐで、10 日ぐらい授業がない期間がありました。その時に、実は欧米系のクラスへの編入を模索しました。同じルームメイトが授業に行っているようだったので、「授業があるのか」と聞いたら「ある」と言われて、そこから担当教員に聞いて「行けないか」という話をしたんですが、結局、問い合わせ時間が長くて、中国系クラスが再開したので、中国系のクラスに編入することになりました。そこで先生に話を伺うと、日本人留学生は基本的に中国系クラスに編入させているという話を聞きました。このような経緯で、中国系のクラスに入って授業を受けています。授業内容は非常に多くて、週 10 回ありました。

その中で不便だと感じた点が、日本人学生はいつでもゲストということで、欧米系クラスに入るにしても中国系クラスに入るにしても常に 1 人で、どこに行ってもお客さんという感じでした。さらに、相談事で困るかなと。特に留学のはじめの段階で。チューターのような制度はあるんですが、授業に関してなどは授業を受けていないと分からないので聞けない



ということで、やっぱり日本人がいないと少し困るなというところもありました。

対して中国語を母語とする留学生の状況としては、彼らは1年間の留学、短期で来ているんですが、それでもクラスがあってカリキュラムがしっかりしている印象でした。それぞれの所属大学はさまざまで、複数の大学から来ているんですが、中国語話者が固まっているので、その人間を固めてクラスをつくっているという、すごくいいシステムだなというふうに思いました。そのせいで授業がしっかりしているので授業数も多く、留学期間がはっきりしているというのは、途中で出たり入ったりする人数の変動が少ないから、安定しています。

この中でクラス比較をすると、中国系は内容が充実していて、自分のレベルに合ったクラスで受けることができる。対して欧米系の授業を受けた場合は、受講できる授業が、自分の能力ではなくて、1クラスしかないですと言われたらそのクラスに入るしかないので、クラス依存になってしまうことがあります。一方で、英語能力が伸ばせるというメリットもありますが、人の入れ代わりが激しい特徴もあると思います。

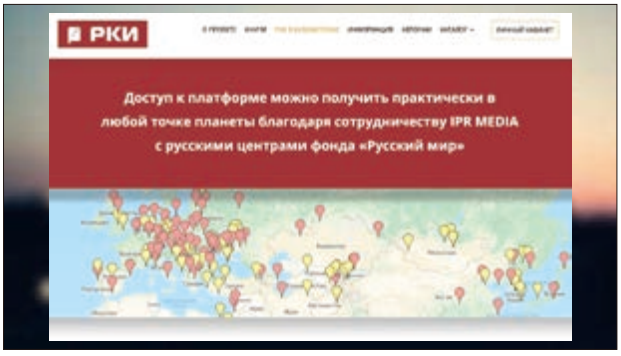
それを受けて、アイデアとして、中国系のクラスがよく構成されているので、積極的によく編成されているクラスに留学生を入れていっていただければいいんじゃないかなというふうに思います。でも、一方で英語を伸ばしたいという学生もいると思うので、選択肢の提供をしていただければ最良じゃないかなというふうに、今、留学していて思いました。

次に、オンライン授業で感心した点が、共通の教材データベースを使っていることで、このРКИ（エル・カー・イー）というサイトは加盟大学の学生であれば誰でも利用でき、たくさんの加盟国、大学があります。日本にも、3カ所、4カ所ほどありました。ログインすると、最新の教科書を読むことができます。なので、これは非常にいい手段だなと思いました。以上です。

梶山　ありがとうございました。米山さんはモスクワに滞在中ということで、現地の情報もいろいろ聞いてみたいところですが、少し先を急いで、聴講されている先生方にご意見を伺おうと思います。本学のオンライン授業移行化にご尽力された土井先生、いらっしゃるでしょうか。

土井　はい、土井です。どうもありがとうございます。ごめんなさい、ちょっと私、授業があった関係で途中からの参加で、あまり十分に聴けていないところはあるんですが、一時的に乗り切るということではなくて、今後に向けて課題だなと思うのは、最後のご発表であったとおり、教材のデータベースというか、共通のリソースセンターをどう作るかということと、そこに良い教材をどういうふうに集約していくかという、そこじゃないかなというふうに考えております。

私の場合は担当するのが語学の授業ではないので、そこはちょっと事情が違うかなというふうには思うんですが、何でこの教材の問題が重要かと申しますと、学生から取ったアンケートでかなり問題視されていたことの一つが、オンラインに対応していない教材、要するに、ただ単にPDFとして本来紙だったものが電子化されているだけであって、そこに書き込むとかということが要求される、あるいは紙で読むことが前提されている教材なものだから、それを印刷しなくてはいけないと。印刷するにしても、大学のサテライトオフィスの端末室のプリンターが空いていない。あるいは、外出自粛要請期間だと、どこかコンビニとかにしょっちゅう行くのもは



ばかられる。たくさん使うと、今度はそのお金の問題があるみたいなことがあったので、やはりオンラインに対応できていない教材というのが、今回の筑波大学のオンライン授業ではちょっと懸念点だったかな、問題点だったかなとは思っていました。

ですので、そこのシステムとして、どうやって今後のオンライン授業、あるいはハイブリッドな視聴覚システムに対応するものを作っていくかというのが重要ではないのかなというふうな感想を持った次第です。私からは、まず以上です。

梶山　はい、ありがとうございます。つづけて、プロジェクト教員の先生方にお話を伺おうと思いますが、加藤先生、山本先生、何かございますか。

加藤　それでは、加藤です。すみません、途中から聴かせていただいたのですが、留学をある程度総括するかたちでのお話、とても面白かったです。自分自身の今現在の課題としては、このオンライン授業を続けてきて、学期が終わるときにいかに評価をしていくかというところがこれからの見極めたい部分だったので、参考になりました。

それから、学生さんの発表にあったように、何がオンラインに向いていて何が対面に向いているかということが、この間、次第に明らかになってきて、それが非常に役に立ったと思います。こういうことでもなければオンラインを試みようという気がなかった教員の一人なんですが、とにかく、いったんオンラインで、対面授業ゼロで学期を進めるという体験は、非常に研修として良かった。その中で自分が続けていけて、しかも効果があるという部分を、複合型というか、今後どういうかたちになっても生かせていけたらなと。そして、やはり対面だという部分は、今回はやむを得ず移行したけれどもなるべく戻していきたいという。そういう自分なりの体験として、いいものが、勉強になったかなと思います。

できれば、研修というかですね。技術的にどういうふうにやったらいいかということの、映像の作り方であるとか、音声の乗せ方であるとか、そういう技術の研修を受ける機会を、対面可能な通常の時に開いておいていただけると、試行錯誤ではなくて、常々そういう研修を受けて、ある程度の基礎的なスキルを教員側も持っているべきだなというふうに感じました。以上です。

梶山　はい。加藤先生、ありがとうございます。教員のほうからも研修は必要だというご指摘がありました。山本先生、いかがでしょう。

山本　はい、本日もとても興味深い発表をありがとうございました。今回、5回のシリーズに参加させていただいて、いろいろ考える機会をいただきまして、その中で課題と展望というテーマでコメントさせていただきたいと思います。

まずひとつ申し上げたいのは、「オンライン授業」というものと、「オンライン留学」というものは、分けて考えなくてはいけないということです。まずオンライン授業に関してですが、今後このオンラインでの授業というのが不可避になる状況で、教育活動をどうしていくべきなのかを考えていかなくてはいけないわけですよね。

実際、今回このコロナ禍で急な対応を迫られていて、おそらく皆対応していくので精いっぱいで右往左往していたという印象があると思うのですが、実は様々な事情で学校に通えない子どもたちへの学習の支援という意味での遠隔教育、distance education というものは、教育の形態として昔からあったものなんですよね。高等教育機関である大学でも、これまでそういうものはあって、通信教育ですとか、テレビやラジオを通じて学位を取る放送大学というものも、以前からあった訳です。インターネットが普及する前、このような学校では郵便のやりとりで教育活動が行われていたわけです。

昨今の教育のメインストリームというのは、対面形式が基本ですので、こういった形態の教育活動がもともとあったということを、私たちは忘れがちで、既に何十年も研究や実績を積んでいる教育機関があり、教育活動に関わっている先生方が実際にいるということを、いま一度意識するべきではないかと思いました。このような既存の教育活動の中で蓄積されたノウハウから何か学べることもあるのではないかと、今後の可能性を感じています。

そして二つ目ですね、オンライン留学ということに関してです。今回、学生の皆さんも何人かコメントをしていましたが、やはり、現地での経験を積めないというオンライン留学の壁は、とても高いと感じています。留学というものは、やはり座学だけじゃないんですよね。友達をつくったり、現地の人とやりとりしたり、文化イベントに参加したり、それができない状態をはたして「留学」と呼べるのか、というところを考えました。

要は、先ほど程言っていたような通信教育ですね。学生さんのほうでも発表がありましが、Skype でする英会話教室みたいなものですとか、あと、MOOC（Massive Open

Online Course）など、無料でアメリカの有名な大学の講義が聴けたりするフォーマットが既に今、あるわけです。そういう形態の教育とちゃんと差別化をしない限り、「オンライン留学」というのは、ただキャッチーな響きのある言葉にしかならないんじゃないかと思うわけです。オンライン留学というものをもし今後、実態のあるものとして続けていくのであれば、この現地での経験という留学体験をどうやって導入していくのかということが大きな課題なんじゃないかなと思います。

先ほども申し上げましたように、私も基本的には現地に住んで体験するという本来の留学に代わるものはないと考えていますが、じゃぁ、それが無理であるという状況でなにができるのか。例えば、Zoom 飲み会などという言葉も今年になってから出てきましたが、飲み会は難しくても Zoom カフェですとか、ディナー会みたいなものを企画して、学生同士の交流用の場所を提供するとか、SNS を立ち上げてオンライン学生の中で留学体験ができるような場を設けたり、授業以外の何らかのクリエイティブな支援をしていかないといけないのかなと感じました。以上です。

梶山　はい。山本先生、ありがとうございます。オンライン留学を実体あるものにするために、西川さん、石川さんも不足点として挙げていた、体験をどのように埋めていくか、留学と呼ぶからにはオンラインと言ってもこの辺りを充実させなければいけない。

それでは、ご聴講されている方で何か質問やコメントなどはありますでしょうか。こういうときにオンラインだと発言がしづらいという指摘が学生からの報告で多々ありましたが、先生からもなかなか出てこないですね。

臼山　すみません、臼山です。例えば、森尾先生とか、恐らくいろいろとお感じになっていることがあると思います。森尾先生、もしご感想やコメントがありましたら、ぜひお願いいたします。

森尾　はい、ご指名ありがとうございます。森尾です。第２回から第５回まで、いろいろ聴かせていただいて、実は僕も春学期は授業を持っていなかったんですが、秋学期から総合科目２科目を担当することになっていまして、非常に参考になりました。特にオンライン授業に関して、今まで対面授業をやっていたものをそのまま再現するのではないということですよね。そこがすごく重要だということと、あと、授業のそもそもの目的ですね。この授業、この科目を取ることによってどういうことを身に付けてほしいかというのを、もう一度考え直す機会になったなというような気がします。

ただ、そのときに、同じ教育目的を得られるのであれば、全く違ったスタイル、例えば放送大学とか通信教育的なものというのが学生さんに受け入れられるのかなというのが不安でもあります。一つは、学生さん同士のインタラクションをどうするかということですね。通信教育というのは、基本、先生と学生が１対１でやるようなものになりますので、そこにどうやって学生同士のインタラクション、例えばグループワークをやるとかというのもあるんですが、そこが本当にすごく悩みどころだなという感じがします。

それについては、特に少人数でやりますと、学生さんの発表であったように、単に対面のものがテレビ電話に代わっただけというようなことでかえってやりやすいんですが、受講する学生が多いときに、さてどうしたものかというのがすごく考えさせられるところで、自分自身の授業のやり方に対しても宿題になるなという感じがします。

それから、オンライン留学についても、留学の体験って何なんだろうというのをもう一度見直して、それがこれからのテクノロジーでどこまでカバーできるのか、カバーできないものはどうなんだろうというのを、本当に考えてみたいと思います。

例えば、一つのやり方としては、海外分校を作って、その箱庭の中でやると。箱庭の中で、安全な環境をつくっておきながら留学をするというのも、これからあるのかもしれないし、逆に、Campus-in-Campus をもっと進めて、筑波大学の中に、例えばロシアの大学の分校を作って、そこは完全にロシアの環境と同じものにするというような、そういう可能性もあるんじゃないかなと思いました。

最後になりますが、本当に、学生さんの発表も先生方の発表もすごく考えさせられるところがあって、いろいろと秋学期からのオンライン授業のためになるというか、本当に参考になりました。どうもありがとうございます。

梶山　森尾先生、ありがとうございます。

臼山　森尾先生、ありがとうございます。それから、私が発言を聞いてみたいと思うのは、猪股さんです。グローバルコミュニケーション教育センターで特任研究員をされていて、今回、初修外国語の FD 研修を一手に担って、ロシア語教員も含めて全ての初修外国語の教員を助けてくれたのが猪股さんです。毎回、参加して聴いてくださっていたと思いますので、コメントや感想などがありましたら教えてください。

猪股　ご紹介にあずかりました猪股です。先生方が言ってくださったことにそんなに付け加えることというのは、私から取り立ててないんですが、学生さんからいろいろと直接声を聞ける機会というのが、実際、教室で対面で会っていないということがありましたので、そういう場がなかった。

学生さんにアンケートをすごい数取っていて、先生方も学生さんも、皆さん多分アンケート疲れみたいなものもあるかとは思うんですが、学生同士のコミュニケーションの場というのもそうですし、学生と教員とのコミュニケーションの場というのも、どうしても対面のときに比べると機会が圧倒的に減ってしまった、できなくなってしまったという点はあるかと思いますので、オンライン飲み会というような話もありましたけれども、例えばTeamsで雑談のチャンネルを作るというと、それはそれで教員の目があるとやりづらいのかもしれないですけど、簡単に、気楽に、授業の感想でも言えるような場を作るとか。

実際に運用されるかどうかというのはまた一つ課題にはなると思うんですが、まず場を提供して姿勢を示すという点は、一つ必要になってくるのかなという印象は、今、抱いております。私からは、簡単にですが。

臼山　ありがとうございました。あと、突然の指名でびっくりしてしまうかもしれませんが、地引さん。国際室の地引さんもずっと聴いてくださっていましたので。

地引さんは、日本留学海外拠点連携推進事業を担当している国際室の職員の方です。この事業の対象地域はロシア・CIS諸国で、ここから優秀な学生たちに日本に留学してもらおうという、オールジャパンの取り組みをしています。日本の学生（筑波大生）がロシアの大学にお世話になっているという状況もありまして、これから日本の大学の教育活動、特に筑波大学の教育活動の中でいい学生さんを引っ張ってくるにはどうしたら良いのかという観点から、いろいろとご覧になっていたのではないかと思います。もしも地引さんのほうで何か感想とかがあれば、簡単なコメントでも結構ですので、お願いできるとありがたいです。

地引　はい、お疲れさまです。突然でびっくりしているんですが、やっぱり、今日の学生の意見を聞いて「そうだよな」というのが正直な感想で、先生方でも私とかでも、それなりに海外に直接行って経験してきたことがすごく今までの経験に生かされていたりすることが多い方が多いと思うので、本当に今もう、オンライン、オンラインってなっているんですが、現地での経験というのは絶対に大事だなというのをひしひしと感じました。山本先生がおっしゃっていたことに、とても共感いたしました。

私たちがやっているような、日本への留学を促進するためのイベントというのは、むしろ逆にオンラインでもこれから通用していくのかなとは思いましたが、だからといって何もかも全てオンラインで留学をということとは違うんだなということを感じました。そんな感想です。ありがとうございます。

臼山　ありがとうございました。

梶山　それではそろそろ、臼山先生に総括をお願いしてよろしいでしょうか。

臼山　はい、わかりました。これまで学生たちの発表を中心に5回にわたってラウンドテーブルを学生と教員が協力して行ってきました。その総括として、僭越ながら、このオンライン留学の可能性というものを、オンライン教学といいますか、教育と学修から観点から整理したこと、少し考えたことを皆さまにお話しさせていただきたいと思います。

1．教育活動の観点からメリット、デメリット

前回、教員による教育活動の観点からメリット、デメリットというようなことについても言及しました。まずこれをもう少し整理したいと思います。当然のことながら、オンラインによる教育活動の上でのメリット、デメリットということがあるわけですが、教員の側と学生の側で共通の部分と異なる部分があります。まず、教育活動上のメリットというのは、物理的な距離や場所を乗り越えて教育活動ができることです。これがまず教員と学生双方にとってのメリットだろうと思います。特にオンデマンドの教育の場合は、時間的な制限にとらわれず、教育活動、学修活動ができるという点です。これはオンラインテーブルで何度も出てきたことです。

それから、教育コンテンツさえ準備すれば、補講の必要がないということ。これは教員の側のメリットで、一度きちんとした教育コンテンツを作ってアップすれば、補講する必要がないということです。学生の側は、何度も教育コンテンツを視聴して、見たいところ、聴きたいところを何度でも復習できる。そういうメリットがあるわけです。

教育活動のデメリットということですが、これは深刻な問題が実はありまして、西さんの発言からもありましたが、公正な成績評価が挙げられます。西川君の発言にもありました。オンラインという授業形態では、公正な成績評価をするための方法がかなり制限されるということです。教員の側は、学生を評価する場合の成績評価の在り方が非常に難しく、学生の側も、逆に成績評価の基準が曖昧な点があるので、どうやって成績を相対化するのか疑念を抱くわけです。どうしたらAになって、どうしたらBになり、どうしたらCになるのかという、その基準が非常に曖昧になってしまうということです。

また、授業の中で学生同士の助け合い、横の連携をしにくいという指摘がありました。Zoomのブレークアウトセッショ

ンの機能を使うという可能性もありますが、いずれにしても、対面では普通にできた学生同士の生の確認というか、教え合いができないので、どうしても学修活動の孤立化や孤独化を招いてしまうということです。

そして、やはり対面ならではの教育効果というのがあって、耳学問というか、リアルな記憶、リアルなやりとりによる知的活動というのがあるので、対面の記憶に訴え掛ける効果というのがオンラインだと薄れる気がいたします。その意味で、学生たちも、対面で得られたはずの学修活動の効果を体験できなかったということが言えます。

①新しい教育／学修技術・教育／学修形態、新しい活動形態を獲得

これについて抽象度を高めて表現すると、教育活動上のメリットとしては、オンラインという新しい教育技術・教育形態、新しい活動形態を獲得することができたということです。学生の側も、新しい学修技術・学修形態、新しい活動形態を獲得することができたということで、新しい教育形態・教育法、新しい学修形態の修得というのが、間違いなく、今回、実現されたのではないかと思います。この新しいオンラインによる教育技術・教育形態・学修形態を平時下で生かしていくということが今後の展開になっていくということです。

また、デメリットという点ですが、移動・接触の制限により、通常の教育・研究活動が非常に制限されたということが言えます。図書館も利用できない。フィールドワークの野外実習みたいな活動は当然できませんし、研究しながら教育をするということもできないわけです。

それから、コミュニケーション活動不全というのが、実はオンライン教育では起きており、今はそのコミュニケーション活動不全という状態が続いているわけですけれども、平時になった場合に、逆にこのオンラインの活動が非常にコミュニケーション活動不全を回復させる一つの武器になり得る、対面コミュニケーション活動の効果的な補完機能の役割を今後見いだすことができるのではないかということを考えています。

それで、メリットのほうになりますが、平時になった場合に、教育活動、研究活動、運営活動、その他の活動の質的多様化、機能的拡大というのが起きることが指摘できます。今はまだ自粛した活動をしなければならないので、オンライン活動の、オンライン教育、オンライン学修の次の新しい使い方というところまではなかなか実感として湧かないんですけれども、補完的な役割という位置付けをきちっと見据えて考えると、いろいろなことが分かってくると思います。

先ほど米山君の発表にもありましたし、それから土井先生、加藤先生もおっしゃっていましたけれども、私は、やはりハイブリッドな時代、対面コミュニケーションとオンラインコミュニケーションを組み合わせたハイブリッドコミュニケーション活動時代に、今後突入していくと予測しています。

石川さんの発表にもあったと思いますが、私も実際に画面共有機能を使って学生たちとパソコン上で顔を見ながらやりとりするわけですが、空気感は確かに感じられません。学生全員に対して、同じ状況で同じ内容の教材を提示できるということに加えて、土井先生のように、それこそ本当に対面授業の講義さながらに、教育コンテンツに自分の文字で自分の強調したいところを書きながら、それを学生たちにリアルタイムで見せていくという描写機能ですが、これを黒板のようなかたちで、画面全体に使って、授業の中で内容を効果的に理解させるように展開できるというスキルがすでに実現しています。これは本当に魅力的というか、本当にすごいなと僕自身も感じているところですが、オンライン授業の中で、このスキルを駆使することで、空気感のようなものを出していけるのはないかということを感じています。

②距離、場所、時間からの解放

それから２番目ですが、距離、場所、時間からの解放ということで、メリットして新しい教育活動の可能性が出てくるということが考えられます。学内の連携、国内の連携、そして国際的な連携という広がりが考えられます。

その一方で、今回１年生が特に顕著だったのですが、ヒューマンネットワーク構築不全ということです。西さんが言っていましたが、これは３年生であっても２年生であっても４年生であっても、要するに、交換留学の受入留学生と派遣留学生にとっては、人間関係ゼロですから、新入生と全く同じ状態です。ゼロからネットワークをつくらなければならない学生にとっては、このオンライン教育・学修に大きなストレスを感じたのではないか、学修のハードルが高かったのではないかと考えています。

ですので、今の新入生、それから、今現在オンライン留学中の学生にあっては、平時になったときに、実際に留学して、ヒューマンネットワーク構築不全を回復させる必要があります。１年生、新入生に関しては、２年次以降に正常化させる必要があるということです。特に１年生は、対面授業というリアルな教育学修上のコミュニケーションがなかったために、オンライン授業の効果と対面授業の効果を相対化ができないわけです。同級生、上級生とのネットワークもつくれていませんので、今年の新入生というのは非常に厳しい、精神的にも苦しい状況に置かれているということはよく分かります。したがって、２年次以降に相対化の経験が可能になりますので、それをしっかりサポートしてあげるということが必要だと思います。

今の２年次以上の、２年生、３年生、４年生については、もう既に筑波大学の学生としての教育経験があるので、これは加藤百合先生もおっしゃっていましたが、２年生以上はあまり心配ありません。既にあるサークルの先輩とか、同級生の横のつながりだとか、クラスのつながりだとか、既に１年、２年、３年かけて作り上げてきたヒューマンネットワークを活用できているので、２年生以上の精神的な負担、学修上の負担というのは、１年生と比べるとかなり低いと言えます。このあたりのことは、加藤先生との議論を通じて、整理したことです。

それから、オンラインは空気感、空気が読めないという問題。石川さんの話がそうですが、まさにそのとおりで、教室の空気、授業独特の緊張感というのは、オンライン授業ではやはり薄れるわけです。学生たちの学修の到達度や理解度に関する息遣いが全くつかめないので、スタンプ機能で自分の気持ちだとか状況を画面上で伝えるという工夫が必要だというのは、非常に素晴らしいアイデアだと思います。とはいえ、やはりオンライン教育の空気感というか、横のつながりを回復させるといいますか、補完させるためには、オンライン授業の中で、先生も入る形で、ペアワークとかグループワークを行うというZoomのブレークアウトセッションのような機能の活用がやはり肝になると考えています。

⑵精神衛生上のメリット、デメリット

次に、精神衛生上のメリット、デメリットは両方あります。特に精神衛生上のメリットは、移動の義務から解放されるということです。教室移動がないので、移動距離に対する精神的な負担が全くなくなったことは教員、学生にとってもメリットだと言えます。

それに対して、精神衛生上のデメリットというのは、今のCOVID-19が広がっている状況がわれわれの生活上の活動そのものを制限しているので、緊急事態というこの状況が変わらないということです。この緊急事態の常態化へのストレスというのが、長期的に続いているのが非常に心理的に負荷がかかります。3密を常に回避しなくてはいけない、回避しないと、いつ感染するか分からないというストレス。さらに、移動できないことに対する、移動の不自由に対するストレスがあります。これは教員も学生も同じで、肉体的な活動不全、それからコミュニケーション活動全般の不全です。逃げるとか放棄するということが教育学修活動ではできませんので、教員も学生も教育学修活動に向き合うしかありません。そういうストレスもあります。学生には、オンライン授業に対応しなくてはいけないというストレス、オンライン学修をしなくてはいけないというストレスですね。教員の場合は、授業コンテンツを作る準備時間のストレスです。土日を使って授業コンテンツをつくっている先生が数多くいます。

それから、これは教員も学生もお互いさまですが、スクリーンをずっと長時間見なくてはならないというストレスですね。１日何時間もパソコンと向き合わなくてはいけない。そういうストレスです。

メリットとしてはまだありまして、規定の授業時間からの解放、それから欠席リスクからの解放ということで、オンデマンド型でも、ライブ型でもいいのですが、授業時間を自由に、自分の体調だとか、教育コンテンツだとか、あるいは学生たちの状況に合わせて、授業を30分短くしようが、40分短くしようが、15分短くしようが、そういう調整ができる。教員の裁量で、75分授業を、長くするということはできませんが、短くするということができる。ということで、75分ちゃんと授業をやらなくてはいけないという義務感から解放される、精神的な負担の軽減はあります。

対面授業で１分でも遅れると教室のドアを閉めて学生を入れないというような、厳格な先生が時折います。オンライン授業では、時間面では柔軟に視聴できますので、１分の遅刻で欠席扱いになる、欠席で成績が付かないという、そういうことにはならない。学生には、そういうメリットはあるだろうと思います。

そして、オンライン教育技術獲得へのストレス。これは私もそうですが、やっぱりICT技術、新しい技術に対する不安感といいますかね。土井先生ぐらい自由自在にできると、もう少し授業に対しても前向きにというか、気持ちよく臨めますが、その技術が足りないことに対する不安というのを常に持たなくてはいけない。そういう意味で、加藤百合先生がFD研修をやってくれというのは私も大賛成で、土井先生に今度機会を見つけて伝授してもらいたいと思っているところです。

先ほど山本先生が言っていた話というのは非常に重要な点で、そこともつながりますが、今、学生たちは、学業以外の学生生活を喪失しています。本来であれば、体験できたこと、経験できたことを完全に失っているわけです。これはものすごいデメリットで、小山君が、留学体験ができないことに対する不満が大きいと言っていたことも重なります。また同時に、これは、今の１年生がそのまま感じていることと直結することで、本来体験できていたであろうことができなかった。学業生活以外の、サークルだとか、体育会の野球部だとかサッカー部だとか、いろいろあると思いますが、そういう学生生活の喪失です。これはものすごく大きな問題です。入学式もない、キャンパスにも入れない、サークル活動もできない、学園祭もできない、とにかく無い無い尽くしです。それに対する不満が募っているわけです。

⑶肉体的負担上のメリットとデメリット

それから三つ目、最後になるのですが、これは肉体的負担上のメリットとデメリットです。当たり前ですが、移動の負担がなくなったことは、教員にとって楽ができるわけですからメリットです。学生にとっても同様です。大学に通わないとリズムが作れないから嫌だという学生さんもいますが、その一方で、自分で自律的に活動ができる学生は、むしろ大学に行かなくてラッキーだ、勉強がはかどると言っている学生も実は結構います。つまり、タイムマネジメントがちゃんとできる学生にとっては、むしろ通学の時間帯とかがもったいないわけです。そういう意味で、肉体的な負担が軽減されるという意味で、時間の節約にもなるということで、非常にメリットを感じている教職員は結構いると思います。

それから、やはり長時間、長期間のオンライン教育、オンライン活動に対する肉体的な疲労はデメリットです。特に土曜授業はつらいものです。私も土曜授業をやって本当に追い詰められました。休む暇がなくなって、疲れを溜めたまま週が明け、会議も出て、授業もやっていくという毎日です。前回も言いましたけど、個人的には、土曜授業はやめるべきだと思います。学生たちも同様だと思います。土井先生が人文学類でアンケートを取った結果ということで、情報共有をしてもらいましたが、土曜授業に対する不満というのは非常にすごく大きいことが判明しています。学生も教員も同じですね。

運動不足に陥る点はデメリットです。油断すると、全く動かないので、筋肉が衰えます。あっという間に足腰と目にも来ると思っています。ですから、運動不足解消をちゃんと意識して生活しないと、病気になるリスクが高まると思います。

特に教員はそうですが、学内運営、それから研究、社会貢献といった社会活動での負荷がさらにかかっています。こちらの活動も、今はすべてオンラインでやっていますので、非常に肉体的な負担が実は大きいということです。

最後に、こういったメリット、デメリットを踏まえて、コロナ収束後のオンライン教育の新しい７つの可能性ということを考えました。やはり契機となるのはオンライン・コミュニケーションツールを用いた新しい教育技術、教育形態、教育活動形態の獲得だと思います。やはりここが出発点になるということです。その出発点の根底基盤となっているのが、距離、場所、時間からの解放です。物理的な拘束・制限から解放された教育が可能であるということです。

1．オンライン学内連携教育

まずオンラインの学内連携教育が可能になります。今まで、自分の所属する学群、学類だけで完結していた教育活動を横に広げて、他の学類・学群と連携した教育活動を進められます。文理交流型の授業も可能ということです。例えば、非常にいい授業をやっている先生方のオンライン授業を見学することもできますし、オンラインゼミ交流ということで、例えば、私と加藤百合先生のゼミの交流もオンラインで簡単にできるわけです。したがって、筑波大学内の教育コンテンツ、教育活動の部分的相互共有・活用がこれからできるということです。このように、今まで教員単位で完結していた活動と教育コンテンツの内容を外に広げる、横につなげることで、思ってもみないような教育効果をこれから生み出すことができるのではないかと考えています。

2．オンライン国内大学連携教育

それからもう一つは、国立大学は、今、運営費交付金の予算が減らされて、人事の採用に影響が及んでおり、マンパワーが縮小し続けています。つまり、新しく教員が採用できないという事態が出てきています。そうした場合に、ある分野の先生がいない場合に、別の大学の先生の教育活動を使わせてもらうということが可能です。あるいは、逆に筑波大が教員のマンパワーを提供するというようなこともできます。これはもう、いろいろな地域の大学間で試みが始められています。北海道でもやっていますし、関西、関東でも一部やっています。要するに、具体的なイメージとしては、筑波大学と国内の国公私立大学との教育コンテンツ・教育活動の部分的相互共有・活動ができるようになるということです。

例えば、東京外大の言語文化学部、ロシア語学の匹田剛先生というよく知っている先生がいます。例えば匹田ゼミと臼山ゼミと共同で授業を運営するということもできるわけです。あるいは、大阪大学の上原順一先生というロシア語学の先生がいるわけですけれども、上原ゼミとも連携して、わたしのゼミ生を上原先生の授業に参加させる、あるいは僕の授業を先方に提供する、そういうことが普通にできる時代になったと思います。ということで、国内連携教育がこれからできるようになるということです。

3．オンライン国際大学連携教育

その次は、当然ですけれども、国際大学連携教育というのが可能になってきます。筑波大学とモスクワ大学やノヴォシビルスク大が連携して、例えば人文社会学連携講座ということで、連続講義を企画・組織して、それを単位化して学生たちに履修させるということもできるでしょう。それをロシア語でやる、あるいは日本語でやる、あるいは英語でやるということです。

それから、生命環境学連携講座ということもできると思います。筑波大学とカザフスタン共和国のアルファラビ・カザフ国立大学との間で、英語で授業コンテンツを提供し合うことができると思います。要するに、これはオンライン授業によ

る Campus-in-Campus 交流です。

それから、山本先生にはこれから活躍していただかなければなりませんが、国際開発学連携講座ということで、筑波大学と国連大学とピッツバーグ大学の 3 大学で連携して授業を共同運営することです。すべて正規の授業科目として単位化するということです。いずれにしても、国外の有力大学との教育コンテンツ・教育活動の部分的相互共有・活用をしていくということがポイントです。

先ほど、オンライン教育とオンライン留学というのを立て分ける必要があるということで、定義の必要性ということを山本先生がおっしゃっいました。確かにそのとおりだと思います。単なる授業の履修にとどまらず、留学体験、体験学習というものをどのように代替するのかという点が話題になりましたが、その問題もこれから考えていきたいと思います。オンライン留学というからには、単に授業を履修するだけでは不十分で、オンライン教育の中で、留学体験の場を創出するということが大きな課題だと認識しています。

例えば、今、話題を聴きながら思いついたのが、オンラインサークルを立ち上げるとか、あるいはオンライン大学祭とか、例えば e スポーツのサークルをつくって参加するとか。ソーラン節のサークルをオンラインでやるというのは難しいかもしれないけれども、バラライカのサークルをロシアでつくってもらってオンライン上でやることは可能かもしれない。楽器は買わなきゃいけないかもしれませんが、とにかく、異文化体験を実感できるような何か横のつながりをオンラインレベルでやるというようなことをシステムとしてつくる必要があると考えています。

4．オンライン（国内および国外）留学

さらに、私は、オンラインによる国内留学、それから国外留学も可能ではないかと考えています。例えば、北海道大学や九州大学と協定を結んで、九大・北大にオンライン留学するということも可能だと思います。そうであるならば、当然、国外の大学にオンライン留学することもできると思います。

その場合に、一つのポイントになるのが、学習コンテンツを制度化して修了証を出すということです。オンライン留学の中身をどのように規定し、教育の質保証をどのように担保するかという点が今後の課題ですが、一定の授業数の履修と成績の修得単位数を規定し、その基準をクリアーした学生に対して修了証を出すという制度化が大切になります。これを発展させれば、オンライン授業を活用したオンライン・デュアルディグリー制度を実現できるかもしれません。

特にロシアとの関係で言うと、時差が 6 時間なので、非常に設計しやすと思います。3 限、4 限まで筑波の授業を受けて、4 限、5 限、6 限からはモスクワ大の授業を受けるという履修プランをうまく組むことができれば、必要な単位も取れるので、4 年間で筑波大学とモスクワ大学の学位を取れるのではないかと考えたわけです。筑波大生であれば、十分対応できると思います。

5．オンラインインクルーシブ教育

前回 Boitsov 先生がおっしゃったインクルーシブ教育の分野でも可能性があります。障害学生のための教育に効果のあるオンライン教育・学修の在り方を筑波大学が取り組んでも良いのではないかと思います。例えば、世界唯一の聴覚障害学生のためのリベラルアーツ大学であるギャロット大学がアメリカのワシントンにあります。こういう障害学生のための教育を専門に行っている大学と連携・協力してオンライン教育研究交流を進められる可能性があります。

6．オンラインリカレント教育

もう一つはリカレント教育、社会人対象のオンライン教育の整備・拡充の可能性です。これは学位を出す通信教育になります。国立大学の中では、通信教育課程はまだ認められた例はないと思いますが、今後の大学経営を考えた場合に、私立大学だけではなくて国立大学も、通信教育課程に参入するということが可能になれば、リカレント教育にこのオンライン教育を生かすという可能性は当然出てくるだろうと思っています。

最後はオンライン教職員研修ということで、来週の月曜日にカリフォルニア大学のサンディエゴ校の當作靖彦先生の講演会があります。これは SD 研修、スタッフ研修という位置付けにもなっていますが、まさに世界中の優れた先生方による講演会などを通した研修会をオンラインで自由にできる時代になったわけです。

7．オンライン教職員研修

私は今、CEGLOC（グローバルコミュニケーション教育センター）長をしていますので、オンライン教育との関連で、今考えているのは、英語科目とか、あるいはドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、朝鮮語といった初修外国語を職員の方に提供する。例えば、国際室の地引さんは、中央アジアに結構出張で行くようなこともあるわけですが、そのような場合に、現地の言葉を勉強したいな、あるいはロシア語を勉強したいなと思ったときに、学生だけではなくて職員が、学生に提供している外国語科目を履修できるようにするということを考えています。職員の方は勤務時間帯の活動に縛りがあります。日勤の最中は授業に参加するはできないので、オンデマンドで初修外国語の授業を提供するというようなことができるわけです。17 時に仕事が終わって、1 時間、自分を鍛えるための学習時間にしようということ

で、17時から18時までオンラインでロシア語を勉強するというようなことができるわけですね。そして、授業を視聴し終わったら帰宅するというようなイメージです。このように、教職員のためのリカレント教育体制、国際教育体制の構築というのが、今後、可能になるのではないかと考えています。

非常に長くなってしまいましたが、以上の7つがコロナ収束後のオンライン教育の新しい可能性として、今回のラウンドテーブルを通じて、わたしが考え、整理した内容になります。そして、この7つの可能性を展開し、深化させることが、今後の日本の高等教育の質の向上と教育内容の広がりに大きく貢献するだろうと考えています。これは筑波大学にとどまる可能性ではなくて、日本に存在する700とも800ともいわれている大学全体がこういう意識でオンライン教育を活用していくことができると思います。日本の大学も世界の大学もおそらくこのような方向で進んでいくことが予想されます。将来、世界中の高等教育機関でこのオンライン教育・学修に関わる形態というものを連携・協力して使えるということになるのではないかと考えています。

以上、非常に長くなりましたが、今回のラウンドテーブル全体の総括とさせていただきます。大変にありがとうございました。

梶山　臼山先生、全五回分の総括、ありがとうございました。では、そろそろ閉めたいと思いますが、ここであらためて、お忙しい中、毎週ご聴講いただいておりました、本プロジェクトを支えてくださっている日本財団の森常務理事、有川部長、ハフマン課長、JACAFAのヴルボスキ会長に感謝を申し上げたいと思います。もし差し支えなければ、無理強いはしませんけれども、何かコメントなどありましたら頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

森　はい、ありがとうございます。では、日本財団の森でございますが、一言コメントを申し述べさせていただきたいと思います。

臼山先生、梶山さん、こういった大変興味深い機会をご提供いただきまして、ありがとうございました。本当に勉強になりました。私どもも現在、職場のほうもテレワークという初めての体制を実施しており、実際の勤務形態の中でも日々新しい経験をしておりまして、試行錯誤を繰り返しているところですが、同時に、私が今回この臼山先生のラウンドテーブルに興味を持ったのは、今まさに先生が総括されておりました、今後の、コロナ収束後の教育の在り方に大きな変革がもたらされることになるだろうということです。そういった場合に、私どもも、今回、臼山先生のところには中央アジアの人材育成のためのプログラムを一緒にさせていただいておりますが、私どものほうから、教育のイノベーションといった分野に対しても、何らかの協働活動なり、または資金的なご支援をさせていただくような機会があるのではないかということを考えて、実は、先生方、そして学生さんのいろいろなご意見を拝聴したいと思って参加させていただいた次第です。

先生方、それから学生さんのいろいろなお話を伺っていて、確かに、オンライン教育だけでは恐らく十分ではない。また、オンライン授業とオンライン留学は違うものであるということ。それから、非言語コミュニケーションというのを学生さんがおっしゃっていましたが、そういったオンラインを使った場合のコミュニケーションの在り方。そういったものについて、新しい考え方、見方というものを教わったというふうに思います。

今まで私ども、対面式の授業が通常の教育であったというふうに思っていたところに、教育というのは大きく分けて知識の移転という面と人間同士が交流してお互いに学ぶという二つの面があった、それが今回のオンライン授業というので、特に知識の移転という点ではオンライン授業というのは非常に威力を発揮しますが、人間同士の交流を通した教育というところでは、まだまだ頼りない部分がある。そういったところを今回学ばせていただきまして、最後に臼山先生があれだけきっちりと今後のオンライン教育の在り方についていろいろな可能性を出されたということは、本当に素晴らしい研究をされたというふうに思っております。

できればまた私どもと一緒の活動の中で、今、先生がお考えになっているような七つのアイデアをいくらか入れたかたちで事業を進めることができれば、また面白くなるのではないかというふうに思っております。今回は本当に、参加させていただきましてありがとうございました。

臼山　ありがとうございました。そのような方向で進めさせていただきます。

森　はい。

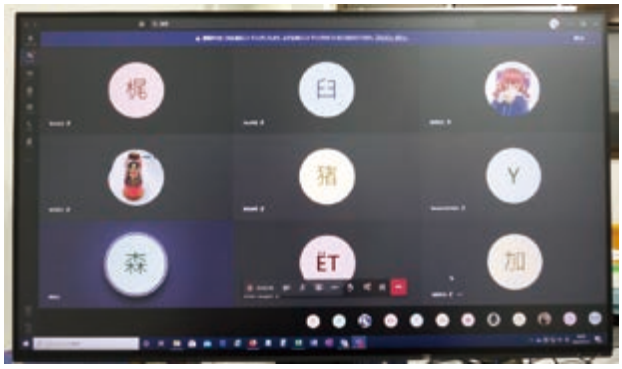
臼山　ありがとうございます。

梶山　森常務理事、ありがとうございます。ヴルボスキ会長はいかがでしょうか。

臼山　いつもありがとうございます。

ヴルボスキ　こちらこそ、どうもありがとうございました。今回参加させていただきまして、私どものほうの活動も、日本・中央アジア友好協会の活動は、本当にインタラクティブなコミュニケーション、実際フェーストゥフェースで取るコミュニケーション、あとフットワークとか、そういった人的交流が全てであるような活動をしている私たちにとって、このコロナパンデミックの状況で一体どうしたらいいんだと。そういう状況になってしまいまして、今は、本当に考えを切り替えまして、オンラインでやっていくしかない。オンラインイベント、また

は、今、奨学金の面接はオンライン面接になっちゃっているんですね。本当にもどかしい思いをしていますが、仕方がない。ある意味、時代の波には乗っていかなければいけないので、今回、教育の場である学生さんと先生の方々の、今回の経験を通したいろいろな意見を聴くことができたのは、私どもの活動にもすごく役に立つことで、非常にうれしく思っております。ありがとうございました。



臼山　ありがとうございました。

梶山　はい、ありがとうございます。それでは、時間もだいぶ過ぎてしまいましたので、そろそろ終了したいと思います。1カ月以上にわたって毎週続けてまいりましたオンライン留学に関するラウンドテーブル、終了したいと思います。参加された皆さま、特に学生の皆さん、突然の誘いにもかかわらず協力してくださり、ありがとうございました。本イベントはこれから冊子にまとめて刊行いたしますし、本プロジェクトにおいても今月からオンライン講演会をはじめ、今後様々な企画を充実させてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

臼山　ありがとうございました。

梶山　どうもありがとうございました。失礼いたします。

＜聴講者　口々にお礼を言って退出＞

笹山　啓

国際室助教

初修外国語教育の現場から

ロシア語授業のオンライン化で見えてきた課題と展望

筑波大学　臼山 利信・加藤 百合・笹山 啓・梶山 祐治・山本祐規子

筑波大学

ロシア語（共通科目）基本方針

授業進度について

1．学習内容を（最大３割程度）軽減する。
2．４月、５月は無理には授業を進めず、安定軌道に乗せることを目指す。
3．６月以降、学生の様子を見ながら、課題の分量を増やしていく。

授業の内容

1．各授業につき10～15分のビデオを作成し、Microsoft Streamにアップ。学生はそれを見た後、manabaで課題を提出。その後Zoomにて30分程度のライブ授業を行う。
2．従来は、１つの教科書を日本人教員とロシア人教員がリレー方式で授業を行っていたが、それはぜず、補助教材を使った文法説明重視の授業を行い、適宜ロシア人教員の授業内容の補足を行う。

教材について

1.『外国人学習者のためのロシア語教科書 初級 』サンクトペテルブルグ、2011年、212頁.
2. 補助教材（音声教材・テクスト）

提供方法

1. 教科書・補助教材は、1課ごとに分割した上で、PDFの形で作成する。その際、「2020年度限定」の使用であることを明記する。
2. PDF教材にはパスワードをつけ、学習管理システムmanaba上にアップする。
3 課題に関しては、ロシア語練習帳に書きこんだものを写真データで送らせる。

筑波大学のロシア語のオンライン授業はハイブリッド型

1　オンデマンド型
- Microsoft Streamに動画をアップロードし学生に視聴させ、事前に授業内容を理解させる
- manabaで学生への通達、課題の出題・提出

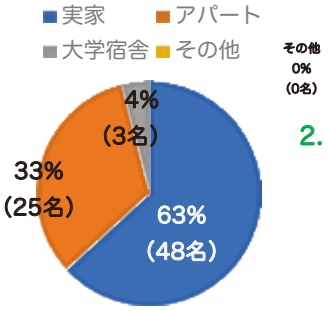
※上記アプリは大学の契約により無償で利用可能。

2　ライブ配信型
- Teams, Zoomを使って、リアルタイムで双方向の授業
- 発音等指導を丁寧に行う

※Teamsは大学の契約により無償で利用可能。Zoomアプリは無料。

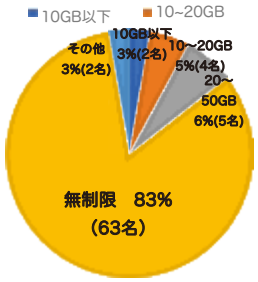
オンライン授業（ロシア語）についてのアンケート（12項目　回答者数76名【実数】）

1. 居住地について



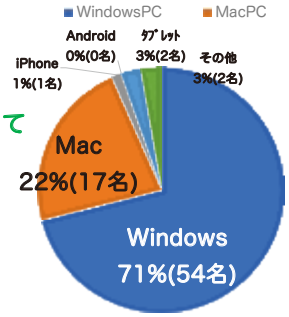
実家住まいの学生が全体の６割

2. ネットワーク環境・通信容量について



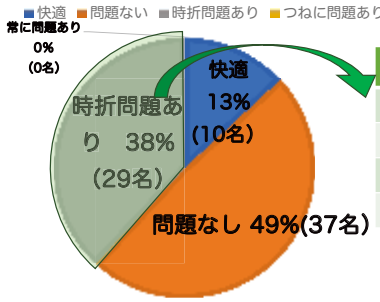
容量無制限の学生が8割以上

3. 主なデバイスについて



Windowsが7割、Macが2割程度

4. オンライン授業は快適に聴講できていますか



問題側面	28 人中
通信	25
学生側	2
教員側	1
PC機材	0

●「非常に快適」「特に問題はない」
合わせて6割強

●　通信の問題がほとんど

5. 各オンラインアプリ使いづらさ
（manaba, Zoom, Teams, Microsoft Stream, Google Drive など）

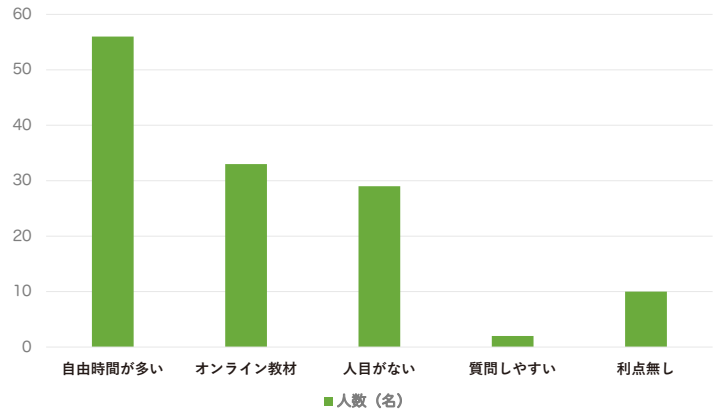
- どのアプリも「特に問題なし」　43件
- Zoom：13件　(動作のおそさ等)
- Manaba；コンテンツの整理、教材や授業の公開時期・期間などの希望その他：アプリの統一希望

通信の問題
・自宅のWi-Fi環境によってZoomやMicrosoft Stream（動画共有用）が使いづらくなる（重くなる、途切れる） という回答多数

学生側の問題
・自室がなくキッチンの隣で学習しているため、自由にマイクのミュートを解除することができない

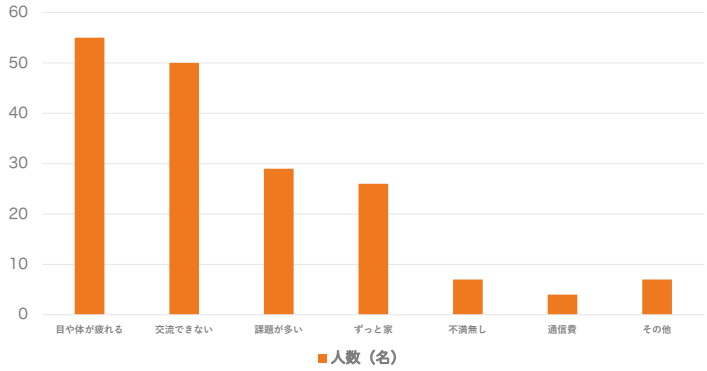
教員側の問題
・Wi-Fiが切れるなどしてZoomに再接続しなければいけないとき、先生が気づいてくれないので入室できない

オンライン授業の利点をどのようなところに感じていますか（複数回答可）



解答例（自由記述）
- 予習しやすい。
- 好きな時間に学習できるので、自由時間が捻出できる。
- 倍速で視聴できる。
- 再生速度が変えられる。
- 発音練習が恥ずかしいが、人に聞かれないで済む。
- 対面よりも授業内容が明瞭化した。

オンライン授業の不利な点をどのようなところに感じています（複数回答可）



解答例（自由記述）

精神的ストレス
- 当てられないと出席できているか不安になる。
- 発言しづらい。
- 質問しにくい。

物理的な距離によるもの
- クラスメートと交流できない。
- ロシア語の発音は生で聞きたい。

PC・通信機器の不調
- PCの不具合で聴講に支障が出る。

身体的影響
- 画面を見続けることによる疲労がある。

その他オンライン授業に対して感じていること、オンライン授業が開始されてから発生した問題等について、自由に書いてください

- オンラインだと気軽に話せないと感じる。Zoomなどで話す時、皆の視線が集まると思うと怖い。
- 大学のオンライン授業全体として、課題が多すぎるため予習復習や休息にあてる時間がまったくないです。土曜日授業の影響が大きいのでオンライン授業のせいではないかもしれませんが。
- 今後もオンラインで授業を遂行するのも良いと思いますが、その場合サテライト室以外に個人のパソコンで授業が受けられるような部屋や環境が必要になると思います。
- ムービーを見ている間、音が聞こえないなどの問題があった。その際に、先生と会話ができなかったため、問題がなかなか伝えられなかった。その際にチャットが役立った。
- リアルタイムでない場合は柔軟に一日の予定を組み立てられる、服装を気にしなくなった、睡眠時間が取れる 。
- 面と向かって話すことに比べてなぜか喋りづらいように感じる。
- とにかく課題の量が多いです。科目ごとに成績評価に付け方が不明確であり、毎回授業後の課題はいくらぐらい成績に影響するのかも不明確であるため不安を感じます。
- 先生によって動画の公開期限が短かったり、出席を取る方法が違うので混乱する。
- 友人と確認し合うことができないため、実際の授業の負担感が何倍にもなっているように感じる。
- 図書館に行けないのは不便です 。

見えてきた課題

① オンライン授業ツールの活用に対する（教員側の）習熟度が不足している
→ 教員がアプリ等の使用方法の理解を深める

② 孤立環境の条件下で、学生同士による学習内容の確認がその場でできない
→ ブレイクアウトセッションのような機能を用い、グループ学習を実現する

③ 通信上のトラブルが発生する可能性が常にある
→ 教員側が即座に解決できる問題ではないが、今後オンライン化を進めていくうえで大きな課題

④ 文献や参考書に図書館を通じてアクセスできない
→ 条件付きで図書館を開放する、新しいタイプの電子図書館の創造・創設

⑤ 肉体的な疲労を感じている（眼精疲労、肩こり、腰痛等）
→ 小休止を適宜はさむ

⑥ 精神的な疲労を感じている（レポート課題の過多等によるストレス）
→ 教員側に履修科目全体のバランスを考えた課題の配慮を促す

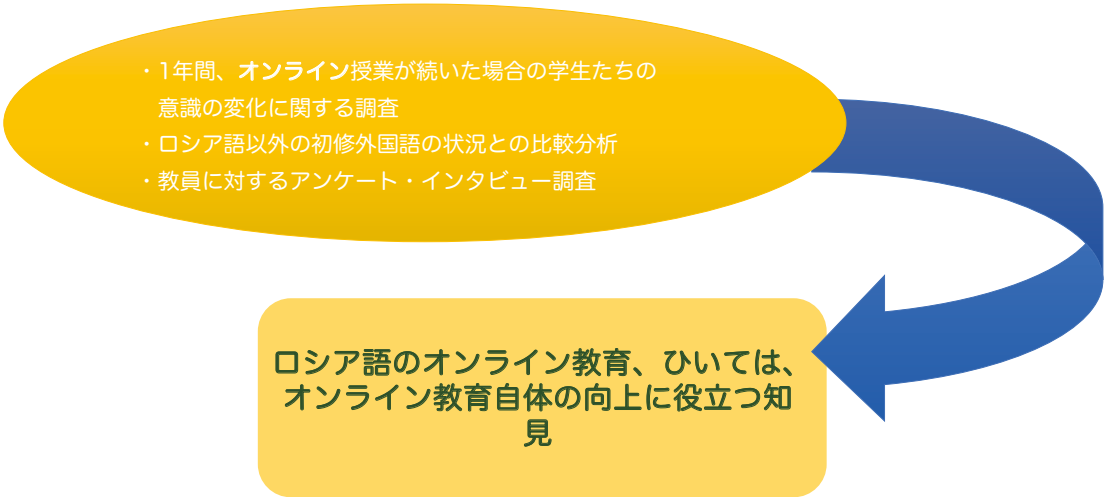
⑦ 授業中に気軽に質問することができない
→ 例えば、授業の最後に5分質問タイムを設ける

⑧ オンライン教育による個人情報流出の懸念がある
→ 学生のプライバシーに配慮した教員・学生間のやり取りと授業運営を行う

⑨ 危機管理としてオンライン授業用コンテンツを蓄積する
→ 現在、作成しているビデオ・音声教材の蓄積・共有・改良を継続する

⑩ 平時でも利用できるオンライン授業用の多様な教材開発を進める
→ オンライン授業での課題を踏まえた、汎用性の高い教材開発を行う

今後の展望



西川　将太郎

（社会・国際学群国際総合学類）

ワルシャワ大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）

オンライン授業の可能性

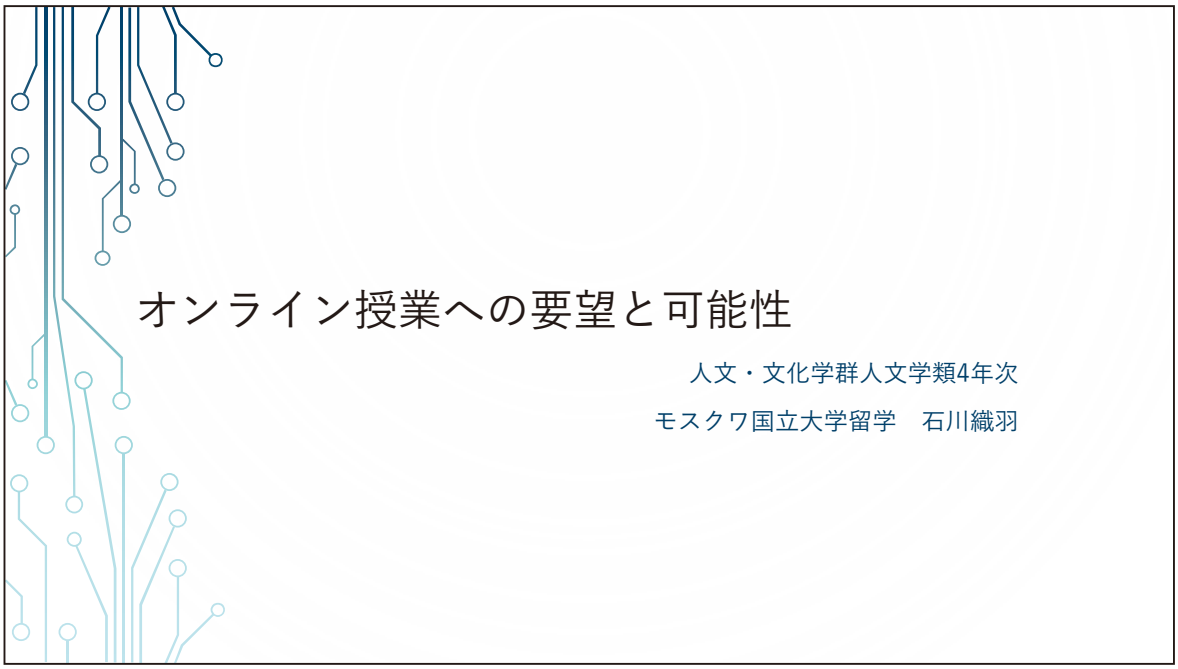
西川将太郎

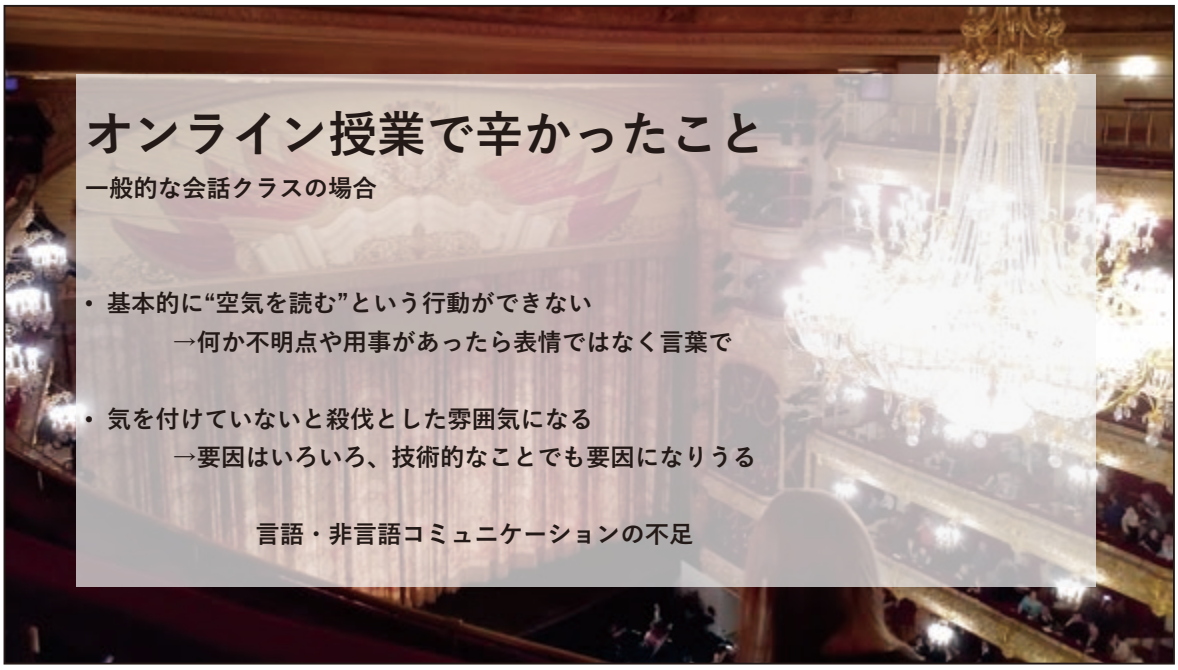
- まず大学で統一したシステム使用してほしい
- オンライン授業→授業資料は見やすいが、さぼり、発言が消極的、機材不調の心配
- なので今は大人数講義や口頭試験など一部だけオンライン化、全てオンラインは上手くいかない。

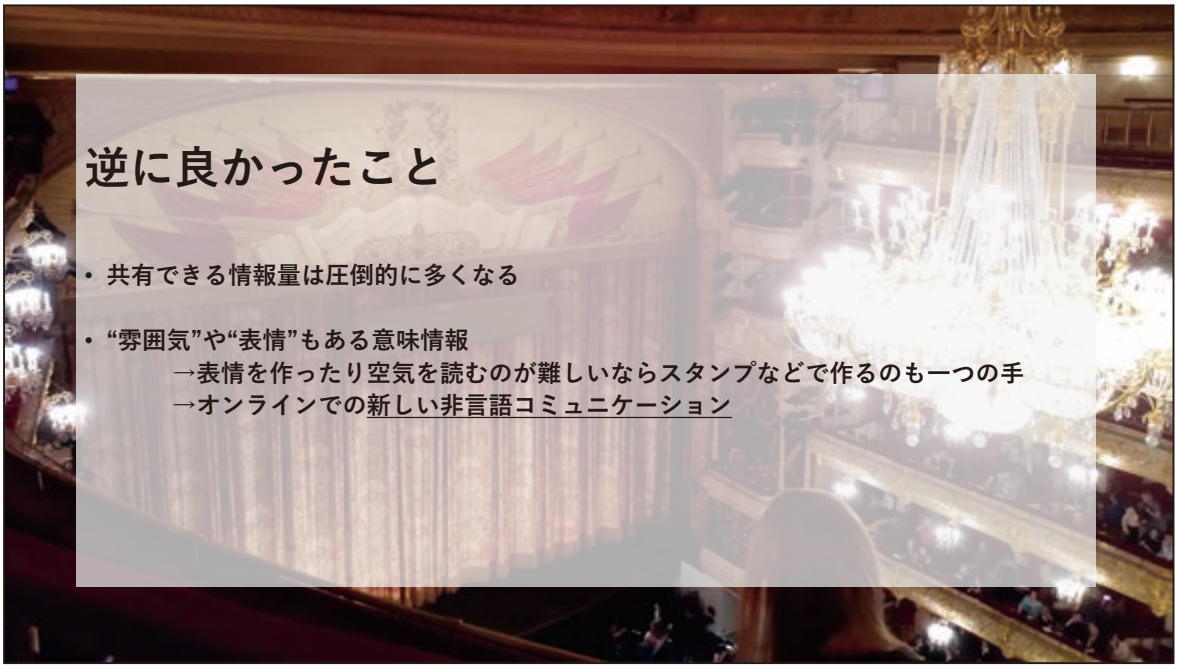
石川　織羽

（人文・文化学群人文学類）

モスクワ国立大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）



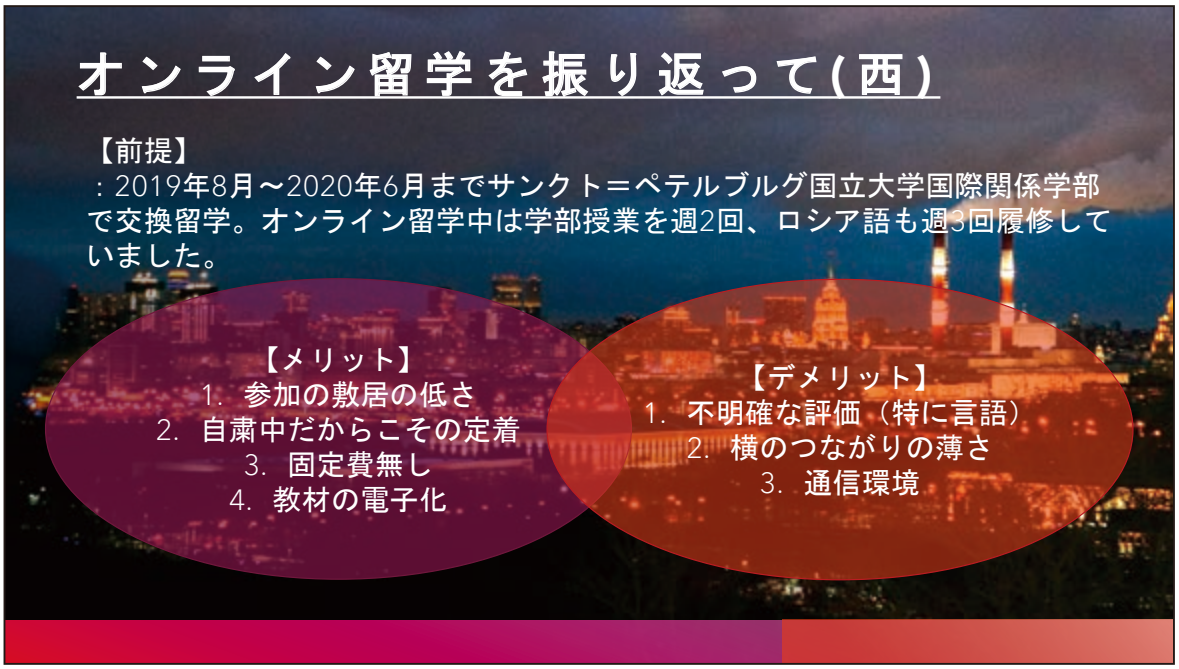



逆に良かったこと
• 共有できる情報量は圧倒的に多くなる
• “雰囲気”や“表情”もある意味情報
→表情を作ったり空気を読むのが難しいならスタンプなどで作るのも一つの手
→オンラインでの新しい非言語コミュニケーション

西　美乃里

（社会・国際学群国際総合学類）

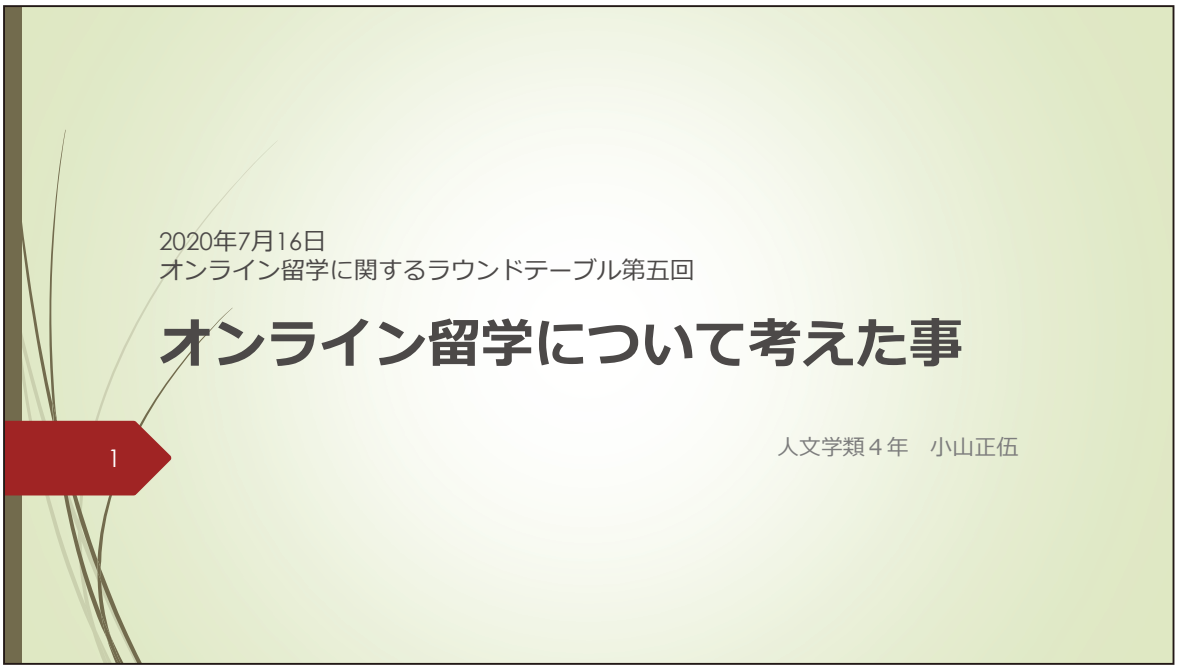
サンクトペテルブルク大学（2019 年 9 月～ 2020 年 6 月）

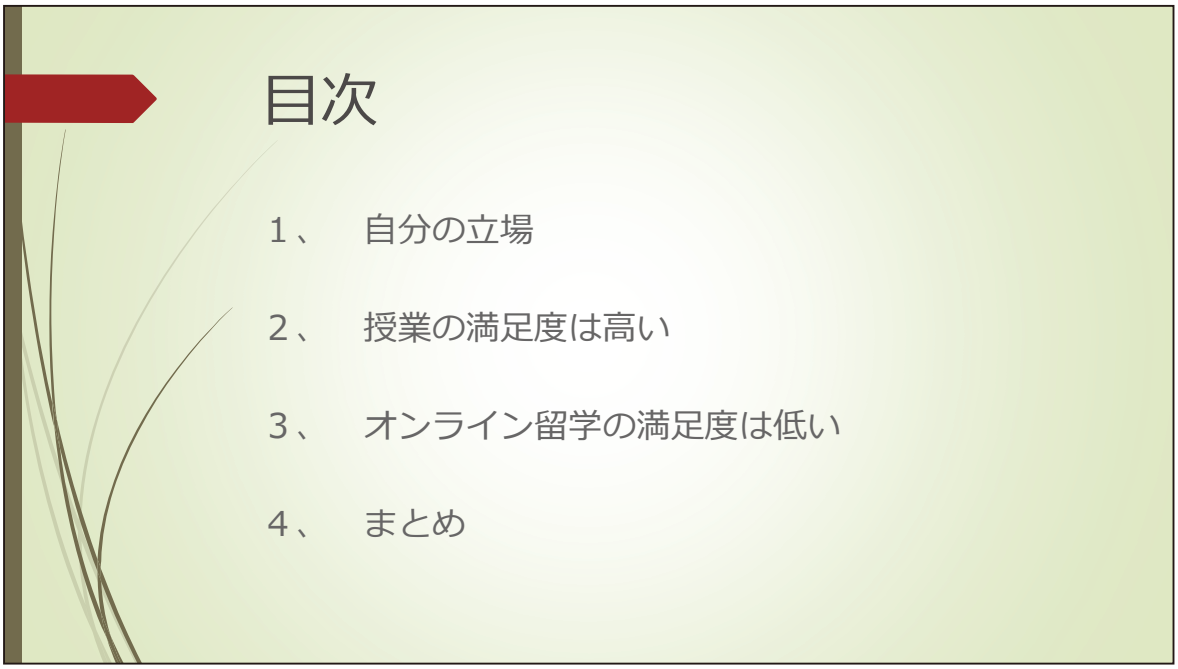


小山　正伍

（人文・文化学群人文学類）

極東連邦大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）





自分の立場

- 極東連邦大学に留学中。しかしコロナの影響で3月末に帰国。今はzoomを利用した語学の授業を毎日受講。
- 筑波大学の授業は履修していないが、一部授業をTeamsで聴講。
- JASSO奨学金を受給。

授業の満足度は高い

- 授業内容

・教科書を使った文法中心の授業。
・参加者は8人。相互に会話が可能。
・教材の共有が簡単。

オンラインに向いている印象。

オンライン留学の満足感は低い

- 留学に求めていたことは授業だけじゃない。

オンライン化には不向きな印象

まとめ

- オンラインでできることには向き不向きがある。

→語学の様な演習、講義中心には○、
　留学など体験中心には×

安井　梨乃

（社会・国際学群国際総合学類）

ノヴォシビルスク国立大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）

第五回　７月１７日

オンライン留学に対する ラウンドテーブル

安井 梨乃

所属　　：国際総合学類三年次

留学先　：ロシア・ノヴォシビルスク

留学期間：２０２０年２月９日～２０２１年１月３１日（予定）

滞在期間：２０２０年２月９日～３月２３日

３月１７日に隣町で感染者が報告され、ノヴォ大もオンライン授業に移行

その直後に帰国検討のメールを受け帰国
現在は大阪にある実家でオンライン留学中

オンライン授業での留学

少人数の授業に関しては、単に対面からテレビ電話に変わっただけで
授業内容に大きな変化はなし
　→先生・生徒お互いにストレス少なめ
　→資料の共有などが楽になるメリット

もし大人数授業であれば、語学留学としては不安？

とはいえ多少の負担は気の持ちようでカバー可能か

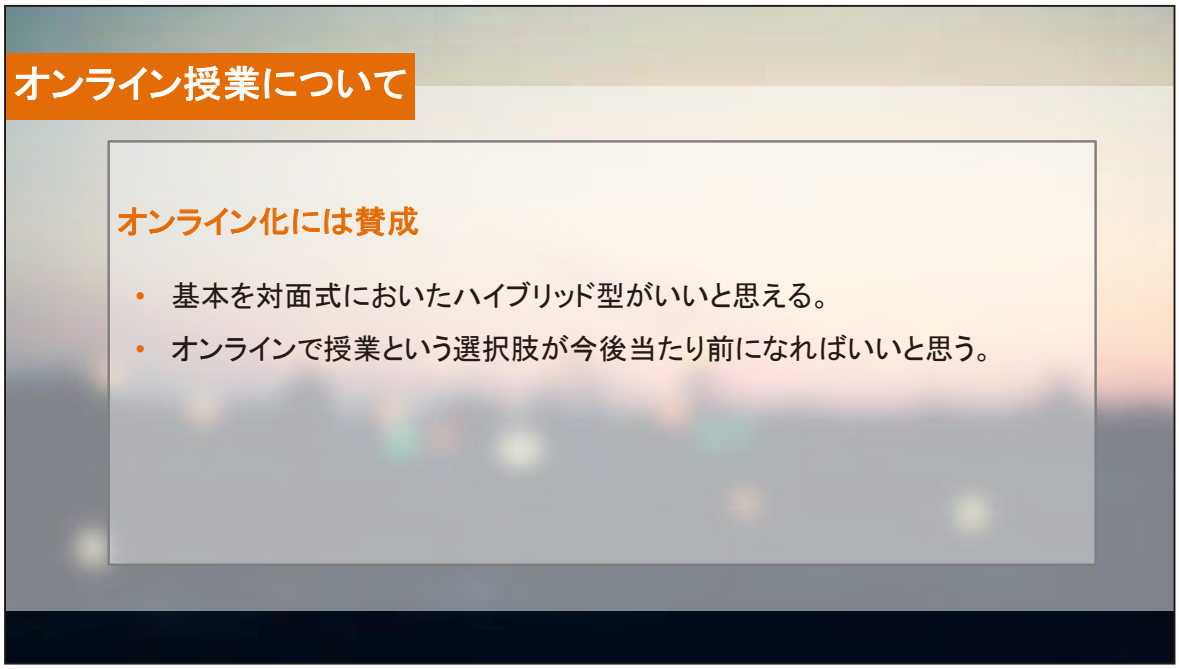
オンライン留学という選択

留学に求めるものは授業だけではない
　→オンライン留学が実際の留学に匹敵することはない
経済的に留学が厳しい人にとっては選択肢のひとつ

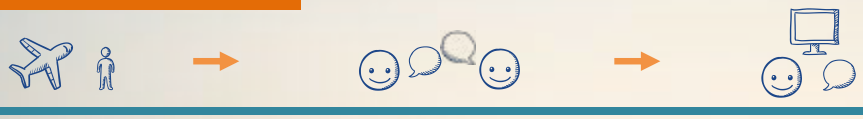
米山　貴文

（文芸・言語専攻博士課程）

モスクワ市立教育大学（2020 年 2 月～ 2021 年 1 月）



授業状況



▼ 2月21日　▼ 3月 – 至現在（4月- オンライン化）

到着	中華系クラスへ編入	授業	
コロナの問題で3月まで授業がないと通達。欧米系のクラスへの編入を模索。	日本人留学生は基本的に中華系クラスに編入させているとのこと。	週10回（11回） 1回90分 6科目 (7科目)	視聴覚講座 × 1 文法 × 2 地域学 × 1 文語 × 2 文学 × 2 会話実習 × 2

不便だと感じた点

日本人学生はいつでもゲスト

- まとまった人数がいない。

相談事で困る（授業、生活）

- チューターのような制度はある。

中国語を母語とする留学生の状況

- 1年間の留学でもクラスがありカリキュラムがある。
  - 所属大学は様々：中国、台湾の複数の大学
  - レベルに応じたクラスが存在：3クラス
  - （おそらく）授業数が他の留学生クラスより多い。
  - 留学期間がはっきりしている。

クラス比較

中華系

- 授業内容が充実している。
- 自分のレベルにあったクラスで受けることができる。

欧米系

- 受講できる授業が自分の能力でなくクラスに依存する可能性がある。
- 英語能力が伸ばせる。
- 人の入れ替わりが多い。

アイデア

チャイナパワーの利用

- 中華系クラスはよく構成されているので利用するべき。

選択肢の提供

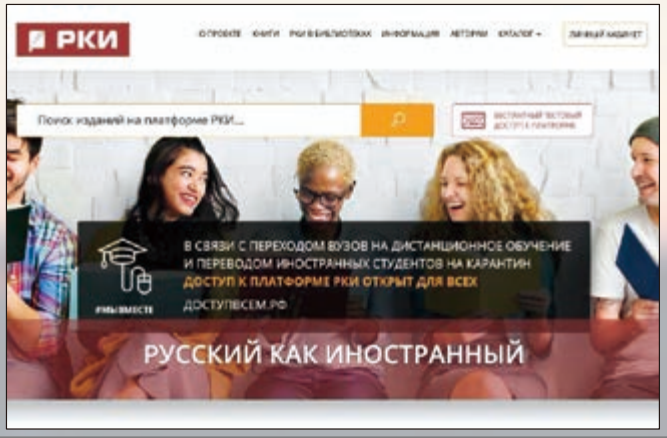
- 留学に出発するまでの段階で外国人向けのロシア語クラスの状況を提供してもらい、希望するクラスを選択することができれば良いのではないか。

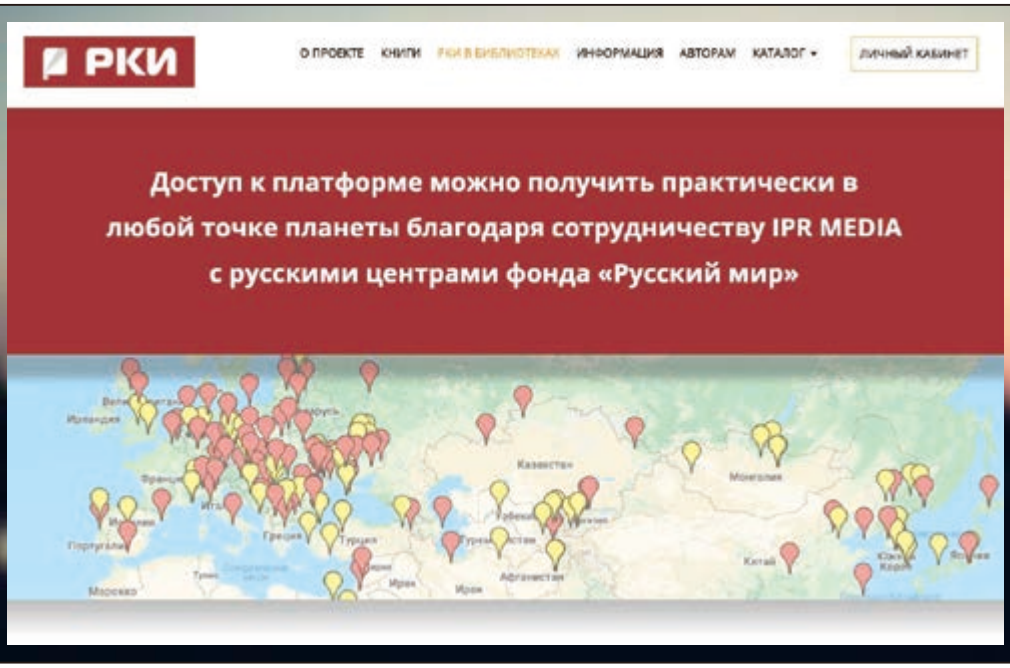
感心した点

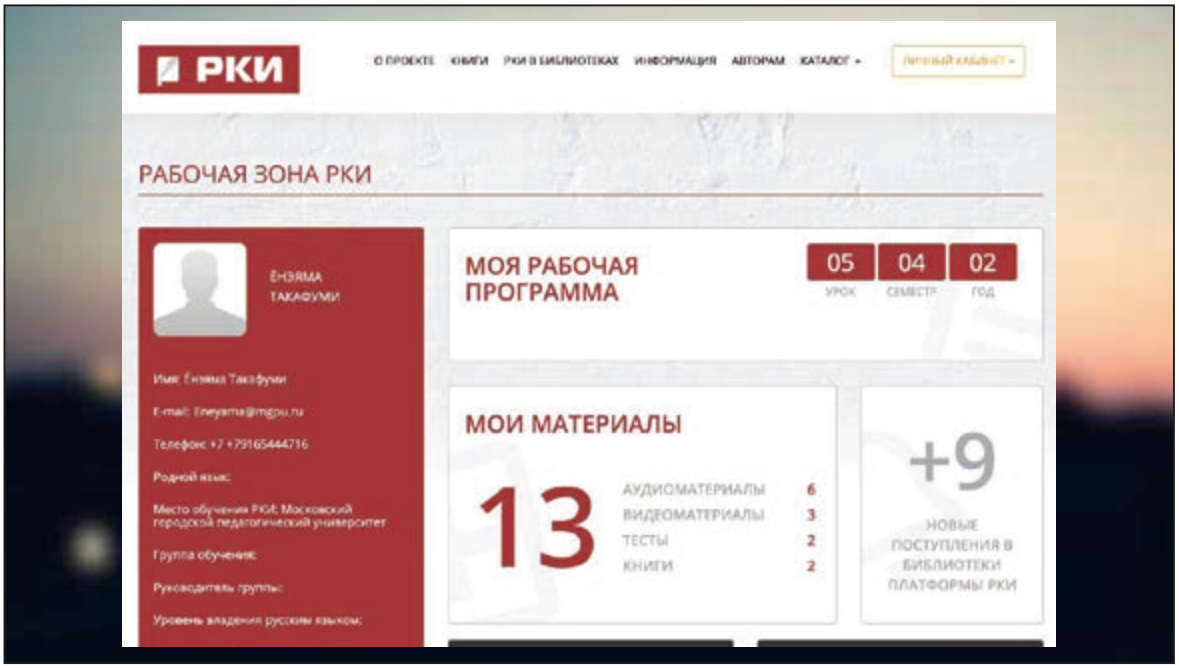
共通の教材データベース

РКИ

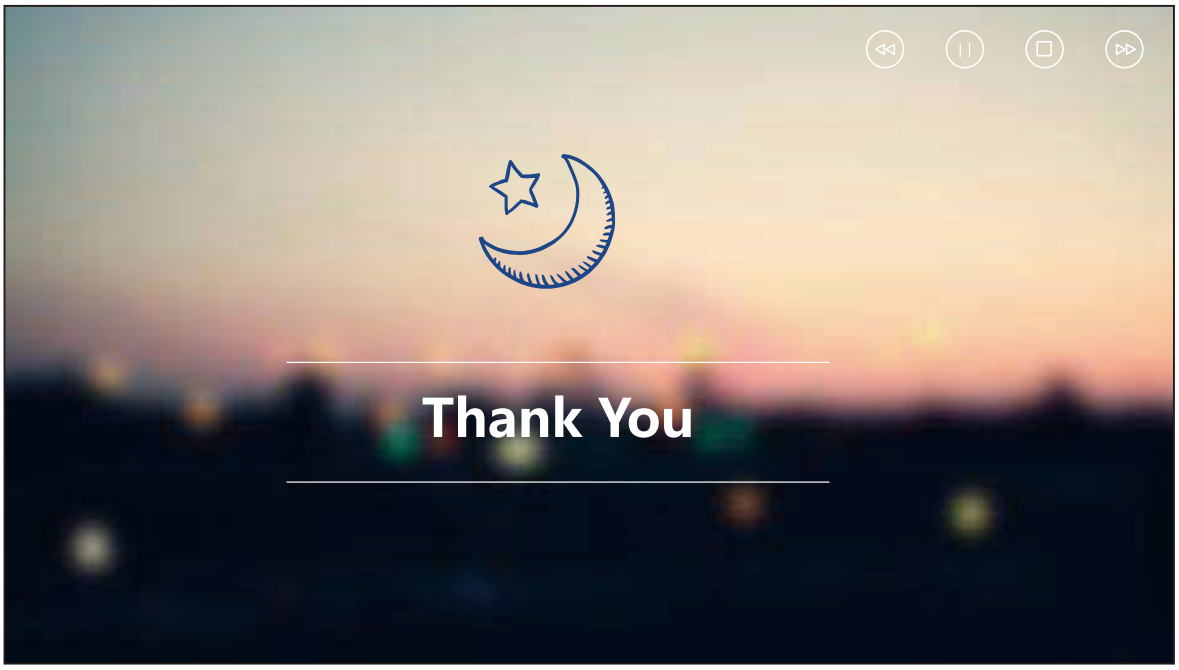
加盟大学の学生であれば利用できる。






РКИ
О ПРОЕКТЕ
КНИГИ
РКИ В БИБЛИОТЕКАХ
ИНФОРМАЦИЯ
АВТОРАМ
КАТАЛОГ
РАБОЧАЯ ЗОНА РКИ
ЁНЭЯМА ТАКАФУМИ
МОЯ РАБОЧАЯ ПРОГРАММА
05
04
02
МОИ МАТЕРИАЛЫ
13
АУДИОМАТЕРИАЛЫ 6
ВИДЕОМАТЕРИАЛЫ 3
ТЕСТЫ 2
КНИГИ 2
+9
НОВЫЕ ПОСТУПЛЕНИЯ В БИБЛИОТЕКИ ПЛАТФОРМЫ РКИ

В КАТАЛОГ
62 / 288
2. Карьера... работа... Дело всей жизни?
Задание 8. Прочитайте текст и выполните задание к нему.
ПЕРВЫЕ ШАГИ В ПРОФЕССИИ


Thank You

РКИ
О ПРОЕКТЕ
КНИГИ
РКИ В БИБЛИОТЕКАХ
ИНФОРМАЦИЯ
АВТОРАМ
КАТАЛОГ
ЛИЧНЫЙ КАБИНЕТ
ПРОЕКТ РКИ
«Русский как иностранный» – это уникальный проект от компании IPR MEDIA и фонда «Русский мир», нацеленный на популяризацию русского языка, помощь в освоении языка иностранцам, студентам из зарубежных стран в российских образовательных организациях, детям, воспитывающимся в билингвальной среде
ПЛАТФОРМА РКИ – БОЛЬШОЕ ОКНО В РУССКИЙ МИР

臼山　利信

人文社会系教授

第５回　ラウンドテーブル（臼山の総括）

教育活動上のメリット		教育活動上のデメリット	
教員	学生	教員	学生
物理的な距離や場所を乗り越えて教育活動ができる。	物理的な距離や場所を乗り越えて学修活動ができる。	公正な成績評価をするための方法が制限される。	成績評価の基準が緩くなり、相対化が難しくなる。
オンデマンド教育の場合、時間的な制限にとらわれずに教育活動ができる。	オンデマンド教育の場合、時間的な制限にとらわれずに学修活動ができる。	学生同士の助け合いなど、横の連携を授業の中で使えない。	学生同士の確認や教え合いができない。孤独な学修活動を強いられる。
教育コンテンツさえ準備できれば、補講の必要がない。	何度もコンテンツを視聴し、復習できる。	対面授業で得られたはずの教育効果（リアルな記憶、リアルなやりとりによる知的活動）が感じられない。	対面授業で得られたはずの学修活動を体験できなかった。
①オンラインという新しい教育技術・教育形態、新しい活動形態の獲得 →　新しい教育形態・教育法 →　平時下で活かされる →　コミュニケーション活動不全を回復させる一つの武器になる（対面コミュニケーション活動の効果的な補完機能の役割）	オンラインという新しい学修技術・学修形態、新しい活動形態の獲得 →　新しい学修形態の修得 →　平時下で活かされる →　コミュニケーション活動不全を回復させる一つの武器になる（対面コミュニケーション活動の効果的な補完機能の役割）	移動・接触の制限による通常の教育・研究活動の大幅な制限 ・図書館を利用できなかった。 ・フィールドワークなどの研究・教育活動ができない。	移動・接触の制限による通常の学修活動の大幅な制限 ・図書館を利用できなかった。
→　教育活動、研究活動、運営活動、その他の活動の質的多様化、機能的拡大 →　対面コミュニケーションとオンラインコミュニケーションを組み合わせたハイブリッドコミュニケーション活動時代に突入する ・画面共有の機能を使って、学生全員に同じ条件で同じ内容の教材を提示できることに加えて、描写機能を使うことで画面全体を黒板として活用できるので、授業内容を効果的に理解させることができる。 →　オンライン教育研究の開拓	→　学修活動、キャンパスライフに係るすべての活動の質的多様化、機能的拡大 →　対面コミュニケーションとオンラインコミュニケーションを組み合わせたハイブリッドコミュニケーション活動時代に突入する		
②距離、場所、時間からの解放 →　新しい教育活動の可能性（学内連携、国内連携、国際連携） ・２年次生以上：対面授業とオンライン授業の相対化の経験 ・２年次生以上：既存の同級生、上級生とのネットワークが危機状況の中で機能		ヒューマンネットワーク構築不全 →　２年次以降に正常化させる必要 ・新入生：対面授業というリアルな教育上、学修上のコミュニケーションの欠如による学修成果の未獲得　→　相対化できない ・新入生：同級生、上級生とのネットワークをつくれず ・平時下：相対化の経験が可能になる ・２年次生以上：既存のヒューマンネットワークを活用	

		・教室の空気、授業独特の緊張感が薄れる。学生たちの学修や理解度に関する息遣いが掴めない。ペアワークやグループワークがやりにくい。	
精神衛生上のメリット		精神衛生上のデメリット	
教員	学生	教員	学生
移動の義務からの解放 ・教室移動がなくなり、移動距離に対する精神的な負担感がなくなった。	移動の義務からの解放 ・教室移動がなくなり、移動距離に対する精神的な負担感がなくなった。	緊急事態の常態化へのストレス（三密回避、移動の不自由） →　肉体的活動不全、コミュニケーション活動不全 ・逃げる、放棄するという選択肢はない。 ・オンライン授業への対応ストレス ・授業の準備に時間がかかる。 ・スクリーンを長時間見なければならないというストレス	緊急事態の常態化へのストレス（三密回避、移動の不自由） →　肉体的活動不全、コミュニケーション活動不全 ・逃げる、放棄するという選択肢はない。 ・オンライン学修への対応ストレス ・スクリーンを長時間見なければならないというストレス ・オンライン授業の結果、課題が多くなり、その執筆に追われる。
規定授業時間からの解放 ・オンデマンドでもライブ型授業でも、授業時間の縮減調整ができること、授業開始時間および終了時間を教員の裁量でできることから、75 分授業という時間量に対する義務感から解放された。	欠席リスクからの解放 ・オンデマンドの場合、いつでも視聴できるので、出席への義務感から解放された。	オンライン教育技術獲得への不安 ・技術的なトラブル、授業運営上のトラブルに対する不安。	学業以外の学生生活の喪失 ・横のつながりを持てない、形成できないストレス、孤独感の強まり。 ・入学式もない、キャンパスにも入れない、サークルにも参加できない、学園祭もない、体育会系の部活にも参加できないことによる不満ストレス。
肉体的負担上のメリット		肉体的負担上のデメリット	
教員	学生	教員	学生
移動に係る肉体的負担感の消失 ・教室移動がなくなり、移動に対する肉体的な負担感が著しく減少した。	移動に係る肉体的負担感の消失 ・教室移動がなくなり、移動に対する肉体的な負担感が著しく減少した。	長時間、長期間のオンライン教育、オンライン活動による肉体的疲労 ・土曜授業で、日曜日は翌週の授業の準備などがあるので、体と心を休める曜日の確保が難しくなり、疲労困憊した。	長時間、長期間のオンライン学修による肉体的疲労 ・土曜授業で、日曜日は翌週の授業の準備などがあるので、体と心を休める曜日の確保が難しくなり、疲労困憊した。
		運動不足に陥りやすい。	運動不足に陥りやすい。
		目・肩・腰の疲労	目・肩・腰の疲労
		教員の職務が教育だけに限定されていないこと（学内運営、研究、社会貢献）から生じる負担。	

コロナ収束後のオンライン教育の新しい可能性	
契　機	①オンライン・コミュニケーションツールを用いた新しい教育技術・教育形態、新しい活動形態の獲得 ②距離、場所、時間からの解放（物理的な拘束・制限からの解放）
可能性	１オンライン学内連携教育：学群・学類間の授業交流（FD 活動としてのオンライン授業見学、オンラインゼミ交流） ◎筑波大学内の教育コンテンツ・教育活動の部分的相互共有・活用 ２オンライン国内大学連携教育：例．社会科学連携講座（茨城県：筑波大、茨城大、国際医療大）、指定国立大学連携講座（筑波大と東大、筑波大と名古屋大等）、CwC 連携講座、大学間ゼミ交流（筑波大臼山ゼミと東外大匹田ゼミの合同授業） ◎筑波大学と国内の国公私立大学の教育コンテンツ・教育活動の部分的相互共有・活用 ３オンライン国際大学連携教育：例．人文科学連携講座（ロシア：筑波大、モスクワ大、ノボシビルスク大）、生命環境学連携講座（カザフスタン：筑波大、カザフ国立大、ユーラシア国立大）、国際開発学連携講座（筑波大、国連大、ピッツバーグ大） ◎筑波大学と国外の協定締結大学の教育コンテンツ・教育活動の部分的相互共有・活用 ４オンライン（国内および国外）留学：例．オンライン交換留学（CwC：ICU、CiC：カザフ国立大学、台湾大学等）、オンラインデュアルデグリープログラム（一部の科目を活用）　制度的な担保→５限まで筑波大の授業、６限以降はモスクワ大の授業を受講し、必要単位を取る（６時間の時差が非常に良い） ◎筑波大学と協定締結大学の教育コンテンツ・教育活動の部分的相互共有・活用 ５オンラインインクルーシブ教育：障害学生の教育に効果のなるオンライン教育・学修のあり方の探求・深化 世界唯一のろう・難聴学生のための liberal arts 大学であるアメリカ・ギャロット大学（ワシントン）とのオンライン交流 ◎筑波大学のインクルーシブ教育の発展につながる国際的なオンライン教育・研究交流 ６オンラインリカレント教育：社会人対象のオンライン教育の整備・拡充の可能性（通信教育課程設置の基盤） ◎筑波大学の社会人対象のオンライン教育の全国展開の可能性 ７オンライン教職員研修（例．當作靖彦先生の講演会）、オンライン国際化教育（英語、初修外国語等のオンデマンド提供） ◎筑波大学の教職員のためのリカレント教育体制構築の可能性

結論：これらの７つの可能性の展開と深化が今後の日本の高等教育の質の向上と教育内容の広がりに貢献しうる。

NipCA プロジェクト主催

オンライン留学に関するラウンド・テーブル

～コロナ禍の困難から見出す新しい教育の可能性～

報告書

2020 年 9 月 30 日初版発行

監　　修　臼山 利信
編集・校正　梶山 祐治（主担当）、山本 祐規子、谷越 祥子、笹山 啓
発 行 者　臼山 利信
発 行 所　筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」、
グローバルコミュニケーション教育センター、グローバル・コモンズ機構
茨城県つくば市天王台 1-1-1
Tel: 029-853-4251
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web: https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/
印刷・製本　株式会社アイネクスト

本報告書は、筑波大学「日本財団　中央アジア・日本人材育成プロジェクト」、筑波大学 2020 年度
教育戦略推進プロジェクト支援事業、JSPS 科研費 20K00770 の助成を受けたものです。

©The Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource Development Project (NipCA), University of Tsukuba

筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」
〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学
Tel. 029-853-4251
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web: https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/

グローバルコミュニケーション教育センター

グローバル・コモンズ機構

ISBN 978-4-910114-01-9